

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

**平成 27 年度～平成 31 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 順天堂 2 大学名 順天堂大学
- 3 研究組織名 静岡災害医学研究センター
- 4 プロジェクト所在地 静岡県伊豆の国市長岡 1129
- 5 研究プロジェクト名 大規模災害に対応する包括的医療提供体制構築を目指す統合型研究拠点の形成
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
佐藤 浩一	医学研究科・上部消化管外科学	教授

- 8 プロジェクト参加研究者数
- 29
- 名

- 9 該当審査区分
- 理工・情報
- 生物・医歯
- 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
柳川 洋一	医学研究科・救急・災害医学・教授	災害教育とその効果の検証 民間災害拠点病院における civilian-military co-operation の実現	テーマ 1 研究総括 災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証
大坂 裕通	医学研究科・循環器内科学・助教	ドクヘリ搬送による内因性疾患の検証	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証
大森 一彦	医学研究科・救急・災害医学・助教	多数傷病者発生事案における効果的なドクヘリ運用の検討	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証
石川 浩平	医学研究科・救急・災害医学・助手	海難事故発生防止を目的とした医学的介入	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証
三島 健太郎	医学研究科・救急・災害医学・助手	災害時への早期メンタルヘルス介入は PTSD を減少させるか？	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証
大出 靖将	医学研究科・救急・災害医学・非常勤講師	災害派遣時の特殊車両モデルの作成と運用	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証
小池 道明	医学研究科・血液学・教授	災害時の輸血療法	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証
岩神 真一郎	医学研究科・呼吸器内科学・教授	自然災害発生時における在宅酸素療法患者に対する地域ネットワーク構築に関する検討	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証
田中 利隆	医学研究科・産婦人科学・准教授	災害時における妊婦の適切なトリアージの構築に関する研究	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証
山本 拓史	医学研究科・脳神経外科学・先任准教授	災害時における症候性てんかん患者の服薬管理と重積発作への対応に関する研究	災害に備えた新たな医療技術の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

市之川 英臣	医学研究科・呼吸器外科学・助教	災害時急増する呼吸器感染症疾患(膿胸)に対する手術の意義	災害に備えた新たな医療技術の開発
楠 威志	医学研究科・耳鼻咽喉科学・教授	災害時医療機関機能停止時における、気道系疾患に対する「自宅でできる腹式呼吸を重点に置いた音声訓練法」の有効性	災害に備えた新たな医療技術の開発
大林 治	医学研究科・整形外科・先任准教授	災害時被災者のロコモティブシンドローム及び運動器不安定症患者の運動機能評価	災害に備えた新たな医療技術の開発
最上 敦彦	医学研究科・整形外科・先任准教授	災害時の駆幹骨々折の治療機器の力学的評価	災害に備えた新たな医療技術の開発
諏訪 哲	医学研究科・循環器内科学・先任准教授	災害時の深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症(エコノミークラス症候群)に関する研究 災害時のタコツボ心筋症(カテコラミン心筋症)と急性冠症候群の診断と治療に関する検討	災害に備えた新たな医療技術の開発
吉池 高志	医学研究科・皮膚科学・名誉教授	災害時に生じる皮膚潰瘍に対する早期ならびに中期簡便治療について	災害に備えた新たな医療技術の開発
丹原 圭一	医学研究科・心臓血管外科学・教授	災害時心肺停止患者における早期PCPS導入の有用性に関する検討	災害に備えた新たな医療技術の開発
岡崎 敦	医学研究科・麻酔科学・教授	災害時の手術運営に関する情報共有法の検討	災害に備えた新たな医療技術の開発
菅尾 高裕	医学部附属静岡病院・薬剤科・課長補佐	大規模災害時を想定した薬剤備蓄と効果的な処分について	災害に備えた新たな医療技術の開発
佐藤 浩一	医学研究科・消化器外科学・教授	腹部重症感染症による臓器障害におけるエンドトキシンおよび HMGB-1 の関与の検討	研究全般の総括、テーマ 2 研究総括 災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
折田 創	医学研究科・消化器外科学・准教授	ストレスによる消化管機能異常に対する腸炎モデルマウスを用いた検討	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
前川 博	医学研究科・消化器外科学・先任准教授	災害避難民らにおける栄養状況把握に関する血清脂肪酸を用いた検討	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
寒竹 正人	医学研究科・小児科学・先任准教授	災害時の経験が被災者(児)の DNA にトラウマとして刻まれる機構の解析	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
土至田 宏	医学研究科・眼科学・先任准教授	災害時の断水による衛生環境悪化を想定したコンタクトレンズ装用者の手指および角結膜汚染	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
松崎 有修	医学研究科・眼科学・助手	火山性粉塵が眼表面へ及ぼす影響	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
神田 章男	医学研究科・整形外科・准教授	災害・救急医療で使用可能な画期的な駆血装置の開発	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
諸橋 達	医学研究科・整形外科・准教授	クラッシュ・シンドロームにおける血流循環改善の治療法の検討	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
古元 将和	医学研究科・形成外科学・非常勤助手	災害時の外傷や熱傷の皮膚欠損に対する交換頻度の少ない被覆材と DDS (drug delivery system) の研究	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
佐藤 俊輔	医学研究科・消化器内科学・助教	プロテオーム解析からみた多臓器不全時の肝臓をめぐる臓器相関の病態	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明
(共同研究機関等)			
城石 俊彦	情報システム研究機構 国立遺伝学研究所・教授	ストレスによる消化管機能異常に対する腸炎モデルマウスを用いた検討	ノックアウトマウスの提供、研究指導

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

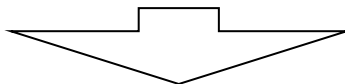
三井 和幸	東京電機大学・教授	災害・救急医療で使用可能な画期的な駆血装置の開発	EHD ポンプシステムの作製
佐藤 太一	東京電機大学・教授	災害時被災者のロコモティブシンドローム及び運動器不安定症患者の運動機能評価	3D 動作解析
柳川 良子	伊豆保健医療センター・看護師	災害教育とその効果の検証民間災害拠点病院における civilian-military co-operation の実現	データ収集、分析
Malcolm Brock	Johns Hopkins 大学・外科	ストレスによる消化管機能異常に対する腸炎モデルマウスを用いた検討	エビジェネティックに関する研究指導、立案、肺疾患に関する責任者
Kathleen Gabrielson	Johns Hopkins 大学・内科	ストレスによる消化管機能異常に対する腸炎モデルマウスを用いた検討	エビジェネティックに関する研究指導、立案、心疾患に関する責任者
伊藤 智彰	Johns Hopkins 大学・外科 (現 順天堂大学医学研究科・消化器外科学・准教授)	ストレスによる消化管機能異常に対する腸炎モデルマウスを用いた検討	動物実験。Hopkins 大での遺伝子研究。
的場 亮	DNAchip 研究所・社長	ストレスによる消化管機能異常に対する腸炎モデルマウスを用いた検討	研究の指導、試料の提供

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
多数傷病者発生事案における効果的なドクヘリ運用の検討	医学研究科・救急・災害医学・助教	大森 一彦	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証

(変更の時期:令和2年 2月 1日)



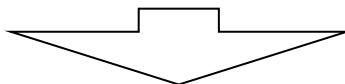
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	医学研究科・救急・災害医学・准教授	大森 一彦	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
海難事故発生防止を目的とした医学的介入	医学研究科・救急・災害医学・助手	石川 浩平	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証

(変更の時期:平成 31 年 4 月 1 日)



新

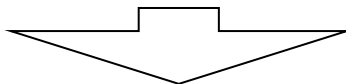
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	医学研究科・救急・災害医学・教授	柳川 洋一	テーマ1研究統括 災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
災害時への早期メンタルヘルス介入はPTSDを減少させるか？	医学研究科・救急・災害医学・助手	三島 健太郎	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



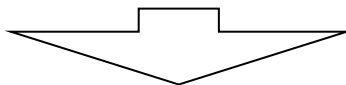
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	医学研究科・救急・災害医学・教授	柳川 洋一	テーマ1 研究総括 災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
災害派遣時の特殊車両モデルの作成と運用	医学研究科・救急・災害医学・講師	大出 靖将	災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証

(変更の時期:平成 28 年 7 月 1 日)



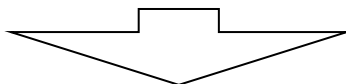
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	医学研究科・救急・災害医学・教授	柳川 洋一	テーマ1 研究統括 災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
災害時における症候性てんかん患者の服薬管理と重積発作への対応に関する研究	医学研究科・脳神経外科学・先任准教授	山本 拓史	災害に備えた新たな医療技術の開発

(変更の時期:平成 31 年 4 月 1 日)



新

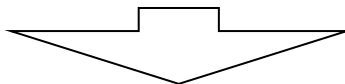
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
医学研究科・脳神経外科学・先任准教授	医学研究科・脳神経外科学・教授	山本 拓史	災害に備えた新たな医療技術の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
災害時急増する呼吸器感染症疾患(膿胸)に対する手術の意義	医学研究科・呼吸器外科学・助教	市之川 英臣	災害に備えた新たな医療技術の開発

(変更の時期:令和元年 6月 1日)



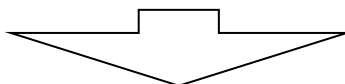
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	医学研究科・呼吸器外科学・助教	平山 俊希	災害に備えた新たな医療技術の開発

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
災害時に生じる皮膚潰瘍に対する早期ならびに中期簡便治療について	医学研究科・皮膚科学・教授	吉池 高志	災害に備えた新たな医療技術の開発

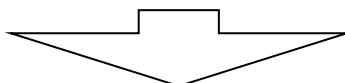
(変更の時期:平成 30年 2月 1日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	医学研究科・皮膚科学・先任准教授	長谷川 敏男	災害に備えた新たな医療技術の開発

(変更の時期:令和元年 7月 1日)



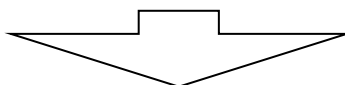
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	医学研究科・皮膚科学・教授	長谷川 敏男	災害に備えた新たな医療技術の開発

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
災害時の外傷や熱傷の皮膚欠損に対する交換頻度の少ない被覆材とDDS(drug delivery system)の研究	医学研究科・形成外科学・助手	古元 将和	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明

(変更の時期:平成 29年 4月 1日)



新

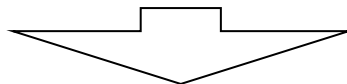
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	医学研究科・形成外科学・助教	松本 茂	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
プロテオーム解析からみた多臓器不全時の肝臓をめぐる臓器関連の病態	医学研究科・消化器内科学・助教	佐藤 俊輔	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明

(変更の時期: 令和元年 7月 1日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	医学研究科・消化器内科学・准教授	佐藤 俊輔	災害時における疾病・合併症の病因・病態解明

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

静岡県東部は、南海トラフ巨大地震や津波、富士山噴火等の自然災害による甚大な被害が想定されている地域である。伊豆半島に位置する順天堂大学医学部附属静岡病院はドクターヘリを有する災害拠点病院であり、災害時には物資の受入や救急患者の搬送などのシステム運用から救急患者及び避難者の傷病の診療・治療まで中心的な機能を保持する必要がある。本プロジェクトは、大規模災害に備えた組織体制構築から、災害・救急時の傷病に対する予防・治療開発に関する基礎研究まで含んだ研究基盤の拠点形成を行ない、災害に強いシステム及び医療技術を発信し、優秀な人材を育成することを通じて防災、減災に貢献することが目的である。また、災害拠点病院に研究拠点を置くことは、トランスレーショナルリサーチが即時可能である点や、大規模災害が緊急且つ重要な課題となっている静岡県、ひいては災害の多い日本にとって大変意義がある。

(2) 研究組織

本研究プロジェクトは、本学医学部附属静岡病院内に附置する「静岡災害医学研究センター」として開設した。研究代表者の佐藤浩一をセンター長として、災害医学関連 31 の研究課題を 2 研究テーマに分け実施した。①災害に備えた組織体制構築関連課題については柳川洋一(救急・災害医学)を代表として 21 課題、②災害時における疾病・合併症の病因・病態解明関連課題は佐藤浩一(消化器外科学)を代表として 10 課題、総勢 29 名の研究者で実施した。専門分野は、救急災害医学研究全般にわたり、救急医学、災害医学、呼吸器内科学、循環器内科学、消化器内科学、血液学、外科学、整形外科学、形成外科学、心臓血管外科学、呼吸器外科学、産婦人科学、小児科学、麻酔科学、眼科学、皮膚科学、脳神経外科学、耳鼻咽喉科学などが主な分野となる。平成 27 年度から平成 28 年度まで PD2 名・研究支援者 2 名、平成 29 年度は PD1 名・研究支援者 3 名、平成 30 年度は研究支援者 4 名、平成 31 年度は研究支援者 3 名がプロジェクトに参加した。拠点構築に当たっては、本学の教育研究資源を有効活用し、人材育成の傍ら、地域の行政、消防、警察、自衛隊、住民らと相互に交流・情報共有が可能となる協力体制を組んでいる。研究の連携体制については、国立遺伝学研究所、東京電機大学および John's Hopkins 大学などの国内外で共同実験を実施している。John's Hopkins 大学とは定期的に Webミーティングを行い、情報共有を行う体制をとっている。

(3) 研究施設・設備等

当該拠点は、順天堂大学附属静岡病院管理棟内に併設する静岡災害医学研究センター内の総面積 251 m² の共同実験室・生化学実験室・動物実験室及び人間工学研究室にて、約 50 名の研究者が当該プロジェクトの実現を図っている。本研究のために平成 27 年度以降に設置された主な設備は、実験動物飼育システム(通年稼動)、DKH 3次元動作解析/床反力計測システム(950 時間)、Illumina 次世代シーケンサー next seq 500 (350 時間)である。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

当研究センターは災害医学関連の各研究課題を、①災害に備えた組織体制構築及び新たな医療技術の開発関連課題と、②災害時における疾病・合併症の病因・病態解明関連課題の大きく 2 つのテーマに分け実施している。()内は対応する 13,14 の番号で、それぞれ論文(*)、学会発表(**)、図書(***)、特許等(****)を付した。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

【テーマ 1-1(災害に備えた組織体制構築、システム運用、教育・訓練の普及検証)】

柳川らは、「災害教育とその効果の検証」において、様々な災害教育や訓練を消防、警察、自衛隊等を交えて行ってきた (*2, *27, *28, *41, *47, *69, *83, *123, *140, *151, *154, *162, *168, *198, *200)。災害に対する教育について、訓練を受けた者と受けていない者とを比較し、それがトリアージや災害現場の総合判断に関して有益であることを証明した (*101)。また 熊本地震時には静岡県庁、熊本県庁、陸上自衛隊と調整を行い、被災地における災害診療の支援を行った (*32, *78)。西日本豪雨や北海道胆振東部地震の際には現地調査を行い、ライフラインの重要性を再度強調した (*122, *152) 陸上自衛隊の重症例は当院で診療を行い、顔の見える関係作りを行っている (*63, *106)。また、テロによる特殊災害 (化学・生物・放射性物質・核・爆発物) ではヘリパイロットに悪影響を及ぼし、重大な航空機事故につながる可能性があり、少なくともドクターヘリはその運用に関わるべきでないことを提言し、日本航空医療学会の指針に盛り込まれた (*105, *119)。日本外傷学会の銃創・爆傷患者診療指針作成に関与し、国内の医療機関に配布した (*393)。

柳川らは、来院患者の確定診断に影響を与える因子の後方視的検討の外傷画像診断において、外力が加わった個所に微小なガスが発生するため、この解析が受傷機転の解明に有用であること、減圧症の発生メカニズムに関与している可能性があること、この微小ガスを消化管穿孔と誤認し、開腹される症例があることを示した (*6 *21, *38, *44, *54, *102)。心停止症例における原疾患の違いによるクリニカルプロフィールの検討では、大動脈解離は高齢女性で現場心電図は無脈性電気活動で心拍再開を得られにくいこと、くも膜下出血は中年女性で現場心電図は非ショックリズムで心拍再開を得られやすいことを示した (*71, *79)。アナフィラキシー患者では 100 人に 2% 程度で急性冠症候群を合併する症例があり、心電図検査の重要性を強調した (*77)。静岡県東部における開渠側溝の危険性を示した (*24, *43, *136)。車やバイクで走行中、鹿と遭遇した場合、避けずに衝突したほうが、重傷になりやすい可能性を示した (*107)。院外心停止の症例では AED の使用の有無が最も予後に影響する因子であることを示した (*110)。マムシ咬症では来院時の生化学分析結果が重症度予測に有用であることを示した (*131, *163, *180)。外傷患者の来院時の FDP 値は予後予測に有用であることを示した (*179)。

大坂らは、「ドクヘリ搬送による内因性疾患の検証」において、くも膜下出血症例では現場から直接当院に搬送された者の転帰が、一旦他院に収容され、診断がなされてから搬送されるより、良好であることを示した (*49)。急性冠症候群でも現場から直接当院に搬送された者の転帰が、一旦他院に収容され、診断がなされてから搬送されるより、良好であることを示した (*73)。また高山病や高所での心停止症例でもヘリを用いた救命の連携が患者の転帰に影響した事例を示した (*34, *59, *113)。ドクターヘリで搬送した中毒症例では意識水準、血圧値が入院に関わる因子であることを示し、かつ、揮発性物質による中毒患者はドクターヘリで搬送すべきでないことを提言した (*103, *118)。アナフィラキシー患者に対するドクターヘリの有用性も示した (*117)。痙攣患者に対してドクターヘリによる医療介入の有用性も示した (*157)。

大森らは、「多数傷病者発生時案における効果的なドクヘリ運用の検討」において、当院は静岡県東部ドクターヘリの基地であるが、ドクターヘリ以外にドクターカーを用いた搬送前の多数傷病者事案に関わり、運用を行っている。静岡県東部ドクターヘリは、県内で西部ドクターヘリと協働し多数傷病者のマネージメントに関わっている。また静岡県東部ドクターヘリは山梨県、神奈川県ドクターヘリと隣県協定を締結している。マイクロバス横転や電撃症による多数傷病者発生事案では静岡県東部ドクターヘリ、神奈川県ドクターヘリ、ドクターカーを用いての傷病者対応を報告した (*29, *72)。陸上自衛隊行軍中による熱中症多数発症事案では静岡県東部ドクターヘリの複数回運用と神奈川県ドクターヘリの協働により傷病者搬送を行った (*111)。火災による気道熱傷多数発生時は、神奈川県ドクターヘリと協働し、適切な分散搬送を行った (*178)。また、防災ヘリとドクターヘリ等多機関のヘリを用いた方が多数傷病者の搬送に有用であることを、訓練を通じて示した (*112, *173)。以上のように手持ちの医療資源を柔軟に運用し、搬送前の多数傷病者事案のマネージメントの方法を開発している。

石川らは、「海難事故発生防止を目的とした医学的介入」において、減圧症に対する取り組みとして、溺水と減圧症の鑑別に超音波を用いた下大静脈内の気泡の有無が単純な溺水と減圧症との鑑別に有用である可能性を示した事例を報告した (*35)。減圧症が発生後、ヘリ搬送による症状悪化の懸念があるが、輸液路確保による脱水の補正、高度 300m 以下で減圧症患者搬送を行えば、症状は悪化することなく、むしろ改善傾向を示すことを示した (*51)。減圧症症例では微小な窒素ガスが体内に発生するが、それは外傷性空洞現象と同様、運動による外力が発生した箇所が生じやすいことを CT 画像を用いて提示した (*18, *38)。減圧症発生現場近傍で超音波を用いた減圧症診断は鑑別に有用な手段であることを示唆した (*108)。減圧症の初期管理に多職種による勉強会は有用であることを示した (*137, *166)。ポディーボード損傷に関しては、浅瀬で波に揉まれて回転した際に頭部を海底に打ち付け、頸部が過伸展を強いられたときに上肢を中心とした麻痺や痺れ、すなわち中心性頸髄損傷を生じやすいことを、疫学的調査を含め提示した。ライフセービングのフラッグ競技で

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

は脊髄損傷を生じうることを示した (*149)。

三島らは、「災害時への早期メンタルヘルス介入は PTSD を減少させるか？」において、1,2 年目は院内における体制づくり、メンタルヘルス介入内容の検討、倫理委員会承認の取得、3 年目は臨床試験を開始し、データを収集・解析し、その結果を 2019 年 Resuscitation に発表を行った (*201)。

大出らは、「災害派遣時の特殊車両モデルの作成と運用」において、多数傷病者事案発生時にはドクターヘリとドクターカーの協働による対応、ドクターヘリが飛行不能な悪天候時には代替手段として、ドクターカーを使用している (*29, *72)。ドクターカーに転用できるポータブルレントゲンを備えた病院前診療を実施し、その有用性を示した (*161, *165)。また、院外で新生児に問題が生じた際に、新生児科医師が新生児救急車に同乗し、往診・搬送を行い、地域の周産期医療に貢献している。

小池らは、大規模災害における輸血療法について、静岡県内の施設を対象にアンケート調査を行い、現在の大規模災害時の輸血療法についての準備状況を把握する事ができた。さらに、その結果を踏まえて、自施設の大規模災害時の輸血療法のマニュアル作りと、血液センターや行政との連携について確認する事ができた。また、救急において、大出血をきたした症例に対して、クリオプレシピテートを使用して、止血の効果を検証する事ができた。

岩神らは、「自然災害発生時における在宅酸素療法患者に対する地域ネットワーク構築に関する検討」において、在宅酸素療法を行っている患者 20 名に対し、災害時の意識調査を行った。その結果、災害発生時に電力が喪失していなければ 17 名は自宅にいることを希望されているが、自宅が停電など住めない状態になった時にどこで酸素吸入ができるか、行政から指示があるかに関しては、ほとんどの方 (19 名) が知らないという結果だった。以上から、災害時の課題としては、近隣の医療施設や地元自治体への働き掛けが必要となるため、地元医師会と協議を行う必要性が考えられた。2017 年度までの進捗状況を受け、地元医師会や自治体の担当者さらには酸素供給業者を交えての話し合いを行い、実態の把握や課題について認識を共有することができた。上記を踏まえ、現在まで、各医療機関で患者の同意のもと在宅酸素療法患者の情報収集を行い、各市町で情報を蓄積している。また、毎年 9 月には情報の更新を行うこととした。

田中らは、「災害時における妊婦の適切なトリアージの構築」において、産科救急母体搬送症例 821 例を対象とし、現状の妊婦トリアージが適切かどうか検討した。トリアージ「赤タグ」の中で、当院到着時に母児のいずれかが危機的症例の割合は 37% (217/580 例) であった。また搬送方法はドクターヘリによる迅速な対応が母児の予後を改善している一方で、救急車による搬送でも問題なかった症例に対してもドクターヘリを使用していることが分かった。以上の結果から、現状の妊婦トリアージは妥当であることが示唆されたが、現場で母児の状態をできる限り正確に評価し搬送方法を選択することが重要と考えられた。次に災害時に増加することが予想され、かつ早期対応が必要な常位胎盤早期剥離、産科危機的出血について検討した。常位胎盤早期剥離 50 例の検討では、発症から治療開始までの時間と児の予後に明らかな相関は認めなかったが、より早期 (1 時間以内) に娩出することにより、子宮内胎児死亡を減少できる可能性が示唆された。また超音波所見によって重症度に違いがあることが分かり、救急搬送時のトリアージに有用であると考えられた。産科危機的出血 70 例中、弛緩出血が原因である 42 例の検討では、搬送前に子宮内タンポナーデ (ガーゼもしくはバルーン) を行った症例がなにも行わない症例にくらべて、来院時に産科危機的出血に至ることが有意に少なく、また搬送中からその後の出血量も少ないことが分かった。この結果から、搬送前に子宮内タンポナーデを行うことにより、母体の予後改善につながる可能性が示唆された (**254, **255)。

【テーマ 1-2(災害に備えた新たな医療技術の開発)】

山本らは、「災害時における症候性てんかん患者の服薬管理と重積発作への対応に関する検討」の課題において、静岡県東部地区のてんかん診療の現状把握と共に、薬剤の在庫状況を把握することで、大規模災害時におけるてんかん診療における対応を検討することとした。研究計画では、アンケート形式によるてんかん患者の把握と処方内容および医療機関、調剤薬局等への薬剤在庫調査をすることとしていたが、当該地域にはてんかん専門病院に乏しく、事前調査にて一定数が医療圏外の医療機関 (静岡県てんかんセンター、神奈川県、東京都内の医療機関等) にて治療を受けており、患者の母集団を把握することが困難であることが判明した。また、調査期間中にも新たな抗てんかん薬が上市され、投与薬剤の変更が頻繁に行われていることが判明した。

市之川らは、大規模災害が起こった場合、粉塵暴露や生活水準の低下に伴い、通常時期よりも膿胸の発生頻度が上がると考え、呼吸器外科領域における膿胸手術をテーマに研究を行った。

楠らは、腹式呼吸を重点に置いた簡易音声訓練法により、声帯結節は 3 ヶ月以内に 27 例全例 (100%) 消失した。声帯ポリープでは 25 例中 19 例 (76%) が消失した。プロトンポンプ阻害剤無効の喉頭肉芽腫症例については、29 例中 18 例 (62%) に消失および縮小を認めた。

大林らは、ロコモティブシンドロームと運動器不安定症を安全・簡便かつ確実に評価する方法を検討した。障害物のまたぎ動作では下肢関節の動域がつかずきと関与し、椅子からの立ち上がり動作では立ち上がりから歩

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

行への移行局面が、健常者とロコモ群との差を見出すポイントになることは解り、説明変数の絞り込みに主成分分析が有効であることを示した。

最上らは、「骨盤骨折への新しい後方固定法の開発」にて、骨盤骨折において、手術手技が容易で、腰部の生理的可動性を温存可能な Sacroiliac rod fixation (SIRF)固定を考案した。骨折固定をシミュレーションした力学的評価の結果、恥骨プレートを追加することにより従来の方法と遜色が無い固定性が得られることを解明した。また、大腿骨転子部の骨折に対するフックピンを用いた新しい骨接合法も開発した。

災害発生時には災害による直接的な生命への危機が及ぶ場合と、災害発生直後の危機を乗り越えた後の避難所等の環境を誘因とする災害関連死による生命への危害が知られている。後者の代表的な例として深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症(エコノミークラス症候群)が挙げられる。諏訪らは、通常の診療において深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症の症例を蓄積し、発症に至る生活様式等病態の解明を行った。

災害時に発生する外傷、熱傷による広範囲皮膚潰瘍では、体液漏出による生命危機に直面する。長谷川らは、比較的容易に採取、培養が可能な脂肪組織由来幹細胞を用いた皮膚潰瘍に対する新たな治療法の開発を目指した。そこで、脂肪組織由来幹細胞中に表皮角化細胞の前駆細胞が存在することを見出し、その効率的な分化誘導法を開発した。また、マウス背部に作成した皮膚欠損創に未分化な脂肪組織由来幹細胞を投与すると創傷治癒が促進し、表皮角化細胞に分化誘導した脂肪組織由来幹細胞は、さらに強く創傷治癒を促進することを確認した。

岡崎らは、災害時の混乱の中でも効率的な手術室運営ができる要因を検証するため、阪神淡路地震の被災地の病院のうち、当院の規模に近い 2 病院について、災害時から復興に至るまでの様子を調査した。1 つは建物崩壊によって病院としての機能がほとんど停止した神戸市立医療センター西市民病院と、水道以外のインフラが残った神戸大学附属病院について、震災後初期の病院機能を再開・再建までを担当した医師にインタビューを行った。病院の被害では対照的な 2 病院は、震災初期の病院機能に大きな相違があり、建物障害の程度がその後の機能再開に大きく影響することが分かった。

菅尾らは、伊豆半島東部地区におけるインスリン治療中の患者数調査(順天堂静岡病院に通院中患者)を実施、同地区における順天堂静岡病院以外に通院中のインスリン治療中の患者数想定し、順天堂静岡病院に通院するインスリン治療中の患者の分布状況調査を行った。

【テーマ 2(災害時における疾病・合併症の病因・病態解明)】

佐藤浩らは、災害時の検体保存の指標を作成するため、血液検体放置による HMGB-1 の安定性評価を行い、遠心分離をせずに保存した血清よりも、採血後直ちに遠心分離した状態で保存した血清では、HMGB-1 濃度は採血から 72 時間経過時においても上昇しないことを見いだした。これにより採取後直ちに遠心分離すれば 3 日間は使用可能であることが判明した。また、大腸穿孔による汎発性腹膜炎、敗血症性ショック患者の血清および腹水中の HMGB-1 濃度および PMX-DHP の効果を検討した結果、術前の HMGB-1 は 26.4 ng/ml と高値を示し、腹水 HMGB-1 も 58.29 ng/ml と著明な高値を示した。PMX-DHP 施行直後、血清 HMGB-1 は 12.3 ng/ml と半減し、24、48 時間後と漸減したことを示した。これにより HMGB-1 が汎発性腹膜炎のマーカーとして有用であることを確認した。

大災害発生時、多くの方がストレスを受け、胃腸炎、胃潰瘍などを併発する。断水によるトイレ不足や腸炎の蔓延に伴う衛生環境の悪化、高齢者の脱水を誘起し、逆に水分摂取削減も、血栓塞栓症を引き起こす引き金ともなり、重篤な問題である。折田らは、皮膚の炎症などによる環境変化、脱毛に着目し、脱毛を示す突然マウス変異体 Rim3 の原因遺伝子探索過程で城石教授(国立遺伝学研究所)により発見された Gasdermin(GSDM/Gsdm)遺伝子ファミリー(A,B,C,D)について共同研究を行ってきた。近年の研究で GSDM B がアレルギーに関与していること、GSDM D が炎症によるプログラム細胞死、パイロトーシスの重要因子であることが判明しており、この遺伝子の解明が腸炎などの治療や予防に寄与するものと考えられる。また、災害時におけるストレスが悪性腫瘍を誘起しているかについても検討をおこなった。

災害時には長期間にわたる絶食を強いられることも考えられる。前川らは、このような絶食環境下に置かれた場合の生体の metabolomes とくに adipocytokine の変化を様々な疾患によってどのような差があるのかを検討した。まず予備的検討で絶食の間どの種類の adipocytokine に変化が見られるかを ELISA 法で調べた。検討した adipocytokine は adiponectin、adipsin、lipocalin、PAI-1、resistin、HGF、IL-1 β 、IL-6、IL-8、leptin、MCP-1、TNF- α である。この間に変動を示したのは adiponectin、adipsin、resistin であった。そこで 120 時間の絶食中の患者さんから血液サンプルの提供をいただきこれらの adipocytokine の変動をみた。この時、災害時に外傷を負った場合を想定して手術侵襲が加わった場合にこれらの adipocytokine の変動が侵襲によって修飾されるかを併せて検討した。検討の結果、adiponectin は絶食により低下する。resistin は増加を示した。また手術侵襲が加わると adiponectin の低下と resistin の増加は顕著となった。以上の結果から絶食期間中には脂肪細胞は飢餓、侵襲に対応して血糖上昇を保つことが考えられた。また、この検討で糖尿病を合併している人では adipsin 値が健常者に比べて高値であることが判った。Adipsin はその後に膵 β 細胞に働き、insulin 分泌を刺激すること

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

が報告された。また、adiponectin の分泌低下が糖尿病症例で認められることが知られている。この点に着目し以下の検討を行った。腓頭十二指腸切除術を行うと術後糖尿病の発症をしばしば経験する。この糖尿病の発症に adipocytokine がどのように関連しているのかを検討した。結果、術後 adiponectin は低下傾向を認めたが adiponectin は変化を認めなかった。糖尿病発症のいかにかわらずこの傾向に差はなかった。膵臓術後の糖尿病発症には adipocytokine は寄与しないことが判明した。また、adiponectin の低下と体重減少と関連が示唆された。

寒竹らは、災害時のストレスモデルとして、早期に出産に至り新生児集中治療室へ入室となった上、長期にわたる母子分離、様々な侵襲的医療行為を受ける新生児を用いて、ストレスが DNA メチル化に及ぼす影響を検討した。新生児の血清から分離した cell free DNA を用いてグルココルチコイドレセプター遺伝子のメチル化を測定した結果、DNA がメチル化されるのは生後1か月を過ぎてから2か月にかけてであった。これによる精神神経発達障害の懸念が高まった。また、メチル化に強い影響を与える因子について、多変量解析を行ったところ、出生後の副腎不全と子宮内発育不全が影響していることが判明した (*360, **598, **600, ***19, ***20)。

土至田らは、災害時、洗浄困難なコンタクトレンズの取り扱いについて検討を行った。コンタクトレンズのケース内保存液の残液量と蛋白濃度を比較、調査したところ、液量が少ないほど蛋白濃度が高くなる傾向が示された (*366)。日本人の有病率が 17%を占める緑内障患者は眼圧測定が重要であるが、災害時には病院や眼科診療所への受診が困難となる事が想定される。眼圧 24 時間連続測定用センサーコンタクトレンズの装用により、患者自らが眼圧変動を測定する事ができるようになるが、装用中止後も 1 日程度は角膜形状変化による見え方の悪さが発生する事が注意点として挙げられた。

松崎らは、我が国の眼外傷の現状、ならびに火山性粉塵が眼表面へ及ぼす影響を調査した。開放性眼外傷例の傾向としては労働者の男性が多い傾向がみられた。火山灰の眼内飛入を想定した家兎を用いた麻酔下での実験では、ソフトコンタクトレンズを装用させた眼では眼障害が少ない傾向がみられた。この現象を、より人間が災害発生に直面した時を想定すべく、輸入ヒト角膜を用いて同様の実験を行ったところ、家兎で見られたのと類似した結果が得られた。

神田らは、「災害・救急医療で使用可能な画期的な駆血装置の開発」において、動物を用いたターニケット駆血による合併症の評価を行い、新型駆血システムの開発に必要な生理的・生化学的情報を得た。従来の空気圧ポンプに替わり、駆血状態を保ちながら圧力をコントロールできる流体ポンプ(EHD ポンプ)を開発し、筋へのダメージや痛みを軽減できることを究明した。

諸橋らは、重篤な病態へ移行し致死率も高いクラッシュ・シンドロームの病態の解明のため動物によるクラッシュモデルを作成することを可能とした。採血による生化学的評価により、筋組織へのダメージの再現を確認した。さらに外傷や血行障害・変形性関節症などから生じる、大腿骨頸部の障害に対する THA(人工股関節)において、音響学的にインプラント(大腿骨ステム)の至適固定条件を検討した。

佐藤俊らは、肝線維化を伴わない急性肝障害における血清 M2BPGi 値の変動について調査し、血清 M2BPGi 値に影響を与える肝線維化以外の要因について解析した。その結果、M2BPGi は肝線維化をほとんど伴わない急性肝障害でも上昇することが明らかとなった。特に肝炎例では ALT 値との相関が認められたことから、肝内における壊死炎症反応が血清 M2BPGi 値に影響を与えるものと考えられた。しかしながら肝炎を伴わない循環不全などでも血清 M2BPGi 値上昇が認められたことから、炎症反応以外の未知の要因が影響する可能性も考えられた。今後災害時に発症しうる急性肝障害において血清 M2BPGi 測定が診断・治療に役立つ可能性が考えられた。

<優れた成果が上がった点>

【テーマ 1-1】

・くも膜下出血、急性冠症候群症例では、ドクターヘリによる現場からの早期搬送が有用であることを世界で初めて示した。減圧症のドクターヘリ搬送の安全性を世界で初めて示し、また、当地域での減圧症の取り組みを世界に紹介した。テロによる特殊災害(化学・生物・放射性物質・核・爆発物)ではヘリパイロットに悪影響を及ぼし、重大な航空機事故につながる可能性があり、少なくともドクターヘリはその運用に関わるべきでないことを提言し、日本航空医療学会の指針に盛り込まれた。多数傷病事案における複数機ドクターヘリやドクターカー運用の有用性を示した。急性大動脈解離やくも膜下出血による心停止症例のクリニカルプロフィールを世界で初めて示した。CT 画像上、外傷が加わった部位に発生する窒素ガス分析により、様々な外傷診断における臨床例を報告し、日本外傷学会では優秀演題賞を獲得した。ボディボード損傷に関しては、浅瀬で波に揉まれて回転した際に頭部を海底に打ち付け、頸部が過伸展を強いられたときに上肢を中心とした麻痺や痺れ、すなわち中心性頸髄損傷を生じやすいことを世界で初めて示した。静岡県東部における開渠側溝の危険性を示した。車やバイクで走行中、鹿と遭遇した場合、避けずに衝突したほうが、重傷になりにくい可能性を示した。ポータブル

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

レントゲンの病院前診療での有用性を世界で初めて示した。自衛隊や米軍と大規模災害時の協力に向けた平時からの合同訓練や実務を円滑に行えるようになった(柳川)。

- ・アンケートの結果を基に、自施設のマニュアルを作成する事ができた。さらに、血液センターや行政との連携を確認する事ができた。救急医療において、クリオプレシピテートの有効性を確認できた(小池)。
- ・伊豆市、伊豆の国市、函南町で医療を行っているほとんどの医療機関(田方医師会に所属されている医療機関)と行政が協力して、在宅酸素療法患者の所在、実態を把握するという行動につながり、今後も継続していくという共通認識が持てたことは、優れた成果と考えられた(岩神)。
- ・地域における災害時の包括的な周産期医療体制を構築することを目的として研究を行い、現状の妊婦トリアージが妥当であることが確認でき、また超音波によるトリアージの有用性や、搬送前の子宮内タンポナーデの有用性を示すことができた(田中)。

【テーマ 1-2】

- ・膿胸に対する胸腔鏡下手術と開胸手術の比較をしたところ、胸腔鏡下手術は急性膿胸に対して開胸と同等の効果をもたらし、また、男性、既往歴がある患者、術前Albが低値の患者は周術期に合併症を引き起こすことを見出した(市之川)。
- ・従来音声治療は声帯結節に対して第一選択とされているが、本音声訓練は声帯結節のみならず声帯ポリープ、難治とされている喉頭肉芽腫の症例にも有効な手段であることが示唆された(楠)。
- ・ロコモティブシンドロームや運動器不安定症の診断において、動作解析の評価から得られた多くのデータから、必要な評価項目の決定に、多変量解析(主成分分析)が有用であることを見出した(大林)。
- ・骨盤骨折において、SIRF 法はより少ない手技操作で、最大の骨折固定効果が得られることを究明した。また、手技が容易な、フックピンシステムは大腿骨転子部骨折に有用な固定性を示し、災害時などマンパワーが得られにくい場面で有用な方法で有ることが解った(最上)。
- ・従来深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症に対しては抗凝固薬の点滴静脈内投与による治療が行われていた。しかし、数年前から新規経口抗凝固薬による治療が行われるようになり、より簡便な治療が可能となってきている。中には全く点滴静脈内投与を必要としない治療も実施されている。医療資源の乏しい災害時における深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症の治療が経口内服薬のみで完遂出来れば災害医療現場での緊急治療の成績向上と効率化が期待される(諏訪)。

分化誘導法により脂肪組織由来幹細胞が約 45%と極めて高率に表皮角化細胞へと分化した。また、未分化な脂肪組織由来幹細胞は α 平滑筋アクチンを強く発現し、細胞包埋培養コラーゲン収縮試験では線維芽細胞より収縮活性が高かったが、表皮角化細胞に分化誘導後にそれらは低下しており、表皮角化細胞に分化誘導した脂肪組織由来幹細胞は創収縮より主に上皮化によって創傷治癒を促進することを明らかにした(長谷川)。

【テーマ 2】

- ・*GsdmD* KO では有意差をもって WT より炎症が軽く、粘膜の新規更新が認められた。また、一部に腫瘍の形成も認められた。マクロファージと好中球についての検討では、KO マウスではコントロールに比べ、マクロファージの遊走が抑えられている結果であった。炎症時に細胞膜孔の形成がないため、細胞死が軽微で、新規更新が盛んである可能性が示唆され、KO マウスでは、有意差を持って大きく、多数の大腸癌が認められた (***)。KO マウスに対して FAS 阻害剤を投与したところ、優位に腫瘍形成を阻害することが判明した(折田)。
- ・これまで災害による絶食を強いられた状態を想定した adipocytokine の変動を 120 時間の長さで調査した報告はなかった。脂肪細胞は緩やかに飢餓に対して対応していることが判明した(前川)。
- ・新生児の精神神経発達予後が不良なことはよく知られているが、その分子基盤は全く不明で、新生児期の治療介入がどの程度効果的なのかがわかるのは、早くても 1 年半後に発達検査が可能になってからであった。本研究のもっとも優れた成果は初めての分子的基盤、それもエピゲノム変化という、発生早期にプログラムされ、将来にわたって影響する変化をとらえることができたことで、これによりリアルタイムに近いタイミングで将来を予測できる展望が立ったことである(寒竹)。
- ・肉眼では見ることが出来ないコンタクトレンズやレンズケース内保存液の汚染状況は、蛋白濃度を測定する事でその汚染度が推測できる事が示唆された。また、災害発生時においても緑内障患者の眼圧測定を、センサーコンタクトレンズを用いることで受診できない状況下でも自宅で行えるが、その際の翌日の一過性視力低下への注意点を留意すべきである点が明らかとなった(土至田)。
- ・開放性眼外傷例の傾向が判明し、男性は労働者層および高齢者は転倒に注意を要する。火山灰の眼内飛入では、家兎眼、ヒト眼を通じてソフトコンタクトレンズ装用眼で眼障害が少ない傾向がみられた(松崎)。
- ・EHD (electrohydrodynamics) 現象を応用したポンプを試作し、駆血圧の駆動として動物に用いたのは本邦初

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

であり、PC を用いる事により加圧の制御・調整が自由にできるポンプの開発段階に入った(神田)。
 ・クラッシュ・シンドロームの病態の解明のため動物によるクラッシュモデルを定量的に作製することができた。インプラントの至適固定条件を音響学的に解析し決定できる可能性が有ることを見出した(諸橋)。

<課題となった点>

【テーマ 1-1】

・様々な訓練を行い、訓練や局地災害場面でその検証は行ってきたが、大規模災害時での評価が未実施である。救命センターにおける死亡症例の家族に対するメンタル評価は実施できたが、実災害で同様のアプローチが有用であるかは確認できていない。一部の疾患において、診断プロセス、転帰に関する検討を行ったが、依然多数の臨床課題が残存している。減圧症に関しては、予防に踏み込んだ研修会を実施しているが、その他の海難事故に関しては、手つかずの状態である(柳川)。
 ・一部の内因性におけるドクターヘリの有用性は示したが、多数の内因性疾患の検証ができていない。(大坂)
 ・局地災害でのドクターヘリ、ドクターカー運用の有用性は示唆したが、大規模災害における運用に関しての評価が実施できていない(大森)。
 ・大規模災害時のマニュアルを作成したが、実際に訓練をする機会がなく、輸血室内、院内、地域内における定期的なシミュレーションを行う必要があると思われる。救急医療におけるクリオプレシピテートの使用については、件数がまだ少ないので、さらなる検証が必要である(小池)。
 ・情報収集に協力しながらない医療機関が存在する。当地域に在住で、当地域外の医療機関を受診している患者の情報収集をどうするか。避難所、救護所での酸素の備えに関しては、行政側の予算の関係もあり、明確にできなかった(岩神)。
 ・災害時には搬送方法が限られることが十分に予想される。今回の検討ではドクターヘリを必要としない症例に対してもドクターヘリを使用していた。母体と異なり胎児の状態を災害時の現場で評価することは困難であるが、できる限り正確に診断することで、有限な医療資源を有効に利用する必要があると思われる(田中)。

【テーマ 1-2】

・具体的なてんかん患者数の把握は極めて困難であるとともに、我が国における潜在的てんかん患者の実数も不明な時点において、本研究計画では目的に到達できず、研究計画変更を余儀なくされた。結果、当初の研究計画は途中で断念せざるを得ず、具体的な研究成果は得られなかった(山本)。
 ・胸腔鏡手術については皮膚切開の長さは様々であり、どこまでを胸腔鏡手術と定義するかが課題となる。また、臍胸の発生時期を術前から同定することは難しく、開胸へのコンバート時期への解明が今後の課題であろう(市之川)。
 ・一側性反回神経麻痺の患者に対し、手術後に本音声訓練を組み合わせることにより、音声および誤嚥の改善、さらに、肺機能の改善した症例が2例あった。今後もこのような症例を増やし、本音声訓練が、音声・誤嚥、肺機能の改善につながるか検討する(楠)。
 ・安全・簡便かつ確実に運動器不安定症を評価する手法の確立には、さらに多くの基礎的データが必要であるので、臨床の場における効率の良い解析システムを構築する必要がある(大林)。
 ・血行動態が不良な重症例では従来治療と同様に集中治療、血管撮影、機械的心肺機能補助が必要となり、経口投与のみでは対処が不可能である(諏訪)。
 ・大規模災害時には自家細胞だけでなく同種(他家)脂肪組織由来幹細胞を臨床応用する必要があることも念頭に置いて、その有効性と安全性を確認する必要がある(長谷川)。
 ・文献からの考察で、災害後のインフラの障害状況によるが、たとえ電源が確保できていても電子カルテの運用は安定性からも期待できず、すべての情報は手書き運用しかないと考えられる。突然の手書き運用に対応できるように、備えておく必要性を感じた(岡崎)。
 ・患者がより多く分布している地域の詳細な被害想定を行う必要がある。また、徒歩で来院するであろう距離の限界を想定する必要がある(菅尾)。

【テーマ 2】

・マクロファージがどのような抗炎症作用を行っているのか、マクロファージによる抗がん作用について更なる検討が必要である(折田)。
 ・Adipocytokine の役割は限定的であり今後の展望としては、侵襲などの急性のストレス下状態の場合についての役割に限定されていくと考えられる(前川)。
 ・数値に有意差はあるものの、すぐに臨床応用できるほど大きな差がないため、連動して変化すると考えられて

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

いる FKBP5 などと同時に測定することにより、より正確な評価が可能となり臨床応用が可能となる(寒竹)。

- ・レンズ汚染の指標として、レンズ保存液中の蛋白濃度測定の見簡素化が課題である。センサーコンタクトレンズは高価であり、かつ単回使用であることから、臨床応用する際には費用面でネックとなる可能性が大きい(土至田)。
- ・ハードコンタクトレンズ装用時の火山灰の眼への飛入による結果はまだ推論の域を脱していない(松崎)。
- ・EHDポンプによる新型ターニケットシステム製品開発・作製にあたっては、順天堂大学と東京電機大学工学部で共同研究を行っているが、先端産業支援センターなどによる仲介で、実際に製作に携わる医療機器開発に長けた企業を選考し、臨床的に治験へ進まなくてはならない(神田)。
- ・動物におけるクラッシュシンドロームモデルにおいて、筋への物理的ダメージによりクラッシュモデルの作成は可能だったが、再灌流による血栓モデルの再現はできていない。モデル実験の戦略の再考が必要である。THA における、音響学的なインプラント(大腿骨ステム)の至適固定条件を決定する方向性はつかめたが、臨床での実用にはリアルタイムで評価できるシステムの開発が必要である(諸橋)。

<自己評価の実施結果と対応状況>

研究の進捗状況及び計画内容や将来性に応じて各研究の予算配分を行い、評価を行った。定期的なラボミーティングで研究進捗状況を報告し、自己相互評価を行った。また、佐藤センター長のもと、毎月一回運営委員会を開催し随時情報の共有を行っている。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

外部評価は、国立がん研究センター 先端医療開発センター免疫療法開発分野 分野長 吉村清先生、藤田保健衛生大学 松尾浩一郎教授、日本医科大学多摩永山病院 副院長 外科部長 牧野浩司教授、杉田整形外科 院長 杉田進先生、富士市立中央病院 副院長 笠井健司先生に委嘱し、プログ्रेसミーティングにて評価を得た。(資料 2~6)

<研究期間終了後の展望>

【テーマ 1-1】

- ・災害に関する様々な問題は依然残存しており、未解決の問題も多い。今後も地道な研究活動を通じて、地域住民、行政との繋がりを持ちつつ、大規模災害勃発時に避けられた災害死を一人でも少なくするための方策を探っていきたい(柳川)。
- ・大災害時の輸血療法の実際の訓練をどのようにして行っていくか、検討したい。救急における、クリオプレシブテートの使用を有効に行うモデルを構築したい(小池)。
- ・災害発生に備え、今後は医師会、行政が主導で、在宅酸素療法患者の情報収集を行い、避難所、救護所で、どのような形で酸素を供給するかを検討していただく(岩神)。
- ・地域における災害時の包括的な周産期医療体制を構築、システム運用の開発、適切な搬送手段の確立、実現可能な搬送前の治療法の確立を進めていきたい(田中)。

【テーマ 1-2】

- ・東日本大震災、熊本地震からの既報告により震災直後にはてんかん発作が増加することが報告されており、災害直後では避難所等においても発作症例が発声する可能性は極めて高いが、すべての薬剤内服患者に対して薬剤を備蓄することは現実的ではない。発作発生時に、対応者がいかに速やかな対応をするか、重積発作に陥った場合にいかなる対応を講じるかが重要と考えられる(山本)。
- ・今後、胸腔鏡手術だけでなく、ロボット支援下手術が主流となるため、ロボット支援下での手術の有用性についても検討が必要となるであろう(市之川)。
- ・災害時医療機関機能停止時、薬品など供給が途絶えた際、気道系疾患(咽喉頭疾患、肺疾患など)の患者自身が、自宅で本音声訓練法を続けてもらい、病状悪化の防止につなげたい(楠)。
- ・力学的なシミュレーションだけでは再現することが難しい種々の骨盤骨折に対する固定性の評価を、3次元有限要素計算ソフトウェアを用い解析し、より固定が優れた治療法を吟味する(最上)。
- ・臨床データの集積を行い、災害時治療計画、トリアージ等の検討を行い、災害時における深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症の予防及び早期診断の治療法の開発が進められると考える(諏訪)。
- ・災害時における皮膚潰瘍の治療にとどまらず各種の表皮欠損に対して表皮角化細胞に分化した脂肪組織由来幹細胞を応用すべく、基礎的な研究の継続が望まれる(長谷川)。
- ・当院に来院する各慢性疾患患者数の想定から備蓄薬品量を設定し、数か月孤立しても大丈夫のように準備を行う。さらに、糖尿病・代謝・内分泌内科医師との協力のもと、治療薬の情報が無い患者のための治療マニュアル

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

ルの作成を進めていく(菅尾)。

【テーマ 2】

- ・腹部鈍的外傷、上部消化管穿孔、大腸穿孔症例の蓄積と血中・腹水中ヒストンの動態と治療効果との関連について引き続き検討していく(佐藤浩)。
- ・ガスダミンDをノックアウトすることで、炎症を短期に消退することが、逆に発がんに関連していることも判明し、これをどのようにバランスよく治療するか更なる検討が必要であると考え(折田)。
- ・脂肪細胞の働きについては十分な解明はなされているわけではなく、多くの疾患で検討が進むことが期待される(前川)。
- ・同時進行していた中学生の心身症児における解析で、心身症発症児において同様に高いメチル化が認められた。今後は新生児および一般小児において更なる解析、臨床応用をしていきたい(寒竹)。
- ・レンズ保存液の蛋白濃度測定がレンズ汚染の指標となるというメリットのアピール、センサーコンタクトレンズの注意点喚起をしていく(土至田)。
- ・ソフトコンタクトレンズ装用者は火山灰降灰時にまずレンズを外さない方が良い点などを、更に世にアピールする必要がある(松崎)。
- ・EHDポンプによる新型ターニケットシステムは、実用にむけて安定性・安全性を確立し、臨床的に治験へ進む予定である(神田)。
- ・THA における、音響学的なインプラントの至適固定条件をリアルタイムで決定するためには、人工知能(AI)による手法を活用し、実用可能なシステムを開発する予定である(諸橋)。

<研究成果の副次的効果>

【テーマ 1-1】

- ・当院からのドクターヘリの有用性の発表により、消防組織の理解も深まり、2018 年には全国 2 位となる出勤回数となった。また、自治体からの災害に関する講演依頼数が増加した。当研究センターに関する取材も行われた。さらに、災害勃発時に備えて、当院を中心として地域住民や関連機関を巻き込んだ訓練が実施されるようになった。東京オリンピックでの静岡県 Venue medical officer に選出された。東京オリンピック対応のための銃創・爆傷患者診療指針の分担執筆者に選定された(柳川)。
- ・他の施設でも、当院でのマニュアルを参考に、準備をすすめてくれると思われる。クリオプレシピテートについても、他施設での使用を促進してくれると思われる(小池)。
- ・研究結果を地域の研究会や学会で発表することにより、地域全体で災害時の周産期医療体制について考える機会となった。またこの結果を、地域の医療施設(1 次～3 次医療施設)で共有することにより、共通の認識で医療を行うことができるようになり、地域全体の医療レベルの向上につながった(田中)。

【テーマ 1-2】

- ・膿胸の発生する原因菌についての研究、手術後の 5 年生存率についての検討を行ったが、通常年齢の予後よりも悪く、歯科衛生が悪く、今後は術後定期的なフォローが必要であることが解った(市之川)。
- ・健康な方にも、本音声訓練法を啓蒙し、喉頭および肺疾患、誤嚥性肺炎の予防など健康維持に役立てる。(楠)
- ・簡便かつ確実なロコモティブシンドロームの診断方法が確立されれば、専門的な医療機関などに行かなくても、健康診断さらに家庭においてロコモの診断が可能となる。スマートフォンのアプリへの応用も可能である(大林)。
- ・高齢者も多い地域であり、心疾患症例の臨床データの集積を行うことで、副次的に非災害時においても深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症の診断治療および危険予測因子の解明につながると考える(諏訪)。
- ・本誘導法により表皮角化細胞に分化誘導した脂肪組織由来幹細胞は、表皮と真皮を繋ぐ係留線維の構成成分である VII 型コラーゲンを高率に発現しており、VII 型コラーゲン遺伝子異常により容易に全身の表皮が剥ける難病である表皮水疱症の治療剤にもなり得る(長谷川)。
- ・より実際の災害時に則した運用計画が立てられる(岡崎)。

【テーマ 2】

- ・ガスダミンDノックアウトマウスを用いることで、大腸がんモデルマウスの作成、特許取得ができた(折田)。
- ・今回、臍臓術後という特殊状態での adipocytokine について検討できたことはとても幸運であった。この知見は臍臓治療の発展に寄与する可能性があると考え。そのためにはさらなる症例の蓄積が必要である(前川)。
- ・心身症児に対して、メチル化酵素阻害作用のある酪酸菌製剤を投与したところ、明らかに効果が認められた。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

治験を計画中である(寒竹)。

・コンタクトレンズはソフトコンタクトレンズ装用者の方が多い。センサーコンタクトレンズはソフトコンタクトレンズの一部なので、装用者はそのまま応用する事ができる(土至田)。

・ソフトコンタクトレンズ装用者が火山灰降灰に遭遇した際は、従来言われていたようにまずレンズを外すのではなく、まずそのまま装用したままで逃げる事ができることで、受傷率や致死率までもが低減できるものと思われた(松崎)。

・EHDポンプによる駆血システムは小型、無音・無振動、かつ低電力でバッテリー駆動が可能であるため、手術中での使用はもとより救急の場や災害時でも有用になる(特許出願を検討中)(神田)。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 災害医学 (2) 大規模災害 (3) ドクターヘリコプター
 (4) 災害ストレス (5) メンタルヘルス (6) 輸血療法
 (7) 災害疾患モデル (8) 災害時の手術運営

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

【英文論文】

柳川洋一、大坂裕通、大森一彦、石川浩平、三島健太郎、大出靖将

1. Omori K, Yanagawa Y, Inoue T, Okamoto K, Ito H. A case of pulmonary edema induced after being buried alive. *Am J Emerg Med.* 2015; S0735-6757.
2. *Yanagawa Y, Omori K, Obinata M, Mishima K, Ishikawa K, Ohsaka H, Oode Y, Sakurada M, Muramatsu S. Shizuoka Prefecture Disaster Drill Involving the Japanese and US Military. *Disaster Med Public Health Prep.* 2015 Jun 4:1-2.
3. Ohsaka H, Yanagawa Y, Miyasaka Y, Okamoto K. Successful treatment of a penetrating pulmonary artery injury caused by a Japanese sword in a patient transported by a physician-staffed helicopter. *J Emerg Trauma Shock.* 2015 Apr-Jun;8(2):125-6.
4. Obinata M, Omori K, Ishikawa K, Ohsaka H, Oode Y, Yanagawa Y. Significance of pneumorrhachis detected by single-pass whole-body computed tomography in patients with trauma. *J Emerg Trauma Shock.* 2015 Apr-Jun;8(2):120-1.
5. Omori K, Jitsuiki K, Ohsaka H, Mishima K, Ishikawa K, Obinata M, Oode Y, Yanagawa Y. Recurrent idiopathic ventricular fibrillation induced by high fever. *Am J Emerg Med.* 2015; S0735-6757.
6. *Mishima K, Omori K, Ohsaka H, Takeda J, Ishikawa K, Obinata M, Oode Y, Sugita M, Yanagawa Y. A case of the vacuum phenomenon as a mechanism of gas production in the abdominal wall. *Am J Emerg Med.* 2015 Jun;33 (6): 863. e1-2.
7. Obinata M, Ishikawa K, Ohsaka H, Mishima K, Omori K, Oode Y, Yanagawa Y. A patient with refractory shock induced by several factors, including obstruction because of a posterior mediastinal hematoma. *Am J Emerg Med.* 2015 Jun;33 (6): 859. e1-2.
8. Oode Y, Maruyama T, Kimura M, Fukunaga T, Omori K, Yanagawa Y. Horse kick injury mimicking a handlebar injury or a hidden speared injury. *Acute Med Surg* 30 JUN 2015.
9. Ishikawa K, Fujii M, Omori K, Jitsuiki K, Iwakami S, Yanagawa Y. Chest pain due to bowel adhesion

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- accompanying diaphragmatic eventration. 2015; 3:88–91.
10. Iba T, Yanagawa Y. Emergency Medicine in Juntendo Hospitals. Juntendo Med J 2015; 61:182–3.
 11. Palungwachira P, Bundit C, Vatcharothayangul C, Sumi Y, Yanagawa Y, Iba T, Tanaka H. Clinical elective study report at the department of emergency and critical care medicine in Juntendo University faculty of medicine. Juntendo Med J 2015; 61:166–70.
 12. Yanagawa Y, Oode Y, Kunimoto M, Kubota N, Ohsaka H, Obinata M, Mishima K, Omori K, Ishikawa K, Suwa S. A case of Kounis syndrome induced by food allergies. Sch J Med Case Rep 2015;3(9A):834–837.
 13. Omori K, Jitsuiki K, Ohsaka H, Obinata M, Ishikawa K, Yanagawa Y. A patient with resistant Chromobacterium violaceum infection. Sch J Med Case Rep 2015; 3(8A):785–788.
 14. Oode Y, Ohsaka H, Ishikawa K, Jitsuiki K, Obinata M, Mishima K, Omori K, Yanagawa Y. Prospective investigation on the significance of carboxyhemoglobin level in out-of-hospital cardiopulmonary arrest. Jacobs J Intern Med 2015;1(2):010(1–4)
 15. Yoshizawa T, Jitsuiki K, Obinata M, Ishikawa K, Ohsaka H, Oode Y, Sugita M, Yanagawa Y. A patient with clear consciousness even with a glucose level of 5 mg/dL (0.2 mmol/L). Am J Emerg Med. 2015 Oct 23.
 16. Ishikawa K, Ohsaka H, Omori K, Obinata M, Mishima K, Oode Y, Yanagawa Y. Pregnant Woman Bitten by a Japanese Mamushi (Gloydius blomhoffii). Intern Med. 2015;54(19):2517–20.
 17. Yanagawa Y, Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K. Pulmonary embolism in a patient complaining of a cough symptoms. Sch J Med Case Rep 2015; 3(12):1226–7.
 18. *Jitsuiki K, Takeuchi I, Ishikawa K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Yanagawa Y. A cutis marmorata in which the presence of intravascular air was confirmed by CT: A case report. Undersea Hyperb Med. 2015 Sep–Oct;42(5):527–8.
 19. Ohsaka H, Ishikawa K, Jitsuiki K, Yanagawa Y. Factors affecting difficulty in extubation after initial successful resuscitation in cardiopulmonary arrest patients. J Emerg Trauma Shock. 2016 Apr–Jun;9(2):88–9.
 20. Mishima K, Itoi A, Sugita M, Yanagawa Y. A case of fracture through fused cervical segments following trauma in a patient with Klippel–Feil syndrome. J Emerg Trauma Shock. 2016 Apr–Jun;9(2):85–6.
 21. *Yanagawa Y, Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Takeuchi I, Omori K, Oode Y, Ishikawa K. Vacuum phenomenon. Emerg Radiol. 2016 Aug;23(4):377–82.
 22. Yoshizawa T, Jitsuiki K, Obinata M, Ishikawa K, Ohsaka H, Oode Y, Sugita M, Yanagawa Y. A patient with clear consciousness even with a glucose level of 5 mg/dL (0.2 mmol/L). Am J Emerg Med. 2016 May; 34(5): 941.e3–4.
 23. Ohsaka H, Yoshizawa T, Ishikawa K, Jitsuiki K, Suwa S, Saito S, Tambara K, Yanagawa Y. A satisfactory recovery after emergency pericardiocentesis in type an acute aortic dissection with cardiac arrest. Sch J Med Case Rep, April 2016; 4(4):200–202.
 24. *Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Yoshizawa T, Omori K, Yasumasa Oode Y, Yanagawa Y. Characteristics of patients who fell into open drains: a report from a single emergency center in East Shizuoka. Acute Med & Surg 2016 May 2;3(4):332–338.
 25. Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Omori K, Ishikawa K, Ohsaka H, Oode Y, Yanagawa Y. A blunt traumatic diaphragmatic hernia diagnosed at resuscitative thoracotomy. Sch J Med Case Rep, April 2016; 4(4):242–245.
 26. Jitsuiki K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Oode Y, Asahi K, Yanagawa Y. Splenic

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- injury with right rib fractures. Sch J Med Case Rep, April 2016; 4(4):239-241.
27. *Ishikawa K, Ohsaka H, Omori K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Yanagawa Y, Oode Y, Yanagawa Y. Effective simulation training for advanced cardiopulmonary resuscitation for first year students of a nursing university. Sch. J. App. Med. Sci., 2016; 4(2A):339-342.
 28. *Yanagawa Y, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Sato K, Mitsuhashi N, Mihara J, Ono K. Disaster Imagination Game at Izunokuni City for preparedness for a huge Nankai Trough earthquake. Sch. J. App. Med. Sci., 2016; 4(6D):2129-2132.
 29. *Ishikawa K, Jitsuiki K, Ohsaka H, Yoshizawa T, Obinata M, Omori K, Oode Y, Takahashi M, Yanagawa Y. Management of a Mass Casualty Event Caused by Electrocution Using Doctor Helicopters. Air Med J. 2016 May-Jun;35(3):180-2.
 30. Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Oode Y, Sakurada M, Mogami A, Yanagawa Y. A system of delivering medical staff members by helicopter to manage severely wounded patients in an area where medical resources are limited. Acute Med & Surg 2016 Aug 5;4(1):89-92
 31. Yanagawa Y, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ishikawa K, Omori K, Nakao Y, Yamamoto T. Hemiparesis due to subarachnoid hemorrhage. Sch J Med Case Rep 2016; 4(5):320-321
 32. *Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Omori K, Oode Y, Ishikawa K, Yanagawa Y. Activity of a medical relief team from Shizuoka Hospital during the 2016 Kumamoto Earthquake. Juntendo Med J 2016;1-3.
 33. Takeuchi I, Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A case of an alcohol user complicated with both Wernicke's encephalopathy and Boerhaave syndrome. Sch J Med Case Rep 2016; 4(8):620-622.
 34. *Ishikawa K, Yoshizawa T, Fukase T, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. A case of mountain sickness with premature ventricular contraction improving while descending a mountain. Sch J Med Case Rep 2016; 4(8):616-619.
 35. *Ohsaka H, Jitsuiki K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Omori K, Ishikawa K, Yanagawa Y. Ultrasound for diagnosing inner ear decompression sickness. Sch J Med Case Rep 2016; 4(8):605-606.
 36. Ohsaka H, Namiki Y, Matsuoka R, Tsuboi K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Yanagawa Y. A case of thyroid storm where the CT findings were the first clue. Sch J Med Case Rep 2016; 4(8):602-604.
 37. Yanagawa Y, Kondo A, Yoshizawa T, Jitsuiki K, Miyake T, Ohsaka H, Sugita M. The migration of air into the aorta from a pneumothorax in a patient with a penetrating injury of the aorta. Aorta 2016;4(3):102-4.
 38. *Yanagawa Y, Omori K, Ishikawa K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Takeuchi I, Ohsaka H. Hypothesis: the influence of cavitation or vacuum phenomenon for decompression sickness. Diving and Hyperbaric Medicine 2016;46(3): 190.
 39. Yoshizawa T, Ishikawa K, Takeuchi I, Jitsuiki T, Ohsaka H, Omori K, Sugita M, Yanagawa Y. A case of essential thrombocythemia complicated with spontaneous chest wall Hematoma. Sch J Med Case Rep 2016; 4(9):657-659.
 40. Jitsuiki K, Yanagawa Y, Ohsaka H, Ishikawa K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Omori K, Yoshiike T. A case that developed Stevens-Johnson syndrome as a complication during treatment for Methicillin resistant Staphylococcus aureus. Sch J Med Case Rep 2016; 4(9):675-677
 41. *Yanagawa Y, Anan H, Oshiro K, Otomo Y. An evaluation of a mass casualty life support course for chemical, biological, radiological, nuclear, and explosive incidents. SAS J. Med., 2016;2(5): 110-114.
 42. Ishikawa K, Jitsuiki K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A lethal case of

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- gastroenterobronchial fistula. Am J Emerg Med. 2016 Sep 22.
43. *Jitsuiki K, Omori K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Ohsaka H, Yanagawa Y. Impact of Head and Spinal Lesions among Patients Who Fell Into Open Drains in Japan: A Systematic Review of Japanese Literature. SAS J Med 2016;2(5):115-117.
 44. *Yanagawa Y, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Ohsaka H. Traumatic pneumosyrinx and pneumorrhachis. J Neuroradiol. 2016 Oct;43(5):358-9.
 45. Jitsuiki K, Ohsaka H, Takeuchi I, Yoshizawa T, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Emphysematous Cystitis after Treatment for Depression. Sch J Med Case Rep 2016; 4(10):765-767.
 46. Jitsuiki K, Yoshizawa T, Nakmura Y, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A case of thrombocytopenia mimicking thrombotic thrombocytopenic purpura. Sch J Med Case Rep 2016; 4(10):777-781.
 47. *Yanagawa Y, Sonobe M, Suzuki H, Hayashi K, Matsuoka R, Takahashi Y, Yoshino A, Hayakawa T. The introduction of a mass casualty life support management course in Shizuoka. SAS J. Med 2016; 2:121-5.
 48. Yoshizawa T, Omori K, Takeuchi I, Miyoshi Y, Kido H, Takahashi E, Jitsuiki K, Ishikawa K, Ohsaka H, Sugita M, Yanagawa Y. Heat stroke with bimodal rhabdomyolysis: a case report and review of the literature. J Intensive Care 2016, 4 :71
 49. *Ishikawa K, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Nakao Y, Yamamoto T, Yanagawa Y. A comparison between evacuation from the scene and interhospital transportation using a helicopter for subarachnoid hemorrhage. Am J Emerg Med. 2016 Dec 10. pii: S0735-6757(16)30906-8
 50. Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A case of subarachnoid hemorrhage that a fire department first reported as an inhalation burn injury. J Emerg Trauma Shock. 2016 Oct-Dec;9(4):158-159.
 51. *Yanagawa Y, Omori K, Ishikawa K, Ohsaka H. A second analysis of patients with decompression illness transported via physician-staffed emergency helicopters. J Emerg Trauma Shock. 2017;10(1):50-51.
 52. Ohsaka H, Omori K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Yanagawa Y. A case of massive subcutaneous emphysema in comparison to pneumothorax due to lung injury, following laryngeal edema. Sch J Med Case Rep 2017; 5(3):190-1.
 53. Ishikawa K, Jitsuiki K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A lethal case of gastroenterobronchial fistula. Am J Emerg Med. 2017 Mar;35 (3): 518.e3-518.e4.
 54. *Oode Y, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Ishikawa K, Obinata M, Yanagawa Y. Vacuum Phenomenon as a Mechanism of Gas Production in the Abdominal Wall. J Emerg Med. 2017 Feb;52(2): e51-e52.
 55. Ishikawa K, Omori K, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ito H, Shimoyama K, Fukunaga T, Urabe N, Kitamura S, Yanagawa Y. Clinical significance of fibrinogen degradation product among traumatized patients. Air Medical Journal 2017; 36:59-61.
 56. Yanagawa Y, Ishikawa K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Oode Y, Omori K, Ohsaka H. Fibrinogen degradation product levels on arrival for trauma patients requiring a transfusion even without head injury. World J Emerg Med 2017;8(1):1-4.
 57. Nagasawa H, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. A patient suffering traumatic injury due to swerving to avoid hitting a deer. Sch J Med Case Rep 2017; 5(1):11-3.
 58. Jitsuiki K, Yoshizawa T, Takeuchi I, Hayashi C, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. Prolonged hypoglycemia after an insulin glargine overdose in a patient with type 2 diabetes mellitus. Sch J Med Case Rep 2017; 5(1):24-7.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

59. *Yanagawa Y, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Kando Y, Fukata M, Ohsaka H. Cardiac arrest at high elevation with a favorable outcome. *Ame J Emerg Med* 2017; 35: e7.
60. Yanagawa Y, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ishikawa K, Ohsaka H, Saito K. A case in which a patient intoxicated by synthetic cannabinoids was diagnosed by a mass spectrometry analysis. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(4):280–281.
61. Jitsuiki K, Hashimoto A, Yoshizawa T, Yanagawa Y. An infant case of intraoral penetrating injury with a toothbrush causing retropharyngeal and upper mediastinal emphysema. *J Indian Soc Pedod Prev Dent*. 2017 Apr–Jun;35(2):181–183.
62. Yoshizawa T, Iwazaki M, Jitsuiki K, Ishikawa K, Ohsaka H, Yanagawa Y. Suffocation due to Thoracic Deformity Caused by Acromegaly. *Intern Med*. 2017;56(8):949–951.
63. *Jitsuiki K, Ishikawa K, Koike K, Yanagawa Y. Oral injury due to blank shot of a rifle. *J Emerg Trauma Shock*. 2017 Apr–Jun;10(2):84–85.
64. Yanagawa Y, Omori K, Kando Y, Kitamura S. Acute type A aortic dissection mimicking hemorrhagic stroke. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(5):324–326.
65. Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Iso T, Ishikawa K, Ohsaka H, Yanagawa Y. Lethal non-occlusive mesenteric ischemia after pelvic fracture due to falling down. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(5):314–316.
66. Yoshizawa T, Yanagawa Y, Ishikawa K, Ohsaka H, Jitsuiki K, Omori K, Ito H, Sugita M. An analysis of the factors associated with the outcomes of acute non traumatic aortic disease in patients transported to the emergency department. *SAS J. Med.*, 2017;3:87–92.
67. Nagasawa H, Ishikawa K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Takahashi R, Iso T, Kondo A, Omori K, Yanagawa Y. Lethal aortic injury after falling while paragliding. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(6):385–386
68. Omori K, Jitsuiki K, Majima T, Takeuchi I, Yoshizawa T, Ishikawa K, Ohsaka H, Tambara K, Yanagawa Y. Aortic injury due to paragliding: case report. *Int J Sports Phys Ther*. 2017 Jun;12(3):390–401.
69. *Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ishikawa K, Ohsaka H, Koike H, Yanagawa Y. A report concerning nocturnal landing and take-off training in cases where VIPs suddenly become severely ill. *SAS J. Med.*, 2017;3 (8):223–225.
70. Nagasawa H, Ishikawa K, Takahashi R, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. A case of real spinal cord injury without radiologic abnormality in a pediatric patient with spinal cord concussion. *Spinal Cord Ser Cases*. 2017 Aug 17; 3:17051.
71. *Jitsuiki K, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Clinical profile of patients with cardiac arrest induced by aortic disease. *Resuscitation*. 2017 Aug 19. pii: S0300-9572(17)30343-X.
72. *Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Yanagawa Y. Management of Mass Casualties Using Doctor Helicopters and Doctor Cars. *Air Med J*. 2017 Jul – Aug;36(4):203–207.
73. *Ohsaka H, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Isoda K, Suwa S, Yanagawa Y. Acute Coronary Syndrome Evacuated by a Helicopter From the Scene. *Air Med J*. 2017 Jul – Aug;36(4):179–181.
74. Takeuchi I, Ishikawa K, Nagasawa H, Takahashi R, Jitsuiki K, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. A case of delayed onset of pneumothorax after a stab injury to the neck. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(7):448–449.
75. Kondo A, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. Multiple purulent arthritis, epidural Abscess, and panophthalmitis Induced by *Streptococcus dysgalactiae* subsp.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- Equisimilis infection. Sch J Med Case Rep 2017; 5(7):438-440.
76. Jitsuiki K, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. The smaller superior mesenteric vein sign in acute superior mesenteric artery ischemia. Sch J Med Case Rep 2017; 5(6):406-407.
 77. *Yanagawa Y, Kondo A, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K. Kounis syndrome should be excluded when physicians treat patients with anaphylaxis. Ann Allergy Asthma Immunol. 2017 Oct;119(4):392.
 78. *Yanagawa Y, Kondo H, Okawa T, Ochi F. Lessons learned from the total evacuation of a hospital after the 2016 Kumamoto Earthquake. J Emerg Manag. 2017 Jul/Aug;15(4):259-263.
 79. *Nagasawa H, Ishikawa K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. The clinical profile of patients with cardiac arrest induced by hemorrhagic stroke. Resuscitation. 2017 Sep 9. pii: S0300-9572(17)30604-4.
 80. Nagasawa H, Omori K, Maeda H, Takeuchi I, Kato S, Iso T, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Ohsaka H, Yanagawa Y. Bite Wounds Caused by a Wild Boar: A Case Report. Wilderness Environ Med. 2017 Aug 31. pii: S1080-6032(17)30191-6.
 81. Jitsuiki K, Ishikawa K, Omori KK, Yanagawa Y. A Case of Tetraplegia after Proteus mirabilis Infection. J Emerg Trauma Shock. 2017 Jul-Sep;10(3):163-164.
 82. Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A Pregnant Woman with Pneumomediastinum after Tooth Treatment. J Emerg Trauma Shock. 2017 Jul-Sep;10(3):162-163.
 83. *Yanagawa Y, Jitsuiki K. The introduction of an education and training course for recruiting members for a local Disaster Medical Assistance Team in Shizuoka prefecture in 2017. Sch. J. App. Med. Sci., 2017; 5(10E):4151-4154.
 84. Omori K, Jitsuiki K, Obinata M, Yoshizawa T, Ishikawa K, Ohsaka H, Oode Y, Yanagawa Y. A lethal case of thoracic aortic dissection with bilateral patellar subluxation likely due To Ehlers-Danlos syndrome. Sch J Med Case Rep 2017; 5(10):627-629.
 85. Omori K, Ohsaka H, Iso T, Kato S, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Kanda A, Yanagawa Y. A case of sudden death due to aortic dissection in a 13-year-old patient. Sch J Med Case Rep 2017; 5(10):630-634.
 86. Jitsuiki K, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. Marchiafava-Bignami disease induced by chronic alcohol intake. Sch J Med Case Rep 2017; 5(10):639-641.
 87. Takeuchi I, Nagasawa H, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A case of thrombotic microangiopathy induced by suspected bacterial infection. Sch J Med Case Rep 2017; 5(10):642-645.
 88. Jitsuiki K, Yanagawa Y, Takahashi R, Itoi A, Matsunami T, Takeuchi I, Kondo A, Mogami A. The Successful Treatment of a Patient with Multiple Injuries, Including Unstable Thoracic Cage and Pelvic Fracture. Sch J Med Case Rep 2017; 5(10):648-651
 89. Kondo A, Nagasawa H, Takeuchi I, Ohsaka H, Jitsuiki K, Omori K, Ishikawa K, Yanagawa Y. Diabetes insipidus induced by sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor treatment. Sch J Med Case Rep 2017; 5(10):646-647.
 90. Ishikawa K, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Yanagawa Y. Rhinoceros horn: Hidden spread injury. Sch J Med Case Rep 2017; 5(10):613-614.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

91. Nomura T, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Sugita M. Risk factors of occurrence of rib fracture or pneumothorax after chest compression for patients with cardiac arrest. Sch. J. App. Med. Sci., 2017; 5(10B):3897–3900.
92. Ohsaka H, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ishikawa K, Omori K, Wada R. Suffocation Due to Saburra in the Upper Esophagus as a Result of Achalasia. Sch J Med Case Rep 2017; 5(10):688–690.
93. Nagasawa H, Omori K, Takeuchi I, Takahashi R, Jitsuiki K, Kondo A, Ishikawa K, Ohsaka H, Ito H, Yanagawa Y. Accuracy of the prehospital diagnosis of pelvic fractures diagnosed by traumatic PAN scans. Sch. J. App. Med. Sci., 2017; 5(10F):4252–4256.
94. Takeuchi I, Kondo A, Nagasawa H, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A Fatal Case of Japanese Spotted Fever. Sch J Med Case Rep 2017; 5(11):801–804.
95. Jitsuiki K, Fujita N, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Tonic Convulsion as the Initial Sign of Acute Cerebral Ischemia in an Adult. Sch J Med Case Rep 2017; 5(11):792–794.
96. Nagasawa H, Kondo A, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. Usefulness of Gram Stain for Decision-Making Regarding Treatment for Disseminated Nocardiosis. Sch J Med Case Rep 2017; 5(11):786–788.
97. Fujiwara K, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Suwa S. Tetanus diagnosed by clinical symptoms based on its current status in Japan. Sch J Med Case Rep 2017; 5(11):783–785
98. Ohsaka H, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Fujiwara K, Kondo A, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Gastric Emphysema Accidentally Found By Computed Tomography for the Evaluation of Trauma. Sch J Med Case Rep 2017; 5(12):850–1.
99. Yanagawa Y, Omori K, Iwasaki H, Kitamura S. An Analysis of Patients with Traumatic Intracranial Hemorrhaging Transported By Private Car. Scholars Journal of Applied Medical Sciences, 2017; 5(11B):4402–4404.
100. Kondo A, Yanagawa Y, Ohsaka H, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ishikawa K, Omori K, Sugita M. Relationship between the Occurrence of Hyponatremia and the Hormone Levels in the Emergency Department. Journal of Applied Medical Sciences, 2017; 5(12A): 4817–21.
101. *Yanagawa Y, Omori K, Ishikawa K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Sato J, Matsumoto H, Tsuchiya M, Ohsaka H. Difference in First Aid Activity During Mass Casualty Training Based on Having Taken an Educational Course. Disaster Med Public Health Prep. 2017 Nov 20:1–4.
102. *Ohsaka H, Hayashi C, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Traumatic Vacuum Phenomenon in the Sleeve of a Nerve Root Due to Nerve Root Avulsions. J Emerg Trauma Shock. 2017 Oct–Dec;10(4):216–217.
103. *Takeuchi I, Omori K, Nagasawa H, Jitsuiki K, Iso T, Kondo A, Ishikawa K, Ohsaka H, Yanagawa Y. An Analysis of Intoxicated Patients Transported by a Doctor Helicopter. Air Med J. 2018 Jan – Feb;37(1):37–40.
104. Yoshizawa T, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A Fatal Case of Super–super Obesity (BMI >80) in a Patient with a Necrotic Soft Tissue Infection. Intern Med. 2018 May 15;57(10):1479–1481.
105. *Yanagawa Y, Ishikawa K, Takeuchi I, Nagasawa H, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K. Should Helicopters

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- Transport Patients Who Become Sick After a Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, and Explosive Attack? *Air Med J.* 2018 Mar – Apr;37(2):124–125.
- 106.*Ishikawa K, Yanagawa Y, Kato Y, Nozawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Omori K. Management of Multiple Burned Patients with Inhalation Injuries. *Air Med J.* 2018 May – Jun;37(3):174–177.
- 107.*Nagasawa H, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. A Comparison of the Outcomes of Swerving To Avoid Deer and Colliding With Deer in the Izu Peninsula. *Sch. J. App. Med. Sci.* 2018; 6(2): 626–628.
- 108.*Yanagawa Y, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K. The on-site differential diagnosis of decompression sickness from endogenous cerebral ischaemia in an elderly Ama diver using ultrasound. *Diving Hyperb Med.* 2018 Dec 24;48(4):262–263.
- 109.Fujiwara K, Ohsaka H, Madokoro S, Yanagawa Y. Fatal Acute Myocardial Infarction after Multiple Blunt Injuries Involving the Chest. *J Emerg Trauma Shock.* 2018 Jul–Sep;11(3):230–232.
- 110.*Takeuchi I, Nagasawa H, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Yanagawa Y. Impact of Automated External Defibrillator as a Recent Innovation for the Resuscitation of Cardiac Arrest Patients in an Urban City of Japan. *J Emerg Trauma Shock.* 2018 Jul–Sep;11(3):217–220.
- 111.*Jitsuiki K, Omori K, Takeuchi I, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Nakagawa Y, Inokuchi S, Yanagawa Y. Multiple Patients With Heatstroke Air Evacuated by Agreement Concerning Collaboration. *Air Med J.* 2018 Nov – Dec;37(6):388–391.
- 112.*Ohsaka H, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Kondo A, Ishikawa K, Omori K. A Report Concerning Collaboration Between a Physician–staffed Helicopter (Doctor Helicopter) and Firefighting/Rescue Helicopter. *Air Med J.* 2018 Sep;37(5):325–328.
- 113.*Omori K, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Yanagawa Y. Prognostic Factors of Cardiopulmonary Arrest Patients by a Physician–Staffed Helicopter. *Air Med J.* 2018 Sep;37(5):312–316.
- 114.Nagasawa H, Omori K, Takeuchi I, Fujiwara K, Uehara H, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. A Case of Near–Fatal Drowning Caused by an Attack from a Wild Boar. *Wilderness Environ Med.* 2018 Sep 9.
- 115.Fujiwara K, Ohsaka H, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Omori K, Ishikawa K, Yanagawa Y. Massive intraperitoneal free air induced by pneumothorax and pneumomediastinum. *Int J Surg Case Rep.* 2018; 49:78–80.
- 116.Iso T, Yanagawa Y, Takeuchi I, Suwa S. Concomitance Acute Cerebral Infarction and Remote Intra–Cerebral Hemorrhaging on Arrival. *J Emerg Trauma Shock.* 2018 Apr–Jun;11(2):149–150
- 117.*Kondo A, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. An Analysis of Patients with Anaphylaxis Treated by a Physician–Staffed Helicopter. *Air Med J.* 2018 Jul – Aug;37(4):259–263.
- 118.*Yanagawa Y, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K. Using a Doctor Helicopter to Transport Medical Staff Only Without Air Evacuation for an Intoxicated Patient to Ensure Aviation Safety. *Air Med J.* 2018 Jul – Aug;37(4):218.
- 119.*Yanagawa Y. Position Statement From the Japanese Society for Aeromedical Services Concerning Chemical, Biological, Radiologic, Nuclear, and Explosive Incidents. *Air Med J.* 2018 Jul – Aug;37(4):217.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

120. Kondo A, Nagasawa H, Takeuchi I, Yanagawa Y. Portal Venous Gas Due to Decompression Sickness. Intern Med. 2018 Jul 15;57(14):2091.
121. Sekii H, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Madokoro S, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Sugita M. The Significance of the Level of Methemoglobin among Patients with Carboxyhemoglobin. Sch. J. App. Med. Sci. 2018; 6(9): 3522–3525.
122. *Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa R, Ogawa T. Field Study in Kure City, Hiroshima Prefecture, After Torrential Rains Triggered Massive Flooding and Landslides in Western Japan In 2018. Sch. J. App. Med. Sci. 2018; 6(9): 3437–3442.
123. *Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Madokoro S, Jitsuiki K, Yamamoto Y. Introduction of the Helicopter Carrier Destroyer Izumo and Its Potential Utility as a Hospital Ship. Sch. J. App. Med. Sci. 2018; 6(9): 3361–3363.
124. Yanagawa Y, Nagasawa H, Dotare T, Takeuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Takahashi N, Ohsaka S, Ishikawa K, Omori K. Investigation of the Region of Interest by Computed Tomography for Subclinical Hypothyroidism. Sch. J. App. Med. Sci. 2018; 6(8): 3147–3149.
125. Dotare T, Hayashi K, Nagasawa H, Takuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Takahashi N, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. Skin and Subcutaneous Injuries with Peroneus Nerve Paralysis Induced By Suction from a Drain in a Hot Spring. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(8): 592–594.
126. Yanagawa Y. A Case of a Penetrating Wound in the Abdominal Wall Induced By a Javelin Due To an Unusual Mechanism. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(8): 590–591.
127. Yanagawa Y, Nakajima A, Nagasawa H, Takuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Ohsaka H. Acute Renal Failure Induced By Bladder Tumor at the Trigone. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(8): 548–551.
128. Nozawa Y, Katsumata T, Tada S, Matsuo M, Yanagawa Y. The Assessment of a Rapid Response System in Shizuoka Hospital, Juntendo University. Sch. J. App. Med. Sci. 2018; 6(6): 2418–2422.
129. Sonoda K, Muramatsu K, Nagasawa H, Shindo A, Takuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Yanagawa Y. Lethal Urosepsis Due to Occlusion of an Indwelling Bladder Catheter. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(8): 532–534.
130. Fujiwara K, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H. The Migration of Air into the Aorta from an Aorto–Pulmonary Parenchymal Fistula. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(7): 446–448.
131. *Takeuchi I, Omori K, Nagasawa H, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. The Clinical Significance of Measuring the Level and Trend of Butyrylcholinesterase for Patients with Gloydius blomhoffii Bite. Sch. J. App. Med. Sci. 2018; 6(7): 2882–2888.
132. Yanagawa Y, Muramatsu K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Ishikawa K. The Distribution of Gas in a Patient with Cardiac Arrest due to Decompression Sickness Who Received Chest Compression. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(7): 468–471.
133. Ohsaka H, Nagasawa H, Takeuchi I, Kondo A, Jitsuiki K, Madokoro S, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Anorexia Nervosa with Cardiac Arrest Managed With a Multidisciplinary Approach That Included Anabolic Steroid Treatment. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(6): 412–413.
134. Yanagawa Y, Kanda A, Nagasawa H, Iwasaki E, Miyake T, Ishikawa K, Miyashita, T, Mogami A. A Medical Experiential Learning Seminar for Elementary and Junior High School Students in Shizuoka Hospital, Juntendo University. Sch. J. App. Med. Sci., Apr 2018; 6(4): 1871–1876

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

135. Ishikawa K, Fujiwara K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. A Patient with Cardiac Arrest Induced By Accidental Deep Hypothermia Who Required Percutaneous Cardiopulmonary Support. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(4): 230–232.
136. *Jitsuiki K, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. The Characteristics of Patients Who Fell Into Open Drains in Rural Japan. Sch. J. App. Med. Sci. 2018; 6(4): 1462–1466.
137. *Yanagawa Y, Onizuka M, Nozawa Y, Ohsaka H, Omori K, Ishikawa K. Introduction of A Unique Medical Co-Operative System for Decompression Sickness in Izu Peninsula. Sch. J. App. Med. Sci. 2018; 6(4): 1428–1433.
138. Kondo A, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Iso T, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A Case of Takotsubo-Like Cardiomyopathy Induced By Methomyl (Organophosphate) Poisoning. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(3): 214–217.
139. Yanagawa Y, Hasegawa N, Takahashi R, Takeuchi I, Itoi A. The Traumatic Vacuum Phenomenon at the Anterior Portion of the Spine: A Clue to Extensive Spinal Fracture. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(2): 115–117.
140. *Yanagawa Y, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H. Training Simulation in Shizuoka Prefecture Based on the Civil Protection Law. Sch. J. App. Med. Sci. 2018; 6(2): 739–741.
141. Takeuchi I, Omori K, Nagasawa H, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. Retroperitoneal Hematoma Induced by Von Recklinghausen Disease. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(2): 111–114.
142. Jitsuiki K, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. A Favorable Outcome in a Patient with Descending Mediastinitis Who Was Treated By Intensive Care Including Tracheostomy. Sch. J. Med. Case Rep. 2018; 6(1): 49–51.
143. Yanagawa Y, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Kato S, Jitsuiki K, Iso T, Yoshizawa T, Ohsaka H, Omori K. Risk Factors for the Occurrence of Traumatic Vacuum Phenomenon After Chest Compression for Patients with Cardiac Arrest. International Conference on Applied Physics, System Science and Computers. APSAC 2017: Applied Physics, System Science and Computers II pp 85–91.
144. Dotare T, Nagasawa H, Takuchi I, Madokoro S, Jitsuiki K, Takahashi N, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. Alveolar Hemorrhaging After Free Diving. Sch. J. Med. Case Rep., Oct, 2018; 6(10): 838–839.
145. Mori T, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Fujiwara K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. A Fatal Case of Kounis Syndrome Due to the Administration of Ceftriaxone. Sch. J. Med. Case Rep., Oct, 2018; 6(10): 840–842.
146. Matsuda H, Takeuchi I, Nagasawa H, Dotare T, Madokoro S, Jitsuiki K, Takahashi N, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Severe Acute Kidney Injury Induced by Near-Drowning. Sch. J. Med. Case Rep., Sept, 2018; 6(9): 717–720.
147. Ikeda K, Ohsaka H, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Fujiwara K, Kondo A, Ishikawa K, Yanagawa Y. A Case of Pulmonary Edema Induced by Hanging. Sch. J. Med. Case Rep., Sept, 2018; 6(9): 703–705.
148. Madokoro S, Nagasawa H, Dotare T, Takeuchi I, Jitsuiki K, Takahashi T, Ishikawa K, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Pulmonary Edema Induced By Seizures. Sch. J. Med. Case Rep., Sept, 2018; 6(9): 713–714.
149. *Yanagawa Y, Nagasawa H, Dotare T, Madokoro S, Jitsuiki K, Takahashi N, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- Spinal Cord Injury Induced When Playing Beach Flags. Sch. J. Med. Case Rep., Sept, 2018; 6(9): 710–712.
150. Madokoro S, Nagasawa H, Dotare T, Takeuchi I, Jitsuiki K, Takahashi N, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Sternoclavicular Pyoarthrititis with Septic Shock. Sch. J. Med. Case Rep., Sept, 2018; 6(9): 715–716.
151. *Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Sato N, Sato J, Yamanaka F. Influence of obtaining support from the medical control council when mass casualty life support is performed. Disaster Medicine and Public Health Preparedness 投稿中
152. *Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Iwamoto S, Ohshika Y. Field study in Hokkaido Prefecture after the 2018 Hokkaido Eastern Iburi Earthquake. Sch. J. App. Med. Sci., Oct, 2018; 6(10): 3961–3963
153. Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Significance of Prehospital Care Provided By a Doctor Car in Eastern Shizuoka. Sch J App Med Sci, January, 2019; 7 (1): 357–362.
154. *Yanagawa Y, Jitsuiki K, Nagasawa H, Takeuchi I, Madokoro S, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Suwa S. A Smartphone Video Transmission System for Verification of Transfusion. Air Med J. 2019 Mar – Apr;38(2):125–128
155. Omori K, Takeuchi I, Yanagawa Y. Accidental Strangulation with Cervical Nerve Root Injury Caused by the Entrapment of Clothing in a Soybean Milling Machine. Case Rep Emerg Med. 2019 Feb 5; 2019:4706278.
156. Ohsaka H, Jitsuiki K, Yanagawa Y. Delayed Sudden Respiratory Arrest After a High-energy Motorcycle Accident. Cureus December 17, 2019.
157. *Muramatsu KI, Omori K, Kushida Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Oode Y, Yanagawa Y. Convulsion Treated by a Physician-Staffed Helicopter. Air Med J. 2019 Nov – Dec;38(6):437–439.
158. Shitara J, Jitsuiki K, Yanagawa Y. Gas in coronary artery: A case of fatal decompression sickness evaluated by computed tomography. Undersea Hyperb Med. 2019 Sep – Dec – Fourth Quarter;46(5):633–634.
159. Suzuki M, Yanagawa Y, Sakamoto A, Sugiyama H, Nozawa Y. Prevalence and risk factors for post-traumatic stress disorder in Japanese relatives of out-of-hospital cardiac arrest patients after receiving a pamphlet concerning process of grief reaction. Resuscitation 2019; 142(S1): e92.
160. Yanagawa Y, Madokoro S, Matsunami T, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Takahashi N, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K. Mountain sickness with delayed signal changes in the corpus callosum on magnetic resonance imaging: a case report. J Rural Med. 2019 Nov;14(2):253–257.
161. *Yanagawa Y, Ohsaka H, Oode Y, Omori K. A case of fatal trauma evaluated using a portable X-ray system at the scene. J Rural Med. 2019 Nov;14(2):249–252. doi: 10.2185/jrm.3002. Epub 2019 Nov 20.
162. *Yanagawa Y, Nagasawa H, Takuchi I, Madokoro S, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K. An analysis of patients evacuated by a civilian physician-staffed helicopter from a military base. J Rural Med. 2019 Nov;14(2):231–235. doi: 10.2185/jrm.3012.
163. *Takeuchi I, Omori K, Nagasawa H, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. Prognostic indicators among laboratory data on arrival to assess the severity of mamushi bites. J Rural Med. 2019 Nov;14(2):222–225.
164. Yanagawa Y, Muramatsu KI, Nagasawa H, Takeuchi I, Kushida Y, Jitsuiki K, Ohsaka H, Oode Y, Omori K. An analysis of reports concerning overdose evaluated by abdominal computed tomography. Acute Med Surg. 2019 May 31;6(4):352–357.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 165.*Omori K, Yanagawa Y, Muramatsu KI, Nagasawa H, Takeuchi I, Madokoro S, Jitsuiki K, Yatsu S, Ohsaka H, Ishikawa K. Experience using a portable X-ray system at the scene transported by a physician-staffed helicopter. *Acute Med Surg.* 2019 May 23;6(4):396-399.
- 166.*Yanagawa Y, Onitsuka M, Nozawa Y, Nagasawa H, Ikuto T, Jitsuiki K, Madokoro S, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K. The Significance of a Cooperative Medical System for Treating Decompression Illness on the Izu Peninsula in Japan. *Wilderness Environ Med.* 2019 Sep;30(3):268-273.
- 167.Omori K, Yanagawa Y. A Case of Acute Myocardial Infarction in a Patient Whose Initial Complaints Were Hematemesis and Epigastric Discomfort. *Case Rep Emerg Med.* 2019 May 23; 2019:5984251
- 168.*Yanagawa Y, Oode Y, Adegawa Y, Muramatsu KI, Kushida Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K. Japanese civilian and US military interaction in the evacuation of casualties from Camp Fuji. *J R Army Med Corps.* 2019 Jun 29. pii: jramc-2019-001247.
- 169.Takeuchi I, Yanagawa Y, Nagasawa H, Jitsuiki K, Madokoro S, Takahashi N, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K. Decrease in Butyrylcholinesterase Accompanied by Intermediate-like Syndrome after Massive Ingestion of a Glyphosate-surfactant. *Intern Med.* 2019 Oct 15;58(20):3057-3059.
- 170.Muramatsu KI, Ohsaka H, Takahashi N, Yanagawa Y. Multiple Injuries Sustained When Hit by a Truck While Playing the Smartphone Game Pokemon Go. *J Emerg Trauma Shock.* 2019 Apr-Jun;12(2):165-166.
- 171.Yanagawa Y, Ohsaka H, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Omori K. An Analysis Using Modified Rapid Ultrasound for Shock and Hypotension for Patients with Endogenous Cardiac Arrest. *J Emerg Trauma Shock.* 2019 Apr-Jun;12(2):135-140.
- 172.Omori K, Muramatsu KI, Nagasawa H, Takeuchi I, Madokoro S, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. The Utility of a Portable X-ray System. *Air Med J.* 2019 May - Jun;38(3):212-214.
- 173.*Yanagawa Y, Nakamura M, Saoyama Y, Mimura S. Lessons Learned in Helicopter Operations During a Large Multiagency Disaster Prevention Drill in Japan. *Air Med J.* 2019 May - Jun;38(3):202-208.
- 174.Nagasawa H, Nakanishi H, Saito K, Matsukawa T, Yokoyama K, Yanagawa Y. Cardiac arrest induced by the intentional ingestion of boric acid and mirtazapine treated by percutaneous cardiopulmonary bypass: a case report. *J Med Case Rep.* 2019 May 16;13(1):147.
- 175.Yanagawa Y, Jitsuiki K, Nagasawa H, Takeuchi I, Madokoro S, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Suwa S. A Smartphone Video Transmission System for Verification of Transfusion. *Air Med J.* 2019 Mar - Apr;38(2):125-128.
- 176.Omori K, Takeuchi I, Yanagawa Y. Accidental Strangulation with Cervical Nerve Root Injury Caused by the Entrapment of Clothing in a Soybean Milling Machine. *Case Rep Emerg Med.* 2019 Feb 5; 2019:4706278.
- 177.Nagasawa H, Yanagawa Y. In Reply to Drs Joob and Wiwanitkit. *Wilderness Environ Med.* 2019 Mar;30(1):105.
- 178.*Kondo A, Jitsuiki K, Ohsaka H, Takeuchi I, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. Multiple Patients With Burn Injury Induced by a Chemical Explosion Managed by Physician-Staffed Helicopters. *Disaster Med Public Health Prep.* 2019 Aug;13(4):799-805.
- 179.*Nagasawa H, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Yanagawa Y. Clinical Significance of C-Reactive Protein in Patients with Trauma on Arrival. *Juntendo Med J.* 2019; 65:451-455.
- 180.*Takeuchi I, Ishikawa K, Nagasawa H, Nagasawa K, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. The Clinical Significance of C-Reactive Protein in Patients with *Gloydius blomhoffii* Bite. *Juntendo Med J.* 2019; 65:456-60.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

181. Nagasawa H, Dotare T, Takeuchi I, Jitsuiki K, Madokoro D, Takahashi N, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Repetitive Consciousness Disturbance with Hypercapnia due to Nonconvulsive Status Epilepticus in Klippel-Feil Syndrome. *Scho J Emerg Med Crit Care* 2019; 3:67-70.
182. Nagasawa H, Yanagawa Y, Kutsumi S, Muramatsu KI, Kushida Y, Takeuchi I, Ohsaka K, Jitsuiki K, Omori K, Oode Y. Subacute Lethal Bilateral Leg Time-Lag Infection by Streptococcus dysgalactiae. *Arch Clin Med Case Rep* 2019; 3 (4): 153-157.
183. Muramatsu KI, Nagasawa H, Yanagawa Y. Case report Gas with cardiac arrest due to decompression illness. *East African Scholars Journal of Anaesthesiology and Critical Care*. 2019; 1:11-2.
184. Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Madokoro S, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. The Usefulness of a Portable X-Ray System in Obtaining Chest X-Rays at the Scene. *Sch J Med Case Rep*, February, 2019; 7 (2): 162-165.
185. Takahashi N, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takuchi I, Madokoro S, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Suwa S. A Successful Outcome of Cardiac Arrest Transported by a Doctor-Helicopter. *Sch J Med Case Rep*, February, 2019; 7 (2): 121-123.
186. Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Significance of Prehospital Care Provided By a Doctor Car in Eastern Shizuoka. *Sch J App Med Sci*, January, 2019; 7 (1): 357-362.
187. Nagasawa H, Takeuchi I, Madokoro S, Jitsui K, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. Usefulness of Abdominal Computed Tomography for the Detection of Drugs in the Stomach. *Sch J Med Case Rep*, January, 2019; 7 (1): 26-27.
188. Saito K, Kaneko S, Furuya Y, Asada Y, Ito R, Sugie K, Akutsu M, Yanagawa Y. Confirmation of synthetic cannabinoids in herb and blood by HS-SPME-GC/MS. *Forensic Chemistry*.
189. Muramatsu KI, Nagasawa H, Takeuchi I, Yanagawa Y. Transient Left Hemiparesis Due to Aortic Dissection. *J Emerg Trauma Shock* in press
190. Yanagawa Y, Ishikawa K, Nagasawa H, Takuchi I, Jitsuiki K, Madokoro S, Kondo A, Ohsaka H. A case in which focal convulsion was the initial sign of fatal aortic dissection. *Aorta (Stamford)*. 2019 Oct; 7(5): 144-146
191. Kushida Y, Omori K, Muramatsu KI, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Oode Y, Ito H, Yanagawa Y. Epidemiology of a Femur Shaft Fracture in an Acute Critical Care Center in a Rural Area of Japan. *The Open Orthopaedics Journal* ISSN: 1874-3250 — Volume 14, 2020
192. Takeuchi I, Muramatsu KI, Nagasawa H, Yanagawa Y. A Case of Triphasic Anaphylaxis. *J Emerg Trauma Shock* in press
193. Omori K, Muramatsu KI, Nagasawa H, Takeuchi I, Kushida Y, Ohsaka H, Jitsuiki K, Oode Y, Yanagawa Y. Experience of the Usage of a Portable X-ray System. *Air Med J* in press
194. Yanagawa Y. Preparedness, including preparation of a physician-staffed helicopter, for the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games in Shizuoka Prefecture. *Juntendo Med J* in press
195. Yanagawa Y, Muramatsu KI, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K, Oode Y. Training drill for a terrorist attack on a train and railway station. *EMS World* in press
196. Yanagawa Yoshiko, Yanagawa Y, Muramatsu KI, Nagasawa H, Takeuchi I. Three Cases of Corneal Injury after Diving. *International Journal of Advances in Science, Engineering and Technology* in press
197. Nagasawa H, Yanagawa Y. An Analysis of Patients with Carbon Monoxide Poisoning Transported by a

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

Physician-Staffed Helicopter. Academic Journal of Life Sciences, Academic Research Publishing Group, vol. 5(7), pages 43-47, 07-2019. ISSN(e): 2415-2137, ISSN(p): 2415-5217.

- 198.*Yanagawa Y. Japanese responders train for railway attack. EMS World 2019; Special supplement (MCI training and response): S6-S7.
https://www.emsworld.com/sites/emsworld.com/files/2019-09/MCI_Supplement_0919-r5.pdf
- 199.Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yanagawa Y. Transient Hemi-paresthesia after Eating Puffer Fish (Fugu): A Case Report. Cureus. 2019;11(12): e6507.
- 200.*Jitsuiki K, Ohsaka H, Shitara J, Ishibashi, Megumi M, Suzuki M, Nozawa Y, Yanagawa Y. Reaction of Juntendo Shizuoka Hospital at Izu Peninsula to Typhoon Hagibis (2019) and an analysis of Twitter® concerning Izunokuni City. Disaster Med Public Health Prep. 投稿中
- 201.*Suzuki M, Yanagawa Y, Sakamoto A, Sugiyama H, Nozawa Y. Prevalence and risk factors for post-traumatic stress disorder in Japanese relatives of out-of-hospital cardiac arrest patients after receiving a pamphlet concerning process of grief reaction. Acute Med Surg 投稿中

小池道明

- 202.Watanabe N, Koike M, Kitahara H, Iwao N, Ohta Y, Komatsu N. Retroperitoneal relapse in an elderly patient with multiple myeloma during pomalidomide and dexamethasone treatment. Geriatrics & Gerontology International 2018; 18; 977-979
- 203.Morschhauser F, Fowler NH, Feugier P, Bouabdallah R, Tilly H, Palomba ML, Fruchart C, Libby EN, Casasnovas RO, Flinn IW, Haioun C, Maisonneuve H, Ysebaert L, Bartlett NL, Bouabdallah K, Brice P, Ribrag V, Daguindau N, Le Gouill S, Pica GM, Martin Garcia-Sancho A, López-Guillermo A, Larouche JF, Ando K, Gomes da Silva M, André M, Zachée P, Sehn LH, Tobinai K, Cartron G, Liu D, Wang J, Xerri L, Salles GA. (collaborator:Koike M) Rituximab plus Lenalidomide in Advanced Untreated Follicular Lymphoma. RELEVANCE Trial Investigators. N Engl J Med. 2018 ;379 :934-947.
- 204.Watanabe N, Takaku T, Takeda K, Shirane S, Toyota T, Koike M, Noguchi M, Hirano T, Fujiwara H, Komatsu N. Dasatinib-induced anti-leukemia cellular immunity through a novel subset of CD57 positive helper/cytotoxic CD4 T cells in chronic myelogenous leukemia patients. Int J Hematol. 2018 ;108; 588-597.
- 205.Kanakura Y, Shirasugi Y, Yamaguchi H, Koike M, Chou T, Okamoto S, Achenbach H, Wu J, Nakaseko C. A phase 3b, multicenter, open-label extension study of the long-term safety of anagrelide in Japanese adults with essential thrombocythemia. Int J Hematol. 2018 ;108; 491-498.
- 206.Takaku T, Iriyama N, Mitsumori T, Sato E, Gotoh A, Kirito K, Noguchi M, Koike M, Sakamoto J, Oba K, Komatsu N. Clinical Efficacy and Safety of First-Line Dasatinib Therapy and the Relevance of Velocity of BCR-ABL1 Transcript Decline for Achievement of Molecular Responses in Newly Diagnosed Chronic-Phase Chronic Myeloid Leukemia: Report from the Juntendo Yamanashi Oncology. 2018; 94; 85-91.

岩神真一郎

- 207.Sekiya M, Yoshimi K, Muraki K, Iwakami S, Togo S, Tamaki S, Dambara T, Takahashi K. Do the respiratory co-morbidities limit the diagnostic usefulness of ultrasound-guided needle aspiration for subpleural lesions? Respiratory Investigation, 2015-05-01, Volume 53, Issue 3, Pages 98-103
- 208.Iwakami S, Fujii M, Tsutsumi T, Sekimoto Y, Jo H, Hara M, Iwakami N, Takahashi K. Autoimmune pulmonary alveolar proteinosis with primary lung cancer in a patient of very advanced years. Geriatr Gerontol Int. 15: 666-667, 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

209. Ishikawa K, Fujii M, Omori K, Iwakami S, Yanagawa Y. Chest pain due to bowel adhesion accompanying diaphragmatic eventration. *Sch J Med Case Rep* 3: 88–91, 2015 (No.9 と同じ)
210. Sasaki S, Yoshioka Y, Ko R, Katsura Y, Namba Y, Shukuya T, Kido K, Iwakami S, Tominaga S and Takahashi K. Diagnostic significance of cerebrospinal fluid EGFR mutation analysis for leptomeningeal metastasis in non-small-cell lung cancer patients harboring an active EGFR mutation following gefitinib therapy failure. *Respiratory Investigation* 54: 14–19, 2016
211. Hara M, Iwakami S, Matsumoto N, Miyawaki T, Wada R, Takahashi K. Carcinomatous pleuritis and pericarditis accompanied by pulmonary tuberculosis. *Respirology Case Reports*, 4 (6), 2016, e00202 doi: 10.1002/rcr2.202
212. Yoshikawa H, Fujii M, Iwakami S, Takeda I, Hayakawa D, Takahashi K. Chylothorax ascribed to chronic heart failure in a woman of very advanced years. *Geriatr Gerontol Int.* 17: 1133–1135, 2017
213. Hara M, Iwakami S, Sasaki S, Fujii M, Takahashi K. A retrospective analysis of prognostic factors of nursing and healthcare-associated pneumonia. *Juntendo Medical Journal* 63: 354–361, 2017
214. Iwakami N, Iwakami S, Hara M, Sekiya M, Dambara T, Takahashi K. The diagnostic yield using ultrasound-guided needle-aspiration for subpleural primary lung cancer is not affected by the radiological properties of the lesions resulting from computed tomography. *Respiratory Investigation*, 2018; 56: 238–242
215. Yamada T, Iwakami S, Abe S, Hara M, Iwakami N, Nakamura A, Suzuki Y, Sasaki S, Takahashi K. Disseminated nontuberculous mycobacterial infection caused by anti-interferon- γ autoantibodies in a patient of very advanced years. *Geriatr Gerontol Int.*, 2018; 18:1132–1133
216. Hara M, Iwakami S, Sumiyoshi I, Yoshida T, Sasaki S, Takahashi K. Hydrocarbon pneumonitis caused by the inhalation of wood preservation. *Respirology Case Reports* 2018 Oct 26;6(9): e00379. doi: 10.1002/rcr2.379. eCollection 2018 Dec.
217. Liu Z, Shiota S, Morio Y, Sugiyama A, Sekiya M, Iwakami S, Ienaga H, Fukuchi Y, Takahash K. Borderline pulmonary hypertension associated with chronic hypercapnia in chronic pulmonary disease. *Respiratory Physiology & Neurobiology*, 262: 20–25, 2019
218. Kurokawa K, Hara M, Iwakami S, Genda T, Iwakami N, Miyashita Y, Fujioka M, Sasaki S, Takahashi K. Cholestatic liver injury induced by pembrolizumab in a patient with lung adenocarcinoma. *Internal Medicine*, 58: 3283–3287, 2019

田中利隆

219. Sukegawa S, Yamamoto Y, Sato K, Tanaka S, Tanaka T, Mitsuhashi N. Ultrasound evaluation of fetal critical aortic stenosis using the left atrium area/cardiac area ratio and the doppler patterns in the pulmonary veins. *J Med Ultrason.* 46: 267–272, 2019

山本拓史

220. Yanagawa Y, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ishikawa K, Omori K, Nakao Y, Yamamoto T. Hemiparesis due to subarachnoid hemorrhage. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(5):320–321 (No.31 と同じ)
221. Ishikawa K, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Nakao Y, Yamamoto T, Yanagawa Y. A comparison between evacuation from the scene and interhospital transportation using a helicopter for subarachnoid hemorrhage. *Am J Emerg Med.* 2016 Dec 10. pii: S0735–6757(16)30906–8. (No.49 と同じ)
222. Mori K, Wada K, Otani N, Tomiyama A, Toyooka T, Fujii K, Kumagai K, Takeuchi S, Tomura S, Yamamoto T, Nakao Y, Arai H. Validation of effectiveness of keyhole clipping in nonfrail elderly patients with unruptured

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- intracranial aneurysms. J Neurosurg, 2017. 127(6): p. 1307–1314.
223. Noda K, Hattori N, Okuma Y, Yamamoto T. Chronic subdural haematoma presenting as freezing of gait. BMJ Case Rep, 2017. 2017.
224. Otani N, Toyooka T, Fujii K, Kumagai K, Takeuchi S, Tomiyama A, Nakao Y, Yamamoto T, Wada K, Mori K. “Birdlime” technique using TachoSil tissue sealing sheet soaked with fibrin glue for sutureless vessel transposition in microvascular decompression: operative technique and nuances. J Neurosurg, 2017: p. 1–8.
225. Teramoto S, Yamamoto T, Nakao Y, Watanabe M. Novel Anatomic Classification of Spontaneous Thalamic Hemorrhage Classified by Vascular Territory of Thalamus. World Neurosurg, 2017. 104: p. 452–458.
226. Toyooka T, Otani N, Wada K, Tomiyama A, Ueno H, Fujii K, Yamamoto T, Nakao Y, Mori K. Effect of Fibrin Glue Injection Into the Cavernous Sinus for Hemostasis During Transcavernous Surgery on the Cerebral Venous Draining System. Oper Neurosurg (Hagerstown), 2017. 13(2): p. 224–231.
227. Otani N, Toyooka T, Fujii K, Kumagai K, Takeuchi S, Tomiyama A, Nakao Y, Yamamoto T, Wada K, Mori K. “Birdlime” technique using tachosil tissue sealing sheet soaked with fibrin glue for sutureless vessel transposition in microvascular decompression: Operative technique and nuances. Journal of neurosurgery, 2018; 128: 1522–1529
228. Mori K, Wada K, Otani N, Tomiyama A, Toyooka T, Tomura S, Takeuchi S, Yamamoto T, Nakao Y, Arai H. Long-term neurological and radiological results of consecutive 63 unruptured anterior communicating artery aneurysms clipped via lateral supraorbital keyhole minicraniotomy. Operative neurosurgery (Hagerstown, Md.). 2018; 14: 95–103
229. Toyooka T, Wada K, Otani N, Tomiyama A, Takeuchi S, Tomura S, Nishida S, Ueno H, Nakao Y, Yamamoto T, Mori K. Potential Risks and Limited Indications of the Supraorbital Keyhole Approach for clipping Internal Carotid Artery Aneurysms. World Neurosurgery X., 2019; [in press]
230. Otani N, Mori K, Wada K, Tomiyama A, Toyooka T, Takeuchi S, Nakao Y, Yamamoto T, Arai H. Limited Indications for Clipping Surgery of Paraclinoid Aneurysm Based on Long-Term Visual Morbidity. World Neurosurgery., 2019; [in press]

楠威志

231. Kusunoki T A simple voice training method for vocal fold polyps that emphasizes abdominal respiration. J Otol Rhinol 2018, 7;6
232. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Hara S, Oba A, Wada R, Ikeda K. A large vocal fold polyp causing dyspnea. J Otol Rhinol 2018, 7;5
233. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Sonoda K, Saikawa Y, Wada R, Ikeda K. Tracheal stenosis due to an abscess from thyroid tumor. J Oto Rhinol 2019,8;2

大林治、最上敦彦、神田章男、諸橋達

234. Kanda A, Kaneko K, Obayashi O, Mogami A A 42-year-old patient presenting with femoral head migration after hemiarthroplasty performed 22 years earlier: a case report. J. Medical Case Reports 2015, 9:17 doi:10.1186/1752-1947-9-17.
235. Baba T, Honma Y, Momomura R, Kobayashi H, Matsumoto M, Futamura K, Mogami A, Kanda A, Morohashi I, Kaneko K. New classification focusing on implant designs useful for setting therapeutic strategy for periprosthetic femoral fracture. Int. Orthop. 39, 1–5, 2015.
236. Naito K, Sugiyama Y, Obata H, Aritomi K, Kaneko K, Obayashi O. Distal radius fracture after proximal row carpectomy. Int. J Surg Case Rep. 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 237.Han C, Naito K, Sugiyama Y, Obayashi O, Kaneko K. Bony mallet finger without epiphyseal palte injury in childhood. *Int J Surg case rep.*2015;14:172-174
- 238.Naito K, Sugiyama Y, Igeta Y, Kaneko K, Obayashi O. Thorough debridement and immed primary wound closure for mnimal bite injurys of the upper limbs. *Eur J Trmuma Emerg Surg* 2015
- 239.Naito K, Sugiyama Y, Igeta Y, Kaneko K, Obayashi O. Thorough debridement and immediate primary wound closure for animal bite injurys of the upper limbs. *Eur J Trauma Emerg Surg* 42:213-217, 2016.
- 240.Naito K, Sugiyama Y, Aritomi K, Nagahama Y, Tomita Y, Obayashi O, Kaneko K. Assessment of dorsal instability of the ulnar head in the distal radioulnar joint: comparison between normal wrist joints and cases of ruptured extensor tendons. *Eur J Orthop Surg Traumatol* 26(2): 161-166, 2016.
- 241.Sugiyama Y, Naito K, Obata H, Kinoshita M, Aritomi K, Kaneko K, Obayashi O. Devising for a distal radius fracture fixation focus on the intra-articular volar dislocated fragment. *Ann Med Surg (Lond)*. Apr 14;8: 1-5, 2016.
- 242.Futamura K, Baba T, Homma Y, Mogami A, Kanda A, Obayashi O, Sato K, Ueda Y, Kurata Y, Tsuji H, Kaneko K. New classification focusing on the relationship between the attachment of the iliofemoral ligament and the course of the fracture line for intertrochanteric fractures. *Injury* 47(8): 1685-1691, 2016.
- 243.Obayashi O, Obata H, Naito K, Kanda A, Itoi A, Morohashi I, Mogami A, Kaneko K. Recurrence of acute myelogenous leukemia with granulocytic sarcoma-associated tarsal tunnel syndrome in an elderly patient. *Journal of Orthopaedic Science*. 23-3, 596-599, 2018. Online publication date: 1-Jul-2016
- 244.Morohashi I, Iwase H, Kanda A, Sato T, Homma Y, Mogami A, Obayashi O, Kaneko K. Acoustic pattern evaluation during cementless hip arthroplasty surgery may be a new method for predicting complications. *SICOT J*. 2017; 3:13. doi: 10.1051/sicotj/2016049. Epub 2017 Feb 13. PMID:28186872
- 245.Kanda A, Kaneko K, Obayashi O, Mogami A, Morohashi I. Treatment of postoperative sciatic nerve palsy after total hip arthroplasty for postoperative acetabular fracture: A case report. *Ann Med Surg (Lond)*. 2016 Sep 10; 11:39-41. doi: 10.1016/j.amsu.2016.08.017. eCollection 2016 Nov. PMID:27672438
- 246.Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Oode Y, Sakurada M, Mogami A, Yanagawa Y. A system of delivering medical staff members by helicopter to manage severely wounded patients in an area where medical resources are limited. *Acute Med & Surg* 2016 Aug 5;4(1):89-92. (No.30 と同じ)
- 247.Maeda H, Iwase H, Kanda A, Morohashi I, Kaneko K, Maeda M, Kakinuma Y, Takei Y, Amemiya S, Mitsui K. A study of the blood flow restriction pressure of a tourniquet system to facilitate development of a system that can prevent musculoskeletal complications. *Am J Disaster Med*. 2017 Summer;12(3):139-145. doi: 10.5055/ajdm.2017.0267.
- 248.Futamura K, Baba T, Mogami A, Morohashi I, Kanda A, Obayashi O, Sato K, Ueda Y, Kurata Y, Tsuji H, Kaneko K. Malreduction of syndesmosis injury associated with malleolar ankle fracture can be avoided using Weber's three indexes in the mortise view. *Injury*. 2017 Apr;48(4):954-959. doi: 10.1016/j.injury.2017.02.004. Epub 2017 Feb 14. PMID:28219637
- 249.Futamura K, Baba T, Mogami A, Morohashi I, Obayashi O, Iwase H, Kaneko K. A biomechanical study of sacroiliac rod fixation for unstable pelvic ring injuries: verification of the "within ring" concept. *Intermnational Orthopaedics*. 2017 Dec 15. doi: 10.1007/s00264-017-3713-x. [Epub ahead of print]
- 250.Komatsu J, Nagura N, Iwase H, Igarashi M, Obayashi O, Nagaoka I, Kaneko K. Effect of intermittent administration of teriparatide on the mechanical and histological changes in bone grafted with β -tricalcium phosphate using a rabbit bone defect model. *Experimental and Therapeutic Medicine* 15, 19-30, 2018.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

Doi: 10.3892/etm.2017.5424

251. Omori K, Ohsaka H, Iso T, Kato S, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Kanda A, Yanagawa Y. A case of sudden death due to aortic dissection in a 13-year-old patient. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):630–634 (No.85 と同じ)
252. Jitsuiki K, Yanagawa Y, Takahashi R, Itoi A, Matsunami T, Takeuchi I, Kondo A, Mogami A. The Successful Treatment of a Patient with Multiple Injuries, Including Unstable Thoracic Cage and Pelvic Fracture. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):648–651. (No.88 と同じ)
253. Komatsu J, Mogami A, Iwase H, Obayashi O, Kaneko K. A complete posterior tibial stress fracture that occurred during a middle-distance running race: a case report. *Archives of Orthopaedic and Trauma Surgery*, First Online: 07 September 2018.
254. Yanagawa Y, Kanda A, Nagasawa H, Iwasaki E, Miyake T, Ishikawa K, Miyashita T, Mogami A. A Medical Experiential Learning Seminar for Elementary and Junior High School Students in Shizuoka Hospital, Juntendo University. *Sch. J. App. Med. Sci.*, Apr 2018; 6(4): 1871–1876. (No.134 と同じ)

諏訪哲

255. Watanabe H, Morimoto T, Natsuaki M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Yamaji K, Ando K, Shizuta S, Shiomi H, Tada T, Tazaki J, Kato Y, Hayano M, Abe M, Tamura T, Shirohani M, Miki S, Matsuda M, Takahashi M, Ishii K, Tanaka M, Aoyama T, Doi O, Hattori R, Kato M, Suwa S, Takizawa A, Takatsu Y, Shinoda E, Eizawa H, Takeda T, Lee JD, Inoko M, Ogawa H, Hamasaki S, Horie M, Nohara R, Kambara H, Fujiwara H, Mitsudo K, Nobuyoshi M, Kita T, Kastrati A, Kimura T. CREDO–Kyoto PCI/CABG registry cohort–2 investigators. Antiplatelet therapy discontinuation and the risk of serious cardiovascular events after coronary stenting: observations from the CREDO–Kyoto Registry Cohort–2. *PLoS One*. 2015 Apr 8;10(4): e0124314. doi: 10.1371/journal.pone.0124314. eCollection 2015.
256. Watanabe H, Shiomi H, Nakatsuma K, Morimoto T, Taniguchi T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T. CREDO-Kyoto AMI investigators, Kimura T, Sakata R, Marui A, Matsuda M, Mitsuoka H, Onoe M, Nakagawa Y, Yamanaka K, Fujiwara H, Takatsu Y, Ohno N, Nohara R, Murakami T, Takeda T, Nobuyoshi M, Iwabuchi M, Hanyu M, Tatami R, Matsushita T, Shirohani M, Nishiwaki N, Kita T, Furukawa Y, Okada Y, Kato H, Eizawa H, Is K, Tanaka M, Nakayama S, Lee JD, Nakano A, Koshiji T, Morioka K, Takizawa A, Shimamoto M, Yamazaki F, Takahashi M, Nishizawa J, Horie M, Takashima H, Tamura T, Aota M, Takahashi M, Tabata T, Tei C, Hamasaki S, Imoto Y, Yamamoto H, Kambara H, Doi O, Matsuda K, Nara M, Mitsudo K, Kadota K, Komiya T, Miki S, Mizoguchi T, Nakajima H, Ogawa H, Sugiyama S, Kawasuji M, Moriyama S, Hattori R, Aoyama T, Araki M, Suwa S, Tanbara K, Kitagawa K, Yamauchi M, Okamoto N, Fujino Y, Tezuka S, Saeki A, Hanazawa M, Sato Y, Hibi C, Sasae H, Takinami E, Uchida Y, Yamamoto Y, Nishida S, Yoshimoto M, Maeda S, Miki I, Minematsu S, Abe M, Shiomi H, Tada T, Tazaki J, Kato Y, Hayano M, Tokushige A, Natsuaki M, Nakajima T. Clinical efficacy of thrombus aspiration on 5-year clinical outcomes in patients with ST-segment elevation acute myocardial infarction undergoing percutaneous coronary intervention. *J Am Heart Assoc*. 2015 Jun 15;4(6): e001962
257. Ishihara M, Fujino M, Ogawa H, Yasuda S, Noguchi T, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Tsujita K, Nishimura K, Miyamoto Y, J-MINUET investigators. CORRIGENDUM: Clinical Presentation, Management and Outcome of Japanese Patients With Acute Myocardial Infarction in the Troponin Era—Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET). *Circ J*. 2015;79(7):1643.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

258. Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Konishi H, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Suwa S, Daida H. Impact of Combined C-Reactive Protein and High-Density Lipoprotein Cholesterol Levels on Long-Term Outcomes in Patients With Coronary Artery Disease After a First Percutaneous Coronary Intervention. *Am J Cardiol.* 2015 Oct 1; 116(7):999-1002.
259. Yamaji K, Shiomi H, Morimoto T, Toyota T, Ono K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Shirai S, Kato M, Takatsu Y, Doi O, Kambara H, Suwa S, Onodera T, Watanabe H, Natsuaki M, Kimura T. Influence of Sex on Long-Term Outcomes After Implantation of Bare-Metal Stent: A Multicenter Report From the Coronary Revascularization Demonstrating Outcome Study-Kyoto (CREDO-Kyoto) Registry Cohort-1. *Circulation.* 2015 Dec 15; 132(24):2323-33.
260. Yanagawa Y, Oode Y, Kunimoto M, Kubota N, Ohsaka H, Obinata M, Mishima K, Omori K, Ishikawa K, Suwa S. A case of Kounis syndrome induced by food allergies. *Sch J Med Case Rep* 2015;3(9A):834-837. (No.12 と同じ)
261. Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Yanagisawa N, Shimada K, Suwa S, Jiang M, Bujo H, Daida H. Prognostic impact of circulating soluble LR11 on long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease. *Atherosclerosis.* 2016 Jan; 244:216-21.
262. Nakamura M, Muramatsu T, Yokoi H, Okada H, Ochiai M, Suwa S, Hozawa H, Kawai K, Awata M, Mukawa H, Fujita H, Shiode N, Asano R, Tsukamoto Y, Yamada T, Yasumura Y, Ohira H, Miyamoto A, Takashima H, Ogawa T, Ito S, Matsuyama Y, Nanto S, J-DESsERT Investigators. Three-year follow-up outcomes of SES and PES in a randomized controlled study stratified by the presence of diabetes mellitus: J-DEsERT trial. *Int J Cardiol.* 2016 Apr 1; 208:4-12.
263. Nakatsuma K, Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Yamamoto T, Suwa S, Horie M, Kimura T, CREDO-Kyoto AMI investigators. Inter-Facility Transfer vs. Direct Admission of Patients With ST-Segment Elevation Acute Myocardial Infarction Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J.* 2016 Jul 25;80(8):1764-72.
264. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Konishi H, Shitara J, Kunimoto M, Sonoda T, Iso T, Ebina H, Aoki E, Kitamura K, Tamura H, Suwa S, Daida H. Contemporary sex differences among patients with acute coronary syndrome treated by emergency percutaneous coronary intervention. *Cardiovasc Interv Ther.* 2016 Aug 8.
265. Onda T, Inoue K, Suwa S, Nishizaki Y, Kasai T, Kimura Y, Fukuda K, Okai I, Fujiwara Y, Matsuoka J, Sumiyoshi M, Daida H. Reevaluation of cardiac risk scores and multiple biomarkers for the prediction of first major cardiovascular events and death in the drug-eluting stent era. *Int J Cardiol.* 2016 Sep 15; 219:180-5. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.06.014.
266. Iijima R, Nakamura M, Matsuyama Y, Muramatsu T, Yokoi H, Hara H, Okada H, Ochiai M, Suwa S, Hozawa H, Kawai K, Awata M, Mukawa H, Fujita H, Nanto S, J-DESsERT. Effect of Optimal Medical Therapy Before Procedures on Outcomes in Coronary Patients Treated With Drug-Eluting Stents. *Am J Cardiol.* 2016 Sep 15;118(6):790-6. doi: 10.1016/j.amjcard.2016.06.050.
267. Natsuaki M, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Shiomi H, Toyota T, Watanabe H, Ono K, Shizuta S, Tamura T, Inoko M, Inada T, Shirotani M, Matsuda M, Aoyama T, Onodera T, Suwa S, Takeda T, Inoue K, Kimura T, CREDO-Kyoto. PCI/CABG registry cohort-2 investigators.: Short versus prolonged dual antiplatelet therapy duration after bare-metal stent implantation: 2-month landmark analysis from the CREDO-Kyoto registry cohort-2. *Cardiovasc Interv Ther.* 2016 Sep 19.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

268. Fujino M, Ishihara M, Ogawa H, Nakao K, Yasuda S, Noguchi T, Ozaki Y, Kimura K, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Ako J, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, J-MINUET Investigators. Impact of symptom presentation on in-hospital outcomes in patients with acute myocardial infarction. *J Cardiol*. 2016 Nov 14. pii: S0914-5087(16)30240-4. doi: 10.1016/j.jjcc.2016.10.002.
269. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Suwa S, Yamano M, Daida H. Case report: Fulminant myocarditis associated with overwhelming pneumococcal infection. *Int J Cardiol*. 2016 Nov 15; 223:706-707. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.08.282.
270. Konishi H, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Impact of Lipoprotein(a) on Long-term Outcomes in Patients with Diabetes Mellitus Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention. *Am J Cardiol*. 2016 Dec 15;118(12):1781-1785. doi: 10.1016/j.amjcard.2016.08.067.
271. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H. Preprocedural High-Sensitivity C-Reactive Protein Predicts Long-Term Outcome of Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J*. 2016 Dec 22;81(1):90-95. doi: 10.1253/circj. CJ-16-0790.
272. Ohsaka H, Yoshizawa T, Ishikawa K, Jitsuiki K, Suwa S, Saito S, Tambara K, Yanagawa Y. A satisfactory recovery after emergency pericardiocentesis in type an acute aortic dissection with cardiac arrest. *Sch J Med Case Rep*, April 2016; 4(4):200-202. (No.23 と同じ)
273. Kuramitsu S, Miyauchi K, Yokoi H, Suwa S, Nishizaki Y, Yokoyama T, Nojiri S, Iwabuchi M, Shirai S, Ando K, Okazaki S, Tamura H, Watada H, Daida H. Effect of sitagliptin on plaque changes in coronary artery following acute coronary syndrome in diabetic patients: The ESPECIAL-ACS study. *J Cardiol*. 2017 Jan;69(1):369-376. doi: 10.1016/j.jjcc.2016.08.011.
274. Kuji S, Kosuge M, Kimura K, Nakao K, Ozaki Y, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M; J-MINUET Investigators. Impact of Acute Kidney Injury on In-Hospital Outcomes of Patients With Acute Myocardial Infarction - Results From the Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET) Substudy. *Circ J*. 2017 Feb 9. doi: 10.1253/circj. CJ-16-1094.
275. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Impact of serum albumin levels on long-term outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention. *Heart Vessels*. 2017 Apr 20
276. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Independent and Combined Effects of Serum Albumin and C-Reactive Protein on Long-Term Outcomes of Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J*. 2017 Aug 25;81(9):1293-1300
277. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Prognostic Impact of the Geriatric Nutritional Risk Index on Long-Term Outcomes in Patients Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention. *Am J Cardiol*. 2017 Jun 1;119(11):1740-1745
278. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Pre-procedural neutrophil-to-lymphocyte ratio and long-term

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- cardiac outcomes after percutaneous coronary intervention for stable coronary artery disease. *Atherosclerosis*. 2017 Oct; 265:35–40
279. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Prognostic impact of nutritional status assessed by the Controlling Nutritional Status score in patients with stable coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention. *Clin Res Cardiol*. 2017 Nov;106(11):875–883
280. Suwa S, Ogita M, Miyauchi K, Sonoda T, Konishi H, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Daida H. Impact of Lipoprotein (a) on Long-Term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin After a First Percutaneous Coronary Intervention. *J Atheroscler Thromb*. 2017 Nov 1;24(11):1125–1131
281. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Konishi H, Shitara J, Kunimoto M, Sonoda T, Iso T, Ebina H, Aoki E, Kitamura K, Tamura H, Suwa S, Daida H. Contemporary sex differences among patients with acute coronary syndrome treated by emergency percutaneous coronary intervention. *Cardiovasc Interv Ther*. 2017 Oct;32(4):333–340
282. Ohsaka H, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Isoda K, Suwa S, Yanagawa Y. Acute Coronary Syndrome Evacuated by a Helicopter From the Scene. *Air Medical Journal*, 2017; 36: 179–181 (No.73 と同じ)
283. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H. Preprocedural High-Sensitivity C-Reactive Protein Predicts Long-Term Outcome of Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J*, 2017; 81:90–95
284. Fujino M, Ishihara M, Ogawa H, Nakao K, Yasuda S, Noguchi T, Ozaki Y, Kimura K, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Ako J, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, J-MINUET Investigators. Impact of symptom presentation on in-hospital outcomes in patients with acute myocardial infarction. *J Cardiol*. 2017; 70:29–34
285. Kuji S, Kosuge M, Kimura K, Nakao K, Ozaki Y, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M, J-MINUET Investigators. Impact of acute kidney injury on in-hospital outcomes of patients with acute myocardial infarction—Results from the J-MINUET substudy. *Circ J*. 2017; 81:733–739
286. Ishihara M, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Fujino M, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Tobaru T, Oshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, J-MINUET Investigators. Long-term outcomes of non-ST-elevation myocardial infarction without creatine kinase elevation—The J-MINUET study. *Cir J*. 2017; 81:958–965
287. Ogita M, Suwa S, Ebina H, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Hokimoto S, Funayama H, Kokubo N, Kozuma K, Uemura S, Tobaru T, Saku K, Oshima S, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M, J-MINUET investigators. Off-hours presentation does not affect in-hospital mortality of Japanese patients with acute myocardial infarction: J-MINUET substudy. *J Cardiol*. 2017; 70:553–558
288. Nishida K, Nakatsuma K, Shiomi H, Natsuaki M, Kawai K, Morimoto T, Kozuma K, Igarashi K, Kadota K, Tanabe K, Morino Y, Hibi K, Akasaka T, Abe M, Suwa S, Muramatsu T, Kobayashi M, Dai K, Nakao K, Tarutani

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- Y, Fujii K, Kimura T, RESET and NEXT investigators. Second-Generation vs. First-Generation Drug-Eluting Stents in Patients With Calcified Coronary Lesions — Pooled Analysis From the RESET and NEXT Trials — *Circ J*. 2017
289. Shiozaki M, Inoue K, Suwa S, Lee CC, Chikata Y, Ishiura J, Kimura Y, Fukuda K, Tamura H, Fujiwara Y, Sumiyoshi M, Daida H. Utility of the 0-hour/1-hour high-sensitivity cardiac troponin T algorithm in Asian patients with suspected non-ST elevation myocardial infarction. *Int J Cardiol*. 2017; 249:32–35
290. Hashimoto T, Ako J, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubo N, Kozuma K, Uemura S, Tobaru T, Saku K, Oshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M, J-MINUET investigators. A low eicosapentaenoic acid/arachidonic acid ratio is associated with in-hospital fatal arrhythmic events in patients with acute myocardial infarction: a J-MINUET substudy. *Heart Vessels*. 2017 [Epub ahead of print]
291. Fujiwara K, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Suwa S. Tetanus diagnosed by clinical symptoms based on its current status in Japan. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(11):783–785. (No.97 と同じ)
292. Watanabe H, Ozasa N, Morimoto T, Shiomi H, Bingyuan B, Suwa S, Nakagawa Y, Izumi C, Kadota K, Ikeguchi S, Hibi K, Furukawa Y, Kaiji S, Suzuki T, Akao M, Inada T, Hayashi Y, Nanasato M, Okutsu M, Kametani R, Sone T, Sugimura Y, Kawai K, Abe M, Kaneko H, Nakamura S, Kimura T. Long-term use of carvedilol in patients with ST-segment elevation myocardial infarction treated with primary percutaneous coronary intervention. *PLoS One*. 2018 Aug 28;13(8): e0199347.
293. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Long-term clinical impact of serum albumin in coronary artery disease patients with preserved renal function. *Nutr Metab Cardiovasc Dis*. 2018 Mar;28(3):285–290
294. Iso T, Yanagawa Y, Takeuchi I, Suwa S. Concomitance Acute Cerebral Infarction and Remote Intra-Cerebral Hemorrhaging on Arrival. *J Emerg Trauma Shock*. 2018 Apr–Jun;11(2):149–150 (No.116 と同じ)
295. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Jun S, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Relationship between the prognostic nutritional index and long-term clinical outcomes in patients with stable coronary artery disease. *J Cardiol*. 2018 Aug;72(2):155–161
296. Hashimoto T, Ako J, Nakano K, Ozaki Y, Kimura K, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirota K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujuta K, Funayama H, Kokubo N, Kozuma K, Uemura S, Tobaru T, Saku K, Oshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M. Pre-Procedural Thrombolysis in Myocardial Infarction Flow in Patients with ST-Segment Elevation Myocardial Infarction. *Int Heart J*. 2018 Sep 26
297. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Tsuboi S, Ogita M, Iwata H, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Mean platelet volume and long-term cardiovascular outcomes in patients with stable coronary artery disease. *Atherosclerosis*. 2018 Oct;277:108–112
298. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Endo H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Combined effect of nutritional status on long-term outcomes in patients with coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention. *Heart Vessels*. 2018 Dec.;33(12):1445–1452
299. Shitara J, Ogita M, Wada H, Tsuboi S, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- Suwa S, Miyauchi K, Daida H. Clinical impact of high-sensitivity C-reactive protein during follow-up on long-term adverse clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention. *J Cardiol.* 2019 Jan;73(1):45-50. doi: 10.1016/j.jjcc.2018.06.002. Epub 2018 Jul 9.
300. Ogita M, Suwa S, Sonoda T, Tsuboi S, Miyauchi K, Daida H. Successful Rotational Atherectomy for an Angulated Calcified Lesion in an Anomalous Right Coronary Artery Using the "Mother-and-child" Technique. *Case Rep Cardiol.* 2018 Jan 14;2018:5927161
301. Shitara J, Ogita M, Wada H, Tsuboi S, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Miyauchi K, Daida H. Clinical impact of high-sensitivity C-reactive protein during follow-up on long-term adverse clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention *J Cardiol.* 2019 Jan;73(1):45-50
302. Watanabe H, Domei T, Morimoto T, Natsuaki M, Shiomi H, Toyota T, Ohya M, Suwa S, Takagi K, Nanasato M, Hata Y, Yagi M, Suematsu N, Yokomatsu Y, Takamisawa I, Doi M, Noda T, Okayama H, Seino Y, Tada T, Sakamoto H, Hibi K, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Hanaoka KI, Morino Y, Kozuma K, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura K. Effect of 1-month dual antiplatelet therapy followed by clopidogrel vs 12-month dual antiplatelet therapy on cardiovascular and bleeding events in patients receiving PCI: The STOP DAPT-2 randomized clinical trial *JAMA.* 2019 Jun 25;321(24):2414-2427
303. Matsumura-Nakano Y, Shizuta S, Komasa A, Morimoto T, Masuda H, Shiomi H, Goto K, Nakai K, Ogawa H, Kobori A, Kono Y, Kaitani K, Suwa S, Aoyama T, Takahashi M, Sasaki Y, Onishi Y, Mano T, Matsuda M, Motooka M, Tomita H, Inoko M, Wakeyama T, Hagiwara N, Tanabe K, Akao M, Miyaiuchi K, Yajima J, Hanaoka K, Morino Y, Ando K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Nakao K, Kozuma K, Kadota K, Kimura K, Kawai K, Ueno T, Okumura K and Kimura K. An Open-Label Randomized Trial Comparing Oral Anticoagulation with and without Single Antiplatelet Therapy in Patients with Atrial Fibrillation and Stable Coronary Artery Disease Beyond One Year after Coronary Stent Implantation: The OAC-ALONE Study *Circulation.* 2019 Jan 29;139(5):604-616
304. Shiomi H, Kozuma K, Morimoto T, Kadota K, Tanabe K, Morino Y, Akasaka T, Abe M, Takeji Y, Suwa S, Ito Y, Kobayashi M, Dai K, Nakao K, Tarutani Y, Taniguchi R, Nishikawa H, Yamamoto Y, Nakagawa Y, Ando K, Kobayashi K, Kawai K, Hibi K, Kimura T. 7-year outcomes of a randomized trial comparing the first-generation sirolimus-eluting stent versus the new generation everolimus-eluting stent: the RESET trial *JACC Cardiovasc Interv.* 2019 Apr;12(7): 637-647
305. Okuno T, Aoki J, Tanabe K, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Ohshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M. Admission heart rate is a determinant of effectiveness of beta-blockers in acute myocardial infarction patients *Circ J.* 2019 Apr;83(5):1054-1063
306. Okura H, Saito Y, Soeda T, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Ohshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M. Frequency and prognostic impact of intravascular imaging-guided urgent percutaneous coronary intervention in patients with acute myocardial infarction: results from J-MINUET *Heart Vessels.* 2019 Apr;34(4):564-571
307. Ueki Y, Mohri M, Matoba T, Kadokami T, Suwa S, Yagi T, Takahashi H, Takana N, Hokama Y, Fukuhara R,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- Onitsuka K, Tachibana E, Yonemoto N, Nagao K. Prognostic value of neurological status on hospital arrival for short-term outcome in patients with cardiovascular shock – sub-analysis of the Japanese Circulation Society Cardiovascular Shock Registry *Circ J*. 2019 May 24;83(6):1247–1253
308. Yanagawa Y, Jitsuiki K, Nagasawa H, Takeuchi I, Madokoro S, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Suwa S. A smartphone video transmission system for verification of transfusion *Air Med J*. 2019 May–Apr;38(2): 125–128 (No.154 と同じ)
309. Okuno T, Aoki J, Tanabe K, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Ohshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M. Association of onset-season with characteristics and long-term outcomes in acute myocardial infarction patients: results from the Japanese registry of acute myocardial infarction diagnosed by universal definition (J-MINUET) substudy *Heart vessels*. 2019 May 25. doi: 10.1007/s00380-019-01426-w. [Epub ahead of print]
310. Minami-Takano A, Iwata H, Miyosawa K, Kubota K, Kimura A, Osawa S, Shitara M, Okazaki S, Suwa S, Miyauchi K, Sumiyoshi M, Amano A, Daida H. A novel nutrition index serves as a useful prognostic indicator in cardiac critical patients requiring mechanical circulatory support *Nutrients*. 2019 Jun 24;11(6). pii: E1420. Doi: 10.3390/nu11061420
311. Shitara J, Kasai T, Akihiro A, Yatsu S, Matsumoto H, Suda S, Ogita M, Yanagisawa N, Fujibayashi K, Nojiri S, Nishizaki Y, Ono N, Suwa S, Daida H. Effects of suvorexant on sleep apnea in patients with heart failure: a protocol of crossover pilot trial *J Cardiol*. 2019. Jul;74:90–94
312. Ueki Y, Mohri M, Matoba T, Kadokami T, Suwa S, Yagi T, Takahashi H, Takana N, Hokama Y, Fukuhara R, Onitsuka K, Tachibana E, Yonemoto N, Nagao K. Clinical characteristics and prognostic factors in acute coronary syndrome patients complicated with cardiogenic shock in Japan: analysis from the Japanese Circulation Society Cardiovascular Shock Registry *Heart vessels*. 2019 Aug;34(8):1241–1249
313. Watanabe H, Domei T, Morimoto T, Natsuaki M, Shiomi H, Toyota T, Ohya M, Suwa S, Takagi K, Nanasato M, Hata Y, Yagi M, Suematsu N, Yokomatsu Y, Takamisawa I, Doi M, Noda T, Okayama H, Seino Y, Tada T, Sakamoto H, Hibi K, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Hanaoka KI, Morino Y, Kozuma K, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura K. Very short dual antiplatelet therapy after drug-eluting stent implantation in patients with high bleeding risk: insights from the STOP DAPT-2 trial *Circulation* 2019 Sep; doi:10.1161/CIRCULATIONAHA.119.043613. [Epub ahead of print]
314. Shimizu T, Suwa S, Dohi T, Wada H, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Daida H. Clinical significance of high-sensitivity C-reactive protein in patients with preserved renal function following percutaneous coronary intervention *Int Heart J*. 2019 Sep 27; 60:1037–1042
315. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Takahashi N, Endo H, Kato Y, Ogita M, Okai I, Iwata H, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H. Impact of serum 1,5-anhydro-D-glucitol level on the prediction of severe coronary artery calcification: an intravascular ultrasound study *Int Heart J*. 2019 Sep 27; 60:1037–1042
316. Endo H, Dohi T, Miyauchi K, Kuramitsu S, Kato Y, Okai I, Yokoyama M, Yokoyama T, Ando K, Okazaki S, Shimada K, Suwa S, Daida H. Clinical significance of non-culprit plaque regression following acute coronary syndrome: a serial intravascular ultrasound study. *Int Heart J*. 2019 Sep 27; 60:1037–1042

吉池高志

317. Jitsuiki K, Yanagawa Y, Ohsaka H, Ishikawa K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Omori K, Yoshiike T. A case that

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

developed Stevens–Johnson syndrome as a complication during treatment for Methicillin resistant Staphylococcus aureus. Sch J Med Case Rep 2016; 4(9):675–677. (No.40 と同じ)

丹原圭一

318. Watanabe H, Shiomi H, Nakatsuma K, Morimoto T, Taniguchi T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T, CREDO-Kyoto AMI investigators, Kimura T, Sakata R, Marui A, Matsuda M, Mitsuoka H, Onoe M, Nakagawa Y, Yamanaka K, Fujiwara H, Takatsu Y, Ohno N, Nohara R, Murakami T, Takeda T, Nobuyoshi M, Iwabuchi M, Hanyu M, Tatami R, Matsushita T, Shirofani M, Nishiwaki N, Kita T, Furukawa Y, Okada Y, Kato H, Eizawa H, Is K, Tanaka M, Nakayama S, Lee JD, Nakano A, Koshiji T, Morioka K, Takizawa A, Shimamoto M, Yamazaki F, Takahashi M, Nishizawa J, Horie M, Takashima H, Tamura T, Aota M, Takahashi M, Tabata T, Tei C, Hamasaki S, Imoto Y, Yamamoto H, Kambara H, Doi O, Matsuda K, Nara M, Mitsudo K, Kadota K, Komiya T, Miki S, Mizoguchi T, Nakajima H, Ogawa H, Sugiyama S, Kawasuji M, Moriyama S, Hattori R, Aoyama T, Araki M, Suwa S, Tanbara K, Kitagawa K, Yamauchi M, Okamoto N, Fujino Y, Tezuka S, Saeki A, Hanazawa M, Sato Y, Hibi C, Sasae H, Takinami E, Uchida Y, Yamamoto Y, Nishida S, Yoshimoto M, Maeda S, Miki I, Minematsu S, Abe M, Shiomi H, Tada T, Tazaki J, Kato Y, Hayano M, Tokushige A, Natsuaki M, Nakajima T. Clinical efficacy of thrombus aspiration on 5-year clinical outcomes in patients with ST-segment elevation acute myocardial infarction undergoing percutaneous coronary intervention. J Am Heart Assoc. 2015 Jun 15;4(6): e001962. (No.256 と同じ)

319. Ohsaka H, Yoshizawa T, Ishikawa K, Jitsuiki K, Suwa S, Saito S, Tanbara K, Yanagawa Y. A satisfactory recovery after emergency pericardiocentesis in type an acute aortic dissection with cardiac arrest. Sch J Med Case Rep, April 2016; 4(4):200–202. (No.23 と同じ)

長谷川敏男

320. Sakamoto A, Kato K, Hasegawa T, Ikeda S. An Agonistic Antibody to EPHA2 Exhibits Antitumor Effects on Human Melanoma Cells. Anticancer Res 38:3273–3282, 2018

321. Maeda Y, Hasegawa T, Komiyama E, Hirasawa Y, Tsuchihashi H, Ogawa T, Kim J, Ando S, Nagasaka A, Miura N, Ikeda S. Analysis of vein variety in patients with various diseases using finger vein authentication technology. J Biophotonics e201800354, 2018

322. Tani E, Ohnuma T, Hirose H, Nakayama K, Mao Wanyi, Nakadaira M, Orimo N, Yamashita H, Takebayashi Y, Miki Y, Katsuta N, Nishimon S, Hasegawa T, Komiyama E, Suga Y, Ikeda S, Arai H. Skin advanced glycation end products as biomarkers of photosensitivity in schizophrenia. Int J Methods Psychiatr Res 2019;28(1): e1769

佐藤浩一、前川博、折田創

323. Tokuda S, Orita H, Ito T, Sakurada M, Kushida T, Maekawa M, Yamano M, Wada R, Sato K. Hernia of the broad ligament of the uterus. International Journal of Case Reports and Images, Vol. 7 No.4, April 2016.

324. Maekawa H, Ito T, Kushida T, Orita H, Sakurada M, Wada R, Sato K. Clinicopathological significance of fatty acid synthase expression in extrahepatic cholangiocarcinoma. Oncology and Cancer Case Reports 2016, 2:2

325. Mizuguchi K, Sato K, Maekawa H, Sakurada M, Orita H, Kushida T, Senuma K, Ito T, Matsuzawa H, Watanabe S, Tokuda S, Ueda S, Wada R. A Case Report of Carbohydrate Antigen 19–9 Producing Advanced Gastric Cancer. Cancer and Clinical Oncology; Vol.5, No.2; 2016 ISSN 1927–4858,

326. Sakuraba S, Orita H, Ito T, Kushida T, Sakurada M, Maekawa M, Yamano M, Wada R, Sato K. A Case of Rectal Mucosa-Associated Lymphoid Tissue (MALT) Lymphoma Treated Twice with Antibiotic Therapy for Helicobacter pylori. Journal of Gastrointestinal Cancer & Stromal Tumors, 2016,1:1

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

327. Ito T, Kushida T, Sakurada M, Maekawa H, Orita H, Mizuguchi K, Sato K. Two cases of laparoscopic simultaneous resection of colorectal cancer and synchronous liver metastases in elderly patients: international Journal of Surgery Case Reports 2016; 7: 27
328. Tsuchiya Y, Ito T, Sakurada M, Kushida T, Orita H, Maekawa H, Yamano M, Wada R, Sato K. A case of giant leiomyosarcoma of the inferior vena cava with liver metastase: A surgicall challenge: Journal of Case Reports and Images in Surgery, Vol 2, 2016; 9:2
329. Yanagawa Y, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Sato K, Mitsuhashi N, Mihara J, Ono K. Disaster Imagination Game at Izunokuni City for preparedness for a huge Nankai Trough earthquake. Sch. J. App. Med. Sci., 2016; 4(6D):2129–2132. (No.28と同じ)
330. Iba T, Sasaki T, Ohshima K, Sato K, Magaoka I, Thachil J. The Comparison of the Protective Effects of α - and β -Antithrimbin against Vascular Endothelial Cell Damage Induced by Histone in Vitro. Thrombosis Hemostasis Open 2017;1: e3–e10.
331. Iba T, Marcello Nisio D, Thachil J, Wada H, Asakura H, Sato K, Sato D. A Proposal of the Modification of Japanese Society on Thrombosis and Hemostasis (JSTH) Disseminated Intravascular Coagulation (DIC) Diagnostic Criteria for Sepsis-Associated DIC. Clinical and Applied Thrombosis/ Hemostasis, 1–7, 2017
332. Iba T, Hagiwara A, Saitoh D, Anan H, Ueki Y, Sato K, Gando S. Effects of combination therapy using antithrombin and thrombomodulin for sepsis-associated disseminated intravascular coagulation. Annals of Intensive Care (2017) 7: 110
333. Iba T, Hirota T, Sato K, Nagaoka I. Protective effect of a newly developed fucose-deficient recombinant antithrombin against histone-induced endothelial damage. Int J Hematol. 2018 May;107(5):528–534.
334. Ishimine M, Lee H, Nakaoka H, Orita H, Kobayashi T, Inoue I, Sato K, Yokomizo T. The relationship between TP53 gene Status and carboxylesterase 2 expression in human colorectal cancer. Dis Markers. 2018 Jan 31; 2018: 5280736.
335. Orita H, Koshiba S, Kushida T, Sakurada M, Maekawa H, Wada R, Sato K. Maintenance Therapy for Elderly Colorectal Cancer Patients with Bevacizumab: Single Center Experience. Journal of Cancer Research, 2018; 1(1); 1–6
336. Tokuda S, Orita H, Sakuraba S, Ito T, Shimizu H, Sakurada M, Kushida T, Tanaka K, Maekawa H, Wada R, Sato K. Analysis of KRAS Mutations by Using of Circulating Tumor DNA. Journal of Cancer Research, 2018; 2(1); 1–4
337. Maekawa H, Shioya S, Orita H, Sakurada M, Kushida T, Sato K. Changes of plasma levels of adipocytokines during 120 hours of fasting after endoscopic treatment. J Nutr Disorders Ther 7:3, 2017
338. Ito T, Maekawa H, Sakurada M, Orita H, Kushida T, Mizuguchi K, Sato K. (2018) Gastric Cancer Patients Receiving Maintenance Hemodialysis After Surgery With and Without Postoperative Chemotherapy: A Case Series of 6. Int Surg 2017; 102 DOI: 10.9738/INTSURG-D-16-00127.1
339. Sugimoto K, Ito T, Orita H, Fujita S, Sakamoto K, Sato K, Brock MV. DNA Methylation Research –My Experience in Johns Hopkins University–. Juntendo Medical Journal, 2018. 64(1), 2–10
340. Iba T, Arakawa M, Levy JH, Yamakawa K, Koami H, Hifumi T, Sato K. Sepsis-Induced Coagulopathy and Japanese Association for Acute Medicine DIC in Coagulopathic Patients with Decreased Antithrombin and Treated by Antithrombin. Clinical and Applied Thrombosis/ Hemostasis, 2018;24(7):1020–1026. DOI: 10.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

1177/1076029618770273

341. Tokuda S, Orita H, Maekawa H, Imaizumi K, Fujita K, Sato K. One-stage laparoscopic surgery for left renal cell carcinoma and cecal cancer. *Int J Case Rep Images* 2018; 9: 100908Z01ST2018 ISSN: 0976-3198 Article ID: 100908Z01ST2018 doi: 10.5348/100908Z01ST2018CR
342. Koizumi A, Orita H, Kushida T, Sakurada M, Maekawa H, Wada R, Sato K. Mucinous cystadenoma of the appendix resected by laparoscopic operation with non-touch isolation. *Int J Case Rep Images (International Journal of Case Reports and Images)* Vol. 9, 2018 ISSN: 0976-3198
343. Iba T, Arakawa M, Di Nishio M, Gondo S, Anan H, Sato K, Ueki Y, Levy JH, Thachil J. Newly Proposed Sepsis-Induced Coagulopathy Precedes International Society on Trombosis and Haemostasis Overt-Disseminated Intravascular Coagulation and Predict High Mortality. *Journal of Intensive Care Medicine*, 1-7, 2018 DOI: 10.1177/0885066618773679
344. Iba T, Levy JH, Hirota T, Hiki M, Sato K, Murakami T, Nagaoka I. Protection of the endothelial glycocalyx by antithrombin in an endotoxin-induced rat model of sepsis. *Thrombosis Research* 171 (2018) 1-6
345. Iba T, Arakawa M, Ohchi Y, Arai T, Sato K, Wada H, Levy JH. Prediction of Early Death in Patients With Sepsis-Associated Coagulation Disorder Treated With Antithrombin Supplementation. *Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis*, 1-5, 2018 DOI: 10.1177/1076029618797474
346. Munakata S, Murai Y, Koizumi A, Kato H, Yamamoto R, Ueda S, Tokuda S, Sakuraba S, Kushida T, Orita H, Sakurada M, Maekawa H, Sato K. Long-term outcomes of colorectal cancer patients with and without malignant large-bowel obstruction. *Colorectal Cancer* ISSN 1758-194X 10.2217/crc-2018-0001
347. Kato H, Munakata S, Sakamoto K, Sugimoto K, Yamamoto R, Ueda S, Tokuda S, Sakuraba S, Kushida T, Orita H, Sakurada M, Maekawa H, Sato K. Impact of Left Colonic Artery Preservation on Anastomotic Leakage in Laparoscopic Sigmoid Resection and Anterior Resection for Sigmoid and Rectosigmoid Colon Cancer. *Journal of Gastrointestinal Cancer* <https://doi.org/10.1007/s12029-018-0126-z> Published online: 10 July 2018
348. Munakata S, Murai Y, Koizumi A, Kato H, Yamamoto R, Ueda S, Tokuda S, Sakuraba S, Kushida T, Orita H, Sakurada M, Maekawa H, Sato K. Mixed Neuroendocrine Carcinoma and Squamous Cell Carcinoma of the Colon: Case Report and Literature Review. *Case Rep Gastroenterol (Case Reports in Gastroenterology)* 2018;12:240-246
349. Munakata S, Murai Y, Koizumi A, Kato H, Yamamoto R, Ueda S, Tokuda S, Sakuraba S, Kushida T, Orita H, Sakurada M, Maekawa H, Sato K, Wada R. Abdominoperineal Resection for Unexpected Distal Intramural Spreading of Rectal Cancer. *Case Rep Gastroenterol (Case Reports in Gastroenterology)* 2018; 12:297-302
350. Sugimoto K, Ito T, Woo J, Tully E, Sato K, Orita H, Brock MV, Gabrielson E. Prognostic Impact of Phosphorylated Discoidin Domain Receptor-1 in Esophageal Cancer. *Journal of Surgical Research: MARCH* 2019 (235) 479-486. doi: 10.1016/j.jss.2018.10.032. Epub 2018 Nov 26.
351. Maekawa H, Sato K. Efficacy of Adjuvant Chemotherapy for Fatty Acid Synthase-Positive and Negative Distal Bile Duct Cancer and Ampullary Cancer: A Retrospective Analysis. *Journal of Cancer Science and Therapy*, 2019.11.2 ISSN: 1948-5956 DOI: 10.4172/1948-5956.1000584
352. Orita H, Tokuda S, Sakuraba S, Kushida K, Sakurada M, Maekawa H, Koshihara S, Sato K. Maintenance therapy for elder colorectal cancer patients with Bevacizumab: single center experience, *Journal of cancer research*, June 2018 DOI: 10.33425/2639-8478.1008
353. Sugimoto K, Ito T, Hulbert A, Chen C, Orita H, Maeda M, Moro H, Fukagawa T, Ushijima T, Katai H, Wada R,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- Sato K, Sakamoto K, Yu W, Considine M, Cope L, Brock MV. DNA methylation genome-wide analysis in remnant and primary gastric cancers. *Gastric Cancer*. 2019 Mar 12. doi: 10.1007/s10120-019-00949-5
354. Sakuraba S, Ueda S., Tokuda S, Ito T, Kushida T, Sakurada M, Maekawa H, Sato K. Group A Streptococcal Toxic Shock-Like Syndrome in a Male Presenting as Primary Peritonitis: A Case Report and a Review in Japan Case Reports in Gastrointestinal Medicine, 2019: 1-5.
355. Ueda S., Orita H., Ito T., Tokuda S., Sakuraba S., Kushida T., Sakurada M., Maekawa H., Sato K. A Case of Laparoscopic-Assisted Percutaneous Endoscopic Gastrostomy (LAPEG) for Gastric Volvulus. *Case Rep Med*, 2019: 3468084.
356. Ito T, Matoba R, Maekawa H, Sakurada M, Kushida T, Orita H, Wada R, Sato K. Detection of gene mutations in gastric cancer tissues using a commercial sequencing panel. *MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY* 11: 455-460, 2019 DOI: 10.3892/mco.2019.1926
357. Maekawa H, Ito T, Orita H, Kushida T, Sakurada M, Sato K, Hulbert A, Brock MV. Analysis of the methylation CpG islands in the CDO1, TAC1 and CHFR genes in pancreatic ductal cancer *Oncology Letters* 19: 2197-2204, 2020 DOI:10.3892/ol.2020.11340
358. Zhang S, Orita H, Egawa H, Matsui R, Yamauchi S, Yube Y, Kaji S, Takahashi T, Oka S, Inaki N, Fukunaga T. Effectiveness and safety of a laparoscopic training system combined with modified reconstruction techniques for total laparoscopic distal gastrectomy *World Journal of Gastroenterology*, in press
359. Kohira Y, Zhang S, Orita H, Ishimine M, Kobayashi T, Chua SMB, Nakaoka H, Inoue I, Hino O, Yokomizo T, Fukunaga T, Lee-Okada HC. Sensitization of gastric cancer cells to irinotecan by p53 activation, *BPB_Reports-190038*

寒竹正人

360. *Kantake M, Ohkawa N, Iwasaki T, Ikeda N, Awaji A, Saito N, Shoji, Shimizu T. Postnatal relative adrenal insufficiency results in methylation of the glucocorticoid receptor gene in preterm infants: a retrospective cohort study. *Clin Epigenetics*. 2018; 10: 66.
361. Kantake M Simple, Rapid and Effective Separation of Nuclear Red Blood Cells from Peripheral Blood of Pregnant Women: A preliminary study. *Biomed J Sci & Tech Res* DOI: 0.26717/BJSTR.2018.03.000907
362. Kantake M The Origin of CD45+CD71- Cells Enriched by MACS Technology. *Biomed J Sci & Tech Res* DOI: 10.26717/BJSTR.2018.08.001648
363. Nishizaki N, Obinata K, Kantake M, Yoshida N, Ohtomo Y, Nijijima S, Yanagisawa N, Nishizaki Y, Shoji H, Shimizu T. Association between the frequency of bedwetting and late preterm birth in children aged ≥5 years. *Acta Paediatr*. 2019 Feb;108(2):282-287. doi: 10.1111/apa.14481. Epub 2018 Jul 24.
364. Baba Y, Yamada H, Yoneyama T, Yokokura T, Yamazaki S, Inage E, Mori M, Ohtsuka Y, Kantake M, Shimizu T. Biological effect of IL-33R/ST2 in atopic asthmatic children; serum IL-33 changes by administration of omalizumab. *Journal of Allergy and Clinical Immunology* 141(2): AB227 · February 2018
365. Shoji H, Watanabe A, Awaji A, Ikeda N, Hosozawa M, Ohkawa N, Nishizaki N, Hisada K, Kantake M, Obinata K, Shimizu T. Intrauterine growth restriction affects z-scores of anthropometric parameters during the first 6 years in very low-birth-weight-children born at less than 30 weeks of gestation *Journal of Developmental Origins of Health and Disease* 2019; June 24: 1-5

土至田宏、松崎有修

366. *Toride A, Toshida H, Matsui A, Matsuzaki Y, Honda R, Ohta T, Murakami A. Visual outcome after emergency surgery for open globe eye injury in Japan. *Clin Ophthalmol*. 2016;10:1731-6.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

367. Hayashi Y, Toshida H, Matsuzaki Y, Matsui A, Ohta T. Persistent corneal epithelial defect responding to rebamipide ophthalmic solution in a patient with diabetes. *Int Med Case Rep J*; 9:113-6, 2016.
368. Toshida H, Funaki T, Ono K, Tabuchi N, Watanabe S, Seki T, Otake H, Kato T, Ebihara N, Murakami A. Efficacy and safety of retinol palmitate ophthalmic solution in the treatment of dry eye: a Japanese phase 2 clinical trial. *Drug Design, Development and Therapy*.11 1871-1879, 2017.
369. Tabuchi N, Toshida H, Koike D, Odaka A, Suto C, Ohta T, Murakami A. Effect of Retinol Palmitate on Corneal and Conjunctival Mucin Gene Expression in a Rat Dry Eye Model After Injury. *J Ocul Pharmacol Ther*. 2017 Jan/Feb;33(1):24-33.
370. Toshida H, Suto C. Preganglionic parasympathetic denervation rabbit model for innervation studies. *Cornea* 2018; 37: s106-112.
371. Miura-Karasawa M, Toshida H, Ohta T, Murakami A. Papilloma and sebaceous gland hyperplasia of the lacrimal caruncle: a case report. *International Medical Case Reports Journal* 2018;11, 91-95.
372. Toshida H. Topographical Central Island-Like Pattern After 24 Hrs of Continuous Intraocular Pressure Monitoring with a Contact Lens Sensor. *Int Med Case Rep J.*, 2020;13:19-26.

【英文総説】

佐藤浩一、折田創、前川博

373. Zhang S, Orita H, Fukunaga T. Current surgical treatment of esophagogastric junction adenocarcinoma. *World J Gastrointest Oncol*. 2019 Aug 15;11(8):567-578. Review.

【和文論文】

柳川洋一、大坂裕通、大森一彦、石川浩平、三島健太郎、大出靖将

374. 前田浩行、大坂裕通、大森一彦、石川浩平、久保田直純、大林治、柳川洋一。交通外傷により大動脈解離 (Stanford type B) を合併した多発外傷の一例。 *日本救急医学会中部地方会雑誌* 2015;11:44-6
375. 柳川洋一、吉田千紗、相原恒一郎、平野一興、永山正隆、竹本正明、山田京志、渡邊心、射場敏明。家庭用洗剤使用後に咳喘息様発作をきたした一例。 *日本救急医学会中部地方会雑誌* 2015;11:55-6.
376. 柳川洋一、上野昌輝、下村巖、大森一彦、伊藤浩嗣。歩行失行で多発性脳転移腫瘍が判明した1例。 *日本救急医学会中部地方会雑誌* 2015;11:52-54.
377. 大坂裕通、福里晋、小日向麻里子、三島健太郎、石川浩平、大森一彦、大出靖将、柳川洋一。胸椎骨折に対する軟性コルセット装着が誘因となった上腸間膜動脈症候群の一例。 *日本救急医学会中部地方会雑誌* 2015;11:57-59.
378. 柳川洋一。スイセン誤食による食中毒の一例 *日本救急医学会中部地方会雑誌* 2015;11:24-5.
379. 鷺巣佳奈、下山勝仁、堀口愛、大森一彦、柳川洋一。多断面再構成を用いた CT 画像で容易に診断が可能であった環椎後頭関節脱臼の一例。 *日本救急医学会中部地方会雑誌* 2015;11:17-20.
380. 大森一彦、田代薫、小日向麻里子、大坂裕通、三島健太郎、石川浩平、大出靖将、柳川洋一。大酒家突然死症候群が疑われた一例。 *日本救急医学会中部地方会雑誌* 2015;11:60-62.
381. 藤田尚人、大森一彦、浅井陽、伊藤浩嗣、柳川洋一。自転車ハンドルバー損傷による小児肝破裂の1例。 *日本救急医学会中部地方会雑誌* 2015;11:26-28.
382. 柳川洋一、大森一彦、石川浩平、大坂裕通、大出靖将、清水忠典、藤井佑二。静岡県東部ドクターヘリによる東京都大島町からの患者搬送。 *日本航空医療学会雑誌* 2015;16(1):9-11.
383. 石川浩平、井上貴昭、角由佳、松田繁、岡本健、田中裕。電撃性紫斑病に対麻痺を合併した肺炎球菌

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 感染症の 1 例. 日救急医学会誌. 2015; 26: 565-70.
384. 柳川洋一、今村友典、今関信夫. 咯血を伴い心停止に至った胸部大動脈気管支瘻の 1 例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:37-9.
385. 吉澤俊彦、日域佳、石川浩平、大坂裕通、大出靖将、柳川洋一. 特発性大量心嚢液貯留を認めた一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:47-9.
386. 柳川洋一、大森一彦、戸塚剛彰、岩崎浩司、北村惣一郎. 脳動脈瘤切迫破裂徴候: 眼瞼下垂で救急搬送された一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016;12:50-2.
387. 大坂裕通、日域佳、吉澤俊彦、大森一彦、石川浩平、大出靖将、山本拓史、市川訓基、小池道明、柳川洋一. 脳内出血発症に血管閉塞機転の関与が示唆された急性リンパ性白血病の一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:58-61
388. 栗栖美由希、石神智行、中川彰彦、柳川洋一. 瞬仮性嚢胞内出血、大腸穿破に対して塞栓術で治癒した一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:40-2.
389. 吉澤俊彦、日域佳、竹内郁人、小畑宏介、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、大出靖将、柳川洋一. 特発性後腹膜血腫の一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:47-9.
390. 柳川洋一、吉澤俊彦、日域佳、竹内郁人、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、大出靖将. 鼠径部ヘルニアによる心窩部痛で医療機関に受診し、二度も見逃されていた一例: 鼠径部診察の重要性. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:53-4.
391. 柳川洋一. 目で見るトレーニング. Medicina 2016; 53:558-561.
392. 石川浩平、竹内郁人、日域佳、近藤彰彦、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一. 過疎地域における多数傷病者発生時の分散搬送の重要性. 日本集団災害医学会雑誌 2017;22(2):232-7.
393. *横田裕行、木村昭夫、五十嵐豊、霧生信明、黒住健人、齋藤大蔵、角山泰一朗、廣江成欧、柳川洋一、山元良. 一般社団法人日本外傷学会東京オリンピック・パラリンピック特別委員会、一般社団法人日本脳神経外傷学会. 銃創・爆傷患者診療指針[Ver.1]. 日本外傷学会雑誌 2018;32(3):1-63.
394. 柳川洋一. 落雷による傷害 救急医学 2019;43:1081-4.
395. 厚生労働科学特別研究事業: 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての救急・災害医療体制の構築に関する研究. 統括研究者: 横田裕行. 銃創、爆傷等における外傷医療体制の構築. 分担研究者: 木村昭夫. 日本外傷学会: 東京オリンピック・パラリンピック特別委員会委員長: 大友康裕. 委員: 五十嵐豊、霧生信明、黒住健人、角山泰一朗、廣江成欧、山元良、齋藤大蔵、柳川洋一、井上潤一. 銃創・爆傷患者診療指針. 2019. 簡易パンフレット.
396. 柳川洋一. 災害医療の現状と問題点. 脳神経外科ジャーナル 2019;28:561-6/
397. 柳川洋一. 「交通事故で救急搬送された Kounis 症候群を疑われた 1 例」の報告へのコメント 日救急医学会誌 2019;30:205-1.
- 小池道明**
398. 大坂裕通、日域佳、吉澤俊彦、大森一彦、石川浩平、大出靖将、山本拓史、市川訓基、小池道明、柳川洋一. 脳内出血発症に血管閉塞機転の関与が示唆された急性リンパ性白血病の一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:58-61. (No.387 と同じ)
399. 土屋明美、岩尾憲明、小池道明. 当院における新鮮凍結血漿の適正使用に向けた取り組み. 日本輸血細胞治療学会誌: 64: 545-549,2018
400. 桐戸敬太、小池道明、野口雅章、木崎昌弘、杉本由香、片山直之、土橋史明、薄井紀子、小松則夫. 骨髄増殖性腫瘍例および健常者を対象にした新規 JAK2617F 変異量測定キットの臨床性能試験. 臨床血液 59: 669-674, 2018

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

401. 飯塚弘子、福田泰隆、森洋輔、岩尾憲明、小池道明、野口雅章、小松則夫. 肝硬変合併慢性骨髄性白血病加療中に急速な致死的経過をたどった *Streptococcus agalactiae* による劇症型溶連菌 感染症 臨床血液 2019, 60:910-914

岩神真一郎

402. 藤井充弘、岩神真一郎、原宗央、石渡俊次、瀬山邦明、高橋和久. 急速に増大した肺嚢胞切除後、長期間肺機能の改善を維持できた慢性閉塞性肺疾患の 1 例. 日本呼吸器学会雑誌 4: 166-170、2015

403. 雨宮徳直、岩神真一郎. 遷延性咳嗽にて一般診療所を受診した PT-IgG 抗体価高値成人百日咳の臨床的特徴. 日本呼吸器学会雑誌, 2018; 7: 125-130

田中利隆

404. 市山卓彦、田中利隆、佐藤杏奈、植木典和、平山貴士、山口貴史、菅沼牧知子、田中沙織、五十嵐優子、田口雄史、三橋直樹. 超音波検査が診断に有用であった非癒痕子宮に発症した子宮破裂の 2 例. 超音波医学 43; 587-592: 2016

405. 石田ゆり、田中利隆、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、村田佳菜子、菅直子、矢田昌太郎、宮国泰香、山本祐華、金田容秀、三橋直樹. 超音波所見から子宮頸管延長および嵌頓子宮と診断した子宮筋腫合併妊娠の一例. 産婦人科手術 in 27; 55-61: 2016

406. 吉田恵美子、田中利隆、藤原里紗、石田ゆり、大野基晴、菅沼牧知子、田中沙織、宮国泰香、五十嵐優子、田口雄史、三橋直樹. 日本周産期新生児学会誌 52; 1144-1149: 2016

407. 加藤雅也、山本祐華、村田佳菜子、高橋奈々子、北村絵里、篠原三津子、本田理子、菅直子、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. リトドリン塩酸塩の経静脈的長期投与における母体副作用と有効性の検討, 日本周産期・新生児医学会雑誌, 2018; 54: 86-90

408. 石田ゆり、山本祐華、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、菅直子、矢田昌太郎、宮国泰香、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 妊娠 34 週以降の胎児発育不全症例に対する分娩管理の検討, 日本周産期・新生児医学会雑誌, 2018; 54: 1043-1047

409. 伊藤早紀、正岡駿、助川幸、西澤しほり、植木典和、村瀬佳子、矢田昌太郎、田中里実、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 「災害時における妊婦の適切なトリアージに関する研究」産婦人科の実際 2019.03; 68: 295-300

410. 正岡駿、田中里美、伊藤早紀、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、植木典和、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 帝王切開後に形成された子宮仮性動脈瘤の 1 例, 静岡産科婦人科学会雑誌, 2019; 8: 52-60

山本拓史

411. 大坂裕通、日域佳、吉澤俊彦、大森一彦、石川浩平、大出靖将、山本拓史、市川訓基、小池道明、柳川洋一. 脳内出血発症に血管閉塞機転の関与が示唆された急性リンパ性白血病の一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:58-61. (No.387 と同じ)

412. 山本拓史 内視鏡血腫除去術における surgical anatomy と基本手技. Neurological Surgery 脳神経外科, 2018; 46:95-106

413. 渡邊瑞也、阿部瑛二、石元玲央、藤田修英、長谷川浩、上野英明、中尾保秋、山本拓史、和田了. 経時的な変化で瘤形成を来した中大脳動脈遠位部の解離性脳動脈瘤の 1 例、脳神経外科 46(5):415-422、2018

414. 井口整、藤田修英、長谷川浩、上野英明、渡邊瑞也、中尾保秋、山本拓史. 大型刈り込み腱による穿通性頭部外傷の 1 例、脳神経外科 46(11):999-1005、2018

415. 渡邊瑞也、井口整、川村海渡、藤田修英、上野英明、中尾保秋、山本拓史、和田了. 破裂末梢性後下小

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

脳動脈瘤(cortical segment)の2例, 脳神経外科, 2019; 47(6): 673-681

416. 鈴木一幹, 川村海渡, 井関征祐, 上野英明, 渡辺瑞也, 中尾保秋, 山本拓史. ダビガトランによる抗凝固療法中の外傷性頭蓋内出血に対するイダルシズマブ使用例, Neurosurg Emerg, 2019; 24: 190-195

大林治、最上敦彦、神田章男、諸橋達

417. 諸橋達、最上敦彦、神田章男、大林治、金子和夫. 人工股関節再置換術後に生じた腸腰筋インピンジメントに対して腸腰筋切離を行った1例. Hip Joint 41、850-853、2015.

418. 小畑宏介、大林治、最上敦彦、神田章男、金子和夫. 小児両側大腿骨骨幹部骨折に対する治療経験—Kirschner 鋼線を用いた髓内固定法を施行した2症例—骨折 37、738-744、2015.

419. 前田浩行、大坂裕通、大森一彦、石川浩平、久保田直純、大林治、柳川洋一. 交通外傷により大動脈解離(Stanford type B)を合併した多発外傷の一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2015;11:44-6. (No.374と同じ)

420. 大林治、前田浩行、最上敦彦、小林敦郎、岩瀬秀明、金子和夫. TKA 術前と術後1年での重心動揺計による% COP 移動可能距離の検討. 臨床バイオメカニクス 37、295-300、2016.

421. 諸橋達、最上敦彦、神田章男、大林治、金子和夫. ショートステム Optimys の術中骨折および術後沈み込み症例から考える固定様式と応力集中部位の検討. Hip Joint 42、734-738、2016.

422. 武田純、最上敦彦、和田知樹、大林治、金子和夫. SCORPIO[®] NEO を用いた鎖骨遠位端骨折の治療経験. 骨折 38、396-600、2016.

423. 前田浩行、大林治、金子和夫、岩瀬秀明、神田章男、諸橋達、雨宮将太、武井裕輔、三井和幸、前田睦浩. EHD 現象を利用した新しいターニケットの開発—合併症がおきない至適圧力の検討—臨床バイオメカニクス 38、389-392、2017.

424. 諸橋達、亀田壮、松尾智次、大林治. 関節リウマチに伴う前足部変形および外反母趾の矯正骨切り後皮膚障害と固定デバイスの関連. 日本足の外科学会誌 39(1)、121-124、2018.

425. 最上敦彦. 大腿骨頸基部骨折に対する骨接合術. 関節外科 37(9): 1003-1013、2018.

426. 最上敦彦. 大腿骨近位部骨折における骨接合術 ~フックピンデバイスを用いた新たな治療戦略~. 骨折 40(suppl): S83-S83、2018.

427. 最上敦彦、神田章男、諸橋達、大林治、金子和夫. 難治性外傷に対する髓内釘を駆使した治療. 東日本整形災害外科学会雑誌 30(3): 272-272、2018.

428. 守屋秀一、最上敦彦、神田章男、諸橋達、大林治、金子和夫. 大腿骨転子部骨折に対するフックピンネイルの治療成績. 骨折 40(suppl): S480-S480、2018.

429. 諸橋達、神田章男、最上敦彦、岩瀬秀明、金子和夫. 股関節感染症例の鑑別における α -デフィエンシン検出キット: シンバシユアの有用性 Hip Joint 45、355-360、2019

長谷川敏男

430. 岩永温子, 加賀麻弥, 平澤祐輔, 長谷川敏男, 池田志幸. 顔面の Wells 症候群が強く疑われた1例. 皮膚科の臨床 60:724-725、2018

431. 塚本清香, 加賀麻弥, 平澤祐輔, 長谷川敏男, 池田志幸, 阿部澄乃. 肺結核を伴った臀部皮膚結核の1例. 臨床皮膚科 72:635-639、2018

432. 藤澤麻衣、加賀麻弥、平澤祐輔、長谷川敏男、池田志幸. 当施設で過去10年間に経験した隆起性皮膚線維肉腫1例の症例報告と7例の臨床的検討. 皮膚科の臨床 2019;61:284-285

433. 吉村智子、長谷川敏男、清水智子、野口篤、吉池高志、三浦圭子、池田志幸. 左前腕に生じた有茎性巨大汗孔腫の1例と当院の汗孔腫症例のまとめ. 臨床皮膚科 印刷中

佐藤浩一、折田創、前川博

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

434. 櫻庭駿介、村井勇太、小泉明博、山本陸、加藤永記、上田脩平、徳田智史、氷室貴規、朝倉孝延、伊藤智彰、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一. PMX-DHP 施行前後における血清乳酸値とSOFA スコアの検討. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 23(1):124-128,2019
435. 上田脩平、伊藤智彰、村井勇太、小泉明博、山本陸、加藤永記、徳田智史、櫻庭駿介、氷室貴規、朝倉孝延、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一. 大腸穿孔に対して緊急手術を施行した症例の qSOFA, SIRS Criteria と予後の検討. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 23(1):130-134,2019
436. 田中 顕一郎, 氷室 貴規, 安藤 美沙, 小泉 明博, 村井 勇太, 加藤 永記, 山本 陸, 上田 脩平, 櫻庭 駿介, 徳田 智史, 朝倉 孝延, 伊藤 智彰, 櫛田 知志, 折田 創, 櫻田 睦, 前川 博, 佐藤 浩一, 齊藤 光江. 国民が期待する外科医像 行政の観点も考慮して 高齢化、過疎化、遠隔地の 3 重苦に打ち克つ伊豆半島の新たな医療の取り組み、日本外科学会雑誌 120 巻 5 号 p615-618, 2019

寒竹正人

437. 岩崎卓郎、有井直人、馬場洋介、有井みのる、大川夏紀、寒竹正人、清水俊明. 小児患者に対するドクターヘリの利用状況 日本小児科学会雑誌 122: 1700-1707 November 2018
438. 石川有希美、鈴木光幸、田中 登、池田奈帆、大川夏紀、西村 玄、寒竹正人、清水俊明 COL11A1 遺伝子新規変異を同定した重症型 Stickler 症候群の 1 例 小児科臨床 72: 877-880: 2019

土至田宏、松崎有修

439. 土至田宏, 太田俊彦, 須藤史子, 村上 晶. 副交感神経除神経家兎ドライアイモデルにおけるレチノールパルミチン酸エステル点眼液の治療効果. 眼薬理 2018; 32: 28-32.
440. 大谷洋揮, 土至田宏, 柏木広哉, 松崎有修, 小森翼, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, 太田俊彦. 虹彩腫瘍の角膜後面接触による水疱性角膜症に対し角膜内皮移植術が有効であった 1 例. 臨床眼科 2018; 72(3): 359-362.
441. 土至田宏. 全層角膜移植術後に角膜内皮移植術を施行した 1 例. 静岡県眼科医会誌 Vol.35, p1, 2018.
442. 市川 浩平, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 林 雄介, 松崎 有修, 土至田 宏, 太田 俊彦. 順天堂大学 医学部 附属静岡病院における過去 10 年間の開放性眼外傷の検討. 臨床眼科;2019; 73:(4): 515-521
443. 小森 翼, 土至田 宏, 朝岡 聖子, 大谷 洋揮, 市川 浩平, 林 雄介, 松崎 有修, 太田 俊彦: 複数回の再発を繰り返した翼状片の 1 例. 臨床眼科;2019: 73:(4): 477-482
444. 土至田宏 「全層角膜移植術後に角膜内皮移植術を施行した 1 例」、静岡県眼科医会誌; 2018:35: p1

【和文総説】

山本拓史

445. 山本拓史. 高齢化時代の心原性脳塞栓症～脳卒中二次予防を考える～, 中西医報 中京西部医師会, 2019; 139: 2

寒竹正人

446. 寒竹正人. エピジェネティクスの世界 —胎児期から小児期の環境による遺伝子修飾— 小児保健研究視点 2019; 7: 490-493

土至田宏

447. 土至田宏, 山岡裕子, 田淵照人. 【抗酸化ビタミンと疾患の関係】ビタミン A とドライアイ. 食と医療 Vol.6: 69-77, 講談社 MOOK, 2018.
448. 土至田宏. 【コンタクトレンズ用語集 第 22 回】コンタクトレンズの法律上の分類. 日コレ誌 60-48-49, 2018.
449. 土至田宏. 【もっと知りたいオルソケラトロジー】オルソケラトロジーの屈折矯正原理と角膜への影響. Monthly Book OCULISTA 66:13-19, 2018.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

450. 土至田宏. 遠近両用 CL の基礎と応用—老視対策から近視抑制まで— 眼科グラフィック Vol.7:541, 2018
451. 土至田宏. 遠近両用 CL 概論. 眼科グラフィック Vol.7:542-548, 2018
452. 土至田宏. 【眼科スタッフのための眼鏡合わせマニュアル】(9 章)CL 合わせに必要な検査 前眼部の観察. 眼科ケア 2019 秋季増刊 252-257
453. 土至田宏. 【眼科スタッフのための眼鏡合わせマニュアル】(9 章)CL 合わせに必要な検査 CL 合わせのための屈折検査と視力検査. 眼科ケア 2019 秋季増刊 258-262
454. 土至田宏. 【眼精疲労とコンタクトレンズ】不同視・眼位異常などにおけるコンタクトレンズ処方. あたらしい眼科; 36:(10):1275-1279
- 松崎有修**
455. 松崎有修, 太田俊彦. 【これでわかる眼内レンズ度数決定のコツ】前房深度からみた IOL 度数計算のコツ. MB OCULISTA2018; No.63: 66-71.
456. 松崎有修 白内障・屈折手術の論点 縫着対強膜内固定(強膜内固定の視点). IOL & RS 2018; 32 巻 3 号: 485-491.
457. 松崎有修, 太田俊彦. CCC マーカー. IOL & RS; 2019:33:(4): 608-612.

<図書>

柳川洋一

1. 柳川洋一 スポーツと突然死. 救急医学 へるす出版 2018;42(3): 287-292.

岩神真一郎

2. 岩神直子, 岩神真一郎. 肺分画症 高橋和久、児玉裕三編. EBM を活かす 呼吸器診療. メジカルビュー社、東京、394-398、2015

田中利隆

3. 田中利隆. 【助産師のための産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 いいとこ取り 何が変わった? どこがポイント?】新規追加 CQ「選択的帝王切開時に注意することは?」ペリネイタルケア メディカ出版 36; 548-552: 2017
4. 田中利隆. 【「産科診療ガイドライン産科編 2017」の新規項目と改正点】CQ416(新規)選択的帝王切開時に注意することは? 臨床産科婦人科 医学書院 71; 744-748: 2017
5. 田中利隆, 三橋直樹. 【子どもの生活習慣病-スクリーニングと早期予防】生活習慣病のスクリーニングと早期予防 周産期からの生活習慣病を予防するにはどうしたらよいか. 小児内科 東京医学社 49; 1459-1463: 2017
6. 田中利隆. 【産婦人科救急・当直対応マニュアル】産科編 妊産褥婦の合併疾患への対処法 消化器疾患 急性虫垂炎/急性胆嚢炎, 医学書院, 2019; 73: 295-300
7. 田中利隆. 研修ノート 産科異常出血への対応, 公益社団法人日本産婦人科医会, 2020; 103: 82-86

山本拓史

8. 山本拓史. 慢性硬膜下血腫と内科的疾患—特に抗血小板薬・抗凝固薬とその対策— 慢性硬膜下血腫の診断・治療・手術, メディカ出版, 大阪 P36-42, 2017
9. 山本拓史. 内視鏡を用いた多房性慢性硬膜下血腫の治療 慢性硬膜下血腫の診断・治療・手術, メディカ出版, 大阪 P144-42152, 2017
10. 山本拓史. 猟銃(散弾銃)による頭部外傷 慢性硬膜下血腫の診断・治療・手術, メディカ出版, 大阪 P209-218, 2017
11. 山本拓史. 脳内血腫, 神経内視鏡治療 スタート&スタンダード, メジカルビュー社, 2019; 90-101

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

12. 山本拓史. 内視鏡下血腫除去術, 専門医を目指す医師のための器具の使い方と基本手技, 新 NS Now Neurosurgery, 2019; 20: 140-149
13. 山本拓史.「令和」時代の脳神経外科医へ～巻き戻しシミュレーションの勧め～, 脳神経外科速報, メディカ出版, 2019.6, Vol.29 no.6: 672-673
14. 山本拓史. 内視鏡下血腫除去術で disorientation にならないためには?, 疾患・術式別 脳神経外科手術合併症の回避・対処法 Q & A156, 脳神経外科速報, メディカ出版, 2019; 77-83

楠威志

15. Hara S, Kusunoki T, Kidokoro Y, Homma H, Ikeda K. Efficacy of the additional effect of hyperbaric oxygen therapy in combination of systemic steroid and prostaglandin E1 for idiopathic sudden sensorineural hearing loss. America Journal of Otolaryngology-Head and Neck Medicine and Surgery. 2020 Mar - Apr;41(2):102363. doi: 10.1016/j.amjoto.2019.102363. Epub 2019 Nov 27.

長谷川敏男

16. 長谷川敏男. 疥癬、ケジラミ症. 今日の治療指針 2019 年版 福井次矢、高木誠、小室一成編 医学書院 2019:1282-1283

折田創、前川博

17. 折田創、Michael Gibson、前川博. Gastric cancer un update, March 20th 2019
DOI: 10.5772/intechopen.71704
18. Orita H, Gibson M, Maekawa H. Gastric cancer un update, March 20th 2019
DOI: 10.5772/intechopen.71704

寒竹正人

19. *Kantake M. Stress, HPA Dysfunction, Inflammation, and Psychomotor Disability in Preterm Birth Infants. Advances in medicine and Biology. 115; pp13-22: 2017.
20. *寒竹正人. 専門領域とステロイド 新生児疾患; 今ここでステロイドを再考する—common disease から専門領域まで— 小児科診療 診断と治療社 東京、491-495, 2017
21. 馬場洋介, 大塚宜一, 寒竹正人, 清水俊明. 小児アレルギー疾患におけるIL-33/ST2の測定の意義、アレルギーの臨床 北隆館 2018年 38(2) 192-195
22. 西山樹, 馬場洋介, 宮林和紀, 山田啓迪, 大塚宜一, 寒竹正人, 清水俊明. 重症食物アレルギーにおけるIL33/ST2 応答の検討、アレルギーの臨床 北隆館 2018年 38(9) 905-909

土至田宏

23. 土至田宏. コンタクトレンズによる角膜障害. 今日の眼疾患治療指針. p341-342.医学書院, 2016.
24. 土至田宏. 薬剤使用のイロハ. 眼科疾患 最新の治療 2016-2018. p69-78, 南江堂, 2016.
25. 土至田宏. 合併する全身疾患. どう診てどう治す? 円錐角膜. 島崎潤・前田直之・加藤直子編集. メジカルビュー社 p12-13, 2017

<学会発表>

【国際学会】

柳川洋一、大坂裕通、大森一彦、石川浩平、大出靖将

1. Yanagawa Y, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Oode Y, Kubota A, Sakuraba K. A field survey of spinal cord injury in bodyboarders. The Global Spine Congress 2015 in Buenos Aires/Argentina.
2. Ishikawa K, Yanagawa Y, Oode Y, Sumi Y, Inoue Y, Tanaka H. 8th Asian Conference on Emergency Medicine 2015 Taiwan

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

3. Yanagawa Y. Coordinated and combined use of military and civilian resources for large-scale natural disasters in Japan. Disaster Response Workshop. 11th Asian Congress of Neurological Surgeons, Surabaya, Indonesia 2016.
4. Yanagawa Y. Coordinated and combined use of military and civilian resources for large-scale natural disasters in Japan. Neurotrauma section 2 11th Asian Congress of Neurological Surgeons, Surabaya, Indonesia 2016.
5. Yanagawa Y., Ohsaka H., Ishikawa K., Jitsuiki K., Yoshizawa T., Omori K. Factors affecting difficulty in extubation after initial successful resuscitation in cardiopulmonary arrest patients. EUSEM 2016 in Vienna (Austria) Congress Programme p55
6. Ishikawa K., Jitusiki K., Yoshizawa T., Omori K., Ohsaka H., Oode Y., Yanagawa Y. A case of spinal cord concussion induced by neck massage. The Annual World Congress of Neurotalk May 20–22, 2016 in Beijing, China.
7. Yanagawa Y., Omori K., Ishiwaka K., Yoshizawa T., Jitsuiki K., Takeuchi I., Ohsaka H. Analysis of patients with decompression illness transported via physician-staffed emergency helicopters. 14th international symposium on maritime health, Manila Phillipine March 22–24, 2017.
8. Yanagawa Y., Ishikawa K., Nagasawa H., Takeuchi I., Kato S., Jitsuiki K., Iso T., Yoshizawa T., Ohsaka H., Omori K. Risk factors for the occurrence of traumatic vacuum phenomenon after chest compression for patients with cardiac arrest. 2nd International Conference on: Applied Physics, System Science and Computers Dubrovnik, Croatia, September 27–29, 2017
9. Yanagawa Y. Chairman of section of clinical application, 2nd International Conference on: Applied Physics, System Science and Computers Dubrovnik, Croatia, September 27, 2017
10. Ishikawa K., Takeuchi I., Jitsuiki K., Kondo A., Omori K., Ohsaka H., Yanagawa Y. A Comparison between evacuation from the scene and interhospital transportation using a helicopter for subarachnoid hemorrhage. Air Medical Transport Conference (AMTC) 2017 Oct 16 – 18, 2017, Fort Worth, Texas
11. Yanagawa Y., Ishikawa K., Jitsuiki K., Kondo A., Omori K., Ohsaka H. Clinical significance of fibrinogen degradation product levels on arrival for trauma patients requiring a transfusion even without head injury. International Conference on Emergency Medicine 2018 – ICEM in Mexico June 5, 2018
12. Yanagawa Y., Jitsuiki K., Nagasawa H., Takeuchi I., Iso T., Kondo A., Ohsaka H., Ishikawa K., Omori K. Clinical profile of patients with cardiac arrest induced by aortic disease. The 34th World Congress of Internal Medicine – WCIM 2018 in South Africa Oct. 19, 2018
13. Yanagawa Y. Analysis of the usage of a portable X-ray system transported to the scene by a physician-staffed helicopter. Abstract of 27th Annual Critical Care Transport Medicine Conference 2019. P11, 2019. Hotel Albuquerque, New Mexico.
14. Yanagawa Y. Confusion at the scene regarding multiple patients with burn injury induced by a chemical explosion. Prehosp Disaster Med 2019;34: S8. The World Association for Disaster and Emergency Medicine 2019 at Brisbane, Australia.
15. Yanagawa Y., Yanagawa Y., Muramatsu K., Nagasawa H., Takeuchi I. Three cases of corneal injury after diving. Proceedings of Researchfora International Conference, Cairo, Egypt, 12th–13th July 2019
16. Suzuki M., Yanagawa Y., Sakamoto A., Sugiyama H., Nozawa Y. Prevalence and risk factors for post-traumatic stress disorder in Japanese relatives of out-of-hospital cardiac arrest patients after receiving a pamphlet concerning process of grief reaction. Resuscitation 2019: Congress of the European

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

Resuscitation Council in Ljubljana, Slovenia, 2019:19–21, September

17. Nagasawa H, Takeuchi I, Kushida Y, Jitsuiki K, Shitara J, Omori K, Ohsaka H, Ohde Y, Yanagawa Y. Clinical significance of C-reactive protein in patients with trauma on arrival. Xth Mediterranean Emergency Medicine Congress (MEMC), in Dubrovnik, Croatia 2019.

岩神真一郎

18. Miyawaki T, Yagishita S, Ko R, Suzuki Y, Matsumoto N, Hara M, Iwakami N, Fujii M, Iwakami S and Takahashi K. The impact of initial symptoms on survival time in advanced non-small cell lung cancer. *Ann Oncol* (2016) 27 (suppl_9): mdw594.043
19. Hara M, Iwakami S, Watanabe D, Toriya Y, Iwakami N, Miyawaki T, Yoshida T, Sumiyoshi I, Takahashi K. Early intervention of pulmonary rehabilitation for elderly patients with acute respiratory failure or exacerbation of chronic respiratory disease; a retrospective analysis. *Respirology* (2017) 22 (suppl.3): 88–278

田中利隆

20. Sukegawa S, Yamamoto Y, Sato K, Tanaka S, Tanaka T, Mitsuhashi N. Estimation of the prognosis for fetal critical aortic stenosis with atrium area and the Doppler patterns in pulmonary veins. ISUOG 27th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology. Vienna Austria, September 16–19, 2017

山本拓史

21. Yamamoto T Current Status of the Endoscopic Hematoma Evacuation and Surgical Innovations for the Intra-Cerebral Hemorrhage, European association of neurosurgical societies, Brussels, 22th Oct, 2018
22. Yamamoto T The Endoscopic hematoma evacuation for the intra-ventricular hemorrhage, 2018 China-Japan Cerebrovascular Disease Forum, Tokyo, 1st April, 2018
23. Yamamoto T. Surgical techniques for aneurysm. 6th Tokyo Shanghai Friendship Neurosurgical Forum, 東京・山梨, Mar. 29, 2019
24. Yamamoto T. Current Status of the endoscopic hematoma evacuation and surgical innovations for the intracerebral hemorrhage. WICH2019, Granada, Spain, May 21, 2019

神田章男、諸橋達

25. Maeda H, Maeda M, Iwase H, Morohashi I, Kanda A, Kaneko K, Kakinuma Y, Takei Y, Mitsui K. Investigation of Optimal Pressure and Evaluation of Tourniquet Avascularization to Prevent Motor complication –Development of a new Device. 38th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Aug., 16–20, 2016. (Florida, USA)

諏訪哲

26. Shitara J, Wada H, Iso T, Sonoda T, Kunimoto M, Murata A, Endo H, Tsuboi S, Ogita M, Suwa S. A Case of Recurrent SFA Stent Occlusion. C3 2015(Complex Cardiovascular Catheter Therapeutics: Advanced Endovascular and Coronary Intervention Global Summit) Orlando, FL, USA 6.14–18, 2015
27. Wada H, Katsumi K, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Gender differences in 5-year clinical outcomes following percutaneous coronary intervention. ESC Congress 2015, 29 August–02 September 2015, London
28. Ebina H, Suwa S, Mori M, Tanaka N, Hokama Y, Fukutomi M, Hashiba K, Fukuhara R, Ueki Y, Matsuura H, Matoba T, Tachibana E, Yonemoto N, Nagao K. Impact of onset to balloon time and short-term mortality in patients with cardiogenic shock complicating acute coronary syndrome treated with primary percutaneous coronary intervention: from JCS Shock Registry. American College of Cardiology 65th Annual Scientific Session, Chicago, USA, April 2–April 4, 2016

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

29. Shitara J, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Association between sustained increase of c-reactive protein (CRP) and long-term mortality in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention European Society of Cardiology 2016, Rome Italy, 2016/8/30
30. Shitar J, Tsuboi S, Miyauchi K, Ogita M, Kasai T, Dohi T, Konishi H, Naito R, Doi S, Wada H, Endo H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Impact of red cell distribution width on long-term mortality in patients treated with statin after percutaneous coronary intervention American Heart Association's Scientific Sessions 2016, New Orleans, USA, 2016/11/14
31. Takahashi N, Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Combined Serum Albumin and C-reactive Protein Levels Predict Long-term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease after a First Percutaneous Coronary Intervention American College of Cardiology's 66th Annual Scientific Session, March 17-19, 2017, Washington, DC, USA.
32. Sonoda T, Ogita M, Matoba T, Mohri M, Tanaka N, Hokama Y, Fukutomi M, Hashiba K, Fukuhara R, Ueki Y, Matsuura H, Suwa S, Tachibana E, Yonemoto N, Nagao K. Association Between Presentation Time and Short-Term Mortality in Patients With Cardiogenic Shock Complicating Acute Coronary Syndrome: From JCS Shock Registry. American College of Cardiology's 66th Annual Scientific Session, March 17-19, 2017, Washington, DC, USA.
33. T. Sonoda, H. Wada, T. Dohi, K. Miyauchi, S. Doi, H. Konishi, R. Naito, S. Tsuboi, M. Ogita, T. Kasai, S. Okazaki, K. Isoda, S. Suwa, H. Daida. Preprocedural neutrophil-lymphocyte ratio and long-term cardiac outcomes after percutaneous coronary intervention for stable coronary artery disease. ESC Congress 2017, 27 Aug, 2017, Barcelona.
34. Takahashi N, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, H. Bujo, Daida H. Impact of LR11 as residual risk on long term clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with statin after first percutaneous coronary intervention. ESC Congress 2017, 29 Aug, 2017, Barcelona.
35. Ebina H, Ogita M, Suwa S, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Mano T, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Oshima S, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, and Ishihara M on behalf of J-MINUET investigators. Off-hours presentation does not affect long-term clinical outcomes of Japanese patients with acute myocardial infarction: J-MINUET Substudy AHA Scientific Sessions 2017, Anaheim, CA, November 12, 2017
36. Takeuchi M, Wada H, Dohi T, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Miyauchi K, Daida H. Relationship Between the Prognostic Nutritional Index and Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Stable Coronary Artery Disease American College of Cardiology 67th Annual Scientific Sessions & Expo, March 12, 2018 Orlando, USA.
37. Takahashi N, Ogita M, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Mano T, Hirata K, Tanabe K, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M. Prognostic Impact of B-Type Natriuretic Peptid on Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Non-ST-Segment Elevation Acute Myocardial Infarction Without Creatine Kinase Elevation: Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- Universal Definition(J-MINUET) Substudy American College of Cardiology 67th Annual Scientific Sessions & Expo, March 12, 2018 Orlando, USA.
38. Takahashi N, Ogita M, Sonoda T, Tsuboi S, Suwa S. Successful rotational atherectomy for an angulated calcified lesion in an anomalous right coronary artery using the mother and child technique. EUROPCR 2018・Paris,France・2018/5/22
 39. Iso T, Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Tsuboi S, Ogita M, Iwata H, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Mean platelet volume and long-term cardiovascular outcomes in patients with stable coronary artery disease. American Heart Association's Scientific Sessions 2018・Chicago・2018/11/10
 40. Wada H, Ogita M, Suwa S, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita Y, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Mano T, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Oshima S, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M. Guideline adherence and long-term clinical outcomes in patients with acute myocardial infarction: Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET) Substudy. American Heart Association's Scientific Sessions 2018・Chicago・2018/11/10
 41. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Takeuchi M, Endo H, Ogita M, Suwa S, Daida H. Combined effect of nutritional status on long-term outcomes in patients with coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention. American Heart Association's Scientific Sessions 2018・Chicago・2018/11/11
 42. Takahashi N, Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Takeuchi M, Endo H, Ogita M, Suwa S, Daida H. Pre-Procedural Neutrophil to Lymphocyte Ratio on Long-Term Clinical Outcomes in Coronary Artery Disease Patients With Low High-Sensitivity C-Reactive Protein Level. American Heart Association's Scientific Sessions 2018・Chicago・2018/11/11
 43. Takeuchi M, Ogita M, Tsuboi S, Takahashi N, Sonoda T, Wada H, Suwa S, Daida H. Impact of Living Alone on Long-Term Mortality in Patients With Acute Coronary Syndrome Treated With Percutaneous Coronary Intervention. American Heart Association's Scientific Sessions 2018・Chicago・2018/11/11
 44. Nishio R, Takahashi N, Ogita M, Yasuda K, Takeuchi M, Iso T, Sonoda T, Yatsu S, Wada H, Shiozawa T, Tsuboi S, Suwa S, Daida H. Clinical characteristics and long-term outcomes in patients with acute coronary syndromeduring the trip European Society of Cardiology Acute Cardiovascular Care 2019・Malaga-Spain ・2019/3/2-4
 45. Wada H, Ogita M, Suwa S, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Mano T, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Oshima S, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M. Impact of myocardial infarction on long-term mortality in a contemporary Japanese cohort of patients with acute myocardial infarction: Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET) Substudy European Society of Cardiology Acute Cardiovascular Care 2019・Malaga-Spain ・2019/3/2-4
 46. Nishio R, Wada H, Ota H, Yasuda K, Takeuchi M, Takahashi N, Sonoda T, Yatsu S, Ogita M, Suwa S. Successful endovascular intervention for symptomatic CTO of left subclavian artery due to aortic dissection EuroPCR 2019・Paris-France・2019/5/21-24
 47. Yasuda K, Ogita M, Dohi T, Takahashi D, Nozaki Y, Nishio R, Takeuchi M, Sonoda T, Yatsu S, Jun S, Wada H,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- Shiozawa T, Suwa S. Serial OCT findings in young adult ACS treated with antithrombotic therapy without stenting Euro PCR 2019・pariz-France・2019/5/21-24
48. Takahashi N, Ogita M, Tsuboi S, Nishio R, Yasuda K, Tkeudhi M, Iso T, Sonoda T, Yatsu S, Wada H, Shiozawa T, Dohi T, Yanagawa Y, Suwa S, Daida H. Clinical characteristics and long-term outcom in patients with helicopter-transaorted acute coronary syndrome after primary percutaneous coronary intervention ESC Congress 2019 together with World Congress of Cardioligy・Paris-France・2019/8/31-9/4
49. Takeuchi M, Ogita M, Tsuboi S,Nishio R, Takahashi N, Iso T, Sonoda T, Yatsu S, Wada H, Dohi T, Suwa S, Daida H. Impact of a prior history of stroke on long-term cardiac mortality in patients with acute coronary syndrome treated with percutaneous coronary intervention ESC Congress 2019 together with World Congress of Cardioligy・Paris-France・2019/8/31-9/4
50. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Nishio R, Yasuda K, Takeuchi M, Takahashi N, Ogita M, Suwa S. Red Cell DistributionWidth Predicts Long-term Cardiovascular Outcomes in Patients With Stable Coronary Artery Disease American Heart Association Scientific Sessions・Philadelphia-Pennsylvania・2019/11/16-18
51. Wada H, Ogita M, Suwa S, Nishio R, Yasuda K, Takeuchi M, Yatsu S, Miyauchi K, Daida H. Percutaneous Coronary Intervention To Unprotected Left Main Trunk Lesion in Patients With Acute Coronary Syndrome American Heart Association Scientific Sessions・Philadelphia-Pennsylvania・2019/11/16-18
52. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Takahashi N, Endo H, Kato Y, Ogita M, Okai I, Iwata H, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H. Impact Of Serum1.5 annydro-d-giucitol Level On The Prediction Of Severe Coronary Artery Calcification An intravascular Ultrasound Study American Heart Association Scientific Sessions・Philadelphia-Pennsylvania・2019/11/16-18
53. Wada H, Ogita M, Suwa S, Nakano K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Mano T, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K,Uemura S, Toubaru T, Saku K, Oshima S, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M. Long-term outcomes in acute myocardial infarction patients with cardiogenic shock: a landmark sub-analysis from Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET) registry American Heart Association Scientific Sessions・Philadelphia-Pennsylvania・2019/11/16-18
- 長谷川敏男**
54. Kim J, Hasegawa T, Maeda Y, Hirasawa Y, Tsuchihashi H, Ogawa T, Komiyama E, Nagasaka A, Miura N, Ikeda S. Analysis of finger vein variety in patients with various diseases using vein authentication technology. The 5th Eastern Asia Dermatology Conference, June 20, 2018, Kunming, China
55. Kim J, Hasegawa T, Maeda Y, Wada A, Ikeda S. The potential of adipose-derived stem cells for the treatment of recessive dystrophic epidermolysis bullosa. International Investigative Dermatology 2018, May 16, 2018, Orlando, FL
56. Yamanashi H, Boeglin WE, Morisseau CM, Davis RW, Sulikowski GA, Hammock BD, Brash AR, Hasegawa T, Ikeda S. Hypothesis of a role for EH3 and she in skin barrier function. Japan-Singapore International Skin Conference 2019, Singapore, 2019年4月10日
- 佐藤浩一、折田創、前川博**
57. Orita H. The efficacy of Gasdermin gene family for tumor maker in colorectal cancer Biomarkers& Clinical Research 2017, Baltimore USA, 18th-20th Oct,2017
58. Yamamoto R, Munakata S, Kushida T, Orita H, Sakurada M, Maekawa H, Sato K. Long-Term Outcomes of

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

Colorectal Cancer Patients with and without Malignant Large-Bowel Obstruction. DDW. June 2- 5, 2018. Walter E. Washington Convention Center. Washington, DC.

59. Ito T, Saeki H, Guo X, Sysa-Shah P, Coulter J, Tamashiro K, Orita H, Sato K, Hulbert A, Rodgers K, Lee B, Garner M, Fackche N, Mei Y, Brock MV, Gabrielson K. Prenatal Stress Enhancement of NNK-Induced Lung Tumors in AJ Mouse Offspring. ASC 14th 2019.2.7 Houston, USA
60. Kohira Y, Lee HC, Ishimine M, Orita H, Kobayashi T, Sato K, Yokomizo T, Fukunaga T. The relationship between TP53 gene status and carboxylesterase 2 expression in human gastric cancer, 2019 AACR Annual Meeting March 31
61. Ito T, Sugimoto K, Orita H, Maeda M, Moro H, Ushijima T, Katai H, Wada R, Sakamoto K, Sato K, Brock MV. DNA Methylation Genome-Wide Analysis in Remnant and Primary Gastric Cancers. AACR2019, 2019.3.31 Atlanta, Georgia, USA
62. Ishimine M, Lee HC, Nakaoka H, Orita H, Kobayashi T, Inoue I, Sato K, Yokomizo T. Regulatory mechanism of carboxylesterase 2 expression and its role in human colorectal cancer 2019 AACR Annual Meeting April 2

寒竹正人

63. Kantake M Postnatal relative adrenal insufficiency results in methylation of the glucocorticoid receptor gene in preterm infants. 28th World Congress on Neonatology & Diagnosis. Amsterdam. Netherland 2018. 12. 6.
64. Baba Y, Yamada H, Yoneyama T, Yokokura T, Yamazaki S, Inage E, Mori M, Ohtsuka Y, Kantake M, Shimizu T. Biological effect of IL-33R/ST2 in atopic asthmatic children; serum IL-33 changes by administration of omalizumab, The 74th Annual Meeting of American Academy of Allergy Asthma and Immunology, Orland, FL, United States, 2018/3/4

土至田宏

65. Toshida H, Ohta T, Suto C, Shinji K, Karasawa M, Murakami A. Effect of 2% rebamipide ophthalmic suspension in dry eye rabbit model. 視覚と眼科学研究協会会議 (ARVO), シアトル(米国), 2016年4月30日~5月5日

松崎有修

66. Matsuzaki Y, Ichikawa K, Ohta T, Rana J. New Multipurpose Chopper for Cataract Surgery. 米国白内障・屈折矯正手術学会 (ASCRS), Film Festival. ワシントン D.C.(米国), 2018年4月16日.
67. Matsuzaki Y, Ohta T, Rana J, Murakami A. New Multipurpose Chopper for Cataract Surgery. アジア太平洋白内障屈折矯正手術学会(APACRS), チェンナイ(タイ), 2018年7月21日.

【国内学会】

柳川洋一、大坂裕通、大森一彦、石川浩平、三島健太郎、大出靖将

68. 柳川洋一、石川浩平、大森一彦、鈴木浩史、佐藤直樹、八木達郎、清田松巨、中村知広、小日向麻里子、大坂裕通、大出靖将、窪田敦之、櫻庭景植. ボディーボード遊戯者に対するアンケート調査. 日本脳神経外傷学会プログラム・抄録集 2015;38回:122.
69. 鷺巣佳奈、下山勝仁、堀口愛、大森一彦、柳川洋一. CTで判明した環椎後頭関節脱臼の一例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2015;36:128.
70. 柳川洋一、大森一彦、神田章男、諸橋達、櫻田睦、石橋基弘、山本拓史、高橋善明、村松聡. 災害と脳神経外科 平成26年8月31日に実施した静岡県の災害訓練概要. Neurosurgical Emergency 2015; 19:327.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

71. 石川浩平、柳川洋一、大森一彦、櫻田睦、大坂裕通、小日向麻里子、三島健太郎、大出靖将、最上敦彦、大林治、山本拓史. 院内外の医療連携により重症外傷を救命する ドクヘリ医療スタッフデリバリーシステム. 日本外傷学会雑誌 2015;29:311
72. 柳川洋一、柳川良子、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、小日向麻里子、三島健太郎、大出靖将. 看護大学生 1 年生に対する心肺蘇生術講習(ICLS)が卒業後の心肺蘇生に関する知識水準にもたらしたもの. 日本臨床救急医学会雑誌 2015;18:444.
73. 今村友典、宮本大輔、村野光和、中野貴明、平野雅巳、中山祐介、伊藤敏孝、柳川洋一. みなと救急外来初期診療コースは他施設でも機能するか? 日本臨床救急医学会雑誌 2015;18:441.
74. 石川浩平、柳川洋一、大出靖将、大坂裕通、大森一彦、三島健太郎、小日向麻里子. 妊娠中にマムシに咬まれた一例. 日本臨床救急医学会雑誌 2015;18:398.
75. 大出靖将、小日向麻里子、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一. 来院時心肺機能停止患者に対する血中 CO-Hb 濃度測定の意義. 日本臨床救急医学会雑誌 2015;18:365.
76. 青木弘道、飯嶋将司、吉崎智恵美、三浦直也、佐藤俊樹、関知子、岩瀬史明、柳川洋一、中川儀英、猪口貞樹. ドクターヘリの運用と展開 神奈川県ドクターヘリの隣接県との過去の連携と 3 県連携体制後の課題と展望. 日本臨床救急医学会雑誌 2015;18:263.
77. 浅田優美、岩崎雄介、伊藤里恵、杉江謙、阿久津守、柳川洋一、齊藤貢一. ヘッドスペース-固相マイクロ抽出 GC/MS を用いた脱法ハーブ中合成カンナビノイドの迅速分析. 日本薬学会年会要旨集 2015;135 年会:305.
78. 藤澤美希、小鍛冶好恵、岩崎雄介、伊藤里恵、杉江健一、阿久津守、柳川洋一、齊藤貢一. LC/TOF-MS による脱法ハーブ中合成カンナビノイドの一斉分析および保持時間の線形予測解析. 日本薬学会年会要旨集 2015;135 年会:302.
79. 柳川洋一、日域佳、小日向麻里子、吉澤俊彦、小畑宏介、石川浩平、大坂裕通、大出靖将. Post Cardiac Arrest Syndrome 心肺機能停止蘇生術後の抜管困難症となる要因の検討. 日本集中治療医学会雑誌 2016;23:S271.
80. 石川浩平、柳川洋一、大出靖将、大坂裕通、吉澤俊彦、日域佳、小日向麻里子. 過疎地域における多数傷病者発生時の分散搬送の重要性 ドクターヘリを複数機使用した現場活動. Japanese Journal of Disaster Medicine 2016; 20:571.
81. 吉澤俊彦、日域佳、竹内郁人、小畑宏介、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、大出靖将、柳川洋一. 特発性大量心嚢液貯留を認めた一例. 第 66 回日本救急医学会関東地方会学術集会 2016
82. 大坂裕通、日域佳、武田純、小日向麻里子、三島健太郎、石川浩平、大出靖将、柳川洋一. アルティメット競技中に脊髄震盪を呈した一例. 第 66 回日本救急医学会関東地方会学術集会 2016
83. 松田浩成、大坂裕通、日域佳、吉澤俊彦、小日向麻里子、石川浩平、大出靖将、内藤俊夫、柳川洋一. 減圧症における超音波検査の有用性. 日本病院総合診療医学会雑誌 2016;10:134.
84. 三宅喬人、吉澤俊彦、近藤彰彦、柳川洋一. 背部からの鈍的外傷から大動脈損傷を来し CPA となった一症例. 日本外傷学会雑誌 2016;30:273.
85. 吉澤俊彦、日域佳、小日向麻里子、石川浩平、大坂裕通、大出靖将、柳川洋一. 特発性大量心嚢液貯留を認めた一例. 第 19 回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 2016; 19:111-83.
86. 柳川洋一、大坂裕通、吉澤俊彦、日域佳、石川浩平、大森一彦、大出靖将. 非典型症状が主訴であった循環器系急性疾患. 第 7 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集 p302. 2016
87. 日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、大出靖将、大熊泰之、柳川洋一. 転倒外傷を契機に筋強直性ジストロフィーの診断がなされた一例. 第 30 回日本神経救急学会総会学術集会. シンポジウム 1

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

「Common disease に潜む神経救急」 2016

88. 柳川洋一、日域佳、竹内郁人、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、斎藤頁一。危険ドラッグ使用者の診断に当たっての問題点。第 28 回日本中毒学会総会抄録集 P199. 2016
89. 石川浩平、大坂裕通、大森一彦、吉澤俊彦、日域佳、柳川洋一。交通外傷後に遅発性小腸損傷を発症し、術後胆嚢炎を併発した一例。第 31 回救命救急医療学会。2016
90. 柳川洋一、佐藤浩一、三橋直樹、志賀清悟、小野憲、小池啓司、平井貴、露木克好、菊地豊。東京オリンピック競技開催決定後の静岡県東部での取り組み。第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会 抄録集 p421 2016
91. 大坂裕通、日域佳、野澤陽子、森島克明、川口亮、石橋基弘、柳川洋一、三橋直樹。静岡県救護班第 5 陣として Aso Disaster Recovery Organization 活動拠点本部の統括業務。第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p372. 2016
92. 日域佳、吉澤俊彦、大森一彦、石川浩平、大坂裕通、大出靖将、柳川洋一。開渠側溝に潜む危険。第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p587. 2016
93. 三宅喬人、大林治、設楽準、諏訪哲、磯田菊生、大坂裕通、柳川洋一。一過性脳虚血発作と診断された深部静脈血栓症を伴う肺血栓塞栓症の一例。第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p591. 2016
94. 石川浩平、柳川洋一、大坂裕通、大森一彦、吉澤俊彦、日域佳。病院前診療において外傷性横隔膜損傷は診断可能であるか否か。第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p606 2016
95. 大坂裕通、石川浩平、大森一彦、大出靖将、柳川洋一。オリンピック開催地・サイクルスポーツセンターでの外傷対応- 静岡県東部ドクターヘリ- 第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p607. 2016
96. 竹内郁人、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、大出靖、柳川洋一。アルコール関連疾患としてのウェルニッケ脳症と特発性食道破裂を合併した 1 例。第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p397. 2016
97. 大坂裕通、石川浩平、大森一彦、大出靖将、柳川洋一。伊豆半島における内因性疾患の活動状況とドクターヘリ有効活用。第 23 回日本航空医療学会総会抄録集 p149. 2016
98. 石川浩平、柳川洋一、大坂裕通、大森一彦、吉澤俊彦、日域佳。当基地病院のフライトドクター養成までの取り組みと課題。第 23 回日本航空医療学会総会抄録集 p114. 2016
99. 大坂裕通、石川浩平、大森一彦、大出靖将、柳川洋一。オリンピック開催場所とサイクルスポーツセンターに関するドクターヘリの活用。第 23 回日本航空医療学会総会抄録集 p149. 2016
100. 大森一彦、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、市之川英臣、柳川洋一。継続する血胸の原因が結果的に左心耳損傷であった 1 例。第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p82 2016
101. 長澤宏樹、大森一彦、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一。早期治療介入と円滑な組織間連携にて救命した日本刀による胸部刺創の 1 例。第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p59 2016
102. 鶴上浩規、大森一彦、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一。CT 画像が甲状腺クリーゼ診断の一助となった症例。第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p25 2016
103. 堂垂大志、大森一彦、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一。巨人症による胸郭変形により窒息症状を呈した一例。第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p58 2016
104. 三好悠斗、大森一彦、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一。Ⅲ度熱中症による急性肝不全と回復期、再燃性横紋筋融解症を認め遺伝子解析まで至った症例。第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p26 2016
105. 小笠大起、大森一彦、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一。介達外力で脾臓損傷を合併し

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- た一例. 第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集, p24 2016
106. 柳川洋一. 災害時における静岡県東部の現状と課題. 第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集, p19 2016
107. 柳川洋一. 37 歳・男性. 咽頭痛で 119 コール。どう対処する? 第 33 回静岡県東部循環器救急医学会. 平成 28 年 1 月 18 日
108. 日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一. 開渠側溝に潜む危険. 日本脳神経外科救急学会雑誌 2017;21 (3): 315.
109. 柳川洋一、日域佳、竹内郁人、吉澤俊彦、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、佐藤潤、松本英之、土屋勝. 日本集団災害医学会雑誌 2017; 21(3): 462.
110. 石川浩平、竹内郁人、日域佳、吉澤俊彦、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一. 遷延するショックの原因として後縦隔血腫による心外閉塞性因子が考えられた多発性外傷例. 日本集中治療医学会 2017; 24: 132.
111. 大森一彦、竹内郁人、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一. パラグライダー墜落による外傷性大動脈損傷を含めた多発外傷の 1 例. 日本集中治療医学会 2017; 24: 147.
112. 日域桂、柳川洋一、吉澤俊彦、石川浩平、竹内郁人、大森一彦、大坂裕通、作田梨奈、吉池高志. ステロイドパルス療法と免疫グロブリン大量静注療法が著効した重症薬疹の一例. 日本集中治療医学会 2017; 24: 168
113. 竹内郁人、日域佳、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、大出靖将、中尾保秋、山本拓史、柳川洋一. 熱傷を主訴に来院したくも膜下出血の 1 例. 日本臨床救急医学会雑誌 2017;20(2):424
114. 佐々木洋介、大森一彦、磯隆史、加藤英、長澤宏樹、竹内郁人、日域佳、大坂裕通、石川浩平、柳川洋一. 大動脈解離で突然死した 13 歳男児の一例. 日本臨床救急医学会雑誌 2017;20(2):394.
115. 柳川洋一、石川浩平、竹内郁人、日域佳、吉澤俊彦、大森一彦、大坂裕通. 遷延するショックの原因として後縦隔血腫による心外閉塞性因子が考えられた多発外傷例. 日本集中治療医学会雑誌 2017;24:S82-2.
116. 長澤宏樹、大森一彦、竹内郁人、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一. 鹿との遭遇で受傷した自動車交通外傷の一例. 日本外傷学会雑誌 2017;31(2):279.
117. 柳川洋一、長澤宏樹、竹内郁人、日域佳、近藤彰彦、磯隆史、石川浩平、大坂裕通、大森一彦. 外傷画像診断におけるピットフォール Traumatic vacuum phenomenon. 日本外傷学会雑誌 2017;31(2):243.
118. 柳川洋一、石川浩平、長澤宏樹、竹内郁人、日域佳、近藤彰彦、大坂裕通、大森一彦. 災害・集団発生中毒 CBRNE を疑われた事案に関して、ドクヘリは患者搬送に関わるべきなのか? 日本中毒学会、中毒研究 2017;30(2):169.
119. 長澤宏樹、近藤彰彦、竹内郁人、日域佳、磯隆史、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一. 早期ドレナージが診断、治療に有用であった Nocardia 感染症の一例. 第 20 回日本救急医学会中部地方会プログラム p20. 2017
120. 竹内郁人、長澤宏樹、高橋良介、日域佳、磯隆史、近藤彰彦、大森一彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一. 一口の有機リン系農薬の誤飲により CH-EIU/L まで低下した一例. 第 20 回日本救急医学会中部地方会プログラム P21. 2017
121. 柳川洋一、長澤宏樹、竹内郁人、日域佳、近藤彰彦、大坂裕通、石川浩平、大森一彦. 救急医療人の確保と育成: 医療過疎地域にあっても、都心部では学ぶことのできない幅広く濃厚な臨床研修機会を提供する. 第 20 回日本救急医学会中部地方会プログラム P15 シンポジスト 2017
122. 石川浩平、竹内郁人、日域佳、近藤彰彦、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一. “サウナ”は重症熱中症となる重要なキーワードとなり得るか. 日本救急医学会雑誌 P 116 2017
123. 柳川洋一、長澤宏樹、竹内郁人、高橋良介、日域佳、磯隆史、近藤彰彦、大坂裕通、石川浩平、大森一彦.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- FAST:high echoic(avascular)area を探せ.日本救急医学会雑誌 2017; 28 (9): 503.
- 124.長澤宏樹、石川浩平、竹内郁人、日域佳、高橋良介、磯隆史、近藤彰彦、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一、パラグライダー中の高所墜落から大動脈損傷を負い、救命し得なかった一例. 日本救急医学会雑誌 2017; 28 (9): 631.
- 125.竹内郁人、石川浩平、長澤宏樹、日域佳、近藤彰彦、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一。縦隔気腫から遅発性に気胸が生じた頸部刺創の一例. 日本救急医学会雑誌 2017; 28 (9): 688.
- 126.近藤彰彦、高橋良介、竹内郁人、日域佳、石川浩平、大坂裕通、大森一彦、柳川洋一。搬送時や入院時の体勢に留意すべき reverse chance fracture の一例. 日本救急医学会雑誌 2017; 28 (9): 724.
- 127.杉山由希乃、鈴木めぐみ、鬼塚味、田上佑一、中村沙織、森島克明、松尾正人、多田真也、石倉美穂子、勝間田敏宏、日域佳、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一。富士山登山中に心肺停止状態から救命できた事例. 日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 225.
- 128.大坂裕通、大森一彦、石川浩平、近藤彰彦、柳川洋一。静岡県東部における消防防災ヘリからドクターヘリの連携.日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 242.
- 129.石川浩平、竹内郁人、日域佳、近藤彰彦、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一。有機化学物質に暴露された患者のドクターヘリ搬送は是か非か. 日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 189.
- 130.大森一彦、竹内郁人、日域佳、磯隆史、近藤彰彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一。心肺停止患者に対するドクターヘリでの対応の検討. 日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 172.
- 131.近藤彰彦、高橋良介、竹内郁人、日域佳、石川浩平、大坂裕通、大森一彦、柳川洋一。ドクターヘリ診療における EFAST の活用についての検討. 日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 117.
- 132.大森一彦、竹内郁人、日域佳、近藤彰彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一。ドクターヘリはへき地救急医療にとって有益のみ与えるか. 第 21 回へき地・離島救急医療学会 2017
- 133.大森一彦、石川浩平、長澤宏樹、竹内郁人、間所俊介、日域佳、近藤彰彦、大坂裕通、柳川洋一。「診療！・教育！・研究！」 日本航空医療学会雑誌 2018; 19(2):214。 第 25 回日本航空医療学会総会、川崎祐宣記念講堂 川崎医療福祉大学、2018.11.3
- 134.大森一彦、山田法顕、高橋治郎、森浩一。 運航と診療の質を保っていくための教育、研修システムの構築. 日本航空医療学会雑誌 2018;19(2):71。 第 25 回日本航空医療学会総会、川崎祐宣記念講堂 川崎医療福祉大学、2018.11.3
- 135.石川浩平、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一。安全かつ円滑な航空医療に向けた多職種ヘリ連携の現状課題と展望. 日本航空医療学会雑誌 2018;19(2):181。 第 25 回日本航空医療学会総会、川崎祐宣記念講堂 川崎医療福祉大学、2018.11.4
- 136.日域佳、大森一彦、多田真也、長澤宏樹、竹内郁人、間所俊介、近藤彰彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一。隣県ドクターヘリと連携対応を行った熱中症多数傷病の一例. 日本航空医療学会雑誌 2018;19(2):180。 第 25 回日本航空医療学会総会、川崎祐宣記念講堂 川崎医療福祉大学、2018.11.4
- 137.大坂裕通、大森一彦、石川浩平、柳川洋一。ランデブーポイントから患者接触と病院到着に時間を要した事案. 日本航空医療学会雑誌 2018;19(2):99。 第 25 回日本航空医療学会総会、川崎祐宣記念講堂 川崎医療福祉大学、2018.11.3
- 138.近藤彰彦、長澤宏樹、竹内郁人、間所俊介、大森一彦、石川浩平、大坂裕通、杉田学、柳川洋一。ドクターヘリの安全運航と教育-今後の進むべき道を模索する- 安全な現場はあるのか？ 爆発事故事案を通じ安全管理を考える. 日本航空医療学会雑誌 2018;19(2):69。 第 25 回日本航空医療学会総会、川崎祐宣記念講堂 川崎医療福祉大学、2018.11.3
- 139.長澤宏樹、大森一彦、竹内郁人、日域佳、近藤彰彦、石川浩平、大坂裕通、伊藤浩嗣、北村惣一郎、杉田

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 学, 柳川洋一. Whole body CT 時代の病院前における骨盤骨折の判断に関する検討. 日本外傷学会雑誌 2018;32(2):321. 第 32 回日本外傷学会総会・学術集会、国立京都国際会館、2018.6.22
140. 石川浩平, 竹内郁人, 日域佳, 近藤彰彦, 大森一彦, 大坂裕通, 柳川洋一. 歯科治療後に頸胸部気腫を合併した妊婦の一例. 日本外傷学会雑誌 2018;32(2):303. 第 32 回日本外傷学会総会・学術集会、国立京都国際会館、2018.6.21
141. 大森一彦, 最上敦彦, 長澤宏樹, 竹内郁人, 日域佳, 近藤彰彦, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一. 重症骨盤骨折を伴う外傷に対するチーム連携の必要性と課題. 日本外傷学会雑誌 2018;32(2):251. 第 32 回日本外傷学会総会・学術集会、国立京都国際会館、2018.6.22
142. 柳川洋一, 大森一彦, 長澤宏樹, 竹内郁人, 日域佳, 近藤彰彦, 大坂裕通, 石川浩平. ドクヘリ搬送を行った中毒患者の検討. 中毒研究 2018;31(2):239. 第 40 回日本中毒学会総会・学術集会、グランキューブ大阪、2018.7.21
143. 竹内郁人, 長澤宏樹, 日域佳, 近藤彰彦, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 柳川洋一. マムシ咬傷における C-reactive protein の臨床的意義. 中毒研究 2018;31(2):232. 第 40 回日本中毒学会総会・学術集会、グランキューブ大阪、2018.7.21
144. 近藤彰彦, 大森一彦, 長澤宏樹, 竹内郁人, 高橋良介, 日域佳, 磯隆史, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一. タコツボ心筋症を合併したカーバメート中毒症例の一例. 中毒研究 2018;31(2):215. 第 40 回日本中毒学会総会・学術集会、グランキューブ大阪、2018.7.20
145. 柳川洋一, 大坂裕通, 長澤宏樹, 竹内郁人, 日域佳, 石川浩平, 大森一彦, 諏訪哲. ドクターヘリにより現場から搬送した急性冠症候群の転帰の検討. 日本臨床救急医学会雑誌 2018;21(2):365. 第 21 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、名古屋国際会議場、2018.6.2
146. 近藤彰彦, 日域佳, 竹内郁人, 長澤宏樹, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一. マスギャザリング・テロ対応 荒川化学工場爆発事故の経験を活かしテロ対応を考える. 日本臨床救急医学会雑誌 2018;21(2):226. 第 21 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、名古屋国際会議場、2018.6.1
147. 柳川洋一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 日域佳, 近藤彰彦, 大坂裕通, 石川浩平, 大森一彦. 輸血を必要とした外傷症例の来院時 FDP 値の臨床的意義. 日本集中治療医学会雑誌 2018;25:079-8. 第 45 回日本集中治療医学会学術集会、幕張メッセ、2018.2.23
148. 柳川洋一, 大森一彦, 岩崎浩司, 北村惣一郎. 自家用車で来院した外傷性頭蓋内出血例の検討. 日本脳神経外傷学会プログラム・抄録集 41 回 2018;68. 第 41 回日本脳神経外傷学会、東京ドームホテル、2018.2.23
149. 竹内郁人, 柳川洋一, 高橋良介, 大森一彦, 長谷川延彦, 日域佳, 近藤彰彦, 大坂裕通, 石川浩平, 糸井陽. 脊椎前方の traumatic vacuum phenomenon 脊椎伸展外傷診断の手掛かり. Neurosurgical Emergency 2018;22(3):318. 第 23 回日本脳神経外科救急学会、ホテル日航奈良、2018.2.3
150. 長澤宏樹, 柳川洋一, 竹内郁人, 日域佳, 近藤彰彦, 石川浩平, 大坂裕通, 大森一彦, 福長徹. 馬蹴りによる肝損傷の検討. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2018; 39(1):131. 第 68 回日本救急医学会関東地方会学術集会、東京大学、2018.1.27
151. 竹内郁人, 長澤宏樹, 日域佳, 近藤彰彦, 大坂裕通, 石川浩平, 大森一彦, 柳川洋一. ヘリウムガス吸引により死亡した一例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2018;39(1):120. 第 68 回日本救急医学会関東地方会学術集会、東京大学、2018.1.27
152. 柳川洋一. 災害医療の問題点と近未来対応. 第 38 回脳神経外科コンgresプログラム集 p31 第 38 回脳神経外科コンgres総会、大坂国際会議場、2018.5.20
153. 柳川洋一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 間所俊介, 日域佳, 近藤彰彦, 大坂裕通, 石川浩平, 大森一彦. 医療

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 過疎地方だからこそ都心では学ぶことのできない幅広く濃厚な臨床研修機会を提供する 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会 p654、パシフィコ横浜、2018.11.21
154. 石川浩平, 長澤宏樹, 竹内郁人, 間所俊介, 大森一彦, 大坂裕通, 柳川洋一. ドクターヘリ補完事業としての当院ドクターカー運用の現状と展望 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会 p452、パシフィコ横浜、2018.11.19
155. 大森一彦, 石川浩平, 長澤宏樹, 竹内郁人, 間所俊介, 近藤彰彦, 大坂裕通, 柳川洋一. ドクターヘリは地域の救急医療にとって有益のみ与えるか 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会 p600、パシフィコ横浜、2018.11.20
156. 竹内郁人, 長澤宏樹, 日域佳, 近藤彰彦, 大坂裕通, 石川浩平, 大森一彦, 柳川洋一. マムシ咬傷の来院時血液検査による重症度予測に関する検討 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会 p475、パシフィコ横浜、2018.11.19
157. 長澤宏樹, 柳川洋一, 竹内郁人, 日域佳, 間所俊介, 園田健人, 大森一彦, 石川浩平, 大坂裕通. 外傷により認められた胃壁内気腫症の 2 例 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会 p544、パシフィコ横浜、2018.11.19
158. 波多江文俊, 大森一彦, 竹内郁人, 日域佳, 近藤彰彦, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一. 館練機に衣類が巻き込まれ外傷性窒息と神経障害をきたした 1 例 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会 p419、パシフィコ横浜、2018.11.20
159. 具志堅翔, 鎌田敏希, 田崎健太郎, 大森一彦, 柳川洋一. 特徴的な画像所見にて診断された、気腫性胆嚢炎の一例 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会 p430、パシフィコ横浜、2018.11.20
160. 柳川洋一、長澤宏樹、竹内郁人、日域佳、間所俊介、石川浩平、大森一彦、大坂裕通. 今一度、ライフラインの問題を考える. 第 24 回日本脳神経外科救急学会、大坂国際会議場、2019.2.2
161. 柳川洋一、吉澤俊彦、長澤宏樹、竹内郁人、日域佳、間所俊介、石川浩平、大森一彦、高橋徳仁、大坂裕道. BMI>80 のsuper super obesity が重症軟部組織感染症後、死亡した一例 第53回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会、東京、2019.1.13
162. 柳川洋一. 蛋白同化ホルモンを用いた神経性食思不振症 第7回静岡プライマリケアフォーラム、静岡、2019.1.19
163. 柳川洋一. Kounis 症候群の一例 静岡県東部地区救命救急医学研修会、2019.1.23
164. 柳川洋一. 胸部外傷を契機に心筋梗塞を合併した症例 第38回静岡県東部循環器救急医学会、2019.2.8
165. 松田紘佳, 竹内郁人, 長澤宏樹, 堂垂大志, 間所俊介, 高橋徳仁, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 柳川洋一. 溺水後に急性腎障害を合併した1 例 第46回日本集中治療学会、京都、2019.3.1
166. 柳川 洋一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 間所 俊介, 日域 佳, 大森 一彦, 石川 浩平, 大坂 裕通. 心停止となった神経性やせ症に蛋白同化ホルモンを用いた集学的治療を行った一例 第46回日本集中治療学会、京都、2019.3.1
167. 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 間所 俊介, 近藤 彰彦, 大森 一彦, 石川 浩平, 大坂 裕通, 柳川 洋一. ミルタザピン過量内服とホウ酸摂取により致命的経過を辿った1例 第46回日本集中治療学会、京都、2019.3.1
168. 石川 浩平, 柳川 洋一, 大坂 裕通, 大森 一彦, 間所 俊介, 竹内 郁人, 長澤 宏樹. 偶発性低体温症、心室細動に対する迅速な PCPS 導入により社会復帰した一例 第 46 回日本集中治療学会、京都、2019.3.1
169. 米本周平, 大森一彦, 柳川洋一. 止血に難渋した大腿血腫の一例 第 46 回日本集中治療学会、京都、2019.3.1
170. 森島 克明, 渡邊 朋徳, 長澤 宏樹, 大森 一彦, 渡邊 大輔, 阿妻 伸幸. 当院の救命救急センターにお

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

けるリハビリテーションの課題とは 第 46 回日本集中治療学会、京都、2019.3.2

171. 阿妻 伸幸, 渡邊 大輔, 鳥屋 優太, 河原 一剛, 宮下 春紀, 森島 克明, 渡邊 朋徳, 長澤 宏樹, 大森 一彦. 当院 ICU における早期気管切開術施行患者に対する早期リハビリテーションの効果 第 46 回日本集中治療学会、京都、2019.3.2
172. 渡邊 大輔, 阿妻 伸幸, 鳥屋 優太, 河原 一剛, 宮下 春紀, 森島 克明, 渡邊 朋徳, 長澤 宏樹, 大森 一彦. 外傷患者における早期リハビリテーションの徹底は離床までの日数を短縮させる 第 46 回日本集中治療学会、京都、2019.3.2
173. 柳川洋一. 脊髄震盪のマネージメント 初期診療医の苦悩 第 42 回日本脳神経外傷学会、兵庫、2019.3.9
174. 柳川洋一. MCLS 開催に当たって、MC 協議会支援の有無が人材育成に与える影響 第 24 回日本災害医学会、米子、2019.3.19
175. 柳川洋一. 病院前診療を強化した重症外傷診療への伊豆半島での挑戦 第 22 回日本臨床救急医学会総会、和歌山、2019.5.31
176. 柳川洋一. 減圧症の勉強会がドクターヘリによる病院前活動に与えた影響 第 54 回日本高気圧環境・潜水医学会総会、東京、2019.6.15
177. 大森一彦. ドクターヘリによる減圧症マネージメントの紹介 第 19 回日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会、静岡、2019.6.22
178. 柳川洋一. 性医薬品中毒患者に対する腹部 CT 撮影報告の検討 第 41 回日本中毒学会総会、埼玉、2019.7.21
179. 大森一彦. 出血性ショックの輸血対応は病院前から始まっている 第 47 回日本救急医学会総会、東京、2019.10.2
180. 柳川洋一. 心停止症例に対する Rapid Ultrasound for Shock and Hypotension(RUSH) study の検討結果 第 47 回日本救急医学会総会、東京、2019.10.2
181. 柳川洋一. 情報伝達システムを用いた医療の展開 第 47 回日本救急医学会総会、東京、2019.10.3
182. 大坂裕通. 静岡県東部の御殿場市小山町地区における救急地域医療の現状と活動報告 第 47 回日本救急医学会総会、東京、2019.10.4
183. 阿部圭希, 谷津翔一郎, 長澤宏樹, 西尾亮太, 安田健太郎, 竹内充裕, 園田健人, 和田英樹, 塩澤知之, 萩田学, 柳川洋一, 諏訪哲. 急性心筋梗塞に合併した左室破裂を救命しえた 1 例 第 22 回日本救急医学会中部地方会・静岡・2019/11/23
184. 大坂裕通. 静岡県東部ドクターヘリにおけるマスギャザリングのリスク検討 第 26 回日本航空医療学会総会、富山、2019.11.8
185. 大森一彦. 運航と診療の質を保っていくための安全教育、研修システムの構築 第 26 回日本航空医療学会総会、富山、2019.11.9
186. 柳川洋一. 静岡県東部ドクターヘリを用いた救急医療の展開 第 22 回日本救急医学会中部地方会、浜松、2019.11.23

小池道明

187. 小池道明, 岩尾憲明, 今田春子, 酒井寛美, 菊地麻里, 土屋明美. 静岡県における大災害時の輸血療法に関するアンケート調査結果 第 70 回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会 名古屋 2018 年 2 月 17 日
188. 土屋明美, 岩尾憲明, 小池道明. 第 65 回日本輸血・細胞治療学会総会 千葉 2017 年 6 月 23 日 当院における新鮮凍結血漿(FFP)の適正使用に向けた取り組み
189. 小池道明. WHO 分類 2016 年改訂版を用いて分類した MDS 症例の 2017 年における単施設での検討 第 80 回日本血液学会学術集会 大阪 2018 年 10 月 14 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

190. 森智代, 小池道明. 出血を繰り返し免疫抑制剤の併用療法が奏功した高インヒビター力価の後天性血友病 A 第 18 回東海地区インヒビターセミナー 名古屋 2018 年 8 月 25 日
191. 今田春子, 小池道明, 岩尾憲明, 酒井寛美, 菊地麻里, 土屋明実. 大災害時の輸血療法(静岡県におけるアンケート調査結果を踏まえて) 第 67 回日本輸血・細胞治療学会総会 ホテル日航熊本 2019 年 5 月 25 日
192. 土屋明実, 岩尾憲明, 重光文子, 白須智奈美, 木内彩花, 片山瑞希, 小池道明. 骨髄異形成症候群(MDS)の経過中に D 抗原の発現が著しく減弱したと考えられる一症例 第 67 回日本輸血・細胞治療学会総会 ホテル日航熊本 2019 年 5 月 25 日
193. 落合友則, 三澤恭平, 落合友則, 岩尾憲明, 小池道明. 内視鏡下胃瘻増設術を契機に自己免疫性第 V 因子欠乏症を発症した大脳皮質基底核変性症 第 41 回日本血栓止血学会 三重県 津 2019 年 6 月 22 日
194. 松田紘佳, 三澤恭平, 落合友則, 岩崎寿代, 岩尾憲明, 小池道明. 形態学的に診断が困難であった AML(M3) variant の症例 第 8 回日本血液学会東海地方会 名古屋 2019 年 6 月 30 日
195. 三澤恭平, 藤岡功, 岩尾憲明, 小松則夫, 小池道明. 非小細胞肺癌に対するニボルマブ加療後に発症した ATL の一例 第 81 回日本血液学会学術集会 東京 2019 年 10 月 12 日

岩神真一郎

196. 岩神直子, 岩神真一郎, 関谷充晃, 藤井充弘, 石渡俊次, 原宗央, 檀原高, 高橋和久. 胸郭内腫瘍に対する超音波ガイド下穿刺の正診率に影響を与えた因子に関する検討. 超音波医学 42 (Suppl): S136, 2015
197. 原宗央, 吉川仁美, 松本直久, 岩神直子, 石渡俊次, 藤井充弘, 岩神真一郎. 外科的生検で診断し, 抗結核薬及び EGFR-TKI 内服を行った結核合併肺腺癌の 1 例. 第 108 回日本呼吸器学会東海地方学会 2015 年 11 月 14 日 じゅうろくプラザ
198. 吉川仁美, 松本直久, 原宗央, 岩神直子, 石渡俊次, 藤井充弘, 岩神真一郎. 高齢者にみられた乳び胸の 1 例. 第 108 回日本呼吸器学会東海地方学会 2015 年 11 月 15 日 じゅうろくプラザ
199. 岩神直子, 中村愛, 宮脇太一, 松本直久, 原宗央, 石渡俊次, 藤井充弘, 岩神真一郎. 過誤腫にクリプトコッカスを併発し肺癌との鑑別が困難であった 1 症例. 第 109 回日本呼吸器学会東海地方学会 2016 年 5 月 21 日 名古屋市中小企業振興会館
200. 松本直久, 中村愛, 宮脇太一, 原宗央, 岩神直子, 藤井充弘, 岩神真一郎. 妊婦に発症した肺炎球菌性膿胸の 1 例. 第 109 回日本呼吸器学会東海地方学会 2016 年 5 月 22 日 名古屋市中小企業振興会館
201. 宮脇太一, 柳下薫寛, 藤井充弘, 中村愛, 松本直久, 高遼, 原宗央, 岩神直子, 石渡俊次, 岩神真一郎, 高橋和久. 通院距離が EGFR チロシキナーゼ阻害薬の治療効果に及ぼす影響. 日本臨床腫瘍学会学術集会 2016 年 7 月 28 日 神戸国際展示場
202. 西牧孝奏, 松本直久, 原宗央, 鈴木宣史, 宮脇太一, 岩神直子, 藤井充弘, 岩神真一郎. 食道狭窄を伴う進行期肺腺癌に対しゲフェチニブの経管投与で症状改善が認められた 2 症例. 第 110 回日本呼吸器学会東海地方学会 2016 年 11 月 5 日 名古屋市中小企業振興会館
203. 宮脇太一, 柳下薫寛, 藤井充弘, 鈴木宣史, 松本直久, 原宗央, 岩神真一郎, 高橋和久. 外来化学療法において通院距離が治療効果に及ぼす影響. 第 57 回日本肺癌学会 2016 年 12 月 21 日 福岡国際会議場
204. 原宗央, 松本直久, 宮脇太一, 岩神直子, 藤井充弘, 岩神真一郎, 高橋和久. 当院における肺炎球菌性肺炎症例の治療反応性に関する後方視的検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 2017 年 4 月 22 日 東京国際フォーラム
205. Miyawaki T, Yagishita S, Suzuki Y, Matsumoto N, Hara M, Iwakami N, Fujii M, Iwakami S, Takahashi K. Cost-effect analyses of bevacizumab and pemetrexed for non-squamous non-small cell lung cancer in

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- clinical practice. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 2017 年 4 月 22 日 東京国際フォーラム
206. 劉左右、塩田智美、杉山愛、和田裕雄、関谷充晃、守尾嘉晃、岩神真一郎、家永浩樹、高橋和久. 右心カテーテルを施行した呼吸器疾患における、動脈血液ガス分析同時測定の意義. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 2017 年 4 月 22 日 東京国際フォーラム
207. 山田朋子、吉田隆司、宮脇太一、原宗央、岩神直子、藤井充弘、岩神真一郎. 抗 IFN- γ 抗体陽性を示した播種性非結核性抗酸菌症の 1 例. 第 111 回日本呼吸器学会東海地方学会 2017 年 5 月 27 日 愛知県がんセンター中央病院 国際医学交流センター
208. 宮脇太一、安部寿美子、住吉一誠、吉田隆司、原宗央、岩神直子、岩神真一郎. 義歯を誤嚥した気道異物の 1 例. 第 53 回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会 2017 年 7 月 1 日 名古屋市立大学病院病棟・中央診療棟 3F 大ホール
209. 宮脇太一、安部寿美子、吉田隆司、住吉一誠、原宗央、岩神直子、岩神真一郎. Gefitinib により奏功が得られた心筋転移を伴う EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌の 1 例. 第 112 回日本呼吸器学会東海地方学会 2017 年 11 月 11 日 三重県医師会館
210. 安部寿美子、吉田隆司、住吉一誠、宮脇太一、岩神直子、原宗央、岩神真一郎. ステロイド漸減中に再燃を認めた Nivolumab による薬剤性肺障害の 1 例. 第 112 回日本呼吸器学会東海地方学会 2017 年 11 月 11 日 三重県医師会館
211. 住吉一誠、原宗央、安部寿美子、吉田隆司、宮脇太一、岩神直子、岩神真一郎、高橋和久. 高齢者に対する気管支肺泡洗浄 (BAL) の安全性と有用性に関する検討. 第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 2018 年 4 月 28 日 リーガロイヤルホテル大阪
212. 嶋田奈緒子、瀬山邦明、兼広裕美子、石渡俊次、守尾嘉晃、島田和典、岩神真一郎、高橋和久. 禁煙に伴う肌の状況変化について. 第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 2018 年 4 月 29 日 リーガロイヤルホテル大阪
213. 原宗央、黒川加奈、宮下洋佑、住吉一誠、宮脇太一、岩神直子、岩神真一郎. 原発性肺癌に対する Pembrolizumab の治療中に胆汁うっ滞型肝障害を示唆する病理組織所見を確認できた 1 例. 第 113 回日本呼吸器学会東海地方学会 2018 年 5 月 26 日 名古屋市中企業振興会館
214. 宮脇太一、黒川加奈、宮下洋祐、住吉一誠、原宗央、岩神直子、岩神真一郎、高橋和久. 進行/再発非小細胞肺癌において転移個数が治療転帰に及ぼす影響. 第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会 2018 年 7 月 20 日 神戸国際会議場、神戸国際展示場
215. 宮脇太一、黒川加奈、宮下洋祐、住吉一誠、原宗央、岩神直子、岩神真一郎、高橋和久. 小細胞肺癌における予後と増悪形式の検討. 第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会 2018 年 7 月 21 日 神戸国際会議場、神戸国際展示場
216. 住吉一誠、藤岡雅大、宮下洋佑、鈴木宣史、宮脇太一、原宗央、岩神直子、岩神真一郎. 脳腫瘍との鑑別を要した脳結核腫の一例. 第 114 回日本呼吸器学会東海地方学会 2018 年 11 月 17 日 浜松市浜北文化センター
217. 藤岡雅大、宮下洋佑、鈴木宣史、住吉一誠、原宗央、岩神直子、岩神真一郎. 粘液水腫性昏睡による II 型呼吸不全を呈した一例. 第 114 回日本呼吸器学会東海地方学会 2018 年 11 月 18 日 浜松市浜北文化センター
218. 岩神真一郎、原宗央、岩神直子、高橋和久. 災害発生時における在宅酸素療法患者に対する酸素供給システムの構築. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会 2019 年 4 月 13 日 東京国際フォーラム
219. 雨宮徳直、岩神真一郎. 急性咳嗽にて一般診療所を受診した百日咳症例の臨床的特徴の検討. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会 2019 年 4 月 14 日 東京国際フォーラム

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

220. 中島隆良、岩神真一郎。ダブトマイシン耐性株に対するアルベカシン治療の一例。第 67 回日本化学療法学会総会 2019 年 5 月 10 日 東京ドームホテル
221. 岩神真一郎、松浦亨、中島隆良。当院における届出方法の変更によるカルバペネム使用量抑制の試み。第 67 回日本化学療法学会総会 2019 年 5 月 11 日 東京ドームホテル
222. 鈴木宣史、松田浩成、宮下洋佑、住吉一誠、岩神直子、原宗央、岩神真一郎。石灰化を伴う縦郭リンパ節転移を来した肺腺癌の 1 例。第 115 回日本呼吸器学会東海地方学会 2019 年 6 月 8 日 名古屋大学医学部基礎研究棟
223. 宮下洋佑、松田浩成、鈴木宣史、住吉一誠、岩神直子、原宗央、岩神真一郎。壊死性サルコイド肉芽腫症の 1 例。第 115 回日本呼吸器学会東海地方学会 2019 年 6 月 8 日 名古屋大学医学部基礎研究棟
224. 長崎勇典、松田浩成、宮下洋佑、鈴木宣史、住吉一誠、岩神直子、原宗央、岩神真一郎。IgG4 関連疾患による胸膜炎の一例。第 115 回日本呼吸器学会東海地方学会 2019 年 6 月 9 日 名古屋大学医学部基礎研究棟
225. 松田浩成、坂本奈穂、上田翔子、宮下洋佑、岩神直子、原宗央、岩神真一郎。骨格筋転移を有し Lorlatinib が奏功した ALK 遺伝子転座陽性肺腺癌の 1 例。第 116 回日本呼吸器学会東海地方学会 2019 年 11 月 16 日 大垣市民会館
226. 上田翔子、坂本奈穂、松田浩成、宮下洋佑、岩神直子、原宗央、岩神真一郎。ステロイド加療中に発症した重篤な呼吸不全から救命し得た肺ノカルジア症の一例。第 116 回日本呼吸器学会東海地方学会 2019 年 11 月 17 日 大垣市民会館

田中利隆

227. 篠原三津子、藤原里紗、石田ゆり、松井泰佳奈、大野基晴、矢田昌太郎、宮国泰香、菅沼牧知子、田中沙織、田中利隆、田口雄史、三橋直樹。分娩後の吐血を契機に診断した胃・肝血管腫の一例 第 129 回関東連合産科婦人科学会学術集会 2015.6.20 東京
228. 田中沙織、宮国泰香、篠原三津子、石田ゆり、村田佳菜子、松井泰佳奈、矢田昌太郎、菅沼牧知子、山本祐華、田中利隆、三橋直樹。内頸動脈及び中大脳動脈の血流異常を観察した無水脳症の一例 第 51 回日本周産期新生児医学会学術集会 2015.7.10-12 福岡
229. 矢田昌太郎、篠原三津子、石田ゆり、村田佳菜子、松井泰佳奈、菅沼牧知子、田中沙織、宮国泰香、山本祐華、田中利隆、三橋直樹。適切な管理により生児を得た巨大絨毛膜下血腫(Brues' mole)の 1 例 第 51 回日本周産期新生児医学会学術集会 2015.7.10-12 福岡
230. 石田ゆり、田中利隆、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、村田佳菜子、菅直子、矢田昌太郎、山本祐華、宮国泰香、金田容秀、三橋直樹。超音波所見から子宮頸管延長および嵌頓子宮と診断した子宮筋腫合併妊娠の一例 第 130 回関東連合産科婦人科学会学術集会 2015.10.24-25 幕張
231. 田中利隆、石田ゆり、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、村田佳菜子、菅直子、矢田昌太郎、山本祐華、宮国泰香、金田容秀、三橋直樹。超音波所見から子宮頸管延長および嵌頓子宮と診断した子宮筋腫合併妊娠の一例 第 38 回日本産婦人科手術学会学術集会 2015.11.28 東京
232. 矢田昌太郎、石田ゆり、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、村田佳菜子、菅直子、山本祐華、宮国泰香、金田容秀、田中利隆、三橋直樹。Transplacental approach により帝王切開を行った前置胎盤症例の検討 第 38 回日本産婦人科手術学会学術集会 2015.11.28 東京
233. 高橋奈々子、田中利隆、加藤雅也、北村絵里、篠原三津子、石田ゆり、菅直子、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀、三橋直樹。帝王切開瘢痕部妊娠に対しメソトレキセートおよび塩化カリウムの局注療法を施行し、待機的加療で治癒した一例 平成 27 年度静岡産科婦人科学会秋季学術集会 2015.11.15 静岡
234. 石田ゆり、山本祐華、篠原三津子、高橋奈々子、北村絵里、村田佳菜子、矢田昌太郎、菅直子、宮国泰

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 香、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 妊娠 34 週以降の胎児発育不全における分娩管理の検討 第 68 回日本産婦人科学会学術集会 2016.4.21-24 東京
235. 篠原三津子、山本祐華、高橋奈々子、北村絵里、石田ゆり、村田佳菜子、矢田昌太郎、菅直子、宮国泰香、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. HELLP 症候群に伴う肝機能障害に尿崩症を発症した一例 第 68 回日本産婦人科学会学術集会 2016.4.21-24 東京
236. 田中利隆、山本祐華、加藤雅也、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、本田理子、村田佳菜子、菅直子、矢田昌太郎、金田容秀、三橋直樹. 超音波により先天性胆道拡張症と出生前診断した 2 例 第 89 回日本超音波医学会学術集会 2016.5.27-29 京都
237. 加藤雅也、村田佳菜子、高橋奈々子、篠原三津子、北村絵里、本田理子、矢田昌太郎、菅直子、山本祐華、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 塩酸リトドリン製剤の経静脈投与における副作用の検討 第 131 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 2016.6.18-19 東京
238. 村田佳菜子、田中利隆、加藤雅也、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、本田理子、菅直子、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀、三橋直樹. 胎児期に四肢短縮を指摘され骨系統疾患が疑われた 4 例 第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016.7.16-18 富山
239. 田中利隆、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、本田理子、村田佳菜子、矢田昌太郎、菅直子、山本祐華、金田容秀、三橋直樹. 妊娠 34 週未満の早産妊婦に対する母体ステロイド単回プロトコールにおける投与状況 第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016.7.16-18 富山
240. 矢田昌太郎、熊谷麻子、北村絵里、助川幸、村田佳菜子、菅直子、田中里美、山本祐華、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 超音波カラードプラ法と HD live flow が診断に有用であった子宮動静脈奇形の 1 例 第 132 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 2016. 10.15-16 東京
241. 矢田昌太郎、熊谷麻子、北村絵里、助川幸、村田佳菜子、菅直子、田中里美、山本祐華、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 超音波カラードプラ法と HD live flow が診断に有用であった子宮動静脈奇形の 1 例 平成 28 年度静岡産科婦人科学会秋季学術集会 2016.11. 18 静岡
242. 助川幸、熊谷麻子、北村絵里、村田佳菜子、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 興味ある胎児循環症例～Fetal Critical Aortic Stenosis～ 第 14 回日本胎児治療学会学術集会 2016.11.18-20 静岡
243. 田中利隆. 妊産褥婦(授乳婦)と薬剤 ～産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017 を踏まえて～ 第 2 回母子保健研修会 2017.1.28 静岡
244. 助川幸、正岡駿、熊谷麻子、西澤しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 胎児重症大動脈弁狭窄症における肺静脈血流波形とその予後予測 第 23 回胎児心臓病学会学術集会 2017.3.3-4 東京
245. 田中利隆. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 解説講習 CQ416 選択的帝王切開時に注意することは? 第 69 回日本産科婦人科学会総会・学術集会 2017.4.13-16 広島
246. Kumagai A, Tanaka T, Kitamura E, Sukegawa S, Murata K, Murase Y, Tanaka S, Yata S, Yamamoto Y, Kaneda H, Mitsuhashi N. Six cases of emergency hysterectomy in which electrothermal bipolar vessel sealing system was used. 第 69 回日本産科婦人科学会総会・学術集会 2017.4.13-16 広島
247. Kaneda H, Kumagai A, Kitamura E, Sukegawa S, Murata K, Murase Y, Tanaka S, Yata S, Yamamoto Y, Tanaka T, Mitsuhashi N. Onset of Adult T-cell Leukemia-lymphoma during the treatment of peritoneal cancer recurrence: case report. 第 69 回日本産科婦人科学会総会・学術集会 2017.4.13-16 広島
248. 正岡駿、矢田昌太郎、金田容秀、熊谷麻子、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、田中里美、山本祐華、田中利隆、三橋直樹. 妊娠初期に診断となった若年性腫瘍の 1 例 第 133 回関東連合産科婦人科学会総会・学

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

術集会 2017.6.17-18 東京
249. <u>田中利隆</u> 、山本祐華、正岡駿、熊谷麻子、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀、三橋直樹. 地域医療における胎児診断の取り組み(胎児診断例の周産期管理) 第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会(シンポジウム) 2017.7.7-9 浜松
250. 田中里美、 <u>田中利隆</u> 、正岡駿、熊谷麻子、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀、三橋直樹. 当院における早産の母体ステロイドの投与状況 第 53 回日本周産期新生児医学会学術集会 2017.7.16-18 横浜
251. 村瀬佳子、 <u>田中利隆</u> 、正岡駿、熊谷麻子、助川幸、西澤しほり、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀、三橋直樹. 当院における常位胎盤早期剥離 50 症例の後方視的検討 第 53 回日本周産期新生児医学会学術集会 2017.7.16-18 横浜
252. 正岡駿、矢田昌太郎、金田容秀、熊谷麻子、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、田中里美、山本祐華、 <u>田中利隆</u> 、三橋直樹. 妊娠初期に診断となった若年性陰癌の1例 第 59 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2017.7.27-29 熊本
253. <u>田中利隆</u> . ここが変わった! 2017 産科ガイドライン 第 8 回羽衣セミナー 2017.9.2 静岡
254. *伊藤早紀、 <u>田中利隆</u> 、山本祐華、正岡駿、加藤雅也、熊谷麻子、北村絵里、篠原三津子、助川幸、高橋奈々子、本田理子、石田ゆり、村田佳菜子、西澤しほり、村瀬佳子、菅直子、矢田昌太郎、田中里美、宮国泰香、金田容秀、三橋直樹. 災害時における妊婦の適切なトリアージの構築に関する研究 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 2017.10.26 大阪
255. *伊藤早紀、 <u>田中利隆</u> . 当院周産期センターにおける母体救急搬送の現状(災害時における妊婦の適切なトリアージの構築 第 36 回静岡県東部周産期研究会 2017.11.30 静岡
256. 植木典和、正岡駿、伊藤早紀、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、矢田昌太郎、田中里美、金田容秀、 <u>田中利隆</u> 、三橋直樹. HELLP 症候群に尿崩症を併発した 2 例 第 134 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 2017.12.9-10 栃木
257. 田中里実、 <u>田中利隆</u> . 胎児発育不全の胎児期の管理、第 37 回静岡県東部周産期研究会、静岡、2018.3.8
258. 西澤しほり、田中里実、正岡駿、熊谷麻子、助川幸、村瀬佳子、矢田昌太郎、金田容秀、山本祐華、 <u>田中利隆</u> 、三橋直樹. A case of unscarred terine rupture: a rare and difficult diagnosis、第 70 回日本産婦人科学会学術講演会、仙台、2018.5.11
259. 金田容秀、正岡駿、伊藤早紀、助川幸、西澤しほり、植木典和、村瀬佳子、田中里実、矢田昌太郎、山本祐華、 <u>田中利隆</u> 、三橋直樹. Two cases of uterine cervical adenocarcinoma with successful systemic chemotherapy、第 70 回日本産婦人科学会学術講演会、仙台、2018.5.11
260. 正岡駿、伊藤早紀、助川幸、鶴野しほり、村瀬佳子、田中里実、矢田昌太郎、金田容秀、 <u>田中利隆</u> 、三橋直樹. 卵巣膿瘍術後に膿胸を併発した 1 例、平成 30 年度静岡産科婦人科学会春季学術集会、静岡、2018.5.27
261. 田中里実、正岡駿、伊藤早紀、助川幸、鶴野しほり、村瀬佳子、矢田昌太郎、金田容秀、 <u>田中利隆</u> 、三橋直樹. 子宮筋腫核出術後創部妊娠の流産症例、日本超音波医学会第 91 回学術集会、神戸、2018.6.9
262. 助川幸、矢田昌太郎、正岡駿、伊藤早紀、西澤しほり、村瀬佳子、植木典和、田中里実、金田容秀、 <u>田中利隆</u> 、三橋直樹. 診断に苦慮した血小板減少合併妊娠の一症例、第 135 回関東連合産科婦人科学会学術集会、東京、2018.6.17
263. 正岡駿、伊藤早紀、助川幸、鶴野しほり、村瀬佳子、田中里実、矢田昌太郎、金田容秀、 <u>田中利隆</u> 、三橋直樹. 卵巣膿瘍術後に膿胸を併発した 1 例、第 43 回日本外科連合学会、東京、2018.6.22

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

264. 田中里実、田中利隆、正岡駿、伊藤早紀、助川幸、西澤しほり、植木典和、村瀬佳子、矢田昌太郎、金田容秀、三橋直樹. 当院における妊娠 34 週未満に出生した胎児発育不全の新生児予後、日本周産期・新生児医学会学術集会、東京、2018.7.10
265. 伊藤早紀、田中利隆、正岡駿、助川幸、西澤しほり、植木典和、村瀬佳子、矢田昌太郎、田中里美、金田容秀、三橋直樹. 災害時における妊婦の適切なトリアージに関する研究、日本周産期・新生児医学会学術集会、東京、2018.7.10
266. 田中利隆 出生前の遺伝カウンセリング (NIPT を中心に) について、第 38 回静岡県東部周産期研究会、静岡、2018.7.26
267. 矢田昌太郎、小熊響子、柳原康穂、伊藤早紀、小林徹、松澤奈々、鶴野しほり、村瀬佳子、田中里美、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 当院で経験した特別養子縁組の症例、平成 30 年度静岡県産婦人科学会秋季学術集会、静岡、2018.11.18
268. 柳原康穂、金田容秀、小熊響子、小林徹、伊藤早紀、松澤奈々、鶴野しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、田中利隆、三橋直樹. 卵巣温存し術後補助化学療法を施行しなかった子宮腺肉腫の症例の検討、平成 30 年度静岡県産婦人科学会秋季学術集会、静岡、2018.11.18
269. 田中里実、田中利隆. 胎児心臓超音波 (スクリーニングを中心に)、第 39 回静岡県東部周産期研究会、静岡、2018.11.15
270. 小林徹、柳原康穂、正岡駿、伊藤早紀、松澤奈々、鶴野しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 子宮頸部明細胞癌 II B 期に同時化学放射線療法が奏功した 1 例、第 136 回関東連合産科婦人科学会学術集会、東京、2018.11.24
271. 田中利隆. 母体搬送の現状と問題点、第 40 回静岡県東部周産期研究会、静岡、2019.3.7
272. 小林徹、小熊響子、柳原康穂、伊藤早紀、松澤奈々、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 母体搬送症例から学ぶ産科危機的出血を防ぐためにできること、第 40 回静岡県周産期新生児研究会、静岡、2019.3.16
273. 柳原康穂、田中利隆、小熊響子、小林徹、伊藤早紀、松澤奈々、鶴野しほり、村瀬佳子、矢田昌太郎、田中里美、金田容秀、三橋直樹. Management of uterine artery pseudoaneurysm: Spontaneous resolution of uterine artery pseudoaneurysm、第 71 回日本産婦人科学会学術講演会、名古屋、2019.4.12
274. 金田容秀、柳原康穂、小熊響子、小林徹、伊藤早紀、松澤奈々、鶴野しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、田中利隆、三橋直樹. A case of Dedifferentiated endometrioid adenocarcinoma of the uterus、第 71 回日本産婦人科学会学術講演会、名古屋、2019.4.12
275. 松澤奈々、柳原康穂、小熊響子、小林徹、伊藤早紀、鶴野しほり、村瀬佳子、矢田昌太郎、田中里美、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. A case of hypergonadotropic amenorrhea in adolescent without chromosomal abnormality、第 71 回日本産婦人科学会学術講演会、名古屋、2019.4.12
276. 田中里美、柳原康穂、小熊響子、小林徹、伊藤早紀、松澤奈々、鶴野しほり、村瀬佳子、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. Prenatal spontaneous disruption of the dividing membrane in monochorionic diamniotic twins、第 71 回日本産婦人科学会学術講演会、名古屋、2019.4.12
277. 小熊響子、田中里美、松澤奈々、柳原康穂、伊藤早紀、小林徹、村瀬佳子、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 帝王切開術後創部に壊疽性膿皮症を発症した一例、令和元年度静岡産科婦人科学会春季学術集会、静岡、2019.5.19
278. 田中利隆、伊藤早紀、小林徹、松澤奈々、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀、三橋直樹. 超音波により子宮のローテーションを伴った嵌頓子宮と診断した子宮筋腫合併妊娠の 2 例、第 92 回日本超音波医学会学術集会、東京、2019.5.25

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

279. 村瀬佳子、金田容秀、小熊響子、柳原康穂、伊藤早紀、小林徹、松澤奈々、田中里美、矢田昌太郎、田中利隆、三橋直樹. 腹膜炎との鑑別に苦慮した結核性腹膜炎の一例、第 137 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会、東京、2019.6.16
280. 松澤奈々、田中利隆、小熊響子、柳原康穂、小林徹、伊藤早紀、村瀬佳子、矢田昌太郎、田中里美、金田容秀、三橋直樹. 当院における妊娠 36~37 週で出産となった前置胎盤症例の児の呼吸障害発症率、第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会、松本、2019.7.13
281. 小熊響子、田中里美、松澤奈々、柳原康穂、伊藤早紀、小林徹、村瀬佳子、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹. 帝王切開術後創部に壊疽性膿皮症を発症した一例、第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会、松本、2019.7.13
282. 柳原康穂、田中利隆. 胎児骨系統疾患の診断・管理、第 41 回静岡県東部周産期研究会、静岡、2019.7.26
283. 田中里美、正岡龍、小熊響子、柳原康穂、伊藤早紀、小林徹、松澤奈々、村瀬佳子、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆. タナトフォリック骨異形成症の分娩時対応、第 138 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会、前橋、2019.10.20
284. 金田容秀、五十嵐優子、正岡龍、柳原康穂、小熊響子、伊藤早紀、小林徹、村瀬佳子、矢田昌太郎、田中里美、田中利隆. 当院における AYA 世代と医原的閉経となった婦人科腫瘍の検討、第 34 回日本女性医学学会学術集会、福岡、2019.11.2
285. 田中里美、正岡龍、柳原康穂、小熊響子、伊藤早紀、小林徹、村瀬佳子、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆. 血友病保因者の妊娠・分娩管理の一例、日本人類遺伝学会第 64 回大会、長崎、2019.11.8
286. 田中利隆、田中里美、正岡龍、川田美里、小熊響子、小林徹、松澤奈々、村瀬佳子、矢田昌太郎、金田容秀、宮林和紀、大川夏紀、寒竹正人. 胎児期に低フォスファターゼ症周産期重症型を強く疑いカウンセリングを行い出生直後より酵素補充療法を開始した 1 例、日本人類遺伝学会第 64 回大会、長崎、2019.11.9
287. 正岡龍、矢田昌太郎、川田美里、小熊響子、小林徹、松澤奈々、村瀬佳子、田中里美、金田容秀、田中利隆. 切開排膿後に敗血症を生じたバルトリン腺膿瘍の一例、令和元年度静岡県産婦人科学会秋季学術集会、静岡、2019.11.17
288. 川田美里、田中利隆. 妊娠中に問題となる感染症の取り扱い、第 42 回静岡県東部周産期研究会、静岡、2019.12.12
- 山本拓史**
289. 石川浩平、柳川洋一、大森一彦、櫻田睦、大坂裕通、小日向麻里子、三島健太郎、大出靖将、最上敦彦、大林治、山本拓史. 院内外の医療連携により重症外傷を救命する ドクヘリ医療スタッフデリバリーシステム. 日本外傷学会雑誌 2015;29:311. (No.71 と同じ)
290. 竹内郁人、日域佳、石川浩平、大森一彦、大坂裕通、大出靖将、中尾保秋、山本拓史、柳川洋一. 熱傷を主訴に来院したくも膜下出血の 1 例. 日本臨床救急医学会雑誌 2017;20(2):424. (No.113 と同じ)
291. 山本拓史、川村 海渡、鈴木 一幹、上野 英明、渡邊 瑞也、中尾 保秋. 内視鏡下血腫除去術における適応と将来の展望、第 25 回日本神経内視鏡学会、新潟、2018 年 10 月 26 日
292. 山本拓史、川村 海渡、鈴木 一幹、上野 英明、渡邊 瑞也、中尾 保秋. イリゲーション機能付き透明シースの開発と実用性、第 25 回日本神経内視鏡学会、新潟、2018 年 10 月 26 日
293. 山本拓史. 内視鏡下血腫除去術における基本手技と応用、第 77 回日本脳神経外科学会総会、仙台、2018 年 10 月 12 日
294. 山本拓史. 脳内出血治療における内視鏡下血腫除去術を考慮した新たな治療基準、第 77 回日本脳神経外科学会総会、仙台、2018 年 10 月 12 日
295. 山本拓史. 内視鏡下脳内血腫除去術の基本と応用、STROKE2018、福岡、2018 年 3 月 16 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

296. 山本拓史 急性期から回復期への シームレスな栄養療法、第 33 回日本静脈経腸栄養学会、横浜、2018 年 2 月 23 日
297. 山本拓史 救急診療における急性期脳内出血に対する神経内視鏡手術の役割に対する役割。第 24 回日本脳神経外科救急学会、大阪、2019 年 2 月 2 日
298. 山本拓史 脳神経外科疾患の急性期栄養管理～Recovery Journey に基づく栄養療法の実践～。日本脳神経外科学会第 78 回学術総会(ランチオンセミナー)、大阪、2019 年 10 月 10 日
299. 山本拓史 内視鏡下血腫除去術の有効性と包括的手術適応の構築。日本脳神経外科学会第 78 回学術総会、大阪、2019 年 10 月 11 日
300. 山本拓史 内視鏡下血腫除去術の標準化のための手技の工夫。第 26 回一般社団法人日本神経内視鏡学会(シンポジウム)、神奈川、2019 年 11 月 7 日
301. 山本拓史 内視鏡下血腫除去術における合併症回避のための On-The-Job Training の実践。第 26 回一般社団法人日本神経内視鏡学会(ブラッシュアップセミナー)、神奈川、2019 年 11 月 8 日

市之川英臣

302. 市之川英臣、尾泉広明、立盛崇裕、鈴木健司。臍胸に対する胸腔鏡下手術と開胸手術の比較 第 33 回日本呼吸器外科学会定期学術集会、京都、2016.5.12
303. 大森一彦、日域佳、吉澤俊彦、石川浩平、大坂裕通、市之川英臣、柳川洋一。継続する血胸の原因が結果的に左心耳損傷であった 1 例。第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p82 2016 (No.100 と同じ)
304. 星野浩延、市之川英臣、尾泉広明、鈴木健司。外傷性血気胸に対するアプローチ 第 70 回日本胸部外科学会定期学術集会、札幌、2017.9.29
305. 小森和幸、小池悠太郎、星野浩延、市之川英臣。呼吸器外科領域における術後せん妄発症リスクについて～術後せん妄は脳血管障害既往歴と相関するか？(術後合併症、一般口演)、第 35 回日本呼吸器外科学会総会学術集会、千葉、2018 年 5 月 18 日

楠威志

306. 楠威志、本間博友、城所淑信、原聡、大庭亜由子、文殊敏朗。PPI 抵抗性喉頭肉芽腫に対する「複式呼吸を重点に置いた簡易音声訓練法」の治療効果、第 80 回耳鼻咽喉科臨床学会総会、パシフィコ横浜 2018 年 6 月 29 日

大林治、最上敦彦、神田章男、諸橋達

307. 最上敦彦。不安定型骨盤輪骨折に対する仙骨・腸骨間ロッド固定 第 29 回日本外傷学会総会・学術集会、June, 10-12, 2015 (札幌)
308. 最上敦彦、金子和夫。大腿骨遠位部骨折の基礎と臨床。第 41 回日本骨治療学会、June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S13
309. 最上敦彦、大林治、二村謙太郎、岩瀬秀明、金子和夫。不安定型骨盤輪骨折に対する仙骨・腸骨間ロッド固定(SIRF:Sacro-Iliac Rod Fixation)。第 41 回日本骨治療学会、June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S31
310. 小畑宏介、二村謙太郎、最上敦彦、大林治、金子和夫。月状骨関節窩における掌尺側小骨片の整復固定に難渋した橈骨遠位端骨折の 2 例。第 41 回日本骨治療学会、June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S77
311. 神田章男、諸橋達、最上敦彦、大林治、金子和夫。寛骨臼骨折術後に対する人工股関節全置換術の治療成績－術後坐骨神経麻痺を生じた 1 例の検討－ 第 41 回日本骨治療学会、June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S82

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 312.内藤聖人、杉山陽一、小畑宏介、井下田由芳、最上敦彦、大林治、金子和夫. 橈骨遠位端骨折の合併する尺骨遠位端骨折の治療経験—内固定の適応に対する考察— 第41回日本骨治療学会, June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S112
- 313.齊田良知、馬場智規、神田章男、最上敦彦、松本幹生、野尻英俊、森川太智、谷口有、伊坂陽、金子和夫. 非定型大腿骨不完全骨折の治療—いつ、どんな患者に予防的髓内釘固定を行うべきか?— 第41回日本骨治療学会, June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S127
- 314.和田知樹、最上敦彦、大林治、金子和夫. 上腕骨近位端骨折 Neer 分類 3-4part に対する髓内釘治療の中期成績. 第41回日本骨治療学会, June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S139
- 315.三宅喬人、最上敦彦、二村謙太郎、大林治、金子和夫. 肘頭骨折に対するマルチプルテンションバンド固定による治療経験. 第41回日本骨治療学会, June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S204
- 316.二村謙太郎、最上敦彦、大林治、佐藤和生、松井祐希、上田泰久、倉田佳明、齋藤丈太、辻英樹、金子和夫. 足関節果部骨折の合併する遠位脛腓骨靭帯結合損傷の整復位評価. 第41回日本骨治療学会, June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S251
- 317.武田純、最上敦彦、和田知樹、大林治、金子和夫. SCORPION® NEO を用いた鎖骨遠位端骨折に対する治療経験. 第41回日本骨治療学会, June, 26-27, 2015 (奈良) プログラム・抄録集:S260
- 318.山口順一郎、最上敦彦、糸井陽、田中将、大林治. 頸椎性筋萎縮症の術後に多巣性運動ニューロパチーと診断された1例. 第180回静岡県整形外科医会集談会, Aug., 1, 2015. (浜松)
- 319.石川浩平、柳川洋一、大森一彦、櫻田睦、大坂裕通、小日向麻里子、三島健太郎、大出靖将、最上敦彦、大林治、山本拓史. 院内外の医療連携により重症外傷を救命する ドクヘリ医療スタッフデリバリーシステム. 日本外傷学会雑誌 2015;29:311. (No.71 と同じ)
- 320.諸橋達、石井聖也、神田章男、最上敦彦、大林治、金子和夫. ショートステムの術中骨折症例から考える固定様式と応力集中部位の検討. 第89回日本整形外科学会学術集会, May, 12-15, 2016 (横浜)
- 321.最上敦彦、大林治、二村謙太郎、岩瀬秀明、金子和夫. 治療に直結する分類法: シンポジウム: 上腕骨近位部骨折の治療方針—ガイドラインの作成を目指して— 第89回日本整形外科学会学術集会, May, 12-15, 2016 (横浜)
- 322.神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子和夫. 股関節前方アプローチにおける関節包、外旋筋群温存に対する工夫: 第89回日本整形外科学会学術集会, May, 12-15, 2016 (横浜)
- 323.前田浩行、金子和、大林治、前田睦浩、岩瀬秀明、柿沼裕貴、武井祐輔、三井和幸. ターニケット駆血後の運動器合併症の検討 第53回日リハビリテーション医学会学術集会, June, 9-11, 2016. (京都) プログラム・抄録集:I248
- 324.最上敦彦、二村謙太郎、大林治、金子和夫. 不安定型骨盤輪骨折に対する脊椎インストレーションを用いた治療戦略~外傷外科医から~ 第42回日本骨治療学会, パネルディスカッション, July, 1-2, 2016 (東京) プログラム・抄録集:S49
- 325.三宅喬人、最上敦彦、二村謙太郎、神田章男、諸橋達、大林治、金子和夫. 脊椎インストレーションを使用した仙骨腸骨間固定. 第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京) プログラム・抄録集:S169
- 326.神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子和夫. 手術中整復操作によりバイポーラトリアルカップが骨盤内に迷入した一例. 第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京) プログラム・抄録集:S234
- 327.諸橋達、三宅喬人、二村謙太郎、神田章男、最上敦彦、大林治、金子和夫. ショートステム Optimys を用いた THA における術中ステム周囲骨折症例の検討. 第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京) プログラム・抄録集:S271
- 328.二村謙太郎、大林治、最上敦彦、諸橋達、神田章男、辻英樹、齋藤丈太、倉田佳男、上田泰久、金子和夫.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 大腿骨転子間骨折の新分類. 第 42 回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京) プログラム・抄録集:S275
329. 松尾智次、最上敦彦、二村謙太郎、神田章男、諸橋達、大林治、金子和夫. 大腿骨遠位骨幹部骨折 (Infraisthmal fracture) に対する順行性髄内釘の治療経験. 第 42 回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京) プログラム・抄録集:S309
330. 田中将、糸井陽、大林治、最上敦彦、諸橋達、神田章男、二村謙太郎. 肋椎関節損傷が胸椎損傷に与える影響 第 42 回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京) プログラム・抄録集:S323
331. 高橋良介、大林治、最上敦彦、糸井陽、田中将、金子和夫. 環椎後弓スクリューを用いた C1-2 hybrid fixation による創内創外固定を行った高齢者の歯突起 Anderson type 2. 第 42 回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京) プログラム・抄録集:S334
332. 三宅喬人、二村謙太郎、神田章男、諸橋達、最上敦彦、大林治、金子和夫. 側方圧迫型骨盤輪骨折 (Young-Burgess 分類 LC1) の保存療法の臨床成績. 第 42 回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京) プログラム・抄録集:S382
333. 小見桃子、三宅喬人、小畑宏介、二村謙太郎、神田章男、諸橋達、最上敦彦、大林治. 脛骨高位骨切り術(HTO)術後に深部静脈血栓(DVT)による肺塞栓(PE)と奇異性塞栓症を合併した1例. 第 183 回静岡県整形外科医会集談会, July, 9, 2016. (浜松)
334. 諸橋達、大林治. 殿部痛に対する股関節注射による診断と治療-坐骨神経痛として漫然と治療されていた症例の鑑別の必要性. 第 29 回日本臨床整形外科学会学術集会, July, 15-18. (札幌) 2016
335. 最上敦彦、大林治. 大腿骨転子部粉碎骨折に対する大転子サポートプレート付き CHS による治療の適応と限界. 第 65 回東日本整形災害外科学会, Sep, 22-23, (箱根) 2016
336. 諸橋達、大林治、最上敦彦、神田章男、岩瀬秀明、金子和夫. Optimys 103 症例と Fitmore 15 症例の検討による反省と日本人への適応範囲. 第 43 回日本股関節学会学術集会 パネルディスカッション, Nov, 4-5, 2016 (大阪) プログラム・抄録集 231
337. 神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子和夫. 股関節 direct lateral approach における中殿筋・小殿筋損傷. 第 43 回日本股関節学会学術集会, Nov, 4-5, 2016 (大阪) プログラム・抄録集 342
338. 諸橋達、大林治. 先天性内反足に対する距踵関節固定術後 46 年で疼痛を呈した球状足関節症に対して脛骨遠位斜め骨切り術を行った1例. 第 41 回日本足の外科学会学術集会, Nov, 17-18 (奈良) 2016
339. 三宅喬人、大林治、設楽準、諏訪哲、磯田菊生、大坂裕通、柳川洋一. 一過性脳虚血発作と診断された深部静脈血栓症を伴う肺血栓塞栓症の一例. 第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p591. 2016 (No.93 と同じ)
340. 諸橋達. 一体型人工骨頭置換術後 20 年経過症例に対してステム温存+Dual mobility Cup を用いた部分再置換を行った1例. 第 47 回日本人工関節学会, Feb, 24-25, 2017. (宜野湾)
341. 最上敦彦. 大腿骨遠位部における急性期処置としての創外固定. 第 30 回創外固定・骨延長学会学術集会, Mar, 3-4. (福岡) 2017
342. 岩崎英二、神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、二村謙太郎、田中将、松尾智次、根岸義文. 骨欠損を認める寛骨臼回転骨切り術後に補助プレートを用いて THA を行い良好な経過が得られた1例. 第 185 回静岡県整形外科医会集談会, Mar, 18, 2017. (沼津)
343. 最上敦彦. 高齢者大体重遠位部骨折治療の問題点と工夫. 第 66 回東日本整形災害外科学会, Apr, 14-16, 2017. (東京)
344. 二村謙太郎、田中将、神田章男、諸橋達、最上敦彦、大林治、辻英樹、金子和夫. Weber の 3 つの指標を参考にすれば syndesmo-sis の整復不良は回避できる. 第 90 回日本整形外科学会学術集会, May, 18-21, 2017. (仙台)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

345. 最上敦彦、二村謙太郎、大林治、岩瀬秀明. 大腿骨遠位端脆弱性骨折の治療戦略. 第90回日本整形外科学会学術集会, May, 18-21, 2017. (仙台)
346. 田中将、糸井陽、大林治、最上敦彦、諸橋達、神田章男、二村謙太郎、金子和夫. 強直性脊椎障害に伴った脊椎損傷の治療成績. 第90回日本整形外科学会学術集会, May, 18-21, 2017. (仙台)
347. 諸橋達、神田章男、最上敦彦、大林治、金子和夫. 坐骨神経痛として治療されてきた殿部痛に対する股関節注射による鑑別. 第90回日本整形外科学会学術集会, May, 18-21, 2017. (仙台)
348. 最上敦彦. 医療安全を考慮した大腿骨近位部骨折の新たな治療戦略 -Hook Pin nail を用いた転子部骨折治療を中心に-. 第43回日本骨折治療学会, Jul, 7-8, 2017. (郡山) 骨折 39(Suppl.), S63, 2017.
349. 二村謙太郎、三宅喬人、田中将、神田章男、諸橋達、最上敦彦、大林治、岩瀬秀明、金子和夫. 不安定型骨盤輪骨折に対する Sacro-Iliac Rod Fixation の生体力学試験 WITHIN RING CONCEPT の検証 第43回日本骨折治療学会, Jul, 7-8, 2017. (郡山) 骨折 39(Suppl.), S71, 2017.
350. 内藤聖人、杉山陽一、木下真由子、後藤賢司、岩瀬嘉志、最上敦彦、大林治、金子和夫. 橈骨遠位端骨折受傷時における長母指伸筋腱損傷の調査 第43回日本骨折治療学会, Jul, 7-8, 2017. (郡山) 骨折 39(Suppl.), S74, 2017.
351. 最上敦彦、二村謙太郎、大林治、岩瀬秀明. 上腕骨近位端骨折用新型髓内釘(ARISTOPHN)の初期臨床データ解析. 第43回日本骨折治療学会, Jul, 7-8, 2017. (郡山) 骨折 39(Suppl.), S116, 2017.
352. 東村潤、大林治、最上敦彦、諸橋達、神田章男、二村謙太郎、三宅喬人、辻英樹. 経肘頭脱臼骨折の治療経験. 第43回日本骨折治療学会, Jul, 7-8, 2017. (郡山) 骨折 39(Suppl.), S306, 2017.
353. 杉山陽一、宮本英明、木下真由子、内藤聖人、最上敦彦、大林治、金子和夫. 超音波エラストグラフィを用いた掌側ロックングプレート固定後の正中神経弾性変形の調査. 第43回日本骨折治療学会, Jul, 7-8, 2017. (郡山) 骨折 39(Suppl.), S353, 2017.
354. 渡泰士、馬場智規、平中崇文、最上敦彦、本間康弘、越智宏徳、尾崎友、松本幹生、金子和夫. 骨折手術シミュレーターを用いた術中透視画面の位置の違いによる手術結果の検討. 第43回日本骨折治療学会, Jul, 7-8, 2017. (郡山) 骨折 39(Suppl.), S368, 2017.
355. 最上敦彦. 高齢者大腿骨遠位部骨折治療の問題点と工夫. 第66回東日本整形災害外科学会, Sep, 14-16, 2017. (東京)
356. 雨宮将太、武井裕輔、前田浩行、諸橋達、神田章男、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、寺阪澄孝、下大川文晴、三井和幸. 整形外科手術における新たなターニケットの開発に関する研究. 第33回ライフサポート学会大会、第17回日本生活支援工学会大会、日本機械学会福祉工学シンポジウム, Sep, 15-17, 2017. (東京)
357. 前田浩行、岩瀬秀明、大林治、金子和夫、前田睦浩、大磯沙穂、蟻沢駿哉、雨宮将太、武井裕輔、三井和幸. EHD現象を利用した新しいターニケット装置の開発. 第5回看護理工学学会学術集会, Oct, 14-15, 2017. (金沢) プログラム・抄録集: 78.
358. 最上敦彦、諸橋達、神田章男、大林治、岩瀬秀明、金子和夫. 大腿骨頸部骨折の骨接合術の適応と手術方法. 第44回日本股関節学会学術集会, Oct, 20-21, 2017. (東京) 抄録集: 197.
359. 諸橋達、岩崎英二、東村潤、神田章男、最上敦彦、大林治、金子和夫. 変形性股関節症 118 症例に対するヒアルロン酸注射の効果の検討. 第44回日本股関節学会学術集会, Oct, 20-21, 2017. (東京) 抄録集: 317.
360. 神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子和夫. 骨盤骨切り術後の人工股関節全置換術. 第44回日本股関節学会学術集会, Oct, 20-21, 2017. (東京) 抄録集: 446.
361. 諸橋達、岩崎英二、東村潤、神田章男、最上敦彦、大林治、金子和夫. THA再置換術180関節のアプロー

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 子別脱臼率の比較～前回アプローチに関わらず direct lateral アプローチが有用～ 第 44 回日本股関節学会学術集会, Oct, 20-21, 2017. (東京) 抄録集: 455.
362. 東村潤、諸橋達、岩崎英二、神田章男、最上敦彦、大林治. 人工股関節全置換術後に認めた異所性骨化のアプローチ別の影響. 第 44 回日本股関節学会学術集会, Oct, 20-21, 2017. (東京) 抄録集: 532.
363. 諸橋達、岩崎英二、東村潤、神田章男、最上敦彦、大林治、金子和夫. Diirect anterior Approach による THA 術後異所性骨化による可動域制限に対して骨化巣切除を行った 1 例. 第 44 回日本股関節学会学術集会, Oct, 20-21, 2017. (東京) 抄録集: 536.
364. 前田浩行、大林治、金子和夫、前田睦浩、武井裕輔、三井和幸. 整形外科及びラットの研究におけるターニケットの新たな駆動評価と至適圧力の検討. 第 1 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, Oct, 28-29, 2017. (大阪) プログラム・抄録集: S180.
365. 諸橋達. 当院における外反母趾及びリウマチ足趾変形に対する矯正骨切りの比較検討-固定デバイスと皮膚障害の関連について- 第 42 回日本足の外科学会・学術集会, Nov, 9-10, 2017. (名古屋)
366. 雨宮将太、武井裕輔、前田浩行、諸橋達、神田章男、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、寺阪澄孝、下大川文晴、三井和幸. 整形外科手術における患者の負担軽減が可能なターニケットの開発に関する研究. 第 44 回日本臨床バイオメカニクス学会, Nov. 24-25, 2017. (松山) プログラム・抄録集:133
367. 諸橋達、岩瀬秀明、神田章男、佐藤太一、本間康弘、最上敦彦、大林治、金子和夫. 人工股関節全置換術におけるステム挿入時に発生する打ち込み音の解析および術後中期における画像評価との関連. 第 44 回日本臨床バイオメカニクス学会, Nov, 24-25, 2017. (松山) プログラム・抄録集:172.
368. 諸橋達 ショートステム Optimys と Taper-Wedge 型インプラントの術中骨折と早期沈下の比較検討. 第 48 回日本人工股関節学会, Feb., 23-24, 2018. (東京)
369. 神田章男 新たな Palm size navigation “HipAlign” と術中透視 第 48 回日本人工股関節学会, Feb., 23-24, 2018. (東京)
370. 神田章男、金子和夫. 股関節 direct lateral approach の有用性. 第 58 回関東整形災害外科学会, シンポジウム, Mar., 16-17, 2018. (東京) 抄録集: 71
371. 糸井陽、大林治、高橋良介、金子和夫. 環椎後弓スクリューの有用性とピットホール 第 58 回関東整形災害外科学会, Mar., 16-17, 2018. (東京) 抄録集: 132
372. 最上敦彦 骨粗鬆症を基盤とした大腿骨近位部骨折-骨接合術における新たな治療戦略- 第 58 回関東整形災害外科学会, ランチョンセミナー, Mar., 16-17, 2018. (東京) 抄録集: 111
373. 最上敦彦 上腕骨近位部骨折. 第 91 回日本整形外科学会学術総会, May, 24-27, 2018. (神戸)
374. 雨宮将太、武井裕輔、前田浩行、諸橋達、神田章男、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、寺阪澄孝、下大川文晴、三井和幸. 患者の状態に応じた圧迫圧の調整が可能なターニケットの開発 第 57 回日本生体医工学学会, June, 19-21, 2018. (札幌)
375. 最上敦彦 大腿骨近位部骨折における骨接合術-フックピンデバイスをを用いた新たな治療戦略- 第 44 回日本骨折治療学会, ヌーンタイムレクチャー, Jul., 6-7, 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S83, 2018
376. 二村謙太郎、土田芳彦、最上敦彦、大林治、岩瀬秀明、馬場智規、金子和夫. WITHIN RING CONCEPT にもとづく不安定型骨盤輪損傷の治療戦略. 第 44 回日本骨折治療学会, Jul., 6-7, 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S101, 2018.
377. 玉川翔太、杉山陽一、後藤憲司、金子彩夏、名倉奈々、岩瀬嘉志、最上敦彦、馬場智規、内藤聖人、金子和夫. 第 5CM 関節脱臼骨折(reverse Bennet 骨折)に対して鋼線連結型創外固定器 JuNction を用いて治療した 1 例. 第 44 回日本骨折治療学会, Jul., 6-7, 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S279, 2018.
378. 佐々恵太、奥田貴俊、馬場智規、最上敦彦、池上隆司、内藤聖人、金子和夫. 骨折により判明し、遷延治

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 癒した舟状骨骨内ガングリオンの一例. 第 44 回日本骨折治療学会, Jul., 6-7, 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S290, 2018.
379. 馬場智規、越智宏徳、尾崎友、渡泰士、幡野佐己依、本間康弘、田邊浩規、内藤聖人、最上敦彦、金子と夫. 大腿骨頸部骨折に対して特殊牽引台と透視を用いた direct anterior approach の dual mobility THA. 第 44 回日本骨折治療学会, Jul., 6-7, 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S440, 2018.
380. 幡野佐己依、馬場智規、田邊浩規、越智宏徳、尾崎友、渡泰士、本間康弘、渡泰士、内藤聖人、最上敦彦、金子と夫. 大腿骨頸部骨折に対する前方進入法による Dual Mobility cup 人工股関節全置換術の脱臼予防効果. 第 44 回日本骨折治療学会, Jul., 6-7, 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S474, 2018.
381. 守屋秀一、最上敦彦、神田章男、諸橋達、大林治、金子と夫. 大腿骨転子部骨折に対するフックピンネイルの治療成績. 第 44 回日本骨折治療学会, Jul., 6-7 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S480, 2018.
382. 櫻井夏子、馬場智規、尾崎友、幡野佐己依、渡泰士、内藤聖人、最上敦彦、金子と夫. 治療に難渋した非定型大腿骨骨折の形態を呈する interprosthetic femoral fracture. 第 44 回日本骨折治療学会, Jul., 6-7 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S498, 2018.
383. 金子彩夏、杉山陽一、後藤賢司、玉川翔太、名倉奈々、岩瀬嘉志、最上敦彦、馬場智規、内藤聖人、金子と夫. 中手骨頸部骨折に対して鋼線連結型創外固定器 JuNction を用いて治療した 1 例. 第 44 回日本骨折治療学会, Jul., 6-7 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S521, 2018.
384. 杉山陽一、金子彩夏、玉川翔太、後藤賢司、名倉奈々、岩瀬嘉志、最上敦彦、馬場智規、内藤聖人、金子と夫. 中手骨頸部骨折に対して鋼線連結型創外固定器 JuNction を用いて治療した 1 例. 第 44 回日本骨折治療学会, Jul., 6-7, 2018. (岡山) 骨折, 40 suppl, S522, 2018.
385. 牛牧誉博、糸井陽、高橋良介、大林治. proximal junctional kyphosis に対する Rod Link Reducer の有用性. 第 189 回静岡整形外科医会集談会, Jul., 21, 2018. (浜松)
386. 諸橋達、神田章男、最上敦彦、大林治、岩瀬秀明、金子と夫. 股関節関節感染症例の鑑別における a-ディフェンシン検出キット:シノヴァシユアの有用性. 第 45 回日本股関節学会学術集会, Oct., 26-27, 2018. (名古屋) 抄録集: 390.
387. 神田章男、諸橋達、大林治、最上敦彦、金子と夫. 外反股に対するショートステム Optimys® の使用経験 -解剖学的再建と骨温存を目指して- 第 45 回日本股関節学会学術集会, Oct., 26-27, 2018. (名古屋) 抄録集: 458.
388. 神田章男、諸橋達、大林治、最上敦彦、金子と夫. ポータブルナビゲーション 'Hip Align®' の learning curve. 第 45 回日本股関節学会学術集会, Oct., 26-27, 2018. (名古屋) 抄録集: 541.
389. 大谷慧、神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子と夫. 骨盤・大腿骨骨折術後変形を伴った外傷性股関節症に対する人工股関節全置換術. 第 45 回日本股関節学会学術集会, Oct., 26-27, 2018. (名古屋) 抄録集: 583.
390. 小池教文、小林敦郎、最上敦彦、神田章男、諸橋達. 自覚的脚長差が人工股関節全置換術の歩行能力に与える影響について. 第 45 回日本股関節学会学術集会, Oct., 26-27, 2018. (名古屋) 抄録集: 615.
391. 諸橋達 リウマチ足の Lesser toes に対して行う中足骨短縮骨切り術の骨切り部位による骨癒合率の比較検討. 第 43 回日本足の外科学会学術総会, Nov., 1-2, 2018. (千葉)
392. 前田浩行、岩瀬秀明、諸橋達、神田章男、金子と夫、前田睦浩、三井和幸. ~術後合併症を起こさず、リハビリテーションをするために~新しいターニケットの開発と運動器合併症の評価. 第 2 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, Nov., 2-4, 2018. (仙台)
393. 佐野圭、岩瀬秀明、前田浩行、神田章男、諸橋達、大林治、金子と夫、三井和幸. ターニケット駆血条件の違いによる合併症の検討. 第 45 回日本臨床バイオメカニクス学会, Nov., 16-17, 2018. (秋田)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

プログラム・抄録集:98

394. 守屋秀一、上原弘久、最上敦彦、大林治。鏡視下骨孔法による腱板修復の小経験。第190回静岡整形外科医会集談会, Nov., 17, 2018. (静岡)
395. 志村有永、神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、大谷慧、金子和夫。骨盤・大腿骨骨折術後変形を伴った外傷性股関節症に対する人工股関節全置換術。第190回静岡整形外科医会集談会, Nov., 17, 2018. (静岡)
396. 前田浩行、岩瀬秀明、諸橋達、神田章男、金子和夫、前田睦浩、三井和幸。EHD現象を用いた新しい駆血装置の開発。第46回日本救急医学会総会・学術集会, Nov., 19-21, 2018. (横浜)
397. 大森一彦、最上敦彦、長澤宏樹、竹内郁人、日域佳、近藤彰彦、石川浩平、大坂裕通、柳川洋一。重症骨盤骨折を伴う外傷に対するチーム連携の必要性と課題。日本外傷学会雑誌 2018;32(2):251. 第32回日本外傷学会総会・学術集会、国立京都国際会館、2018.6.22 (No.141と同じ)
398. 神田章男。前方アプローチで行った人工関節全置換術の術後筋量計測 第49回日本人工関節学会、東京、2019年2月15日-16日
399. 諸橋達。ショートシステムFitmoreの使用経験～術中骨折及び術後大腿部痛症例に関する考察～ 第49回日本人工関節学会、東京、2019年2月16日
400. 神田章男。ホータブルナビゲーションHipAlignを用いた仰臥位人工関節置全置換術 第3回静岡県東部整形外科難治性感染症研究会、静岡、2019年3月6日
401. 最上敦彦。フックピンを用いた大腿骨転子部骨折治療～カブトムシは昆虫の王様～ NPO 法人日本脆弱性骨折ネットワーク学術集会、福島、2019年3月8日
402. 最上敦彦。人工膝関節(TKA)周囲大腿骨骨折に対する逆行性髄内釘固定～その適応と限界～ 第32回日本創外固定・骨延長学会、秋田、2019年3月1日-2日
403. 糸井陽、佐々恵太、玉川翔太、大林治、廣瀬友彦、坂陽、玄奉学、河野裕、杉田誠。骨粗鬆症性椎体骨折の疼痛持続例の早期CT像-受傷1ヶ月の疼痛残存の早期スクリーニングにはMRIよりCTが有用- 第191回静岡県整形外科医会 集談会 静岡、2019年3月16日
404. 志村有永、神田章男、諸橋達、大林治。高度寛骨臼形成不全に対して偏心性寛骨臼回転骨切り術を施行した1例 第191回静岡県整形外科医会 集談会 静岡、2019年3月16日
405. 神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達。体位で骨盤傾斜が変化する症例の人工股関節全置換術-HipAlignを用いた正確なカップ設置- 第191回静岡県整形外科医会 集談会 静岡、2019年3月16日
406. 神田章男。術前術後の骨盤傾斜変化がホータブルナビゲーションシステムを用いた寛骨臼カップ設置に与える影響 第92回日本整形外科学会学術集会 神奈川 2019年5月9日-12日
407. 諸橋達。股関節関節感染症例の鑑別における α -デフィエンシン検出キット:シバシバ有用性 第92回日本整形外科学会学術集会 神奈川 2019年5月9日-12日
408. 守屋秀一、東村潤、大林治、金子和夫。第5中足骨骨端症(Iselin病)の2例 第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 北海道 2019年6月13日-15日
409. 小畑宏介、内藤聖人、金子彩夏、後藤賢司、杉山陽一、名倉奈々、馬場智規、最上敦彦、岩瀬嘉志、金子和夫。背側転位型橈骨遠位端骨折における掌尺側小骨片の有無による治療成績の比較 第45回日本骨折治療学会 福岡 2019年6月28日-29日
410. 内藤聖人、名倉奈々、杉山陽一、小畑宏介、後藤賢司、金子彩夏、馬場智規、岩瀬嘉志、最上敦彦、金子和夫。小児橈骨遠位1/3骨幹部骨折に対する鋼線連結創外固定を用いた治療経験 第45回日本骨折治療学会 福岡 2019年6月28日-29日
411. 守屋秀一、最上敦彦、諸橋達、神田章男、大林治、金子和夫。上腕骨近位端3パット、4パット骨折に対する治療

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

成績 第 45 回日本骨折治療学会 福岡 2019 年 6 月 28 日-29 日
412. 西嶋智子、 <u>大林治</u> 、 <u>最上敦彦</u> 、 <u>諸橋達</u> 、 <u>神田章男</u> 、 <u>糸井陽</u> 、 <u>守屋秀一</u> 、 <u>金子和夫</u> . 恥骨骨折の膀胱穿通をきたした骨盤骨折の 1 例 第 45 回日本骨折治療学会 福岡 2019 年 6 月 28 日-29 日
413. <u>波多江文俊</u> 、 <u>神田章男</u> 、 <u>最上敦彦</u> 、 <u>大林治</u> 、 <u>金子和夫</u> . 大腿骨頸部骨折をきたした 21 トソリー(ダウン症)の 1 例 第 192 回静岡県整形外科医会集談会 静岡 2019 年 6 月 20 日
414. <u>大林治</u> 、 <u>大谷慧</u> 、 <u>西嶋智子</u> 、 <u>神田章男</u> 、 <u>糸井陽</u> 、 <u>諸橋達</u> 、 <u>最上敦彦</u> . 外傷後スワネック変形を呈した 3 例 第 67 回静岡手外科・マイクロサージャリ研究会 静岡 2019 年 8 月 3 日
415. <u>西嶋智子</u> 、 <u>最上敦彦</u> 、 <u>大林治</u> 、 <u>市原理司</u> . 橈骨宣異端骨折に対し Initial の使用経験 第 67 回静岡手外科・マイクロサージャリ研究会 静岡 2019 年 8 月 3 日
416. <u>鈴木建宏</u> 、 <u>大林治</u> 、 <u>田沼明</u> . 後骨間神経麻痺を呈した人工骨頭置換術後の 1 症例 第 67 回静岡手外科・マイクロサージャリ研究会 静岡 2019 年 8 月 3 日
417. <u>志村有永</u> 、 <u>糸井陽</u> 、 <u>玉川翔太</u> 、 <u>大林治</u> . 頸椎後方除圧術後麻酔の血腫除去後に高圧酸素療法を併用し改善を得た 1 例 第 44 回静岡整形外科脊椎研究会 静岡 2019 年 9 月 27 日
418. <u>玉川翔太</u> 、 <u>糸井陽</u> 、 <u>志村有永</u> 、 <u>大林治</u> . 外傷から半年後に遅発性麻痺を来した強直性脊髄障害を伴う胸椎椎体骨折の 1 例 第 44 回静岡整形外科脊椎研究会 静岡 2019 年 9 月 27 日
419. <u>寺本樹里</u> 、 <u>糸井陽</u> 、 <u>玉川翔太</u> 、 <u>大林治</u> . 頸椎脱臼の自然整復に椎骨動脈のコリソグを行った 1 例 第 44 回静岡整形外科脊椎研究会 静岡 2019 年 9 月 27 日
420. <u>諸橋達</u> . DTOO における髄内固定の試み 第 44 回日本足の外科学会学術集会 北海道 2019 年 9 月 26 日-27 日
421. <u>神田章男</u> 、 <u>最上敦彦</u> 、 <u>諸橋達</u> 、 <u>金子和夫</u> . テーパ型ショートステム Optimys のステムアライメント別による骨反応 第 46 回日本股関節学会学術集会 宮崎 2019 年 10 月 25 日-26 日
422. <u>諸橋達</u> 、 <u>神田章男</u> 、 <u>最上敦彦</u> 、 <u>岩瀬秀明</u> 、 <u>錦野匠一</u> 、 <u>金子和夫</u> . 股関節骨膜骨腫症に対して股関節鏡で摘出した 1 例 第 46 回日本股関節学会学術集会 宮崎 2019 年 10 月 25 日-26 日
423. <u>最上敦彦</u> . 寛骨臼骨折に対する治療戦略 第 46 回日本股関節学会学術集会 宮崎 2019 年 10 月 25 日-26 日
424. <u>小池教文</u> 、 <u>小林敦郎</u> 、 <u>神田章男</u> 、 <u>諸橋達</u> 、 <u>最上敦彦</u> . 変形性股関節症における大患筋断面積と自覚的脚長さの関係性 第 46 回日本股関節学会学術集会 宮崎 2019 年 10 月 25 日-26 日
425. <u>守屋秀一</u> 、 <u>最上敦彦</u> 、 <u>金子和夫</u> . テープ縫合糸を用いた鏡視下骨孔法により腱板修復術の小経験 第 6 回日本肩関節学会学術集会 長野 2019 年 10 月 25 日-26 日
426. <u>鶴上浩規</u> 、 <u>守屋秀一</u> 、 <u>上原弘久</u> 、 <u>波多江文俊</u> 、 <u>最上敦彦</u> 、 <u>金子和夫</u> . 上腕骨骨幹部骨折に対する RI アプローチが術後可動域に与える影響 第 6 回日本肩関節学会学術集会 長野 2019 年 10 月 25 日-26 日
427. <u>上原弘久</u> 、 <u>守屋秀一</u> 、 <u>最上敦彦</u> 、 <u>金子和夫</u> . スポーツ選手の鎖骨骨折に対する前方/上方プレートの成績比較 第 6 回日本肩関節学会学術集会 長野 2019 年 10 月 25 日-26 日
428. <u>糸井陽</u> 、 <u>玉川翔太</u> 、 <u>志村有永</u> 、 <u>大林治</u> . 「牽引生脊髄損傷」による頸髄損傷の 1 例 第 54 回日本脊髄障害医学会 秋田 2019 年 10 月 31 日-11 月 1 日
429. <u>志村有永</u> 、 <u>糸井陽</u> 、 <u>玉川翔太</u> 、 <u>大林治</u> . 頸椎後方除圧術後麻酔の血腫除去後に高圧酸素療法を併用し改善を得た 1 例 第 54 回日本脊髄障害医学会 秋田 2019 年 10 月 31 日-11 月 1 日
430. <u>寺本樹里</u> 、 <u>神田章男</u> 、 <u>水野洋佑</u> 、 <u>諸橋達</u> 、 <u>最上敦彦</u> 、 <u>大林治</u> . ヘルテス様扁平骨頭に対する大腿骨骨切併用偏心性寛骨臼回転骨切り術 第 193 回静岡整形外科医会集談会 静岡 2019 年 11 月 9 日
431. <u>西村周</u> 、 <u>糸井陽</u> 、 <u>玉川翔太</u> 、 <u>志村有永</u> 、 <u>大林治</u> . 腰椎椎間板ヘルニアと脊髄終始症候群を経時的に発症した 1 例 第 193 回静岡整形外科医会集談会 静岡 2019 年 11 月 9 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 432.水野洋佑、神田章男、寺本樹里、木原航、諸橋達、神田章男、大林治。外傷性股関節症に対する人工股関節全置換術の成績 第 193 回静岡整形外科医会集談会 静岡 2019 年 11 月 9 日
- 433.諸橋達。寛骨臼骨切り術の 4 症例 第 14 回お茶の水 Hip JOINT カンファレンス 東京 2019 年 7 月 20 日
- 434.神田章男。術前仰臥位 Sacral Slope から手術台上における仰臥位 Sacral Slope への変化予測 第 50 回日本人工関節学会 福岡 2020 年 2 月 21-22 日

諏訪哲

- 435.勝又俊郎、大木美枝子、米持真由美、園田健人、磯隆史、村田梓、設楽準、國本充洋、大内翔平、遠藤裕久、和田英樹、坪井秀太、荻田学、諏訪哲。レフルル心内膜炎の一症例 第 50 回静岡心エコー図セミナー 2015 年 7 月 25 日、静岡
- 436.松本里枝、山本優子、神谷知子、小野田基代乃、渡辺清美、櫻井操、諏訪哲。緊急カテ対応に向けての看護記録改善の取り組み～チェック方式の活用を取り入れ効率化・適正化を図る～ 第 34 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会 2015 年 9 月 9 日～10 日、名古屋
- 437.和田英樹、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥 智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、諏訪哲、代田浩之。Impact of Blood Glucose Control on Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease: Bare Metal Stents vs Drug Eluting Stents. 第 63 回日本心臓病学会学術集会、2015 年 9 月 18 日、横浜
- 438.國本充洋、諏訪哲、荻田学、坪井秀太、和田英樹、遠藤裕久、大内翔平、設楽準、村田梓、磯隆史、園田健人。遺残坐骨動脈に生じた急性下肢動脈閉塞症に対し保存的加療を行った一例。第 63 回日本心臓病学会学術集会、2015 年 9 月 19 日、横浜
- 439.設楽準、宮内克己、坪井秀太、荻田学、葛西隆敏、土肥智貴、内藤亮、小西宏和、土井信一郎、和田 英樹、遠藤裕久、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之。待機的冠動脈造影時の患者背景、内服状況に関する検討:冠動脈疾患の有無による比較。第 63 回日本心臓病学会学術集会、2015 年 9 月 20 日、横浜
- 440.園田健人、宮内克己、荻田学、坪井秀太、小西宏和、内藤亮、和田英樹、遠藤裕久、土肥智貴、葛西 隆敏、田村浩、諏訪哲、代田浩之。Clinical characteristics and contemporary predictor of coronary artery disease treated with and without statin. 第 63 回日本心臓病学会学術集会、2015 年 9 月 20 日、横浜
- 441.遠藤裕久、坪井秀太、宮内克己、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、設楽準、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之。The Association between high sensitive CRP and Coronary Artery Disease in non-Elderly Patients. 第 63 回日本心臓病学会学術集会、2015 年 9 月 18 日、横浜
- 442.石原正治、藤野雅史、小川久雄、野口暉夫、安田聡、中尾浩一、尾崎行男、木村一雄、諏訪哲、藤本 和輝、中間泰晴、森田孝、清水渉、齋藤能彦、西村邦彦。高感度トロポニンを用いた急性冠症候群の治療戦略:J-MINUET 研究からの報告。第 63 回日本心臓病学会学術集会、2015 年 9 月 18 日、横浜
- 443.Shitara J, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naitoh R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Association between Sustained Increase of Creactive Protein (CRP) and Longterm Mortality in Patients with Coronary Artery Disease Treated with PCI. 第 80 回日本循環器学会学術集会 2016 年 3 月 18 日～20 日、仙台
- 444.Sonoda T, Ogita M, Miyauchi K, Konishi H, Wada H, Naitoh R, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Impact of Lipoprotein (a) as Residual Risk on Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin after PCI. 第 80 回日本循環器学会学術集会 2016 年 3 月 18 日～20 日、仙台

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

445. 設楽準、坪井秀太、喜多村健一、青木映莉子、海老名秀城、園田健人、磯隆史、國本充洋、小西宏和、荻田学、諏訪哲. 腹部大動脈狭窄症に対してステント留置術を施行した症例 第 35 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会、2016 年 4 月 8 日、名古屋
446. 園田健人、荻田学、喜多村健一、青木映莉子、海老名秀城、磯隆史、設楽準、國本充洋、小西宏和、坪井秀太、諏訪哲. 左前下行枝の慢性完全閉塞病変に対し、Reverse wire technique を用いて経皮的冠動脈形成術を施行した症例 第 35 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会、2016 年 4 月 8 日、名古屋
447. 和田英樹、荻田学、宮内克己、坪井秀太、小西宏和、設楽準、國本充洋、園田健人、磯隆史、海老名秀城、青木映莉子、喜多村健一、田村浩、諏訪哲、代田浩之. 左主幹動脈に対して PCI を施行した ASC 患者の背景比較と入院中死亡の因子についての検討 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9
448. 和田英樹、荻田学、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之. インスリン抵抗性と PCI 後の脳血管イベントの関連についての検討 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9
449. 設楽準、坪井秀太、宮内克己、荻田学、葛西隆敏、土肥智貴、小西宏和、内藤亮、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之. 冠動脈形成術後のスタチン内服患者における赤血球容積粒度分布幅 (RDW) の有用性 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
450. 磯隆史、小西宏和、宮内克己、設楽準、和田英樹、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之. 経皮的冠動脈形成術後施行患者の予後と出血事象における ORBIT スコアの意義 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
451. 海老名秀城、石原正治、藤野雅史、西村邦宏、宮本恵宏、中尾浩一、安田聡、野口暉夫、尾崎行男、木村一雄、藤本和輝、中間泰晴、森田孝、荻田学、諏訪哲. 急性心筋梗塞患者における来院時間と院内死亡率の検討~Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET)~ 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
452. 園田健人、荻田学、宮内克己、小西宏和、坪井秀太、内藤亮、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之. Gender difference of lipoprotein(a) and long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease after percutaneous coronary intervention. 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
453. 磯隆史、小西宏和、喜多村健一、青木映莉子、海老名秀城、園田健人、設楽準、國本充洋、坪井秀太、荻田学、磯田菊生、諏訪哲. 保存的治療にて軽快した孤立性上腸間膜動脈解離の一例 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
454. 喜多村健一、坪井秀太、青木映莉子、海老名秀城、園田健人、磯隆史、設楽準、國本充洋、小西宏和、荻田学、磯田菊生、諏訪哲. 心電図変化を伴う胸痛を契機に診断された褐色細胞腫の一例 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
455. 國本充洋、坪井秀太、青木映莉子、喜多村健一、海老名秀城、園田健人、磯隆史、設楽準、小西宏和、荻田学、磯田菊生、諏訪哲. 内科的加療に難渋し LVAD 植込みを施行した D-HCM の一例 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
456. 和田英樹、荻田学、諏訪哲、代田浩之. 劇症型肺炎球菌感染症に合併した劇症型心筋炎の一例 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
457. 和田英樹、荻田学、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、土井信一郎、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之. Gender Differences in Patients with

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

<p>Statin Therapy Following Percutaneous Coronary Intervention 第 64 回日本心臓病学会学術集会、 2016 年 9 月 23 日~25 日、東京</p> <p>458. 恩田俊仁、井上健司、塩崎正幸、木村友紀、岡井巖、諏訪哲、藤原康昌、住吉正孝、代田浩之。薬物溶性ステント時代における各種心血管リスクスコアとバイオマーカーの心血管死予測効果の再評価 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京</p> <p>459. 三宅喬人、大林治、設楽準、諏訪哲、磯田菊生、大坂裕通、柳川洋一。一過性脳虚血発作と診断された深部静脈血栓症を伴う肺血栓塞栓症の一例。第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p591. 2016 (No.93 と同じ)</p> <p>460. 高橋徳仁、坪井秀太、太田洋、荻田学、青木映莉子、園田健人、磯隆史、海老名秀城、國本充洋、設楽準、小西宏和、諏訪哲。腹部大動脈閉塞に対し EVT を施行した Leriche 症候群の一例 日本心血管インターベンション治療学会第 37 回東海北陸地方会、名古屋、2017 年 5 月 12 日</p> <p>461. 園田健人、荻田学、坪井秀太、和田英樹、内藤亮、小西宏和、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、宮内克己、代田浩之。PCI 施行後の冠動脈疾患患者における腎機能増悪と長期予後の関連 第 65 回日本心臓病学会学術集会、大阪、2017 年 10 月 1 日</p> <p>462. 堂垂大志、高橋徳仁、小西宏和、阿部寛史、竹内充裕、藤原圭、磯隆史、海老名秀城、園田健人、塩澤知之、坪井秀太、荻田学、諏訪哲。OCT が有用であった A lotus root-like appearance を呈した急性冠症候群の一例 日本心血管インターベンション治療学会第 38 回東海北陸地方会、金沢、2017 年 10 月 7 日</p> <p>463. 小西宏和、宮内克己、和田英樹、内藤亮、坪井太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、諏訪哲、代田浩之。Effect of Pema fibrate (K-877) in Atherosclerosis Model Using Low Density Lipoprotein Receptor Knock-out Swine with Balloon Injury 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日</p> <p>464. Ebina H, Ogita M, Suwa S, Nakao K, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M. Off-hours Presentation Does not Affect Long-term Clinical Outcomes of Japanese Patients with Acute Myocardial Infarction: J-MINUET Substudy 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日</p> <p>465. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Miyauchi K, Daida H. Relationship Between the Prognostic Nutritional Index and Long-term Clinical Outcomes in Patients with Stable Coronary Artery Disease. 第 82 回日本循環器学会学術集会・大阪・2018/3/23</p> <p>466. 阿部寛史、坪井秀太、荻田学、竹内充裕、藤原圭、高橋徳仁、海老名秀城、園田健人、磯隆史、塩澤知之、小西宏和、諏訪哲。ステント使用を回避し得た STEMI 患者の症例 日本心血管インターベンション治療学会第 39 回東海北陸地方会・愛知・2018/5/12</p> <p>467. 諏訪哲 造影剤アレルギーの対処法 第 8 回豊橋ライブデモンストレーションコース・豊橋・2018/6/22</p> <p>468. 諏訪哲 症例大検討会『みんなで議論・解決、難渋した症例のターニングポイント』 第 151 回日本循環器学会東海地方会・岐阜・2018/6/30</p> <p>469. 藤原圭、高橋徳仁、竹内充裕、園田健人、海老名秀城、磯隆史、塩澤知之、小西宏和、坪井秀太、荻田学、諏訪哲。特発性冠動脈解離により心室細動を来した一例 第 151 回日本循環器学会東海地方会 岐阜・2018/6/30</p> <p>470. 諏訪哲 Real World Video Session for AMI Part1 Case 4 TOPIC2018・東京・2018/7/12</p> <p>471. 諏訪哲 Practical Workshop for Intervention Fellows Part4 合併症 1.no reflow 現象への対応 TOPIC2018・東京・2018/7/12</p> <p>472. 諏訪哲 Practical Workshop for Intervention Fellows Part4 合併症 4.ステント脱落例 TOPIC2018・東京・2018/7/12</p>
--

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

473. 堂垂大志、坪井秀太、竹内充裕、高橋徳仁、園田健人、和田英樹、荻田学、土肥智貴、諏訪哲、宮内克己、代田浩之。 当院における急性冠症候群の臨床的特徴と長期予後に関する研究 第66回日本心臓病学会学術集会・大阪・2018/9/7
474. 高橋徳仁、荻田学、諏訪哲、中尾浩一、尾崎行男、木村一雄、阿古潤哉、野口暉夫、安田聡、藤本和輝、中間泰治、西村邦宏、宮本恵宏、小川久雄、石原正治。 クレアチンキナーゼの上昇を認めない非ST上昇型急性心筋梗塞の患者におけるBNP値と長期予後についての検討(J-MINUETサブ解析) 第66回日本心臓病学会学術集会・大阪・2018/9/7
475. 和田英樹、土肥智貴、葛西隆敏、谷津翔一郎、内藤亮、華藤芳輝、荻田学、岡井巖、岩田洋、磯田菊生、岡崎真也、諏訪哲、宮内克己、代田浩之。 睡眠呼吸障害を有する患者の冠動脈プラークの特徴 第66回日本心臓病学会学術集会・大阪・2018/9/9
476. 谷津翔一郎、小西宏和、和田英樹、安田健太郎、西尾亮太、竹内充裕、高橋徳仁、園田健人、磯隆史、塩澤知之、荻田学、諏訪哲。 冠動脈高度石灰化病変の治療中にステント脱落を来したがスネアで回収に成功した一例 日本心血管インターベンション治療学会 第40回東海北陸地方会・静岡県・2018/10/12
477. 安田健太郎、小西宏和、和田英樹、西尾亮太、竹内充裕、谷津翔一郎、園田健人、磯隆史、塩澤知之、荻田学、諏訪哲。 腹部大動脈閉塞による急性下肢阻血に対しカテーテル治療を行い救肢し得た一例 日本心血管インターベンション治療学会 第40回東海北陸地方会・静岡県・2018/10/12
478. 中村優、高橋徳仁、荻田学、西尾亮太、安田健太郎、竹内充裕、園田健人、磯隆史、谷津翔一郎、和田英樹、塩澤知之、丹原圭一、諏訪哲。 失神を契機に同定された多発性嚢胞腎に合併した巨大冠動脈瘤の1例 日本循環器学会 第152回東海・第137回北陸合同地方会・愛知県・2018/10/20
479. 柳川洋一、大坂裕通、長澤宏樹、竹内郁人、日域佳、石川浩平、大森一彦、諏訪哲。 ドクターヘリにより現場から搬送した急性冠症候群の転帰の検討。 日本臨床救急医学会雑誌 2018;)21(2):365. 第21回日本臨床救急医学会総会・学術集会、名古屋国際会議場、2018.6.2 (No.145と同じ)
480. 和田英樹、土肥智貴、宮内克己、竹内充裕、高橋徳仁、遠藤裕久、荻田学、諏訪哲、代田浩之。 冠動脈疾患を有する患者における血清アルブミン値と長期予後の関連についての検討 第53回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会・東京都・2019/1/12
481. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Kato Y, Ogita M, Okai I, Iwata H, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H. Impact of serum 1,5-anhydro-d-glucitol levrl on prrdiction of severe coronary artery calcification:An intravascular ultrasound study 第83回日本循環器学会学術集会・神奈川県・2019/3/29
482. Takeuchi M, Ogita M, Tsuboi S, Takahashi N, Sonoda T, Wada H, Dohi T, Suwa S, Daida H. Impact of living alone on long-term mortality in patients with acute coronary syndrome treated with percutaneous coronary intervention. 第83回日本循環器学会学術集会・神奈川県・2019/3/29
483. Nishio R, Wada H, Dohi T, Takeuchi M, Takahashi N, Endo H, Ogita M, Iwata H, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Miyauchi K, Daida H. Neutrophil to lymphocyte ratio and ong-time cardiovascular outcomes in coronary artery disease patients with low high-sensitivity C-reactive protein level 第83回日本循環器学会学術集会・神奈川県・2019/3/30
484. Wada H, Ogita M, Suwa S, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita Y, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Mano T, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Oshima S, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M. Guideline adherence and long-term clinical outcomes in patients with acute myocardial infarction: Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET) Substudy. 第83回日本循環器学会学術集会・神奈川県・2019/3/31

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 485.和田 英樹, 土肥 智貴, 諏訪 哲, 宮内 克己, 代田 浩之. 好中球リンパ球数比と安定狭心症患者の長期予後についての検討 第 53 回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会・東京都・2019/1/12
- 486.堂垂 大志, 坪井 秀太, 荻田 学, 竹内 充裕, 高橋 徳仁, 園田 健人, 和田 英樹, 土肥 智貴, 諏訪 哲, 宮内 克己, 代田 浩之. 当院における急性冠症候群の臨床的特徴と長期予後に関する検討 第 53 回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会・東京都・2019/1/12
- 487.安田 健太郎, 荻田 学, 野崎 侑衣, 高橋 大悟, 西尾 亮太, 竹内 充裕, 谷津 翔一郎, 園田 健人, 設楽 準, 和田 英樹, 塩澤 知之, 土井 信一郎, 諏訪 哲. 閉塞性肥大型心筋症に対して経皮的な中隔心筋焼灼術を施行した一例 CVIT 東海北陸地方会・愛知・2019/5/31-6/1
- 488.竹内充裕, 和田英樹, 荻田学, 安田健太郎, 西尾亮太, 高橋徳仁, 磯隆史, 園田健人, 谷津翔一郎, 塩澤知之, 諏訪哲, 代田浩之. 慢性完全閉塞病変に対してワイヤー通過後、デバイス持ち込み困難で別ルートよりワイヤー通過させることで治療に成功した一例 CVIT 東海北陸地方会・愛知・2019/5/31-6/1
- 489.竹内 充裕, 和田 英樹, 諏訪 哲. Door to Balloon time の短縮 TOPIC 2019・東京・2019/7/11-13
- 490.和田 英樹, 諏訪 哲. 右冠動脈起始異常のためDioを用いてロータープレートを使用し治療を行った高度石灰化病変の一例 TOPIC 2019・東京・2019/7/11-13
- 491.西尾亮太, 和田英樹, 野崎侑衣, 高橋大悟, 安田健太郎, 竹内充裕, 谷津翔一郎, 園田健人, 塩澤知之, 荻田学, 諏訪哲, 代田浩之. たこつぼ心筋症に完全房室ブロックを合併した一例 第 67 回日本心臓病学会学術集会・愛知・2019/9/13-15
- 492.堂垂 大志, 坪井 秀太, 荻田 学, 竹内 充裕, 高橋 徳仁, 園田 健人, 和田 英樹, 土肥 智貴, 諏訪 哲, 宮内 克己, 代田 浩之. 当院における急性冠症候群の臨床的特徴と長期予後に関する検討 第 67 回日本心臓病学会学術集会・愛知・2019/9/13-15
- 493.Yasuda K, Ogita M, Dohi T, Takahashi D, Ozaki Y, Nozaki Y, Nishio R, Takeuchi M, Sonoda T, Yatsu S, Shitara J, Wada H, Suwa S. Serial OCT findings in young adult ACS treated with antithrombotic therapy without stenting CVIT 学術集会・愛知・2019/9/19-21
- 494.Wada H, Ogita M, Suwa S, Ozaki Y, Nozaki Y, Takahashi D, Nishio R, Yasuda K, Takeuchi M, Yatsu S, Sonoda T, Miyauchi K, Daida H. Percutaneous coronary intervention to unprotected left main trunk lesion in patients with acute coronary syndrome. CVIT 学術集会・愛知・2019/9/19-21
- 495.阿部圭希, 谷津翔一郎, 長澤宏樹, 西尾亮太, 安田健太郎, 竹内充裕, 園田健人, 和田英樹, 塩澤知之, 荻田学, 柳川洋一, 諏訪哲. 急性心筋梗塞に合併した左室破裂を救命しえた 1 例 第 22 回日本救急医学会中部地方会・静岡・2019/11/23 (No.183 と同じ)
- 496.和田 英樹, 荻田 学, 諏訪 哲, 中尾 浩一, 尾崎 行男, 木村 一雄, 阿古 潤哉, 野口 暉夫, 安田 聡, 藤本 和輝, 中間 泰晴, 西村 邦宏, 宮本 恵宏, 小川 久雄, 石原 正治. 急性心筋梗塞発症後の心筋梗塞再発と長期予後についての検討 J-MINUET Substudy 第 67 回日本心臓病学会学術集会・愛知・2019/9/13-15
- 吉池高志**
- 497.日域桂, 柳川洋一, 吉澤俊彦, 石川浩平, 竹内郁人, 大森一彦, 大坂裕通, 作田梨奈, 吉池高志. ステロイドパルス療法と免疫グロブリン大量静注療法が著効した重症薬疹の一例.日本集中治療医学会 2017; 24: 168. (No.112 と同じ)
- 長谷川敏男**
- 498.前田佑一郎, 長谷川敏男, 平澤祐輔, 土橋人士, 小川尊資, 込山悦子, 池田志孝, 長坂晃朗, 三浦直人. 各種疾患による静脈変化への指静脈認証技術の応用可能性の検討. 第 117 回日本皮膚科学会総会, 2018.6.1, 広島

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 499.野口篤, 清水智子, 吉池高志, 長谷川敏男, 和田了, 池田志孝. ダーモスコピーで皮丘平行パターンを示した左測定複合母斑の1例. 第117回日本皮膚科学会総会, 2018.6.1, 広島
- 500.生玉梨紗, 池田友里, 住吉泰子, 野口篤, 長谷川敏男. S状結腸癌を合併した皮膚筋炎の1例. 第122回日本皮膚科学会静岡地方会, 2018.10.13, 三島
- 501.池田有里, 生玉梨紗, 作田梨奈, 野口篤, 長谷川敏男. リケッチア感染症の加療で発症した薬剤過敏症症候群の1例. 第122回日本皮膚科学会静岡地方会, 2018.10.13, 三島
- 502.鎌田麻美, 平澤祐輔, 岩永温子, 本間由希子, 長谷川敏男, 池田志孝. in situ と結節型が同時に見られた悪性黒色腫の1例. 第34回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2018.7.6, 浜松
- 503.鎌田麻美, 長谷川敏男, 込山悦子, 平澤祐輔, 池田志孝. 結節性硬化症の顔面血管線維腫に対して高周波ラジオ波メスによる治療を行った1例. 第70回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 2018.11.10, 松江
- 504.舩谷友里恵, 平澤祐輔, 中島未音, 吉原渚, 長谷川敏男, 池田志孝, 中野創. 若年で有棘細胞癌を生じた優性栄養障害型先天性表皮水疱症の1例. 第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会 2018.10.28 大阪
- 505.影嶋優香子, 木蜜徹, 住吉泰子, 野口篤, 長谷川敏男. 卵巣癌を合併した抗 TIF1- γ 抗体陽性皮膚筋炎の1例. 第123回日本皮膚科学会静岡地方会, 浜松, 2019年1月30日
- 506.住吉泰子, 野口篤, 長谷川敏男. 炎症性線状疣贅状表皮母斑の1例. 第123回日本皮膚科学会静岡地方会, 浜松, 2019年1月30日
- 507.高橋美帆, 平澤祐輔, 長谷川敏男, 池田志孝, 末原義之. 両上肢に異時多発した脂肪肉腫の1例. 日本皮膚科学会第882回東京地方会, 東京, 2019年1月19日
- 508.Yamanashi H, Boeglin WE, Morisseau C, Davis RW, Sulikowski GA, Hammock BD, Brash AR, Hasegawa T, Ikeda S. Hypothesis of a role for EH3 and she in skin barrier function. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6日
- 509.金宗訓, 長谷川敏男, 前田佑一郎, 平澤祐輔, 土橋人士, 小川尊資, 込山悦子, 長坂晃朗, 三浦直人, 池田志孝. 各種疾患の静脈変化評価における指静脈認証技術の応用可能性 第2段. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6日
- 510.影嶋優香子, 木蜜徹, 住吉泰子, 野口篤, 長谷川敏男. 帝王切開手術創に壊疽性膿皮症を生じた1例. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6日
- 511.住吉泰子, 野口篤, 長谷川敏男. エリスリトールによりアナフィラキシーを呈した1例. 第124回日本皮膚科学会静岡地方会, 静岡, 2019年6月23日
- 512.松田晃徳, 野口篤, 野々垣香織, 温井勇希, 高橋美帆, 長谷川敏男. 右手背に生じた Mycobacterium marinum 感染症の1例. 第125回日本皮膚科学会静岡地方会, 三島, 2019年10月27日
- 513.温井勇希, 野口篤, 松田晃徳, 野々垣香織, 長谷川敏男. 著明な液状変性と付属器細胞浸潤を認めた Blaschkitis の1例. 第125回日本皮膚科学会静岡地方会, 三島, 2019年10月27日
- 514.Kim J, Hasegawa T, Wada A, Maeda Y, Ikeda S. Effects of adipose-derived stem cells differentiated into keratinocyte-like cells on wound healing. The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Aomori, 2019年11月8日
- 515.吉村智子, 平澤祐輔, 長谷川敏男, 池田志孝. 右外陰部に生じた顆粒細胞腫の1例. 第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2019年11月16日
- 岡崎敦**
- 516.岡崎敦, 洪景都, 真弓雅子. ペインクリニック外来を受診する患者の痛みとしびれに対する考え方の調査 (ポスター発表)、日本ペインクリニック学会第52回大会、東京、2018.7.21

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

佐藤浩一、折田創、前川博

517. 折田創、松澤宏和、水口このみ、平田史子、丹羽浩一郎、伊古田正憲、伊藤智彰、瀬沼幸司、櫛田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。GSDM 遺伝子ファミリーの腫瘍マーカーとしての有用性について検討。第 115 回日本外科学会、愛知(名古屋国際会議場)4 月 18 日、2015
518. 徳田智史、前川博、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、和田了、佐藤浩一。上行結腸に発生した inflammatory fibroid polyp の 1 例。静岡県外科医会第 234 回集談会、2016.6.11、CSA 貸会議室レイアアップ御幸町ビル6階
519. 水口このみ、加藤永記、山本陸、宮崎剛、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、内田隆行、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。十二指腸カルチノイドに対する LECS 施行の経験。静岡内視鏡外科研究会、2016.7.9、プラザヴェルデ
520. 折田創、片岡太郎、遠藤未来美、伊藤智彰、寒竹正人、清水芳男、城石俊彦、Kathleen, G., Malcolm B., 佐藤浩一。災害医学研究と遺伝学。第 88 回日本遺伝学会総会 2016 年 9 月 7 日 三島
521. 上田脩平、山本陸、加藤永記、宮崎剛、櫻庭駿介、徳田智史、水口このみ、内田隆行、宗像慎也、伊藤智彰、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。多発胃癌の DNA メチル化の検討。第 69 回静岡県癌治療研究会、2016.10.1、静岡市産学交流センター B-nest
522. 櫻庭駿介、折田創、上田脩平、徳田智史、水口このみ、内田隆行、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知志、櫻田睦、前川博、和田了、佐藤浩一。大腸癌における原発巣部位別に検討した HER-2 発現の検討。第 78 回日本臨床外科学会総会、2016.11.26、グランドプリンスホテル新高輪、国際間パミール
523. 小泉明博、櫻庭駿介、上田脩平、徳田智史、水口このみ、内田隆行、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。診断に苦慮した c-kit 陰性、CD34 陰性の胃粘膜下腫瘍の一例。第 78 回日本臨床外科学会総会、2016.11.24、ザ・プリンスさくらタワー東京
524. 山本陸、加藤永記、李智榮、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、内田隆行、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、和田了、佐藤浩一。門脈血栓と限局性小腸壊死をきたしたプロテイン S 抗原活性低下の一例。第 53 回日本腹部救急医学会総会、2017.3.3、パシフィコ横浜
525. 徳田智史、前川博、山本陸、加藤永記、上田脩平、櫻庭駿介、水口このみ、内田隆行、宗像慎也、清水秀穂、折田創、櫛田知志、櫻田睦、和田了、佐藤浩一。IPMC を併存した遠位胆管癌の 1 例。静岡県外科医会第 236 回集談会、2017.3.4、プラザヴェルデ
526. 上田脩平、山本陸、加藤永記、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。左卵巣静脈原発平滑筋肉腫の 1 例。静岡県外科医会第 236 回集談会、2017.3.4、プラザヴェルデ
527. 水口このみ、山本陸、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。子宮円靱帯に発生した平滑筋腫の 1 例。静岡県外科医会第 236 回集談会、2017.3.4、プラザヴェルデ
528. 小泉明博、加藤永記、山本陸、李智榮、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。虫垂粘液嚢腫の 1 例。静岡県外科医会第 236 回集談会、2017.3.4、プラザヴェルデ
529. 山本陸、加藤永記、李智榮、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。腸重積をきたした回腸脂肪腫の 1 例。静岡県外科医会第 236 回集談会、2017.3.4、プラザヴェルデ
530. 小笠大起、佐藤浩一、前川博、櫻田睦、折田創、櫛田知志、内田隆行、宗像慎也、水口このみ、櫻庭駿介、徳田智史、上田脩平、李智榮、加藤永記、山本陸、和田了。噴門側胃切除術と脾尾部・脾臓合併切除

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

により完全一括切除をなし得た胃原発性 Gastrointestinal stromal tumor (GIST)の1例. 静岡県外科医会第 236 回集談会、2017.3.4、プラザヴェルデ
531.加藤永記、山本陸、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一. 術後 11 年目で腎転位をきたした直腸癌の1例. 静岡県外科医会第 236 回集談会、2017.3.4、プラザヴェルデ
532.三好悠斗、山本陸、加藤永記、李智榮、徳田智史、上田脩平、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一. 乳腺アポクリン癌の1例. 静岡県外科医会第 236 回集談会、2017.3.4、プラザヴェルデ
533.前川博、佐藤浩一、櫻田睦、折田創、櫛田知志、清水秀穂、内田隆行、宗像慎也、水口このみ、櫻庭駿介、徳田智史、上田脩平、加藤永記、山本陸. 絶食による血中 adipokine の変動について. 第 117 回日本外科学会総会、2017.4.27、パシフィコ横浜
534.折田創、片岡太郎、田中成和、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、水口このみ、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知志、櫻田睦、前川博、和田了、城石俊彦、佐藤浩一. 大腸炎におけるパイロトシス誘導分子ガスターミンDの働き及び癌化の解明. 第 117 回日本外科学会総会、2017.4.28、パシフィコ横浜
535.加藤永記、折田創、山本陸、李智榮、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一. 術後 11 年目で腎転移をきたした直腸癌の1例. 第 42 回日本外科系連合学術集会、2017.6.29、あわぎんホール
536.山本陸、加藤永記、李智榮、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一. 腸重積をきたした回腸脂肪腫の一例. 第 42 回日本外科系連合学術集会、2017.6.29、あわぎんホール
537.上田脩平、佐藤浩一、前川博、櫻田睦、折田創、櫛田知志、清水秀穂、内田隆行、宗像慎也、水口このみ、櫻庭駿介、徳田智史、李智榮、加藤永記、山本陸. 右卵巢静脈原発平滑筋肉腫の一例. 第 42 回日本外科系連合学術集会、2017.6.30、あわぎんホール
538.前川博、伊藤智彰、折田創、Alicia,H., Malcolm,B., 佐藤浩一. 膵癌組織における CHFR,CDO1,TAC1 遺伝子のメチル化の検討 第 48 回日本膵臓学会大会 2017.7.14 京都 みやこめっせ
539.徳田智史、折田創、櫻庭駿介、内田隆行、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一. 消化器癌症例を用いたうつ病マーカーの検討. 第 72 回日本消化器外科学会総会、2017.7.21、ANA クラウンプラザホテル金沢
540.村井勇太、前川博、小泉明博、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、宗像慎也、清水秀穂、折田創、櫛田知志、櫻田睦、佐藤浩一. 原発性小腸癌の一例. 静岡県外科医会第 237 回集談会、2017.8.26、静岡商工会議所
541.山本陸、宗像慎也、村井勇太、小泉明博、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、和田了、佐藤浩一. 当院での4型大腸癌の検討. 第 79 回日本臨床外科学会総会、2017.11.25、東京国際フォーラム
542.村井勇太、小泉明博、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、櫛田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一. 原発性小腸癌5例の検討. 第 79 回日本臨床外科学会総会、2017.11.24、東京国際フォーラム
543.小泉明博、和田了、佐藤浩一、前川博、櫻田睦、折田創、櫛田知志、清水秀穂、櫻庭駿介、徳田智史、上田脩平、加藤永記、山本陸、村井勇太. 胃腺扁平上皮癌の1例. 第 79 回日本臨床外科学会総会、2017.11.25、東京国際フォーラム
544.佐藤将盛、小泉明博、村井勇太、山本陸、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一. 成人の十二指腸膜様狭窄に対し内視鏡的切開術を

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 施行した1例. 第 79 回日本臨床外科学会総会、2017.11.24、東京国際フォーラム
545. 新田周作、櫛田知志、徳田智史、櫻庭駿介、上田脩平、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一、加藤永記、山本陸、小泉明博、村井勇太、清水秀穂. 正中弓状靱帯圧迫症候群による下脛十二指腸動脈瘤の破裂により腹腔内出血をきたした症例. 第 79 回日本臨床外科学会総会、2017.11.24、東京国際フォーラム
546. 徳田智史、前川博、小泉明博、村井勇太、山本陸、加藤永記、上田脩平、櫻庭駿介、氷室貴規、宗像慎也、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、佐藤浩一. 腺癌成分を混在した十二指腸乳頭部原発の印環細胞癌の1例. 第 109 回静岡胆膵疾患研究会、2018.2.24、ニッセイ静岡駅前ビル
547. 村井勇太、前川博、小泉明博、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、宗像慎也、清水秀穂、折田創、櫛田知志、櫻田睦、田中顕一郎、佐藤浩一. 経皮経肝胆道ドレナージ後右肝動脈仮性動脈瘤の1例. 第 54 回日本腹部救急医学会総会、2018.3.8、京王プラザホテル
548. 小泉明博、徳田智史、櫻庭駿介、宗像慎也、櫛田知志、折田創、櫻田睦、佐藤浩一. 肝嚢胞自然破裂を来した1例. 第 54 回日本腹部救急医学会総会、2018.3.9、京王プラザホテル
549. 前川博、村井勇太、小泉明博、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、氷室貴規、宗像慎也、田中顕一郎、櫛田知志、折田創、櫻田睦、佐藤浩一. 遠位胆管癌症例の補助化学療法の効果についての検討. 第 72 回静岡県癌治療研究会、2018.3.17、静岡第一ホテル
550. 村井 勇太、田中 顕一郎、清水 秀穂、前川 博、佐藤 浩一、和田 了、齊藤 光江. モーズ軟膏と放射線療法の併用で腫瘍の著明な縮小を認めた高齢の皮膚浸潤乳癌の1例. 第 26 回日本乳癌学会総会、2018.5.16、国立京都国際会館
551. 田中 顕一郎、清水 秀穂、前川 博、佐藤 浩一、和田 了、齊藤 光江. 骨髄抑制を来し治療に難渋した、炎症性乳癌、椎骨転移の1例. 第 26 回日本乳癌学会総会、2018.5.16、国立京都国際会館
552. 清水 秀穂、田中 顕一郎、前川 博、佐藤 浩一、和田 了、齊藤 光江. 当院における FEC100 療法でのペグフィルグラステム(1 次的予防)の使用経験. 第 26 回日本乳癌学会総会、2018.5.16、国立京都国際会館
553. 村井勇太、前川博、小泉明博、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫛田知志、櫻田睦、折田創、田中 顕一郎、佐藤浩一、矢田昌太郎、田中利隆、金田容秀、三橋直樹. 妊娠合併急性膵炎に対して緊急帝王切開術後に保存的治療にて救命し得た1例. 第 43 回日本外科系連合学会学術集会、2018.6.22、虎ノ門ヒルズフォーラム
554. 宗像慎也、村井勇太、小泉明博、加藤永記、山本陸、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、折田創、櫛田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一. 閉塞性大腸癌の長期成績. 第 43 回日本外科系連合学会学術集会、2018.6.22、虎ノ門ヒルズフォーラム
555. 山本陸、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、氷室貴規、宗像慎也、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中 顕一郎、前川博、和田了、佐藤浩一. S 状結腸癌と前立腺癌の重複癌を術後病理検査で診断し得た一例. 第 43 回日本外科系連合学会学術集会、2018.6.23、虎ノ門ヒルズフォーラム
556. 徳田智史、村井勇太、小泉明博、山本陸、加藤永記、上田脩平、櫻庭駿介、氷室貴規、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中 顕一郎、前川博、和田了、佐藤浩一. 多臓器浸潤を伴う巨大後腹膜腫瘍に対し手術を施行し得た1例. 第 43 回日本外科系連合学会学術集会、2018.6.22、虎ノ門ヒルズフォーラム
557. 村井勇太、氷室貴規、田中 顕一郎、前川博、佐藤浩一、和田了. 乳房切除後、創部に局所再発するも切除し得た1例. 第 15 回日本乳癌学会中部地方会、2018.9.8、三重大学病院
558. 山本陸、村井勇太、小泉明博、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、朝倉孝延、氷室貴規、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中 顕一郎、前川博、和田了、佐藤浩一. pagetoid 癌を呈した若年性乳癌の一例. 第 15 回日本乳癌学会中部地方会、2018.9.8、三重大学病院
559. 徳田智史、前川博、小泉明博、佐藤浩一. 肝血管腫を合併した、胃癌の症例に対し同時切除した1例. 第

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 296 回東海外科医会・静岡県外科医会第 239 回集談会、2018.10.14、アクトシティ浜松コンgresセンター
560. 小泉明博、前川博、徳田智史、佐藤浩一。肝細胞癌縦隔再発の1例。第 296 回東海外科医会・静岡県外科医会第 239 回集談会、2018.10.14、アクトシティ浜松コンgresセンター
561. 小泉明博、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、朝倉孝延、榎田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。当院におけるがん地域連携クリティカルパス。第 48 回胃外科・術後障害研究会、2018.11.10、ホテル日航金沢
562. 小泉明博、村井勇太、山本陸、加藤永記、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、氷室貴規、榎田知志、折田創、櫻田睦、田中 顕一郎、前川博、佐藤浩一。大腸癌術後化学療法中の腸管囊胞状気腫症に対し保存的加療で軽快した1例。第 80 回日本臨床外科学会総会、2018.11.22、グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール
563. 田中 顕一郎、氷室貴規、小泉明博、村井勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、榎田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。治療に悩んだ潜在性乳がんの2例。第 80 回日本臨床外科学会総会、2018.11.22、グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール
564. 村井勇太、中村佳代子、山田真紀、田中 顕一郎、氷室貴規、小泉明博、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、榎田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。Mohs 軟膏の改良法(Mohs ガーゼ法)が有効であった皮膚浸潤乳癌の3例。第 80 回日本臨床外科学会総会、2018.11.23、グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール
565. 折田創。当院での腹腔鏡下幽門側胃切除におけるトラブルシューティングを想定しての体腔内吻合の導入について。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、2018.12.6、福岡国際会議場
566. 上田脩平、佐藤浩一、前川博、田中顕一郎、櫻田睦、折田創、榎田知志、清水秀穂、宗像慎也、櫻庭駿介、徳田智史、加藤永記、山本陸、小泉明博、村井勇太。感染源不明の敗血症性ショックに対して PMX-DHP が著効した 1 例。第 22 回エンドトキシン血症救命治療研究会(東京コンファレンスセンター品川) 2018.1.19
567. 折田創。薬物代謝酵素カルボキシルエステラーゼの消化器癌における発現調節機構の解明(神奈川 パシフィコ横浜)第 56 回日本癌治療学会学術集会、2018.10.19
568. 徳田智史、折田創、小泉明博、村井勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、氷室貴規、宗像慎也、榎田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一。消化器癌症例を用いたうつ病マーカーの検討(神戸、神戸国際展示場1号館)JDDW2018.11.3
569. 前川博。遠位胆管癌、乳頭部癌の病理組織学的因子と術後補助化学療法の効果についての検討(鹿児島、かごしま県民交流センター)第 73 回日本消化器外科学会総会、2018.7.13
570. 加藤永記、村井勇太、小泉明博、山本陸、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、朝倉孝延、氷室貴規、榎田知志、折田創、櫻田睦、田中 顕一郎、前川博、佐藤浩一。SP 療法により conversion surgery が可能となった胃 mixed adenoendocrine carcinoma (MANEC)の1例。静岡県外科医会、第 240 回集談会、2019.3.2、プラザベルデ
571. 小泉明博、村井勇太、山本陸、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、朝倉孝延、氷室貴規、榎田知志、折田創、櫻田睦、田中 顕一郎、前川博、佐藤浩一。術後大動脈リンパ節転移を認め、リンパ節切除を行った食道癌の1例。第 74 回静岡県癌治療研究会、2019.3.30、静岡市産学交流センター
572. 折田創、岡本千香子、田中成和、李賢喆、小林敏之、小泉明博、村井勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、水口このみ、宗像慎也、清水秀穂、榎田知志、櫻田睦、前川博、和田了、城石俊彦、佐藤浩一。ガスダミン D ノックアウトマウスを用いた大腸がんモデルマウスにおける、脂肪酸合成酵素阻害による抗腫瘍効果、薬物動態について。第 119 回日本外科学会総会(大阪国際会議場)2019.4.18

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

573. 折田創、岡本千香子、李賢喆、小林敏之、小泉明博、村井勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、氷室貴規、榎田知志、櫻田 睦、田中顕一郎、前川博、横溝岳彦、佐藤浩一。胃癌における FABP5 の発現について。第 91 回日本胃癌学会(プラザヴェルデ沼津)2019.3.1
574. 上田脩平、小泉明博、村井勇太、加藤永記、山本陸、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、氷室貴規、折田創、榎田知志、櫻田 睦、田中顕一郎、前川博、横溝岳彦、佐藤浩一。大腸穿孔に対して緊急手術を施行した症例の qSOFA、SIRS Criteria と予後の検討。第 23 回エンドトキシン血症救命治療研究会(NS スカイカンファレンス)2019.1.25
575. 櫻庭駿介、村井勇太、小泉明博、山本陸、加藤永記、徳田智史、氷室貴規、朝倉孝延、榎田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一。PMX-DHP 施行前後における血清乳酸値と SOFA スコアの検討 東京、新宿NKビル 第23回エンドトキシン血症救急救命研究会 2019.1.25
576. 櫻庭駿介、村井勇太、小泉明博、山本陸、加藤永記、徳田智史、氷室貴規、朝倉孝延、榎田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一。当院における大腸 孔の治療成績と血清乳酸値の検討 宮城、仙台国際センター 第55回日本腹部救急医学学会総会 2019.3.7
577. 小泉明博、村井勇太、山本陸、加藤永記、徳田智史、櫻庭駿介、氷室貴規、朝倉孝延、榎田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一。当院で下血症例に対する抗凝固剤の影響 宮城、仙台国際センター 第55回日本腹部救急医学学会総会 2019.3.7
578. 田中顕一郎、氷室貴規、安藤美沙、小泉明博、村井勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、伊藤智彰、榎田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一、齊藤光江。高齢化・過疎化・遠隔地の3重苦に打ち克つ;伊豆半島の新たな医療の取り組み 大阪、大阪国際会議場 第119回日本外科学会定期学術集会 2019.4.19
579. 前川 博、村井勇太、小泉明博、加藤永記、山本 陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、榎田知志、折田 創、櫻田 睦、田中顕一郎、佐藤浩一。膵切除後の糖尿病発症症例の検討 第119回日本外科学会定期学術集会 大阪、大阪国際会議場 2019.4.20
580. 村井勇太、櫻庭駿介、小泉明博、加藤永記、山本陸、上田脩平、徳田智史、朝倉孝延、折田創、櫻田睦、榎田知志、前川博、田中顕一郎、佐藤浩一。S状結腸憩室炎による子宮全摘術後の結腸腔瘻の1例 金沢、ANAクラウンプラザホテル金沢 第44回日本外科系連合学会総会 2019.6.19
581. 渡邊武大、山本陸、村井勇太、小泉明博、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、朝倉孝延、榎田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一。胆石イレウスの1例 金沢、ANAクラウンプラザホテル金沢 第44回日本外科系連合学会総会 2019.6.20
582. 徳田智史、村井勇太、小泉明博、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、氷室貴規、榎田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一。膵頭十二指腸切除を施行する症例における、腹腔動脈の狭窄・閉塞を合併する割合の検討 金沢、ANAクラウンプラザホテル金沢 第44回日本外科系連合学会総会 2019.6.21
583. 山本陸、村井勇太、小泉明博、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、朝倉孝延、榎田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一。内膀胱上窩ヘルニア嵌頓による絞扼性イレウスの1例 金沢、ANAクラウンプラザホテル金沢 第44回日本外科系連合学会総会 2019.6.21
584. 田中顕一郎、氷室 貴規、小泉 明博、村井 勇太、加藤 永記、山本 陸、上田 脩平、櫻庭 駿介、徳田 智史、朝倉 孝延、榎田 知志、折田 創、櫻田 睦、前川 博、佐藤 浩一、和田 了、齊藤 光江。当科におけるジーラスタの評価 東京、京王プラザホテル 第27回日本乳癌学会学術総会 2019.7.11
585. 村井勇太、田中顕一郎、小泉明博、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、氷室貴規、朝倉孝延、榎田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一、齊藤光江、和田了、中村佳代子、山田真紀。皮膚

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

- 浸潤乳癌に対するMohs軟膏の効果を高める新たな治療法 東京、京王プラザホテル 第27回日本乳癌学会学術総会 2019,7,11
586. 前川博. 膵癌組織における脂肪酸結合蛋白 5 発現の免疫組織学的検討 グランドニッコー東京台場 第50回日本膵臓学会大会 2019,7,13
587. 前川博. 膵癌組織のCHFR遺伝子のメチル化と病理組織因子の関連についての検討 グランドプリンス新高輪 第74回日本消化器外科学会総会 2019,7,19
588. 安藤美沙、田中顕一郎、小泉明博、村井勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、氷室貴規、朝倉孝延、伊藤智彰、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一、齋藤光江. 男性乳癌の一例 名古屋コンベンションホール 第16回日本乳癌学会中部地方会 2019,8,31
589. 山本陸、安藤美沙、小泉明博、村井勇太、加藤永記、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、伊藤智彰、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、和田了、佐藤浩一. 鼠径部子宮内膜症を合併した成人Nuck管水腫の1例 静岡商工会議所4F、401・402会議室 静岡県外科医会第241回集談会 2019,8,31
590. 小泉明博、村井勇太、山本陸、加藤永記、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、伊藤智彰、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、和田了、佐藤浩一. 回腸脂肪腫による成人腸重積症の1例 静岡商工会議所4F、401・402会議室 静岡県外科医会第241回集談会 2019,8,31
591. 村井勇太、安藤美沙、小泉明博、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、伊藤智彰、櫛田知志、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一. メシル酸イマチニブによるNeoadjuvant Therapyにて完全切除し得た直腸GISTの1例 静岡市産学交流センターB-nest “プレゼンテーションルーム”6F 第75回静岡県癌治療研究会 2019.9.14
592. 田中顕一郎、安藤美沙、小泉明博、村井勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一. 当院におけるアベマシクリブの使用経験 ホテル日航高知旭ロイヤル2F 第81回日本臨床外科学会総会 2019.11.14
593. 上田脩平、安藤美沙、村井勇太、小泉明博、山本陸、加藤永記、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、伊藤智彰、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一. 十二指腸下行脚の表在性非乳頭腫瘍に対して腹腔鏡内視鏡合同手術を施行しえた1例 ホテル日航高知旭ロイヤル2F 第81回日本臨床外科学会総会 2019.11.14
594. 朝倉孝延、村井勇太、小泉明博、山本陸、加藤永記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、伊藤智彰、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一. NOMIに対して広範囲小腸切除を施行し、術後短腸症をきたした1例 ホテル日航高知旭ロイヤル2F 第81回日本臨床外科学会 2019.11.16
595. 加藤永記、安藤美沙、村井勇太、小泉明博、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、朝倉孝延、櫛田知志、折田創、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一. 治療に難渋した外傷性肝損傷の一例 ホテルシテリオ静岡 第20回術後管理フォーラム 2020.1.18
596. 上田脩平、安藤美沙、村井勇太、小泉明博、山本陸、加藤永記、徳田智史、櫻庭駿介、朝倉孝延、伊藤智彰、櫛田知志、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一. 当院での下部消化器穿孔に対して緊急手術を施行した症例の検討 ホテル日航福岡 第24回エンドトキシン血症救命治療研究会 2020,1,31
597. 櫻庭駿介、安藤美沙、村井勇太、小泉明博、山本陸、加藤永記、徳田智史、朝倉孝延、伊藤智彰、櫛田知志、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一. 腹部感染症に対するPMX-DHPの使用経験 ホテル日航福岡 第24回エンドトキシン血症救命治療研究会 2020,1,31
- 寒竹正人**
- 598.* 寒竹正人. 第61回日本新生児成育医学会 ランチョンセミナー SGA 児におけるエピゲノム解析

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

2016/12/3 大阪国際会議場

599. 折田創、片岡太郎、遠藤未来美、伊藤智彰、寒竹正人、清水芳男、城石俊彦、Kathleen, G., Malcolm B., 佐藤浩一. 災害医学研究と遺伝学. 第 88 回日本遺伝学会総会 2016 年 9 月 7 日 三島 (No.520 と同じ)
- 600.* 寒竹正人. CLD 児における出生1か月以降のステロイド投与はグルココルチコイドレセプター遺伝子メチル化を誘導する. 日本周産期・新生児医学会雑誌 53; 497: 2017.
601. 西山樹、馬場洋介、松田明奈、田所愛弓、嶋泰樹、有井直人、寒竹正人. 牛乳による食物アレルギー重症例の検討、第 145 回日本小児科学会静岡地方会、静岡、2018/3/25
602. 松田明奈、馬場洋介、山田啓迪、山崎晋、有井直人、寒竹正人、清水俊明. 乳幼児喘息における IL-1RL1/ST2 の役割、第 121 回日本小児科学会学術集会、福岡、2018/4/22
603. 西山樹、馬場洋介、宮林和紀、山田啓迪、米山俊之、横倉友諒、山崎晋、稲毛英介、森真理、大塚宜一、寒竹正人、清水俊明. 重症食物アレルギーにおける IL33/ST2 応答の検討、第 67 回日本アレルギー学会学術大会、千葉、2018/6/24
604. 馬場洋介、宮林和紀、山田啓迪、山崎晋、有井直人、寒竹正人、清水俊明. 小児気管切開患者におけるアトピー素因の検討、第 51 回日本小児呼吸器学会、札幌、2018/9/29
605. Baba Y, Kojima M, Yamada H, Yoneyama T, Yokokura T, Yamazaki S, Honjo A, Inage E, Mori M, Ohtsuka Y, Kantake M, Shimizu T. Role of IL33 and IL1RL1/ST2 in infantile asthma、第 55 回日本小児アレルギー学会学術大会、岡山、2018/10/21
606. 池田奈帆、寒竹正人. “母体末梢血からの胎児赤芽球分離の試み 順天堂大学静岡病院小児科新生児科 第 1 回新生児科基礎トランスレーショナルリサーチ、滋賀県長浜市 2018.2.24
607. 宮林和紀、大川夏紀、栗田健太郎、江原尚弘、淡路敦子、齋藤暢知、池田奈帆、東海林宏道、寒竹正人、清水俊明. Netherton 症候群に新生児・乳児消化管アレルギーを併発した 1 例 第 121 回日本小児科学会学術集会、福岡 2018.4.21
608. 宮林和紀、大川夏紀、加護祐久、松田明奈、佐藤由梨亜、齋藤暢知、池田奈帆、寒竹正人. 肥厚性幽門狭窄症を発症した早産児の一例 第 146 回日本小児科学会静岡地方会、静岡 2018.6.10
609. 松田明奈、栗田健太郎、宮林和紀、淡路敦子、池田奈帆、大川夏紀、東海林宏道、寒竹正人、清水俊明. 新生児低体温療法を施行した児におけるプロバイオティクス使用についての検討 第 63 回日本新生児成育医学会学術集会、東京 2018.11.22
610. 栗田健太郎、池田奈帆、齋藤暢知、大川夏紀、寒竹正人、東海林宏道、清水俊明. 早産児骨減少症により多発骨折を呈した超低出生体重児の 1 例 第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会 大宮 2018.10.07
611. 栗田健太郎、宮林和紀、淡路敦子、齋藤暢知、池田奈帆、大川夏紀、東海林宏道、寒竹正人、清水俊明. 静岡県東部における新生児救急車搬送の変遷についての検討 第 54 回日本周産期新生児医学会学術集会 東京 2018.07.08
612. 栗田健太郎、池田奈帆、堀江祥子、松田明奈、江原尚弘、佐藤由梨亜、宮林和紀、齋藤暢知、大川夏紀、寒竹正人. 早産児骨減少症による多発骨折を呈した超低出生体重児の 1 例 静岡周産期学会 静岡 2018.03.03
613. 栗田健太郎、宮林和紀、堀江祥子、松田明奈、佐藤由梨亜、江原尚弘、齋藤暢知、池田奈帆、大川夏紀、寒竹正人. 静岡県東部における新生児救急車搬送の検討 第 145 回静岡地方会、静岡 2018.03.25
614. 栗田健太郎、齋藤暢知、江原尚弘、宮林和紀、淡路敦子、池田奈帆、大川夏紀、寒竹正人、清水俊明. 母親の既往歴から判明した先天性 QT 延長症候群の 2 家系 第 121 回日本小児科学会学術集会、福岡 2018.04.21
615. 阿部華子、田所愛弓、森下俊真、栗田健太郎、馬場洋介、有井直人、寒竹正人. ACTH 療法により速やかに発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

<p>作の消失を認めた West 症候群の一例 第 147 回日本小児科学会静岡地方会、静岡 2018.11.18</p> <p>616. 宮林和紀、馬場洋介、森下俊真、西山樹、大川夏紀、有井直人、<u>寒竹正人</u>、清水俊明. 早産・低出生体重児における食物アレルギー発症に関する検討 日本小児科学 2019.4.20. 金沢</p> <p>617. 深江俊愛、草野晋平、秋本智史、西崎淑美、仲川真由、山崎晋、齊藤暢知、池田奈帆、大川夏紀、春名英典、久田研、田久保憲行、<u>寒竹正人</u>、清水俊明. 胎児甲状腺腫を呈したバセドウ病母体児の 3 例 日本小児科学会 2019.4.20. 金沢</p> <p>618. <u>寒竹正人</u>、清水俊明. NICU におけるストレスは児のグルココルチコイドレセプター遺伝子のメチル化を誘導する 日本小児科学会 2019.4.20 金沢</p> <p>619. 山崎晋、齊藤暢知、山田啓迪、馬場洋介、大川夏紀、工藤孝広、<u>寒竹正人</u>、大塚宣一、清水俊明. 新生児期のヒストン脱アセチル化酵素阻害能と酪酸の関係 日本小児科学会 2019.4.20 金沢</p> <p>620. 東海林宏道、渡邊晶子、淡路敦子、細澤麻里子、池田奈帆、大川夏紀、西崎直人、久田研、<u>寒竹正人</u>、大日方薫、清水俊明. 子宮内発育不全が在胎 30 週未満出生児における 6 歳までの身体計測 SD 値に及ぼす影響 日本小児科学会 2019.4.20 金沢</p> <p>621. 松田明奈、西山樹、徳島香央里、中道伸彰、加護裕久、栗田健太郎、宮林和紀、齊藤暢知、池田奈帆、大川夏紀、<u>寒竹正人</u>、東海林宏道、清水俊明. 新生児低体温療法を要した児におけるプロバイオティクス使用の効果についての検討 日本小児科学会 2019.4.20 金沢</p> <p>622. 神山恵里佳、齊藤暢知、徳島香央里、西山樹、中道伸彰、加護裕久、松田明奈宮林和紀、池田奈帆、大川夏紀、<u>寒竹正人</u>. タンデムマススクリーニングを契機に発見されたメチルマロン酸血症の 1 例 日本小児科学会 2019.4.20 金沢</p> <p>623. 村野弥生、東海林宏道、渡邊晶子、池田奈帆、大川夏紀、西崎直人、久田研、<u>寒竹正人</u>、清水俊明. 在胎 28 週以下で出生した児における 3 歳までの BMI に影響する因子についての検討(NRNJ10 年まとめ事業) 日本周産期・新生児医学会 2019.7.14. 松本</p> <p>624. 山崎晋、齊藤暢知、横倉友諒 大川夏紀、東海林宏道、<u>寒竹正人</u>、清水俊明. 新生児のヒストン脱アセチル化酵素阻害能の特徴と FOXP3 発現の関係 日本周産期・新生児医学会 2019.7.14. 松本</p> <p>625. 栗田健太郎、大川夏紀、池田奈帆、東海林宏道、<u>寒竹正人</u>、福本弘二、漆原直人、清水俊明. 右肺分面症に気管支食道ろうを合併した気管支肺前腸奇形の 1 女児例 日本周産期・新生児医学会 2019.7.14. 松本</p> <p>626. 五十嵐健康、中野玲二、大木茂、<u>寒竹正人</u>. 小さく生まれた赤ちゃんとその家族に対する支援 2 冊のリトルベビーハンドブック作成としの拡がり 日本周産期・新生児医学会 2019.7.14. 松本</p> <p>627. 乃木田正俊、馬場洋介、徳島香央里、中道伸彰、宮林和紀、田所愛弓、有井直人、<u>寒竹正人</u>. 当科で経験した過去 3 年間における小児死亡症例の検討 日本小児科学会 静岡地方会 2019.3.3. 静岡</p> <p>628. 柏木項介、阿部華子、森下俊真、栗田健太郎、加護裕久、池田奈帆、大川夏紀、<u>寒竹正人</u>. 診断に苦慮した新生児血小板減少症の 1 例 日本小児科学会静岡地方会 2019.3.3. 静岡</p> <p>629. 鳥海俊、馬場洋介、宮林和紀、山田啓迪、米山俊之、横倉友諒、山崎晋、<u>寒竹正人</u>、清水俊明. 病態・バイオマーカー 乳児アトピー性皮膚炎の病態と血清 IL-33 の検討 日本小児アレルギー学会 2019.11.3. 幕張</p> <p>630. 馬場洋介、宮林和紀、山田啓迪、米山俊之、横倉友諒、山崎晋、<u>寒竹正人</u>、清水俊明. 下気道感染症に合併した喘鳴の臨床像と、その後の乳幼児喘息発症に関する検討 日本小児アレルギー学会 2019.11.3. 幕張</p> <p>631. 横倉友諒、馬場洋介、宮林和紀、山田啓迪、米山俊之、山崎晋、<u>寒竹正人</u>、清水俊明. 鶏卵導入前に感作を認めた児の、鶏卵導入に関する検討 日本小児アレルギー学会 2019.11.3. 幕張</p>

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

632. 馬場洋介、宮林和紀、横倉友諒、寒竹正人、清水俊明. 喘鳴を呈した下気道感染症急性期における臨床像と、その後の乳幼児喘息発症に関する検討 日本小児感染症学会 2019.10.27. 旭川
633. 徳島香央里、馬場洋介、乃木田正俊、中道伸彰、横倉友諒、有井直人、寒竹正人. 当科入院症例における気管支喘息急性増悪時の全身ステロイド薬投与の現状 日本小児科学会静岡地方会 2019.6.2 静岡
634. 寒竹正人、有井直人、大川夏紀、馬場洋介、宮林和紀、桐野衛二. 小児精神疾患のエピジェネティックな観点からみた考察 日本小児科学会静岡地方会 2019.6.2 静岡
635. 加護裕久、大川夏紀、柏木項介、阿部華子、森下俊真、粟田健太郎、宮林和紀、漆原直人、寒竹正人. 気管支肺前腸奇形の1女児例 気管支食道ろうを合併した肺分画症 日本小児科学会静岡地方会 2019.6.2 静岡
636. 大川夏紀、齊藤雪香、粟田健太郎、宮林和紀、池田奈帆、東海林宏道、寒竹正人、清水俊明. 当院における早産児動脈管開存症に対するイブプロフェン製剤の使用状況 日本新生児成育医学会 2019.11.26. 鹿児島
637. 笠井悠里葉、久田研、齊藤暢知、幾瀬圭、岩崎友弘、大川夏紀、西崎直人、寒竹正人、大日方薫、清水俊明. 低出生体重児における抗菌薬適正使用 関連 3 施設での検討 日本新生児成育医学会 2019.11.26. 鹿児島
638. 齊藤雪香、池田奈帆、粟田健太郎、大川夏紀、東海林宏道、寒竹正人、清水俊明. 診断に時間を要した新生児血小板減少症の1例 日本新生児成育医学会 2019.11.26. 鹿児島
639. 馬場洋介、宮林和紀、横倉友諒、山田啓迪 山崎晋、寒竹正人、清水俊明. 小児アトピー性皮膚炎における血清中 IL-33 の検討 第 43 回日本小児皮膚科学会学術大会, 埼玉, 2019.7.21
640. 馬場洋介、鳥海俊、宮林和紀、横倉友諒、寒竹正人. 小児アレルギー疾患における IL-33 と IL-1RL1/ST2 第 76 回東海小児アレルギー談話会, 愛知, 2019.10.20
- 土至田宏、松崎有修**
641. 土至田宏. 副交感神経除神経家兎ドライアイモデルにおけるレバミピド点眼薬の角結膜所見改善効果 角膜カンファランス 2016, 軽井沢, 2016 年 2 月 18 日~20 日.
642. 土至田宏. 家兎ドライアイモデルの角膜上皮障害に対するレバミピド点眼液の治療効果の検討. 第 120 回日本眼科学会総会, 仙台市, 2016 年 4 月 7 日~10 日.
643. 土至田宏. 診断・治療に苦慮した角膜疾患例. 第 1 回東海角膜クラブ, 名古屋市, 2016 年 6 月 4 日.
644. 土至田宏. トライアルケース内の蛋白濃度. フォーサム 2016 東京, 東京都, 2016 年 7 月 1 日~3 日.
645. 土至田宏、朝岡聖子、市川浩平、古賀暖子、林雄介、桑名亮輔、松崎有修、太田俊彦. 角膜内血腫の1例. 第 68 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2017 年 1 月 21 日.
646. 土至田宏、太田俊彦、唐澤真里亜、須藤史子、村上晶. 家兎ドライアイモデルにおけるジクアホソル点眼液とレバミピド点眼液の治療効果の検討. 角膜カンファランス 2017, 福岡市, 2017 年 2 月 16 日~18 日.
647. 土至田宏、太田俊彦、村上晶. 主涙腺組織の頑健結膜下移植による涙液分泌量改善を介したドライアイ治療の試み. 第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台市, 2017 年 3 月 7 日~9 日
648. 土至田宏、舟木俊成、小野浩一、關保、大竹博司、加藤卓次、渡部草太、田淵照人、海老原伸行、村上晶. レチノールパルミチン酸エステル点眼液のドライアイ患者に対する治療効果. 第 121 回日本眼科学会総会, 東京都, 2017 年 4 月 6 日~4 月 9 日
649. 土至田宏、林雄介、朝岡聖子、市川浩平、古賀暖子、桑名亮輔、松崎有修、太田俊彦. 帯状角膜変性に対する EDTA 塗布併用ケラテクトミー術後の屈折値の変化. 第 32 回 JSCRS 学術総会, 福岡県, 2017 年 6 月 23 日~25 日.
650. 土至田宏. HCL ケースの培養結果と蛋白濃度. 第 60 回日本コンタクトレンズ学会総会, 大阪府,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

<p>2017年7月14日～16日 .</p> <p>651. <u>土至田宏</u>、<u>松崎有修</u>. 火山灰が眼表面へ及ぼす影響. 第69回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2017年8月19日.</p> <p>652. <u>土至田宏</u>. 副交感神経徐神経家兎ドライアイモデルにおけるレチノールパルミチン酸エステル点眼液の治療効果. 第37回日本眼薬理科学会. 高山市, 2017年9月1日.</p> <p>653. <u>土至田宏</u>, 小森雅彦, 柳田和夫, 堀田喜裕. (公財) 静岡県アイバンクから斡旋されたドナー角膜の使用状況. 第70回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2018年1月20日.</p> <p>654. <u>土至田宏</u>、大谷洋揮、小森翼、市川浩平、林雄介、桑名亮輔、<u>松崎有修</u>、太田俊彦. 涙丘部に発生した角結膜腫瘍および腫瘍状病変の検討. 第41回日本眼科手術学会学術総会, 京都府, 2018年1月26日.</p> <p>655. <u>土至田宏</u>. 静岡県アイバンクドナー使用状況. 角膜カンファランス 2018, 広島市, 2018年2月15日.</p> <p>656. <u>土至田宏</u>, 須藤史子. 副交感神経徐神経家兎モデルにおける神経再生を介したドライアイ治療の試み. 第17回日本再生医療学会総会, 横浜市, 2018年3月23日.</p> <p>657. <u>土至田宏</u>, 太田俊彦, 須藤史子, 村上晶. 家兎ドライアイモデルにおけるレチノールパルチミン酸とヒアルロン酸の治療効果. 第122回日本眼科学会総会, 大阪府, 2018年4月19日.</p> <p>658. <u>土至田宏</u>, <u>松崎有修</u>. 火山灰がコンタクトレンズ装着眼に及ぼす影響. 第61回日本コンタクトレンズ学会総会(フォーサム 2018), 東京都, 2018年7月15日.</p> <p>659. <u>土至田宏</u>, 太田俊彦, 須藤史子, 村上晶. 副交感神経徐神経家兎ドライアイモデルにおける各種ドライアイ治療用点眼薬の効果. 第38回日本眼薬理学会, 長崎市, 2018年9月29日.</p> <p>660. <u>松崎有修</u>, 小森翼, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, <u>土至田宏</u>, 太田俊彦. 白内障術中の後囊破損への対処法 -Mt. Fuji Technique-. 第70回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2018年1月20日.</p> <p>661. <u>松崎有修</u>, 小森翼, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, <u>土至田宏</u>, 太田俊彦. 新しい後囊破損への対処法 Mt. Fuji technique の術後成績. 第33回 JSCRS 学術総会, 東京都, 2018年6月30日</p> <p>662. <u>土至田宏</u>. 「輸入角膜を用いた DMEK 用ドナー角膜作成の試み」、第42回日本眼科手術学会学術総会、横浜市、2019年2月1日</p> <p>663. <u>土至田宏</u>. 「火山灰によるヒト角膜への影響」、第62回日本コンタクトレンズ学会総会、京都市、2019年7月6日</p> <p>664. <u>土至田宏</u>, 太田俊彦、「帯状角膜変性症に対するキレート剤併用角膜切除後にみられた合併症の検討」、第39回日本眼薬理学会、名古屋市、2019年9月14日</p> <p>665. <u>土至田宏</u>, <u>松崎有修</u>, 東千晶, 反田蓉子, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 杉田丈夫, 太田俊彦. 「過去3年間に於ける入院を要した角膜潰瘍の検討」、第73回日本臨床眼科学会、京都市、2019年10月24日</p> <p>古元将和</p> <p>666. <u>古元将和</u>. 帝王切開時にPIP関節で完全に切断された右小趾に対し composit graft を行った1例. 第8回日本創傷外科学会総会・学術総会. 2017年5月26-28日. 仙台国際センター</p> <p>松本茂</p> <p>667. <u>松本茂</u>. 中顔面骨骨折に対し IMF スクリューを用いて連結したハロー型骨延長器の使用経験. 第61回日本形成外科学会総会・学術総会. 2018年4月11-13日. ホテルニューオータニ博多・電気ビル共創館</p>

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

＜既に実施しているもの＞

【インターネットでの公開状況】

柳川洋一、大坂裕通、大森一彦、石川浩平

1. 柳川洋一 静岡災害医学研究センター 研究活動・業績「視察レポート(大災害被災地 / 災害医療関連)」
https://www.juntendo.ac.jp/hospital_shizuoka/smrcd/result/
2. 柳川洋一 静岡災害医学研究センター 研究活動・業績「順天堂 CO-CORE サイト:救急診療科 教授 柳川洋一へのインタビュー記事『抜群の機動力で救急医療に貢献する順天堂静岡病院のドクターヘリ。』」
https://www.juntendo.ac.jp/hospital_shizuoka/smrcd/result/
3. jitsuiki K, Omori K, Takeuchi I, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Nakagawa Y, Inokuchi S, Yanagawa Y. 静岡災害医学研究センター 研究活動・業績『Case Report: Multiple Patients With Heatstroke Air Evacuated by Agreement Concerning Collaboration』
https://www.juntendo.ac.jp/hospital_shizuoka/smrcd/result/
4. 柳川洋一 静岡災害医学研究センター 研究活動・業績「順天堂 CO-CORE サイト:座談会『順天堂の救急』～地域に貢献する附属病院の救急部門ー オール順天堂としてさらなる飛躍を」
https://www.juntendo.ac.jp/hospital_shizuoka/smrcd/result/

佐藤浩一

5. 佐藤浩一 静岡災害医学研究センター 研究センターについて＞開設にあたって
https://www.juntendo.ac.jp/hospital_shizuoka/smrcd/about/greeting.html

折田創

6. 折田創 静岡災害医学研究センター 研究活動・業績「Johns Hopkins University との共同研究」
https://www.juntendo.ac.jp/hospital_shizuoka/smrcd/result/

【市民公開講座等】

柳川洋一

7. 柳川洋一 第 53 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 28 年度
『災害に備えよう-日本における災害医療の現状 静岡県東部におけるドクターヘリの現状と課題-』
8. 柳川洋一 平成 30 年度静岡災害医学研究センター主催 市民公開講座開催
『足元大丈夫ですか？ ～開渠側溝に潜む危険～』 順天堂大学医学部附属静岡病院
9. 柳川洋一 2019 年度静岡災害医学研究センター主催 市民公開講座開催
『へびに噛まれた時、ハチに刺された時、あなたはどうしますか？』 順天堂大学医学部附属静岡病院

大坂裕通

10. 大坂裕通 伊東市市民健康講座 『かかりつけ医と救急医療の使い方～AED』 平成 28 年度

小池道明

11. 小池道明 平成 28 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『リンパ腺がはれたら ～いろいろな病気でリンパ腺ははれます～』
12. 小池道明 平成 29 年度静岡災害医学研究センター主催 市民公開講座開催
『平成 28 年熊本地震における基幹災害拠点病院の対応』 順天堂大学医学部附属静岡病院

岩神真一郎

13. 岩神真一郎 平成 28 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『身近に潜む呼吸器感染症～肺炎、結核、インフルエンザなど～』
14. 岩神真一郎 第 68 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 30 年度
『たかが肺炎、されど肺炎 ～高齢者の肺炎予防も含めて～』

山本拓史

15. 山本拓史 第 56 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 29 年度
『脳腫瘍を知ろう ～病気が見つかる症状と最新の治療～』
16. 山本拓史 第 80 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 2019 年度
『防ごう脳卒中！ 急ごう脳卒中！～脳卒中の予防と最新治療～』

市之川英臣

17. 市之川英臣 平成 28 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『肺癌の手術最前線～貴方が肺癌に罹ったらしておきたいこと～』
18. 市之川英臣 第 75 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 30 年度

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

『肺がん外科治療最前線～肺がんと診断された際の心構えから da Vinci Surgical System(ロボット手術)まで～』

楠威志

19. 楠威志 平成 27 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『誰でも、いつでも、どこでもできる 鼻呼吸と複式呼吸を用いた健康法』
20. 楠威志、杉山康司 第 65 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 29 年度
『鼻呼吸と腹式呼吸の重要性』

大林治

21. 大林治 平成 28 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『骨粗鬆症～静かなドロボー 骨粗鬆症 骨が弱いと長生きできないって・・・本当！？～』

諏訪哲

22. 諏訪哲 第 60 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 29 年度
『心臓病に対する診断と治療 ～正しく理解する為に～』
23. 諏訪哲 第 83 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 2019 年度
『心臓発作の対処法～未然に防ぐ対策、緊急時の対応～』

吉池高志

24. 吉池高志 平成 28 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『うつる皮膚病 うつらない皮膚病 ～こわい皮膚病・こわくない皮膚病～』

長谷川敏男

25. 長谷川敏男 第 72 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 30 年度
『シミの診断と治療 正しいスキンケア ～男女ともに健康な皮膚を目指して～』
26. 長谷川敏男 順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 2019 年度
『アレルギー疾患研修会 皮膚のバリア機能と皮膚炎～皮膚のアレルギーって？～』

丹原圭一

27. 丹原圭一 平成 28 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『大動脈弁狭窄症 ～その症状、診断、治療について～』
28. 丹原圭一 第 69 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 30 年度
『低侵襲心臓手術 ～とくに右小開胸大動脈弁置換術について～』

岡崎敦

29. 岡崎敦 平成 27 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『患者さんは病院より家に帰りたい ～家庭・地域でも支える緩和ケア～』
30. 岡崎敦 第 61 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 29 年度
『がんとわかったときからはじまる緩和ケア』
31. 岡崎敦 第 82 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 2019 年度
『急性の痛みと慢性の痛み～全く異なる 2 つの痛みを理解しましょう～』

折田創

32. 折田創 平成 28 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『腹腔鏡下手術の進歩 –胃がんの手術– ～最新の手術機器について～』

寒竹正人

33. 寒竹正人 平成 28 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『夏カゼから家族を守りましょう ～夏のカゼは冬のカゼとは違います。～』

土至田宏

34. 土至田宏 第 79 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 2019 年度
『目の充血～目が赤くなった！危険？それとも？～』

神田章男

35. 神田章男 伊東市医師会市民公開講座 『新しい健康評価の概念をご存じですか？～ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル 股関節・膝・腰の痛みを克服、健康寿命を延ばそう～』（伊東）平成 30 年度

諸橋達

36. 諸橋達 第 76 回順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座 平成 30 年度
『見逃されやすい股関節の病気と治療法』

古元将和

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

37. 古元将和 平成 28 年度順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座
『形成外科をご存知ですか? ~写真で見る形成外科疾患~』

【その他の講演・研究会等】

柳川洋一

38. 柳川洋一 大規模災害時の医療 田方医師会 平成 27 年度
39. 柳川洋一 救急救命士処置拡大の概要 御殿場医師会 平成 27 年度
40. 柳川洋一 救急救命士処置拡大の概説(御殿場市) 平成 27 年度
41. 柳川洋一 災害医療一般の概説(伊豆の国市) 平成 28 年度
42. 柳川洋一 感冒や胃腸炎と判断された重篤な疾患症例シリーズ(下田メディカル) 平成 28 年度
43. 柳川洋一 CBRNE って? (順天堂大学静岡病院) 平成 28 年度
44. 柳川洋一 減圧症に関する当院の知見 (順天堂大学静岡病院) 平成 28 年度
45. 柳川洋一 田方医師会災害研修 熊本地震での当院の活動、CBRNE 災害に関して 平成 29 年度
46. 柳川洋一 講演会『これからの災害医療の姿を求めて』開催 平成 29 年度
47. 柳川洋一 内科診療にも役立つ標準的な外傷診療手順の紹介 田方医師会 平成 29 年度
48. 柳川洋一 第 18 回日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会総会 特別講演「Vacuum phenomenon 減圧症との関連性」(筑波大学医学エリア) 平成 30 年度
49. 柳川洋一 日本における災害医療の現状(桑名市) 平成 30 年度
50. 柳川洋一 静岡県国民保護訓練(伊豆市役所) 平成 30 年度
51. 柳川洋一 三島医師会 静岡県東部におけるドクターヘリの現状と課題 平成 30 年度
52. 柳川洋一 富士山南東消防本部(三島市消防署) CBRNE 対応について 平成 30 年度
53. 柳川洋一 富士市医師会 静岡県東部におけるドクターヘリの現状と課題 平成 30 年度
54. 柳川洋一 講演会『ドクターヘリを活かす救急医療システム~ここだけのお話し~』開催 平成 30 年度
55. 柳川洋一 救急医療に関する最新治験 循環器疾患フォーラム 平成 30 年度
56. 柳川洋一 災害医療 静岡県消防学校 平成 30 年度
57. 柳川洋一 テロ対策訓練 大仁警察主催 修善寺駅 平成 30 年度
58. 柳川洋一 静岡県メディカルコントロール(MC)協議会 静岡県庁 平成 30 年度
59. 柳川洋一 外傷の基礎 順天堂大学 2019.4.11
60. 柳川洋一 頭部外傷 防衛医科大学校 2019.6.24
61. 柳川洋一 賀茂地域から救急車両で搬送された傷病者の現状 伊豆縦貫自動車道建設促進 2019.8.2
62. 柳川洋一 夏季訓練検証官 駿東伊豆消防本部第 2 方面 2019.8.2
63. 柳川洋一 頭部・脊椎の外傷・疾病、脳死、移植 防衛医科大学校 2019.8.23
64. 柳川洋一 大森一彦 静岡県東部ドクターヘリ運航調整委員会 三島プラザ 2019.8.28
65. 柳川洋一 内閣府防災訓練 2019.9.6
66. 柳川洋一 生命徴候 順天堂大学 2019.9.11
67. 柳川洋一 オリンピックテストイベント 伊豆ペロドローム 2019.10.7
68. 柳川洋一 オリンピック VMO 会議 東京 2019.10.15
69. 柳川洋一 現場救護所の活動について 田方 MC 研修会 2019.10.21
70. 柳川洋一 日本における災害医療の現状と問題点 沼津医師会 2019.11.13
71. 柳川洋一 オリンピック開催時に必要な知識、技術、医療体制について 2019.11.18
72. 柳川洋一 静岡県メディカルコントロール(MC)協議会 2019 年度

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

73. 柳川洋一 駿東田方地域 MC 協議会、熱海伊東地域 MC 協議会、賀茂 MC 協議会 2019 年度
 74. 柳川洋一 講演会『輸入感染症の今後の動向と院内の備え』開催 2019 年度
 75. 柳川洋一 「2019 年台風 19 号伊豆半島上陸時の当院での対応と、social networking service (Twitter®) 内容の検討」 第 6 回静岡災害医学研究センター研究報告会 順天堂大学医学部附属静岡病院 2020.1.17

大坂裕通

76. 大坂裕通 日常から出来る災害準備について (田方医師会主催:田方中消防署) 平成 28 年度
 77. 大坂裕通 ドクターヘリ勉強会(御殿場市小山消防) 平成 28 年度
 78. 大坂裕通 ドクターヘリ 各消防署勉強会 (御殿場小山消防、御殿場市消防本部、富士山南東消防 三島消防本部、富士山南東消防本部平成30年度3署合同救急訓練) 平成 30 年度
 79. 石川浩平 大森一彦 大坂裕通 静岡県防災航空隊との協働訓練 平成 30 年度
 80. 大坂裕通 清水マリインターミナル 護衛艦医務室視察 平成 30 年度

大森一彦

81. 大森一彦 静岡県東部の救急事情とドクターヘリ (志太榛原救急医療研究会) 平成 28 年度
 82. 大森一彦 ドクターヘリの活用方法は時代とともに進化している! (駿東伊豆消防) 平成 28 年度
 83. 大森一彦 救命救急センターの外傷診療(沼津医師会) 平成 28 年度
 84. 大森一彦 トリアージ PAT 法(沼津市立病院) 平成 28 年度
 85. 大森一彦 伊豆の国市立長岡南小学校職業講話「フライトドクター」 平成 29 年度
 86. 大森一彦 三島市立山田小学校職業講話「フライトドクター」 平成 29 年度
 87. 大森一彦 第 23 回静岡県放射線技師学術大会「ドクターヘリを知っていますか」 平成 30 年度
 88. 大森一彦 順天堂4基幹型病院合同 臨床研修医のための学術集会「出血性ショックの対応は出来ますか」 平成 30 年度
 89. 大森一彦 沼津市立病院災害医療訓練「トリアージ PAT 法」 平成 30 年度
 90. 大森一彦 ドクターヘリ 各消防署勉強会 (駿東伊豆消防通信指令課、駿東伊豆消防多数傷病者事案机上訓練、富士宮消防、駿東伊豆消防多数傷病者訓練) 平成 30 年度
 91. 石川浩平,大森一彦,大坂裕通. 静岡県防災航空隊との協働訓練 平成 30 年度 (No.79 と同じ)
 92. 大森一彦 病態別応急処置「出血」「アナフィラキシー」 静岡県消防学校 平成 30 年度
 93. 柳川洋一,大森一彦 静岡県東部ドクターヘリ運航調整委員会 三島プラザ 2019.8.28 (No.64 と同じ)
 94. 大森一彦 ドクターヘリ事後検証会 2019.9.27

石川浩平

95. 石川浩平 ドクターヘリ 各消防署勉強会 (駿東伊豆消防本部、静岡市消防本部、下田地区消防本部、静岡市消防本部) 平成 30 年度
 96. 石川浩平,大森一彦,大坂裕通. 静岡県防災航空隊との協働訓練 平成 30 年度 (No.79 と同じ)

大出靖将

97. 大出靖将 東日本大震災の体験談 (田方医師会主催:田方中消防署) 平成 28 年度

岩神真一郎

98. 岩神真一郎 第 1 部 病診連携(呼吸機能検査)、第 2 部 自然災害発生時における在宅酸素療法患者に対する地域ネットワークの構築. 田方医師会呼吸器研究会 2018 年 4 月 12 日 田方医師会館
 99. 岩神真一郎 身近な呼吸器の感染症～インフルエンザ、結核、肺炎など～. 田方歯科医師会講演会 2019 年 1 月 7 日 サンバレー富士見
 100. 岩神真一郎 災害発生時における在宅酸素療法患者に対する酸素供給システムの構築. 田方医師会呼

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

吸器研究会 2019年7月11日 田方医師会館

101. 岩神真一郎 当院における届出方法の変更によるカルバペネム使用量抑制の試み. 2019年度 感染防止対策加算 1.2 合同カンファレンス 2019年9月20日 中伊豆リハビリテーションセンター
102. 岩神真一郎 在宅酸素療法患者を大規模災害から守るために. 田方医師会報 VOL. 90 P.2054 2019年10月1日
103. 岩神真一郎 肺癌は治るのか? 青木クリニック講演会 2019年10月29日 青木クリニック
104. 岩神真一郎 災害発生時における在宅酸素療法患者に対する酸素供給システムの構築. 田方医師会呼吸器研究会 2019年11月14日 田方医師会館

田中利隆

105. 松澤奈々、田中利隆、伊藤早紀、柳原保穂、正岡駿、小林徹、鶴野しほり、村瀬佳子、矢田昌太郎、田中里美、金田容秀、三橋直樹. 「災害時の母体搬送について」、第39回静岡県周産期新生児研究会 静岡 2018.9.29 発表
106. 田中利隆. 「母体搬送の現状と問題点: 順天堂静岡病院産婦人科開院から現在まで」、第40回静岡県東部周産期研究会 静岡 2019.3.7 講演
107. 小林徹、田中利隆、伊藤早紀、柳原保穂、小林徹、松澤奈々、村瀬佳子、矢田昌太郎、田中里美、金田容秀、三橋直樹. 「母体搬送症例から学ぶ産科危機的出血を防ぐためにできること」、第40回静岡県周産期新生児研究会 静岡 2019.3.16 発表
108. 田中利隆 不育症について考える、第32回静岡県母性衛生学会学術集会、静岡、2019.9.8

山本拓史

109. 山本拓史 脳神経外科領域におけるてんかん治療 平成29年7月20日田方医師会学術講演会, 静岡県
110. 山本拓史 高齢化時代の心原性脳塞栓症～脳卒中二次予防を考える～, 臨床から見えてきた 火の国脳卒中カンファレンス Stroke conference 合同特別講演会, 熊本, 2019年2月20日
111. 山本拓史 高齢化時代の心原性脳塞栓症～脳卒中二次予防を考える～, 循環器疾患懇話会, 静岡, 2019年2月28日
112. 山本拓史 脳神経外科領域における AMPA 受容体拮抗薬の可能性とてんかん診療, 【第一報】てんかん Clinical Conference Seminar in 志太榛原, 静岡, 2019年3月13日
113. 山本拓史 日常診療に役立つ抗てんかん薬の使い方, てんかん Web セミナー～シームレスなてんかん診療の実現に向けて～, 静岡, 2019年3月18日
114. 山本拓史 高齢化時代の心原性脳塞栓症～脳卒中二次予防を考える～, 循環器医療連携セミナー, 愛知, 2019年4月4日
115. 山本拓史 日常診療で遭遇するてんかんへのアプローチ～当院におけるペランパネルの使用経験と可能性～, <第一報>フィコンパ インターネットライブセミナー, 静岡, 2019年4月17日
116. 山本拓史 高齢化時代の心原性脳塞栓症～脳卒中二次予防を考える～, 高齢者のトータルケアを考える会, 佐賀, 2019年4月23日
117. 山本拓史 非弁膜症性心房細動による心原性脳塞栓症の最新の知見と出血性合併症へ対応, 田方医師会学術講演会, 静岡, 2019年5月16日
118. 山本拓史 高齢化時代の心原性脳塞栓症～脳卒中二次予防を考える～, 第162回学術集談会, 京都, 2019年5月25日
119. 山本拓史 脳卒中 Up to Date, 伊東市医師会学術講演会, 静岡, 2019年5月31日
120. 山本拓史 多発性脳動脈瘤に対する手術手技, 第26回静岡脳神経外科ビデオシンポジウム, 静岡, 2019年6月8日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

121. 山本拓史 抗血栓療法時の頭蓋内出血～DOAC時代の出血性合併症の傾向と対策, Neuro Café 2019, 静岡, 2019年6月12日
122. 山本拓史 重症患者への早期経腸栄養の重要性, 松山赤十字病院 NST セミナー, 愛媛, 2019年6月17日
123. 山本拓史 早期回復に向けた脳卒中症例における経腸栄養, 静岡県東部 NST フォーラム, 静岡, 2019年6月18日
124. 山本拓史 高齢化時代の心原性脳塞栓症～脳卒中二次予防を考える, 第71回千葉神経外科研究会, 千葉, 2019年7月5日
125. 山本拓史 防ごう脳卒中！急ごう脳卒中！～脳卒中の予防と最新治療, 市民公開講座, 静岡, 2019年8月20日
126. 山本拓史 高齢化時代の心原性脳塞栓症～脳卒中二次予防を考える～, 第4回上小地域脳卒中治療研究会, 長野, 2019年8月23日
127. 山本拓史 日常診療で遭遇するてんかんへのアプローチ～ペランパネルの使用経験と可能性～, 非専門医のためのてんかん診療セミナー, 福島, 2019年8月26日
128. 山本拓史 日常診療で遭遇するてんかんへのアプローチ～当院におけるペランパネルの使用経験と可能性～, いわきてんかんセミナー, 福島, 2019年9月9日
129. 山本拓史 急性症候性発作と脳卒中後てんかんのマネージメント, 三重脳卒中医療連携カンファランス, 三重, 2019年11月11日
130. 山本拓史 脳卒中2次予防と脳卒中関連てんかんへの対応, 東海エリア抗血栓療法 WEB セミナー, 2019年11月19日
131. 山本拓史 脳卒中 UP TO DATE, 川崎学術講演会, 神奈川, 2019年12月2日
132. 山本拓史 日常診療で遭遇するてんかんへのアプローチ～ペランパネルの使用経験と可能性～, てんかんを考える会 in 川口, 埼玉, 2019年12月12日
133. 山本拓史 脳関連疾患に伴うてんかんへの早期治療介入の意義～基礎・臨床から見えてきたペランパネルの可能性～, フィコンパ インターネットライブセミナー～急性期病院で遭遇する「発作」～, 静岡, 2019年12月18日

平山俊希

134. 平山俊希 呼吸器外科領域におけるロボット支援下手術の現状. BaCuLu Network2020～Homecoming～, 東京, 2020年2月22日
135. 平山俊希 シンポジウム, ロボット支援下肺葉切除の周術期成績 ～168例の経験から得たもの～. 第12回日本ロボット外科学会, 東京, 2020年2月22日
136. 平山俊希 ランチョンセミナー, -より効率的なロボット支援下肺癌手術を目指して-. 第12回日本ロボット外科学会, 東京, 2020年2月22日
137. 平山俊希 ロボット支援下肺区域切除の pit fall. 神奈川静岡 da vinci Thoracic Round Table, 東京, 2020年2月29日

大林治

138. 大林治 第4回静岡東部骨粗鬆症学術講演会, 座長, Aug. 27, 2015. (沼津)
139. 大林治 第4回順天堂大学 TKA セミナー, 座長, Sep., 5, 2015. (東京)
140. 大林治 静岡東部 OP セミナー, 特別講演座長, Jan., 9, 2016. (沼津)
141. 大林治 イブニングカンファレンス in 静岡, 特別講演座長, Feb., 5, 2016. (静岡)
142. 大林治 静岡東部骨粗鬆症クリニカルセミナー, 特別講演座長, Feb., 8, 2016. (静岡)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

143. 大林治 第 182 回静整会 ワンポイントレッスン, 座長, Mar., 19, 2016. (三島)
144. 大林治 第 6 回静岡東部骨粗鬆症学術講演会, 特別講演座長, Aug., 25, 2016. (沼津)
145. 大林治 骨粗鬆症の最近の話題について 三島市医師会外科系医会, 学術講演, Oct., 5, 2016. (三島)
146. 大林治 第 36 回静岡骨軟部腫瘍研究会, 世話人, Oct., 22, 2016. (三島)
147. 大林治 静岡県デュピイトラン拘縮治療フォーラム, 基調講演座長, Nov., 26, 2016.
148. 大林治 デュピイトラン拘縮の治療について 静岡県東部整形外科医会, 特別講演 Mar., 13, 2017. (静岡)
149. 大林治 デュピイトラン拘縮の治療について 静岡県東部整形外科医会, 特別講演, Jul., 21, 2017. (静岡)
150. 大林治 第2回静岡東部整形外科骨・感染症セミナー、座長、Jul., 27, 2017. (沼津)
151. 大林治 Next lecture Meeting in Mishima-消化管出血をいかにマネジメントするか- 座長、Sep., 14, 2017. (三島)
152. 大林治 関節リウマチ・骨粗鬆症について 関節リウマチ・骨代謝カンファレンス、Oct., 12, 2017. (静岡)
153. 大林治 Bone Health Care Seminar, 座長, Apl., 12, 2018. (静岡)
154. 大林治 静岡関節症研究会、座長、Aug., 9, 2018. (静岡)
155. 大林治 第6回静岡東部骨粗鬆症学術講演会、座長、Aug., 30, 2018. (沼津)
156. 大林治 一般演題 I 座長 第 44 回静岡リウマチ懇話会 静岡 2019 年 1 月 26 日
157. 大林治 座長 第 41 回静岡骨軟部腫瘍研究会 静岡 2019 年
158. 神田章男、岩瀬秀明、大林治、三井和幸、武井裕輔。災害・救急医療で使用可能な画期的駆血装置の開発 -新しい駆血システムのデザインと至適加圧条件の検討- 第 5 回静岡災害医学研究センター研究報告会 順天堂大学医学部附属静岡病院 2019.6.21
159. 大林治 座長 静岡東部骨粗鬆症リゾナービスカンファレンスフォローアップの会 静岡 2019 年 7 月 18 日
160. 大林治 骨粗鬆症治療における必要な検査とタイミング 座長 第 3 会 Roche Medical Science Day 愛知 2019 年 7 月 27 日
- 最上敦彦**
161. 最上敦彦 Juntendo University Group Private Cadaver Workshop, 講演, Oct., 2-5, 2015.(Bangkok)
162. 最上敦彦 僕が整形外科医になった理由～整形外科医を志す公君へ～ TMED kamakura2015-Trauma Master Entertainment Dialog, Oct.24-25. 2015. (横浜)
163. 最上敦彦 重度手部外傷～中手・手根骨欠損/手関節脱臼の 1 例 重度四肢外傷セミナー-IN 岡山, Oct., 0-31, 2015. (岡山)
164. 最上敦彦 4th iSSOT Izu Spring Seminar of Orthopaedic Trauma, 代表世話人, Apr., 16, 2016. (三島)
165. 最上敦彦 僕が整形外科医になった理由～I Love fractures! 順整会神奈川支部会講演会、特別講演、May, 7, 2016. (横浜)
166. 最上敦彦 ARISTO PHN 上腕骨近位端骨折の治療戦略。 第 2 回順天堂若手整形外科外傷検討会, Aug. 20 (浦安) 2016
167. 最上敦彦 C type にこそ逆行性髓内釘!～顆部骨片固定にこだわった髓内釘選択と手術手技～骨折治療マイスターに聞く 大腿骨遠位端骨折の髓内釘治療, 特別講演, Mar., 13, 2017. (東京)
168. 最上敦彦 脆弱性骨盤輪骨折に対する手術適応と方法 第 128 回中部日本整形外科学会災害外科学会学術集会, 座長, Apr., 7-8, 2017. (神戸)
169. 最上敦彦 第5回伊豆整形外科外傷スプリングセミナー(ISSOT), 代表世話人, Apr., 15, 2017. (三島)
170. 最上敦彦 第 90 回日本整形外科学会学術集会, 座長(外傷:大腿骨骨折)、May., 18-21, 2017. (仙台)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

171. 最上敦彦 医療理論を考慮した上腕骨近位部骨折の治療戦略-髓内釘固定を中心に- 第 1 回関西救急整形外傷シンポジウム, 特別講演, Jul. 1, 2017. (兵庫)
172. 最上敦彦 上腕骨近位骨折治療におけるわたしの流儀 第 5 回みちのく骨切り研究会, 特別講演, Sep., 2. 2017 (仙台)
173. 最上敦彦 Fracture Repair Decade~骨折治療の 10 年、何が変わったのか?~第 60 回多摩整形外科医会, 特別講演, Sep., 9. 2017 (東京)
174. 最上敦彦 僕が整形外傷医になった理由~整形外傷医を志す君へ~(外傷の疼痛管理を含めて). 第 66 回秋田整形外科医会, 特別講演, Sep., 30. 2017 (秋田)
175. 最上敦彦 髓内釘治療~その進化と極意~ 第 6 回千葉整形外傷研究会, 特別講演, Oct., 28, 2017 (千葉)
176. 最上敦彦 第 23 回救急整形外傷シンポジウム, 座長, Nov., 24-25, 2017. (北谷)
177. 最上敦彦 尺側手部重度損傷の 1 例. 第 21 回順天堂大学整形外科手肘外科学会, Dec., 2, 2017. (東京)
178. 最上敦彦 下腿関節内骨折に対する手術の工夫(シンポジウム) 第 129 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 座長, Dec. 6-7, 2017. (富山)
179. 最上敦彦 肘関節重度外傷への肘用ヒンジ付き創外固定の応用. 第 31 回日本創外固定・骨延長学会, 教育研修講演. Aug., 3-4, 2018. (青森)
180. 最上敦彦 Zimmer Biomet Trauma a Tokai Area Biocoll Course, 講師, Feb., 23-24, 2018. (Bangkok)
181. 最上敦彦 その抜釘大丈夫?抜かなきゃよかった、、、 Common fractures の tips&tricks”展開の妙” 第 44 回日本骨折治療学会, 報告, Jul., 6-7 2018. (岡山)
182. 最上敦彦 Depuy Synthes Cadaveric Course in Bangkok, 講師, Sep., 7-8, 2018. (Bangkok)
183. 最上敦彦 Bangkok Cadaver Training Advance Course(Basic Course), 講師, Sep., 14-15, 2018. (Bangkok)
184. 最上敦彦 IM Nailing セミナー, Nov., 3, 2018. (沖縄)
185. 最上敦彦 骨折治療医と肩関節外科医のコラボレーション, Nov., 10, 2018. (東京)
186. 最上敦彦 第 6 回伊豆整形外傷スプリングセミナー, 座長. Apl., 14, 2018. (静岡)
187. 最上敦彦 第 44 回日本骨折治療学会, 座長, Jul., 6-7, 2018. (岡山)
188. 最上敦彦 第 67 回東日本整形外傷災害外科, 座長(外傷 I), Sep., 21-22, 2018. (秋田)
189. 最上敦彦 人工膝関節(TKA)周囲大腿骨骨折に対する逆行性髓内釘固定~その適応と限界~ 座長 第 32 回日本創固定・骨延長学会 秋田 2019 年 3 月 1 日-2 日
190. 最上敦彦 上腕骨近位端骨折・骨幹部骨折に対する革新的髓内釘固定方~成功するための秘訣と注意点 ~ 座長 第 28 回山口県骨折治療研究会 山口 2019 年 3 月 16 日
191. 最上敦彦 ナイトセッション, 座長 第 24 回救急整形外傷シンポジウム 沖縄 2019 年 3 月 22 日 23 日
192. 最上敦彦 症例検討会 インプラント周辺骨折 第 8 回黒潮整形外傷カンファレンス 講演 高知 2019 年 3 月 30 日
193. 最上敦彦 OsteoporosisExpertMeeting 講演/座長 OsteoporosisExpertMeeting 東京 2019 年 6 月 6 日 7 日
194. 最上敦彦 講演 第 12 回横浜骨折治療研究会 神奈川 2019 年 6 月 8 日
195. 最上敦彦 大腿骨頸部・頸上骨折の髓内釘治療~これまでとこれから(From the Past to the Future) ヌンタイムレクチャー/シンポジウム座長 第 45 回日本骨折治療学会 福岡 2019 年 6 月 28-29 日
196. 最上敦彦 上腕骨近位端骨折を考える 座長 MITEK セミナー 愛知 2019 年 7 月 6 日
- 神田章男**
197. 神田章男 第 8 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス, 座長, Dec., 19, 2015. (東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

198. 神田章男 第 12 回津軽エリア大腿骨頸部骨折ネットワーク研究会、特別講演、Nov., 10, 2017. (弘前)
199. 神田章男 新たな Palm size navigation 'Hip Align' と術中透視画像によるカップ設置角の比較検討. 第 11 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス, Nov., 18, 2017. (東京)
200. 神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子和夫 多発性骨軟骨腫症に対する人工股関節全置換術. 第 8 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス, Dec., 19, 2015. (東京)
201. 神田章男 特別講演: 疼痛におけるチーム医療の重要性～薬剤の適正量を腎機能で再考する～ 静岡県病院薬剤師会, Jul., 11, 2018. (静岡)
202. 神田章男 第 48 回日本人工股関節学会, 講師, Feb., 23-24, 2018. (東京)
203. 神田章男 Juntendo University private Cadaver Workshop, 講師, May, 10-11, 2018. (Bangkok)
204. 神田章男 第 44 回日本骨折治療学会, 座長, Jul., 6-7, 2018. (岡山)
205. 神田章男 第 126 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス、座長、Jul., 21, 2018. (東京)
206. 神田章男、岩瀬秀明、大林治、三井和幸、武井裕輔. 災害・救急医療で使用可能な画期的駆血装置の開発 -新しい駆血システムのデザインと至適加圧条件の検討- 第 5 回静岡災害医学研究センター研究報告会 順天堂大学医学部附属静岡病院 2019.6.21 (No.158 と同じ)
207. 三井和幸、武井裕輔、神田章男、岩瀬秀明. 患者の状態に応じた圧迫圧の調整が可能な EHD ターケットの開発 第 5 回静岡災害医学研究センター研究報告会 順天堂大学医学部附属静岡病院 2019. 6. 21
208. 神田章男 ポスター 足関節・足部 3 座長 第 45 回日本骨折治療学会 福岡 2019 年 6 月 28 日-29 日
209. 神田章男 DAA における Optimys の使用のコツ Anatomy Workshop in Sydney オーストラリア 2019 年 8 月 17 日
210. 神田章男 THA アプローチ DAA Hip Symposium 福岡 2019 年 9 月 28 日
- 諸橋達**
211. 諸橋達 第 8 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス, 座長, Dec., 19, 2015. (東京)
212. 諸橋達 脳梗塞後患者の THA 周術期抗凝固療法について. 第 8 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス, Lecture, Dec., 19, 2015. (東京)
213. 諸橋達 一体型人工骨頭置換術後 20 年の症例にステムを残したまま Dual mobility カップのライナーを用いて行った THA. 第 9 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス, Oct., 1, 2016. (東京)
214. 諸橋達 前方アプローチ THA 術後異所性骨化による可動域制限に対して骨化巣切除を行った治療経験. 第 10 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス, Apr., 15, 2017. (東京)
215. 諸橋達 股関節疾患及び足部疾患の鑑別と治療(保存加療から手術加療まで. 第 6 回伊豆ペインフォーラム, 講演, Sep., 8, 2018. (静岡)
216. 諸橋達 Juntendo University private Cadaver Workshop, 講師, May, 10-11, 2018. (Bangkok)
217. 諸橋達 術後のエドキサバンによる血栓予防および股関節感染症例の鑑別. 第 126 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス、レクチャー Jul., 21, 2018. (東京)
218. 諸橋達 第 44 回日本骨折治療学会, 座長, Jul., 6-7, 2018. (岡山)
219. 諸橋達 ポスター 下腿 第 45 回日本骨折治療学会 福岡 2019 年 6 月 28 日-29 日
- 長谷川敏男**
220. 長谷川敏男 脂肪組織由来幹細胞による難治性皮膚疾患の治療法開発. 第 23 回東信地区皮膚科形成外科懇話会, 佐久, 長野, 2019 年 5 月 11 日
221. 長谷川敏男 近赤外光を用いた指静脈の解析. 第 31 回日本レーザー治療学会 シンポジウム「光治療の未来への展望」東京, 2019 年 6 月 23 日
222. 長谷川敏男 一般医のための皮膚診療—湿疹・皮膚炎群を中心に—. 西東京市医師会学術講演会, 西東

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

京市, 東京, 2019 年 7 月 16 日

223. Hasegawa T The potential of adipose-derived stem cells (ADSCs) for skin regenerative medicine. The 11th Juntendo University in collaboration with 18th annual conference at Mae Fah Luang University, Bangkok, 2019 年 9 月 14 日

224. 長谷川敏男 美しく健康な肌のために～皮膚科医にできること～. 千葉県皮膚科医会「皮膚の日講演会」千葉県医師会医学会第 20 回学術集会分科会, 千葉, 2019 年 10 月 27 日

岡崎敦

225. 岡崎敦 慢性疼痛では痛み以外の評価が必要、慢性疼痛診療システム構築モデル事業研修会、横浜、2018.2.18

226. 岡崎敦 診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(ファシリテーター)、国際医療福祉大学熱海病院緩和ケア研修会、熱海市、2018.1.27-28

227. 岡崎敦 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(ファシリテーター)、第 14 回順天堂大学医学部附属静岡病院 緩和ケア研修会、伊豆の国市、2018.6.9-10

228. 岡崎敦 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(ファシリテーター)、静岡医療センター 緩和ケア研修会、清水町、2018.10.7

佐藤浩一

229. 佐藤浩一 コメンテーター、第 54 回腹部救急医学会総会、東京(京王プラザホテル 43 階ムーンライト第 7 会場)、2018.3.8

230. 佐藤浩一 座長、大腸がん Expert Meeting、静岡(沼津リバーサイドホテル 3F「駿河」)2018.9.6

231. 佐藤浩一 座長、静岡県東部地区 DIC フォーラム、静岡(三島プラザホテル 7F マリアソール)2018.10.31

232. 佐藤浩一 オープニング・座長、Colorectal Cancer Conference in 静岡東部 2018、静岡(三島プラザホテル 4F)2018.11.28

233. 佐藤浩一 座長「大腸癌治療セミナー」静岡(三島プラザホテル 4F ローズマリー) 2019.1.10

234. 佐藤浩一 司会「第 119 回日本外科学会定期学術集会」大阪、大阪国際会議場 2019.4.20

235. 佐藤浩一 開会の辞、座長「第 8 回御茶ノ水消化器外科フォーラム」東京、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター1F 2019.7.6

236. 佐藤浩一 座長「しずおか大腸癌学術講演会、特別講演」静岡、ホテルセンチュリー 2019.7.27

237. 佐藤浩一 閉会の辞「大腸癌 Expert Meeting」Session3」静岡、三島プラザホテル 2019.9.5

238. 佐藤浩一 閉会の辞、静岡県東部がん免疫治療セミナー 静岡、沼津プラザヴェルデ 2019.10.11

239. 佐藤浩一 開会の辞、座長 Colorectal Cancer Conference in 静岡東部 2019 2019.10.31

240. 佐藤浩一 座長「～Regorafenib～GIST・CRC セミナー、大腸癌薬物療法」静岡、ホテルシティオ静岡 5F 葵 2019.11.2

241. 佐藤浩一 評議委員、第 98 回日本消化器内視鏡学会、2019.11.22

242. 佐藤浩一 座長「第 13 回静岡県東部胃癌診療研究会」静岡、沼津リバーサイド 4 階 2020.1.30

243. 佐藤浩一 opening lecture「ピロリ除菌と胃がんの関係」静岡、三島プラザホテル 4F ローズマリー 2020.2.20

折田創

244. 折田創 座長、静岡県東部がん免疫療法セミナー、静岡(プラザ ヴェルデ 4F)2018.7.6

245. 折田創 講演、「胃がんについて」静岡(三島商工会議所)2018.12.25

246. Orita H Johns Hopkins and Juntendo University Surgical Collaboration, 2019 Nov. 18-19 MISTIC Lectures

前川博

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

247. 前川博 座長、第 238 回静岡県外科医会集談会、静岡(サーラシティ浜松)2018.3.3
248. 前川博 座長、第 43 回日本外科系連合学会学術集会、東京(虎ノ門ヒルズフォーラム)2018.6.22
249. 前川博 座長、第 3 回静岡県東部膵癌治療研究会、静岡(三島プラザホテル 7 階)2018.8.31
250. 前川博 座長「第 55 回日本腹部救急医学会総会」宮城、仙台国際センター 2019.3.7
251. 前川博 座長「静岡県東部 NST フォーラム」静岡、プラザヴェルデ 402 会議室 2019.6.18
252. 前川博 座長「第 4 回静岡県東部膵癌治療研究会」静岡、みしまプラザホテル 2019.8.30
- 寒竹正人**
253. 寒竹正人 京都 NICU 懇話会 特別講演 新生児期のステロイド投与によるグルココルチコイドレセプター遺伝子のメチル化 2017/7/22 京都
254. 寒竹正人 「Postnatal relative adrenal insufficiency results in methylation of the glucocorticoid receptor gene in preterm infants」第 2 回静岡災害医学研究センター研究報告会順天堂大学医学部附属静岡病院 2017.11.17
255. Kantake M 国際基調講演: Prevention and treatment of induced hypothalamus-pituitary-adrenal dysfunction in preterm infants. 28th World Congress on Neonatology & Diagnosis. Amsterdam Netherland、2018/12/6
256. 寒竹正人 特別講演: 分子生物学(ジェネティクスとエピジェネティクス)を用いてこどもの発達を理解しよう—新生児科医のよろこび—、第 11 回新生児科指導医教育セミナー in 仙台、2018/8/18
257. 寒竹正人 第 8 回日本 DOHaD 学会 ランチョンセミナー SGA 児におけるエピゲノム解析 2019/8/9 コングレススクエア日本橋
258. 寒竹正人 SGA 児のエピゲノム解析 IGF1 とグルココルチコイドレセプター JCR ファーマ株式会社学術講演会 in 名古屋 2019/11/8 名古屋
259. 寒竹正人 「新生児低酸素性虚血性脳症の生物学的マーカーの臨床応用に向けた研究」AMED 分担研究令和元年-5 年度
- 土至田宏**
260. 土至田宏 「火山性粉塵が眼表面に及ぼす影響」第 1 回静岡災害医学研究センター研究報告会 順天堂大学医学部附属静岡病院 2017.6.6
261. 土至田宏 進化し続けるコンタクトレンズ再検証. 第 17 回北海道角膜セミナー. 札幌市, 2018 年 9 月 22 日.
262. 土至田宏 ドライアイモデルによる薬効評価. ドライアイの治療薬開発と新しい標的での創薬、モデル活用(ドライアイ 創薬 セミナー). 東京都, 2018 年 12 月 5 日.
263. 土至田宏 (公財)東京都眼科医会 第 40 回眼科コ・メディカル講習会. コンタクトレンズ. 東京都, 2018 年 1 月 21 日.
264. 土至田宏 原理と角膜への影響. オルソケラトロジー講習会 第 122 回日本眼科学会総会, 大阪府, 2018 年 4 月 22 日.
265. 土至田宏 ハードコンタクトレンズの合併症, コンタクトレンズ講習会. 第 61 回日本コンタクトレンズ学会総会(フォーサム 2018), 東京都, 2018 年 7 月 16 日.
266. 土至田宏 原理と角膜への影響. オルソケラトロジー講習会. 第 61 回日本コンタクトレンズ学会総会(フォーサム 2018), 東京都, 2018 年 7 月 16 日.
267. 土至田宏 コンタクトレンズに関する医療情報(発展講習). 平成 30 年度 医療機器・販売業の管理者に対する継続的研修. 静岡市, 2018 年 7 月 28 日.
268. 土至田宏 原理と角膜への影響. オルソケラトロジー講習会. 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京都, 2018 年 10 月 14 日.
269. 土至田宏 角膜移植の未来. 沼津ライオンズクラブ検眼活動推進チーム勉強会. 沼津市, 2018 年 11 月 8

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

日

270. 土至田宏 「結膜断端部反転縫合法の応用と評価. 翼状片手術を極める」、第 42 回日本眼科手術学会学術総会、横浜市、2019 年 2 月 3 日
271. 土至田宏 「治療的・虹彩付きレンズ, コンタクトレンズの新たな可能性をさぐる」、第 62 回日本コンタクトレンズ学会総会、京都市、2019 年 7 月 6 日
272. 土至田宏 「障害者総合支援法と円錐角膜、SJS に対する希少疾患用医療機器・輪部支持型 HCL 処方
の留意点, [CL 白熱教室 2019: 処方の基礎と応用]」、コンタクトレンズ講習会、第 62 回日本コンタクト
レンズ学会総会、京都市、2019 年 7 月 7 日
273. 土至田宏 「CL 世代別処方のコツ、人生 100 年時代を見据えた屈折矯正」、第 73 回日本臨床眼科学
会、京都府、2019 年 10 月 24 日
274. 土至田宏 「解剖・生理「眼科系」」、消防職員専科教育救急科に係る講師、静岡市、静岡県消防学校、
2019 年 1 月 10 日

松崎有修

275. 松崎有修 視器の構造. 第 40 回 眼科コメディカル講習会, 静岡市, 2018 年 1 月 21 日.
276. 松崎有修 白内障手術における新しい多目的チョッパー. 第 20 回『JON 研究会』講演会, 東京都, 2018 年
6 月 23 日
277. 松崎有修 「視器の構造」、第 41 回眼科コメディカル静岡県講習会、静岡市、2019 年 2 月 10 日

【広報活動】

[平成 28 年度]

柳川洋一

- 毎日新聞 3 月 11 日 東日本大震災 静岡の備え
静岡新聞 5 月 23 日 特殊災害への対応を学ぶ
朝日新聞 11 月 26 日 ヒートショック予防
伊豆新聞 5 月 11 日/5 月 17 日 かかりつけ医と救急医療の使い方～AED

[平成 29 年度]

石川浩平

ラジオ(エフエム三島・函南ボイスキュー) ドクヘリ紹介 平成 29 年度

菅尾高裕

毎日新聞 11 月 20 日 インスリン備蓄計画

[平成 31(令和元)年度]

寒竹正人

施設紹介 順天堂大学附属静岡病院 広報静岡 2020; 35: 17-18.

土至田宏「肌だけじゃない! これからの季節 目の乾燥にも注意」 テレビ朝日、羽鳥慎一モーニングショー
2019 年 11 月 7 日

<これから実施する予定のもの>

未定

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

【特許】**折田 創**

- *城石俊彦、天野孝紀、折田創、田中成和、特願 2016-69775
大腸癌モデル動物、大腸癌モデル動物の製造方法、抗癌剤、アレルギーモデル動物、アレルギーモデル動物の製造方法、及びスクリーニング方法
出願者：国立遺伝学研究所、学校法人順天堂（共同出願） 出願日：平成 28 年 3 月 30 日

長谷川敏男

- 池田志孝、長谷川敏男、特許 6410343 号
脂肪組織由来幹細胞から表皮角化細胞への誘導
特許権者：学校法人順天堂 出願日：平成 26 年 7 月 1 日 発行日：平成 30 年 10 月 24 日

【災害診療の基礎となる各種シミュレーション教育の開催やインストラクター参加】

※注）以下略語 ICLS:心肺蘇生、JMECC:内科急変対応、ISLS:脳卒中初期診療、
JPTEC:病院前外傷救護、JATEC:院内標準外傷初期診療、
MCLS/DMAT:多数傷病者マネージメント、PNLS:脳外科初期診療

柳川洋一平成 27 年度

ICLS 順天堂大学医学部附属静岡病院
JMECC 順天堂静岡病院 3 回
沼津市立病院
JPTEC 第 92 回静岡外傷セミナー

平成 28 年度

ICLS 4 月 順天堂大学静岡病院 研修医 1 年向け
4 月 順天堂大学静岡病院
7 月 31 日-8 月 2 日 順天堂大学保健看護学部
10 月 順天堂大学静岡病院
11 月 静岡県東部スキルアカデミー 沼津ワークステーション
JMECC 10 月 順天堂静岡 JMECC 順天堂大学静岡病院
11 月 沼津市立病院 JMECC
ISLS 10 月 第 4 回順天堂静岡 ISLS 順天堂大学静岡病院
JPTEC 第 123 回静岡外傷セミナーin 沼津 沼津ワークステーション
第 126 回静岡外傷セミナーin 伊豆の国 田方消防署
静岡県消防学校
JATEC 4 月 東京国立国際医療センター
5 月 国際医療福祉大学
7 月 横浜市立大学附属市民総合医療センター
11 月 順天堂救急グループ
MCLS 第 4 回静岡 MSLC インストラクターコース
第 4 回駿東田方 MCLS 順天堂大学保健看護学部
第 1 回静岡 MCLS-CBRNE 田方消防署
第 1 回静岡 MCLS マネージメントコース 静岡消防学校
第 11 回静岡 MCLS 標準コース
DMAT 静岡 DMAT 隊員養成研修
山梨県 DMAT 技能維持研修
PNLS 11th Asian Congress of Neurological Surgeons, Surabaya, Indonesia 2016.

平成 29 年度

ICLS 4 月 順天堂静岡 ICLS
6 月 第 42 回 TSA ICLS
7 月 保健看護学部 ICLS
JMECC 11 月 沼津市立 JMECC
JPTEC 8 月 JPTEC インストラクターコース

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

10月 JPTEC 標準コース(函南)
 1月 JPTEC プロバイダー更新コース 三島消防署
 JATEC 9月 順天堂大学救急グループ
 DMAT 10月 静岡 Local DMAT 隊員養成研修
 12月 平成29年度第6回日本 DMAT 隊員養成研修
 1月 平成29年度第7回日本 DMAT 隊員養成研修
 MCLS 11月 第5回駿東田方 MCLS 標準コース
 11月 静岡消防学校 MCLS マネージメントコース

平成30年度

ICLS 4月 順天堂静岡 ICLS
 7月 静岡東部スキルアカデミーICLS
 7月 保健看護学部 ICLS
 8月 小山町総合文化会館 ICLS
 1月 御殿場 ICLS
 3月 JMECC/ICLS コース
 JMECC 11月 沼津市立 JMECC
 3月 順天堂大学医学部附属静岡病院 JMECC
 JPTEC 10月 JPTEC プロバイダー更新コース 田方中消防署
 1月 第84回静岡県外傷セミナー
 JATEC 9月 順天堂大学救急グループ
 DMAT 8月 内閣府防災訓練 DMAT 徳島県庁
 11月 静岡 Local DMAT 隊員養成研修
 2月 技能維持訓練
 MCLS 6月 第1回伊東・熱海 MCLS 標準コース
 6月 静岡 MCLS 標準コース
 7月 MCLS 大量殺傷型テロ対応病院コース
 11月 静岡消防学校 MCLS マネージメントコース
 11月 第6回駿東田方 MCLS 標準コース
 12月 MCLS 大量殺傷型テロ対応病院コース(泉州)

平成31(令和元)年度

ICLS 6月 TSA ICLS コース
 7月 順天堂大学保健看護学部 ICLS
 JMECC 11月 JMECC 沼津市立病院
 JPTEC 10月 東伊豆 JPTEC
 JATEC 9月 順天堂大学 JATEC
 DMAT 7月 DMAT 技能維持訓練
 10月 DMAT 隊員養成研修
 11月 静岡県 L-DMAT 隊員養成研修

大坂裕通平成30年度

ICLS 3月 JMECC/ICLS コース
 JMECC 3月 順天堂大学医学部附属静岡病院 JMECC

大森一彦平成30年度

JPTEC 10月 JPTEC プロバイダー更新コース 田方中消防署
 1月 国立国際医療センター
 3月 JPTEC ファーストレスポンスコース 田方中消防署

石川浩平平成30年度

ICLS 4月 順天堂静岡 ICLS
 ICLS 7月 保健看護学部 ICLS

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

神田章男平成 30 年度

JPTEC 9月 JPTEC プロバイダーコース 伊豆東部病院

ACLS関連

(ACLS: Advanced Cardiovascular Life Support、BLS: Basic Life Support)

静岡東部トレーニングサイト インストラクター: 岡崎敦(静岡東部トレーニングサイト長)、神田章男

講習会(順天堂大学医学部附属静岡病院)

平成 28 年度

ACLS 4月 プロバイダーコース
 BLS 7月 ヘルスケアプロバイダーコース
 ACLS 7月 プロバイダーコース
 BLS 9月 ヘルスケアプロバイダーコース
 BLS 1月 ヘルスケアプロバイダーコース

平成 29 年度

BLS 5月 ヘルスケアプロバイダーコース
 ACLS 6月 プロバイダーコース
 BLS 11月 ヘルスケアプロバイダーコース
 ACLS 12月 プロバイダーコース

平成 30 年度

BLS 6月 ヘルスケアプロバイダーコース
 ACLS 8月 プロバイダーコース
 BLS 9月 ヘルスケアプロバイダーコース
 BLS 1月 ヘルスケアプロバイダーコース
 BLS 3月 ヘルスケアプロバイダーコース

平成 31(令和元)年度

ACLS 6月 プロバイダーコース
 BLS 9月 ヘルスケアプロバイダーコース
 ACLS 11月 プロバイダーコース
 ACLS 12月 プロバイダーコース

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

「選定時」に付された留意事項>

- ① 行政(消防、警察など)との連携を考慮すべきである。
- ② 災害時合併症の病因解明による、効率的な防災体制構築へフィードバックしてほしい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>**① への対応**

・消防、警察、自衛隊と協働した訓練、災害時の実働に関して、論文にまとめ世界に発信した。(柳川)
 ・大規模災害時の輸血療法に関して、静岡県における、血液センターと行政との連携について確認する事ができた。(小池)

② への対応

・ドクターヘリの CBRNE への対応に関しての提言が学会に採用され、その内容を論文で公表した。銃創、爆傷に関して医療従事者向けのパンフレットの作成に関与し、国内の医療機関に配布を行った(柳川)。
 ・災害時のてんかん発作の原因については、定期的な服薬の継続が困難となること、疲労、不眠等の身体的ストレスに加え、避難所等の精神的ストレスが加わることで、発作が誘発されやすくなる事が考えられる。抗てんかん薬での発作抑制は十分に可能であるが、個々の症例で内服薬は異なり、特に難治例ほど薬物相互

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

作用の調整が困難であり、緊急災害時に平常時と同様の内服薬を確保することは困難が予想される。そのために対応として、発作時の初期対応について体制を構築、鎮痙に重きをおき、重積化しないためのシステム構築、重積化した際の対応策をあらかじめ構築する必要がある(山本)。

・脂肪組織由来幹細胞を皮膚潰瘍治療に用いるには安全性の確認など、まだまだ多くの基礎研究ならびに臨床研究が必要であるが、将来的には災害医療拠点として災害時に発生する皮膚潰瘍に対して再生医療を応用できるよう、診療・研究体制を構築していきたい(長谷川)。

・ストレスによる長期的影響のパラメータが同定できたので、災害発生時のみならず、長期化した避難所生活における環境改善につながることを期待される(寒竹)。

<「中間評価時」に付された留意事項>

特になし。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

特になし。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1511008L

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 27 年度	施 設	98,496	70,221	28,275	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	64,583	23,571	41,012	0	0	0	
	研究費	60,190	30,728	29,462	0	0	0	
平成 28 年度	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	44,253	22,127	22,126	0	0	0	
	設 備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	68,932	38,942	29,990	0	0	0	うち一般補助 3,348
平成 29 年度	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	65,555	35,946	29,609	0	0	0	うち一般補助 2,311
平成 30 年度	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	62,189	34,100	28,089	0	0	0	うち一般補助 340
平成 31 年度	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	61,501	32,136	29,365	0	0	0	うち一般補助 0
総 額	施 設	98,496	70,221	28,275	0	0	0	
	装 置	44,253	22,127	22,126	0	0	0	
	設 備	64,583	23,571	41,012	0	0	0	
	研究費	318,367	171,852	146,515	0	0	0	
総 計	525,699	287,771	237,928	0	0	0		

法人番号

131025

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
静岡災害医学 研究センター	平成 27年度	251㎡	3	約 50 名	98,560	49,280	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 ㎡

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) Illumina次世代シーケンサー	28	Next Seq500	1	350 h	44,253	22,126	私学助成
(研究設備) DKH3次元動作解析システム	27		1	950 h	22,515	15,010	私学助成
メラ遠心血液ポンプ装置(HAS-CFP)	27	HAS-CFP	1	1,800 h	10,748	7,165	私学助成
実験動物飼育システム一式	27		1	通年稼働 h	31,320	18,837	私学助成
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	15,267	試薬、器具等	15,267
光熱水費	0		0
通信運搬費	120	電話料、切手代等	120
印刷製本費	456	業績集等印刷費	456
旅費交通費	390	学会参加交通費	390
報酬・委託料	9,169	保守・分析委託	9,169
(修繕費等)	1,429	機器修理等	1,429
計	26,831		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	561		561
教育研究経費支出	0		0
計	561		561
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	32,798		32,798
図 書	0		0
計	32,798		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
Jサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

法人番号	131025
------	--------

(千円)

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	26,008	試薬、器具等	26,008
光熱水費	0		0
通信運搬費	505	電話料、切手代等	505
印刷製本費	1,222	業績集等印刷費	1,222
旅費交通費	1,710	学会参加交通費	1,710
報酬・委託料	11,810	保守・分析委託	11,810
修繕費等	1,439	機器修理等	1,439
計	42,694		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,061		3,061
教育研究経費支出	0		0
計	3,061		0
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	15,542	実験用機器	15,542
図 書	0		0
計	15,542		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	5,614		5,614
研究支援推進経費	2,021		2,021
計	7,635		

(千円)

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	18,802	実験用消耗品	18,802
光熱水費	0		0
通信運搬費	338	電話料、切手代等	338
印刷製本費	2,438	ポスター費	2,438
旅費交通費	3,339	学会出張旅費	3,339
報酬・委託料	12,843	業務委託費	12,843
(修繕費等)	711	機器修繕費等	711
計	38,471		38,471
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,633		3,633
教育研究経費支出	0		0
計	3,633		3,633
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	19,852	実験用機器	19,852
図 書	0		0
計	19,852		19,852
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	1,367		1,367
研究支援推進経費	2,232		2,232
計	3,599		

法人番号

131025

(千円)

年 度	平成 30 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	20,927	試薬、器具等	20,927
光熱水費	0		0
通信運搬費	380	電話料、サンプル送料	380
印刷製本費	2,040	ポスター費、論文掲載料	2,040
旅費交通費	2,275	学会出張旅費	2,275
報酬・委託料	18,665	保守・分析委託	18,665
修繕費等	1,747	機器修理等	1,747
計	46,034		46,034
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	5,105		5,105
教育研究経費支出			
計	5,105		5,105
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	10,613	実験用機器	10,613
図 書	0		0
計	10,613		10,613
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	437		437
計	437		437

(千円)

年 度	平成 31 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	15,007	実験用消耗品	15,007
光熱水費	0		0
通信運搬費	228	電話料、切手代等	228
印刷製本費	1,571	論文掲載料	1,571
旅費交通費	4,462	学会出張旅費	4,462
報酬・委託料	18,877	業務委託費	18,877
修繕費等	1,780	機器修繕費等	1,780
計	41,925		41,925
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	4,160		4,160
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	15,416	実験用機器	15,416
図 書	0		0
計	15,416		15,416
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0